

基本計画書

基本計画								備考
事項	記入欄							備考
計画の区分	学部の学科の設置							
フリガナ 設置者	ガッコウホウジン ム コ ガワ ガク イン 学校法人 武庫川学院							
フリガナ 大学の名称	ム コ ガワ ヲ シ ャ ヲ カク 武庫川女子大学 (Mukogawa Women's University)							
大学本部の位置	兵庫県西宮市池開町6番46号							
大学の目的	武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね備えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献することを目的とする。							
新設学部等の目的	現代日本の社会が歴史的に形成されてきたことを理解した上で、多角的な歴史認識に立って未来社会を創造する有為な女性を育成するとともに、科学的エビデンスに立脚し、事象を批判的に検証する過程で、的確な課題発見力と高度な論理的・客観的表現力を養うことを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	文学部 歴史文化学科 計	年	人	年次人	人	学士 (歴史文化学)	年月 第 年次	兵庫県西宮市池開町 6番46号
		4	80	—	320		令和6年4月 第1年次	
			80	—	320			
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)	武庫川女子大学 文学部 歴史文化学科〔定員増〕 (80) (令和6年4月) 教育学部 教育学科 (3年次編入学定員)〔定員増〕 (15) (令和6年4月) 薬学部 薬学科(6年制)〔定員減〕 (△105) (令和6年4月) 健康生命薬科学科〔定員増〕 (20) (令和6年4月) 武庫川女子大学大学院 建築学研究科 景観建築学専攻(M)〔定員増〕 (9) (令和6年4月) 武庫川女子大学短期大学部 日本語文化学科(廃止) (△100) 英語キャリア・コミュニケーション学科(廃止) (△100) ※令和6年4月学生募集停止 幼児教育学科〔定員減〕 (△100) (令和6年4月) 食生活学科〔定員減〕 (△40) (令和6年4月) 生活造形学科〔定員減〕 (△30) (令和6年4月)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計			
	文学部歴史文化学科	133 科目	59 科目	21 科目	213 科目	124 単位		

教	新	設	分	学 部 等 の 名 称	専任教員等						兼 任 教 員 等
					教授	准教授	講師	助教	計	助手	
員	既	組	織	の	人	人	人	人	人	人	人
					文学部 歴史文化学科	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)
計	4 (4)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	— (—)				
文学部 日本語日文学科	10 (10)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	106 (106)				
英語グローバル学科	8 (8)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	111 (111)				
教育学部 教育学科	16 (16)	12 (12)	1 (1)	0 (0)	29 (29)	1 (1)	132 (132)				
心理・社会福祉学部 心理学科	6 (4)	5 (5)	4 (2)	2 (0)	17 (11)	0 (0)	104 (76)				
社会福祉学科	6 (4)	3 (3)	2 (2)	1 (1)	12 (10)	0 (0)	102 (81)				
健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科	12 (10)	5 (3)	3 (3)	0 (0)	20 (16)	2 (2)	89 (89)				
スポーツマネジメント学科	6 (5)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	10 (9)	0 (0)	110 (78)				
生活環境学部 生活環境学科	9 (9)	12 (12)	0 (0)	0 (0)	21 (21)	4 (4)	90 (90)				
社会情報学部 社会情報学科	11 (8)	7 (5)	1 (0)	1 (0)	20 (13)	0 (0)	88 (70)				
食物栄養科学部 食物栄養学科	12 (12)	9 (9)	2 (2)	1 (1)	24 (24)	6 (6)	77 (77)				
食創造科学科	8 (8)	4 (4)	1 (1)	2 (2)	15 (15)	7 (7)	64 (64)				
建築学部 建築学科	7 (7)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	15 (15)	2 (2)	96 (96)				
景観建築学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	9 (9)	0 (0)	103 (103)				
音楽学部 演奏学科	6 (6)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	77 (77)				
応用音楽学科	4 (4)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	70 (70)				
薬学部 薬学科	22 (22)	7 (7)	7 (7)	5 (5)	41 (41)	16 (16)	99 (99)				
健康生命薬科学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	2 (2)	12 (12)	5 (5)	71 (71)				
看護学部 看護学科	14 (14)	2 (2)	6 (6)	20 (20)	42 (42)	0 (0)	67 (67)				
経営学部 経営学科	9 (9)	2 (2)	3 (3)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	78 (78)				
共通教育部	3 (3)	1 (1)	3 (3)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	55 (55)				
教育研究所	5 (5)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	6 (6)	2 (2)	0 (0)				
発達臨床心理学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)				
言語文化研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)				
生活美学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)				
情報教育研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)				
バイオサイエンス研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)				
国際健康開発研究所	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)				
トルコ文化研究センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)				
健康運動科学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)				
栄養科学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)				
学校教育センター	6 (6)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	8 (8)	0 (0)	4 (4)				
女性活躍総合研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)				
附属総合ミュージアム	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	1 (1)				
PCRセンター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計	196 (186)	93 (89)	39 (36)	42 (39)	370 (350)	52 (52)	— (—)				
合 計	200 (190)	95 (91)	41 (38)	42 (39)	378 (358)	52 (52)	— (—)				

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計				
	事 務 職 員		173 (173)	78 (78)	251 (251)				
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)	0 (0)	1 (1)				
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	2 (2)	2 (2)				
	計		174 (174)	79 (79)	253 (253)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計				
	校 舎 敷 地	68,039.60 m ²	78,305.89 m ²	0 m ²	146,345.49 m ²	武庫川女子大学短期大学部（必要面積3,000m ² ）と共用（収容定員：300人※令和6年度収容定員変更後の定員） 借用面積：1,129.19m ² 借用期間：2018年12月1日から2048年11月30日まで			
	運 動 場 用 地	0 m ²	90,463.09 m ²	0 m ²	90,463.09 m ²				
	小 計	68,039.60 m ²	168,768.98 m ²	0 m ²	236,808.58 m ²				
	そ の 他	400.00 m ²	10,640.27 m ²	0 m ²	11,040.27 m ²				
	合 計	68,439.60 m ²	179,409.25 m ²	0 m ²	247,848.85 m ²				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	71,942.11 m ² (71,942.11m ²)	119,601.86 m ² (119,601.86m ²)	0 m ² (0 m ²)	191,543.97 m ² (191,543.97m ²)	武庫川女子大学短期大学部（必要面積3,000m ² ）と共用（収容定員：300人※令和6年度収容定員変更後の定員）				
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	161 室	214 室	449 室	10 室 (補助職員 1人)	4 室 (補助職員 2人)				
専任教員研究室	新設学部等の名称 文学部歴史文化学科			室 数	8 室				
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点		
	文学部 歴史文化学科	705,511 [163,252] (705,511 [163,252])	9,550 [1,959] (9,550 [1,959])	28,428 [26,515] (28,428 [26,515])	11,278 (11,278)	12,183 (12,183)	132 (132)		
	計	700,104 [163,545] (700,104 [163,545])	9,552 [1,956] (9,552 [1,956])	8,832 [7,281] (8,832 [7,281])	11,241 (11,241)	12,183 (12,183)	132 (132)		
図書館	面積	閲覧座席数			取 納 可 能 冊 数				
	12,450.21 m ²	1,909			868,000				
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
	17,347.00 m ²	武庫女SC7ネクス1(ウエビネ館)、総合スタジアムスタンド、各グラウンド内のトイレ、更衣室							
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	教員1人当り研究費等		270千円	270千円	270千円	270千円	—千円	—千円	
	共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	—千円	—千円	
	図書購入費	2,943千円	2,943千円	2,943千円	2,943千円	2,943千円	—千円	—千円	
	設備購入費	35,303千円	35,303千円	35,303千円	35,303千円	35,303千円	—千円	—千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,295千円	1,144千円	1,144千円	1,144千円	—千円	—千円			
学生納付金以外の維持方法の概要		私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称	武庫川女子大学							
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	文学部	年	人	年次	人		倍		
	日本語日本文学科	4	150	3年次 25	650	学士 (日本語日本文学)	0.98	昭和33年度	兵庫県西宮市池開町6番46号
	英語グローバル学科	4	200	3年次 25	850	学士 (英語グローバル学)	0.94	昭和33年度	同上
	教育学科	4	—	—	—	学士 (教育学)	—	昭和38年度	同上
心理・社会福祉学科	4	—	—	—	学士 (心理学)又は(社会福祉学)	—	平成12年度	同上	
教育学部						0.98			
教育学科	4	240	3年次 25	1,010	学士 (教育学)	0.98	令和元年度	同上	

既設 大学等 の状 況	心理・社会福祉学部																				
	心理学科	4	150	—	150	学士 (心理学)	—	令和5年度	兵庫県西宮市池開町6番46号												
	社会福祉学科	4	70	—	70	学士 (社会福祉学)	—	令和5年度	同上												
	健康・スポーツ科学部																				
	健康・スポーツ科学科	4	180	3年次 20	760	学士 (健康・スポーツ科学)	1.07	平成23年度	同上												
	スポーツマネジメント学科	4	100	—	100	学士 (スポーツマネジメント学)	—	令和5年度	同上												
	生活環境学部																				
	生活環境学科	4	165	3年次 20	700	学士 (生活環境学)	1.06	平成6年度	同上												
	食物栄養学科	4	—	—	—	学士 (食物栄養学)	—	平成6年度	同上												※令和2年度より学生募集停止
	情報メディア学科	4	—	—	—	学士 (情報メディア学)	—	平成6年度	同上												※令和5年度より学生募集停止
	建築学科	4	—	—	—	学士 (建築学)	—	平成18年度	兵庫県西宮市戸崎町1番13号												※令和2年度より学生募集停止
	社会情報学部																				
	社会情報学科	4	180	—	180	学士 (社会情報学)	—	令和5年度	兵庫県西宮市池開町6番46号												
	食物栄養科学部																				
	食物栄養学科	4	200	3年次 10	820	学士 (食物栄養学)	0.92	令和2年度	同上												
	食創造科学科	4	80	3年次 5	330	学士 (食創造科学)	0.82	令和2年度	同上												
	建築学部																				
	建築学科	4	45	—	180	学士 (建築学)	1.06	令和2年度	兵庫県西宮市戸崎町1番13号												
	景観建築学科	4	40	—	160	学士 (景観建築学)	1.16	令和2年度	同上												
	音楽学部																				
	演奏学科	4	30	—	120	学士 (音楽)	0.82	平成21年度	兵庫県西宮市池開町6番46号												
	応用音楽学科	4	20	—	80	学士 (応用音楽)	0.60	平成21年度	同上												
	薬学部（6年制）																				
	薬学科	6	210	—	1,260	学士 (薬学)	0.82	平成18年度	兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号												
	薬学部（4年制）																				
	健康生命薬科学科	4	40	—	160	学士 (薬科学)	0.99	平成18年度	同上												
	看護学部																				
	看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.02	平成27年度	兵庫県西宮市池開町6番46号												
	経営学部																				
	経営学科	4	200	—	800	学士 (経営学)	1.02	令和2年度	同上												
	文学研究科																				
	日本語日本文学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (文学)	0.20	昭和46年度	同上												
	日本語日本文学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (文学)	0.22	平成3年度	同上												
	英語英米文学専攻 (修士課程)	2	12	—	24	修士 (文学)	0.12	昭和46年度	同上												
	英語英米文学専攻 (博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (文学)	0.44	平成12年度	同上												
	教育学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士 (教育学)	0.25	平成17年度	同上												
	臨床心理学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士 (臨床心理学)	0.82	平成11年度	同上												

既設大学の状況	臨床教育学研究科												
	臨床教育学専攻 (修士課程)	2	16	—	32	修士 (臨床教育学)	0.71	平成6年度	兵庫県西宮市池開町6番46号				
	臨床教育学専攻 (博士後期課程)	3	6	—	18	博士 (臨床教育学)	1.00	平成9年度	同上				
	健康・スポーツ科学研究科												
	健康・スポーツ科学専攻 (修士課程)	2	20	—	40	修士 (健康・スポーツ科学)	0.35	平成23年度	同上				
	生活環境学研究科												
	食物栄養学専攻 (修士課程)	2	—	—	—	修士 (食物栄養学)	—	昭和41年度	同上	※令和4年度より学生募集停止 ※令和4年度より学生募集停止			
	食物栄養学専攻 (博士後期課程)	3	—	—	—	博士 (食物栄養学)	—	平成2年度	同上				
	生活環境学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士 (生活環境学) 又は(情報科学)	0.00	平成12年度	同上				
	生活環境学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (生活環境学) 又は(情報科学)	0.33	平成12年度	同上				
	食物栄養科学研究科												
	食物栄養学専攻 (修士課程)	2	8	—	16	修士 (食物栄養学)	0.87	令和4年度	同上				
	食物栄養学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	4	博士 (食物栄養学)	0.50	令和4年度	同上				
	食創造科学専攻 (修士課程)	2	4	—	8	修士 (食創造科学)	0.25	令和4年度	同上				
	食創造科学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	4	博士 (食創造科学)	0.00	令和4年度	同上				
	建築学研究科												
	建築学専攻 (修士課程)	2	22	—	44	修士 (建築学)	0.95	令和2年度	兵庫県西宮市戸崎町1番13号				
	建築学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (建築学)	0.33	令和2年度	同上				
	景観建築学専攻 (修士課程)	2	6	—	12	修士 (景観建築学)	1.75	令和2年度	同上				
	景観建築学専攻 (博士後期課程)	3	1	—	3	博士 (景観建築学)	0.00	令和2年度	同上				
	薬学研究科												
	薬学専攻 (博士課程)	4	2	—	8	博士 (薬学) 又は(臨床薬学)	0.12	平成24年度	兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号				
	薬科学専攻 (修士課程)	2	30	—	60	修士 (薬科学)	0.18	平成22年度	同上				
	薬科学専攻 (博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (薬科学) 又は(応用薬科学)	1.00	平成24年度	同上				
	看護学研究科												
	看護学専攻 (修士課程)	2	15	—	30	修士 (看護学)	0.86	平成27年度	兵庫県西宮市池開町6番46号				
	看護学専攻 (博士後期課程)	3	5	—	15	博士 (看護学)	1.61	平成29年度	同上				
大学の名称	武庫川女子大学短期大学部												
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地					
	年	人	年次人	人		倍							
日本語文化学科	2	100	—	200	短期大学士 (日本語文化学)	0.56	昭和26年度	兵庫県西宮市池開町6番46号					
英語キャリア・コミュニケーション学科	2	100	—	200	短期大学士 (英語コミュニケーション学)	0.34	昭和25年度	同上					
幼児教育学科	2	150	—	300	短期大学士 (幼児教育学)	0.52	昭和26年度	同上					
心理・人間関係学科	2	—	—	—	短期大学士 (心理・人間関係学)	—	昭和62年度	同上					
健康・スポーツ学科	2	—	—	—	短期大学士 (健康・スポーツ学)	—	昭和30年度	同上					
食生活学科	2	80	—	160	短期大学士 (食生活学)	0.63	昭和26年度	同上					
生活造形学科	2	90	—	180	短期大学士 (生活造形学)	0.76	昭和25年度	同上					

附属施設の概要	名称 : 武庫川女子大学薬用植物園 所在地 : 兵庫県西宮市甲子園九番町11番68号 設置年月 : 昭和37年4月 (現施設は、昭和62年11月) 規模等 : 温室・寒地性植物栽培室 162.68㎡ 薬草園 400.00㎡	
---------	--	--

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部 歴史文化学科)																
科 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	配 当 年 次	単 位 数			授 業 形 態			専 任 教 員 等 の 配 置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
人文科学科目	英語圏の文学・文化	1前・後		2		○									兼1	オムニバス
	生活の中の心理学	1後		2		○									兼1	
	ヨーロッパの名歌歌唱法	1前・後		1			○								兼2	
	英語を学問する一理論と実践	1前・後		2		○									兼1	
	日本の文化Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	日本の文化Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	平安朝文学の世界	1前		2		○									兼1	
	現代フランスの音楽事情	1前・後		2		○									兼1	
	先端芸術表現	1前・後		1			○								兼1	
	ミュージカル歌唱法	1前・後		1			○								兼1	
	日本舞踊に学ぶ着付けと作法	1前・後		1			○								兼1	
	自己発見アート	1前・後		1			○								兼1	
	未来造形	1前・後		1			○								兼1	
	日常生活からの哲学入門	1前・後		2		○									兼1	
	音楽の科学	1前・後		2		○									兼1	
	歌舞伎鑑賞入門	1後		2		○									兼1	
	遊びの人類学	1後		2		○									兼1	
	心理学入門	1前・後		2		○									兼1	
	人間関係の心理学	1前・後		2		○									兼1	
	SNSから日本語を見る	1前・後		2		○									兼1	
日本語と英語の比較	1前・後		2		○									兼1		
フランスの音楽と芸術文化	1前・後		2		○									兼1		
小計(22科目)	—	—	0	38	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼17	—
社会科学科目群	建築と社会	1前		2		○									兼1	—
	聴覚障害者の理解と手話言語	1前・後		2			○								兼1	
	カウンセリングの実際	1前		2		○									兼1	
	実践カウンセリング	1後		2		○									兼1	
	子育てと家族関係	1前		2		○									兼1	
	子育てと母性の気づき	1前		2		○									兼1	
	福祉レクリエーションの実際	1後		2		○									兼1	
	差別と暴力のない世界をめざして	1後		2		○									兼1	
	「ふつつ」を考える社会学	1前・後		2		○									兼1	
	現代世界の教育	1前・後		2		○									兼1	
	消費者生活論	1前		2		○									兼1	
	英語で学ぶやさしい経済学	1前		2		○									兼1	
	英語で学ぶお金の知識	1後		2		○									兼1	
	現代社会と憲法	1前・後		2		○									兼1	
	我々のくらしと日本の産業	1前・後		2		○									兼1	
教養としての法律	1前		2		○									兼1		
暮らしと法律	1後		2		○									兼1		
メディア技術と文字デザイン	1前		2		○									兼1		
小計(18科目)	—	—	0	36	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼14	—
自然科学科目	はたらく細胞とくすり	1後		2		○									兼1	—
	色彩情報	1後		2		○									兼1	
	生命科学入門	1前		2		○									兼1	
	生活の中の物理学	1後		2		○									兼1	
	最先端物理学が描く宇宙	1後		2		○									兼1	
	科学から考える衣服と生活	1前		2		○									兼1	
小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼5	—
国際理解科目	音楽から見る人と世界	1後		2		○									兼1	—
	韓国文化の理解	1前・後		2		○									兼1	
	世界の中の日本人	1前		2		○									兼1	
	中国文化論	1前・後		2		○									兼1	
小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4	—
現代トピック科目	スポーツツーリズムと地域創生	1後		2		○									兼1	—
	モラルジレンマから考える私	1前		2		○									兼1	
	女性のためのマーケティング	1前・後		2		○									兼1	
	Current Affairs in Japan I	1前		2		○									兼1	
	Current Affairs in Japan II	1後		2		○									兼1	
小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼4	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
ジェンダー科目群	セクシュアリティ入門Ⅰ	1前・後		2		○									兼1			
	セクシュアリティ入門Ⅱ	1前・後		2		○									兼1			
	女性と教育	1前・後		2		○									兼1			
	ジェンダーとアイデンティティー	1前・後		2		○									兼1			
	ジェンダーと社会	1前・後		2		○									兼1			
	女性の身体とセクシュアリティ	1前・後		2		○									兼1			
	メディアに見るジェンダー	1前・後		2		○									兼1			
	小計(7科目)	—	0	14	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3	—		
	デキヤリア科目群	女性のためのライフプランニング	1前・後		2		○									兼1		
		自己アピールトレーニング	1前・後		2			○								兼1		
		キャリアビジョンと人物評価	1前・後		2		○									兼1		
		小計(3科目)	—	0	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	0	兼3	—	
	共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	ハングル検定演習	1後		1			○							兼1	
				Current Events	4前		1				○							兼1
Leadership Development				4後		1					○						兼1	
Global Issues I				4前		1					○						兼1	
Global Issues II				4後		1					○						兼1	
Reading & Critical Thinking				4前		1					○						兼1	
Reading & Discussion				3後		1					○						兼1	
Career Workshop				4後		1					○						兼1	
Speaking & Listening I				2前		1					○						兼1	
Speaking & Listening II				2後		1					○						兼1	
Speaking & Listening III				3前		1					○						兼1	
Basics for Presentation I				2前		1					○						兼1	
Basics for Presentation II				2後		1					○						兼1	
Writing I				3前		1					○						兼1	
Writing II				3後		1					○						兼1	
Presentation				3後		1					○						兼1	
ドイツ語Ⅰ				1前・後		2					○						兼2	
ドイツ語Ⅱ				1後		2					○						兼1	
フランス語Ⅰ				1前・後		2					○						兼2	
フランス語Ⅱ				1後		2					○						兼1	
スペイン語Ⅰ				1前・後		2					○						兼1	
ハングルⅠ				1前・後		2					○						兼3	
ハングルⅡ				1前		2					○						兼1	
フランス語ⅠA				1前		2					○						兼1	
フランス語ⅠB				1後		1					○						兼1	
TOEIC(初級)				1後		1					○						兼1	
英語コミュニケーションⅠ				1前・後		2					○						兼1	
英語コミュニケーションⅡ				1前・後		2					○						兼1	
英語コミュニケーションⅢ				1前・後		1					○						兼1	
英語コミュニケーションⅣ				1前・後		1					○						兼1	
英語ライティングⅠ				1前・後		1					○						兼1	
英語ライティングⅡ				1前・後		1					○						兼1	
TOEIC演習Ⅰ				1前・後		1					○						兼1	
TOEIC演習Ⅱ				1前・後		1					○						兼1	
TOEIC演習Ⅲ				1前・後		1					○						兼1	
TOEFL演習				1前・後		1					○						兼1	
イタリア語ⅠA				1前・後		1					○						兼1	
イタリア語ⅠB				1前・後		1					○						兼1	
小計(38科目)	—	0	47	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼12	—			
情報リテラシー科目	データリテラシー・AIの基礎	1後	2					○							兼2	メディア・オムニバス		
	Webデザイン基礎	1前・後		2					○						兼1			
	Webデザイン応用	1前・後		2						○					兼1			
	グラフィックデザイン基礎	1後		2						○					兼1			
	フォトタッチ基礎	1前		2						○					兼1			
	データサイエンスの基礎とExcel	1前・後		2						○					兼1			
	小計(6科目)	—	2	10	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼3	—		
健康・スポーツ科目群	少人数科目	スポーツと栄養	1前・後		2		○								兼1			
		スポーツと現代社会	1前・後		2		○								兼1			
	小計(2科目)	—	0	4	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼2	—		
	スポーツ実技科目	スポーツ実技(フットサル)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(テニス)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(ゴルフ)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(バレーボール)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(バドミントン)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(エアロビクス)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(軽スポーツ)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(ヨガ)	1前・後		1					○						兼1		
		からだど気づきと姿勢法	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(スリムエアロ)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(ダンスエアロ)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(ハンジ-エクササイズ)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(エアリアルワーク)	1前・後		1					○						兼1		
		スポーツ実技(スタイルジャズ)	1前・後		1					○						兼1		
		小計(14科目)	—	0	14	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	兼11	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1前	1				○		1		1						
	初期演習Ⅱ（歴史文化研究）	1後	1				○		1		1						
	歴史文化資料論	1後	2			○			1								
	文化と民族	1前	2			○			1								
	文化・歴史研究と情報	1後	2			○					1						
	歴史文化フィールドワーク基礎	1後	2					○	1								
	文章表現法（歴史文化）	1後	2			○				1							
	情報リテラシー（歴史文化）	1前	2			○				1						兼1	
	Oral Communication	1前		2				○									兼1
	小計（9科目）	—	—	14	2	0	—	—	—	4	1	1	0	0			兼2
歴史文化研究の基礎	日本史概説	1前	2			○			1								
	日本史料概説	1前	2			○			1								
	考古学概説	1前	2			○										兼1	
	人文地理学	1前	2			○			1								
	日本美術史	1前		2		○					1						
	女性史概説	1前	2			○					1						
	古文書入門	1後		2		○					1						
	自然地理学	1後		2		○										兼1	
	民俗資料を読む	1後		2		○										兼1	
	文化人類学概説	1後	2			○			1								
	日本思想史	1後		2		○						1					
	地理学概説	2前	2			○			1								
	日本古代史史料を読むⅠ	2前		2		○			1								
	日本古代史史料を読むⅡ	2後		2		○			1								
	日本中世史史料を読むⅠ	2前		2		○			1								
	日本中世史史料を読むⅡ	2後		2		○			1								
	日本近世史史料を読むⅠ	2前		2		○					1						
	日本近世史史料を読むⅡ	2後		2		○					1						
	日本近現代史史料を読むⅠ	2前		2		○						1					
	日本近現代史史料を読むⅡ	2後		2		○						1					
	古記録と古文書	2後		2		○					1						
	地誌学	2後		2		○				1							
	文化遺産論	4後		2		○				1							
小計（23科目）	—	—	14	32	0	—	—	—	4	2	2	0	0			兼3	
歴史文化の諸相	食の文化誌	1前		2		○			1								
	言語と文字の史的変遷	1後	2			○				1							
	江戸の風俗と絵画	1後		2		○					1						
	縄文・弥生の考古学	2前		2		○			1								
	歴史のなかの女性	2前		2		○										兼1	
	日本の生活文化	2前	2			○											
	古墳・中近世の考古学	2後		2		○			1								
	日本の祭礼 春夏秋冬	1後		2		○			1								
	中世の文化史 刀剣・武器	2前		2		○			1								
	地理と情報	3前		2		○			1								
	装いの日本文化	2後		2		○					1						
	すまいの日本文化	2後		2		○										兼1	
	出版・メディアの文化史	2後		2		○					1						
	信仰の民俗学	3後		2		○			1								
	古代中世の都市と交通	3後		2		○			1								
	画像文化論	4後		2		○										兼1	
小計（16科目）	—	—	4	28	0	—	—	—	4	1	1	0	0			兼2	
歴史文化の応用と展開	地域社会論	1前		2		○					1						
	観光文化論	1前		2		○			1								
	意匠・デザインの基礎	2前		2		○				1	1					オムニバス	
	日本芸能文化史	2前		2		○										兼1	
	文化財の活用と保存	2後	2			○				1							
	伝統工芸の保存と継承	3後		2		○						1					
	地域の伝承	3後		2		○										兼1	
	古代史研究の方法と課題	3前		2		○			1								
	中世史研究の方法と課題	3後		2		○			1								
	近世史研究の方法と課題	3前		2		○					1						
	近現代史研究の方法と課題	3後		2		○						1					
	地域政策論	4前		2		○						1					
	災害と歴史	4後		2		○						1					
小計（13科目）	—	—	2	24	0	—	—	—	3	2	2	0	0			兼2	
研究と実践	地域文化研究	1後		2		○			1								
	地域文化フィールドワークⅠ	2前		2					1							集中	
	地域文化フィールドワークⅡ	3前		2					1							集中	
	歴史文化フィールドワークⅠ	2前		2					1	1						集中	
	歴史文化フィールドワークⅡ	3前		2					1	1						集中	
	歴史文化フィールドワークⅢ	2前		2							1					集中	
	歴史文化フィールドワークⅣ	3前		2							1					集中	
	映像メディア・理論と実践	3前		2		○			1								
	歴史文化とプレゼンテーション	3後		2								1					
	演習Ⅰ	3通	2					○	4	2		2					
	演習Ⅱ	4通	2					○	4	2		2					
	卒業論文	4通	4					○	4	2		2					
小計（12科目）	—	—	8	18	0	—	—	—	4	2	2	0	0			兼0	

科 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備 考			
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手				
専 門 教 育 科 目	中国語入門	1前		2		○										兼1	
	韓国語入門	1後		2		○										兼1	
	英語で読む日本	2前		2		○										兼1	
	観光英語	2後		2		○										兼1	
	キャリアとコミュニケーション	3前		2		○										兼1	
	くらしと言語景観	3前		2		○					1						
	東洋史	3前		2		○										兼1	
	西洋史	3前		2		○										兼1	
	近代の世界史	3後		2		○										兼1	
	多文化共生論	4前		2		○						1					
	観光と行政	4前		2		○											
	法律学	1前		2		○					1						兼1
	経済学	1後		2		○										兼1	
	社会学	3前		2		○										兼1	
	倫理学	3後		2		○										兼1	
	小計 (15科目)		—	0	30	0		—				1	1	0	0	0	兼11
合計 (213科目)		—	44	333	0		—				4	2	2	0	0	兼89	—
学位又は称号		学士 (歴史文化学)		学位又は学科の分野				文学関係									
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
4年以上在学し、共通教育科目から16単位以上、基礎教育科目及び専門教育科目から64単位以上、合計124単位以上修得すること。また、外国語科目から合計8単位以上を含めて修得すること。なお、TOEICのスコアに応じて単位 (2～6単位) を基礎教育科目として認定する。 (履修科目の登録の上限：50単位未満 (年間)) なお、専門教育科目のうち、「日本古代史史料を読むⅠ」「日本古代史史料を読むⅡ」「日本中世史史料を読むⅠ」「日本中世史史料を読むⅡ」「日本近世史史料を読むⅠ」「日本近世史史料を読むⅡ」「日本近現代史史料を読むⅠ」「日本近現代史史料を読むⅡ」から8単位、「古代史研究の方法と課題」「中世史研究の方法と課題」「近世史研究の方法と課題」「近現代史研究の方法と課題」から4単位をそれぞれ選択必修とする。							1学年の学期区分			2学期							
							1学期の授業期間			15週							
							1時限の授業時間			90分							

教 育 課 程 等 の 概 要																
(文学部 日本語日本文学科)																
科 目 区 分	授 業 科 目 の 名 称	配 当 年 次	単 位 数			授 業 形 態			専 任 教 員 等 の 配 置					備 考		
			必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験 ・ 実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
人文科学科目	日本語の世界	1前・後		2		○			1						兼1	
	英語圏の文学・文化	1前・後		2		○									兼1	
	建築と歴史	1前		2		○									兼1	
	生活の中の心理学	1後		2		○									兼1	
	ヨーロッパの名歌歌唱法	1前・後		1			○								兼1	
	英語を学問するー理論と実践	1前・後		2		○									兼1	
	日本の文化Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	日本の文化Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	神話・伝説の世界から	1前・後		2		○									兼1	
	平安朝文学の世界	1前		2		○									兼1	
	芭蕉をめぐる人々	1前		2		○									兼1	
	雨月物語に込められた情念	1前		2		○									兼1	
	芭蕉と旅	1後		2		○									兼1	
	「心中天網島」の女房「おさん」	1後		2		○									兼1	
	現代フランスの音楽事情	1前・後		2		○									兼1	
	先端芸術表現	1前・後		1				○							兼1	
	ミュージカル歌唱法	1前・後		1				○							兼1	
	日本舞踊に学ぶ着付けと作法	1前・後		1				○							兼1	
	自己発見アート	1前・後		1				○							兼1	
	未来造形	1前・後		1				○							兼1	
	日常生活からの哲学入門	1前・後		2		○									兼1	
	音楽の科学	1前・後		2		○									兼1	
	歌舞伎鑑賞入門	1後		2		○									兼1	
	遊びの人類学	1後		2		○									兼1	
	心理学入門	1後		2		○									兼1	
	人間関係の心理学	1前・後		2		○									兼1	
	日本近代文学の魅力Ⅰ	1前		2		○									兼1	
	日本近代文学の魅力Ⅱ	1後		2		○									兼1	
	SNSから日本語を見る	1前・後		2		○									兼1	
	日本語と英語の比較	1前・後		2		○									兼1	
	建築文化論	1後		2		○									兼1	
	フランスの音楽と芸術文化	1前・後		2		○									兼1	
小計(32科目)		—	0	58	0	—			1	0	0	0	0	兼22	—	
社会科学科目	現代の教育・保育事情	1前・後		2		○									兼3	オムニバス
	建築と社会	1前		2		○									兼1	
	聴覚障害者の理解と手話言語	1前・後		2		○									兼1	
	カウンセリングの実際	1前		2		○									兼1	
	実践カウンセリング	1後		2		○									兼1	
	子育てと家族関係	1前		2		○									兼1	
	子育てと母性の気づき	1前		2		○									兼1	
	福祉レクリエーションの実際	1後		2		○									兼1	
	差別と暴力のない世界をめざして	1後		2		○									兼1	
	生涯福祉論	1前・後		2		○									兼1	
	社会福祉とボランティア	1前・後		2		○									兼1	
	「ふつう」を考える社会学	1前・後		2		○									兼1	
	現代世界の教育	1前・後		2		○									兼1	
	消費者生活論	1前		2		○									兼1	
	日本経済のしくみ	1前		2		○									兼1	
	外国から見た日本社会のしくみ	1後		2		○									兼1	
	女性と子どものヘルスケア	1後		2		○									兼2	オムニバス
	英語で学ぶやさしい経済学	1前		2		○									兼1	
	英語で学ぶお金の知識	1後		2		○									兼1	
	情報化と教育	1前・後		2		○									兼1	
	現代社会と憲法	1前・後		2		○									兼1	
	我々の暮らしと日本の産業	1前・後		2		○									兼1	
環境心理学入門	1前・後		2		○									兼1		
教養としての法律	1前		2		○									兼1		
暮らしと法律	1後		2		○									兼1		
メディア技術と文字デザイン	1前		2		○									兼1		
まちづくりと地方自治の役割	1前・後		2		○									兼1		
小計(27科目)		—	0	54	0	—			0	0	0	0	0	兼24	—	
自然科学科目	はたらく細胞とくすり	1後		2		○									兼1	
	身近にある科学	1後		2		○									兼8	オムニバス
	発達障害の理解とリエゾン支援	1前・後		2		○									兼1	
	エコロジーと私たちの暮らし	1後		2		○									兼1	
	健康を支える仕組み	1前・後		2		○									兼2	オムニバス
	環境問題の歴史	1前		2		○									兼1	
	科学技術の歩み	1後		2		○									兼1	
生命科学の基礎	1前		2		○									兼1		

科目区	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
基礎 教養 科目群	自然科学科目	色彩情報	1後	2		○										兼1	
		生命科学入門	1前	2		○										兼1	
		生活の中の物理学	1後	2		○										兼1	
		最先端物理学が描く宇宙	1後	2		○										兼1	
		科学から考える衣服と生活	1前	2		○										兼1	
		数や図形の科学	1前・後	2		○										兼1	
		科学への入門	1前・後	2		○										兼1	
		生活習慣と脳と心と身体の科学	1前・後	2		○										兼1	
		薬とからだ	1後	2		○										兼3	オムニバス
		健康生活とライフステージ	1前	2		○										兼3	オムニバス
医薬品概論	1前	2		○										兼2	オムニバス		
薬の歴史と未来	1後	2		○										兼2	オムニバス		
小計(20科目)	—	0	40	0	—				0	0	0	0	0	兼29	—		
基礎 教養 科目群	国際理解科目	音楽からみる人と世界	1後	2		○									兼1		
		韓国文化の理解	1前・後	2		○									兼1		
		韓流ブーム	1前・後	2		○									兼1		
		世界の中の日本人	1前	2		○									兼1		
		World English I	1前	2		○									兼1		
		World English II	1後	2		○									兼1		
		中国文化論	1前・後	2		○									兼1		
		国際協力入門	1前	2		○									兼1		
		小計(8科目)	—	0	16	0	—				0	0	0	0	0	兼7	—
		基礎 教養 科目群	現代トピックス科目	現代社会と保健医療	1後	2		○									兼7
心理学トピックス	1後			2		○									兼15	オムニバス	
社会福祉の学び	1後			2		○									兼1		
スポーツツーリズムと地域創生	1後			2		○									兼1		
大学生生活入門	1前・後			2		○									兼8	オムニバス	
モラルジレンマから考える私	1前			2		○									兼1		
女性のためのマーケティング	1前・後			2		○									兼1		
テレビ映像と現代社会	1前・後			2		○									兼1		
Current Affairs in Japan I	1前			2		○									兼1		
Current Affairs in Japan II	1後			2		○									兼1		
小計(10科目)	—	0	20	0	—				0	0	0	0	0	兼35	—		
共通 教育 科目	ジェンダー科目群	セクシュアリティ入門Ⅰ	1前・後	2		○									兼1		
		セクシュアリティ入門Ⅱ	1前・後	2		○									兼1		
		女性と教育	1前・後	2		○									兼1		
		ジェンダーとアイデンティティー	1前・後	2		○									兼1		
		ジェンダーと社会	1前・後	2		○									兼1		
		女性の身体とセクシュアリティ	1前・後	2		○									兼1		
		メディアに見るジェンダー	1前・後	2		○									兼1		
		女性が輝く社会づくり	1前・後	2		○									兼1		
		小計(8科目)	—	0	16	0	—				0	0	0	0	0	兼4	—
		共通 教育 科目	キャリアデザイン科目群	教員から見た社会人基礎力	1後	2		○									兼5
ベンチャービジネス概論	1前			2		○									兼1		
ビジネスプラン構築概論	1後			2		○									兼2	オムニバス	
SOAR 人生100年をきり拓く力	1前・後			2		○									兼11	オムニバス	
ヒューマンスキル入門	1前			2		○									兼1		
女性のためのライフプランニング	1前・後			2		○									兼1		
自己アピールトレーニング	1前・後			2		○		○							兼1		
パーソナルコミュニケーション	1後			2		○									兼1		
キャリアと学び	1前			2		○									兼1		
仕事力を考える	1前・後			2		○									兼1		
企業の見方	1前・後	2		○									兼1				
卒業生が語る仕事と人生	1後	2		○									兼1				
企業での女性活躍と働き方改革	1前・後	2		○									兼1				
企業で役に立つ情報収集と企画力	1前	2		○									兼1				
グローバル化と企業の海外展開	1後	2		○									兼1				
文章表現の基礎	1前・後	2		○									兼1				
プレゼンテーションの基礎	1前・後	2		○									兼1				
チームで学ぶ課題解決	1前・後	2		○									兼1				
キャリアビジョンと人物評価	1前・後	2		○									兼1				
公務員の魅力	1前・後	2		○									兼1				
小計(20科目)	—	0	40	0	—				0	0	0	0	0	兼26	—		
言語・ 情報 科目群	言語リテラシー科目	海外演習Ⅰ(韓国)	1前・後	1				○							兼1		
		海外演習Ⅰ(台湾)	1前・後	1				○							兼1		
		海外演習Ⅰ(タイ)	1前・後	1				○							兼1		
		海外演習Ⅰ(豪州)	1前・後	1				○							兼1		
		海外演習Ⅱ(韓国)	1前・後	2				○							兼1		
		海外演習Ⅱ(台湾)	1前・後	2				○							兼1		
		海外演習Ⅱ(タイ)	1前・後	2				○							兼1		
		海外演習Ⅱ(豪州)	1前・後	2				○							兼1		
		特別英語演習Ⅰ	1前・後	4				○							兼1		
		特別英語演習Ⅱ	1前・後	4				○							兼1		
特別英語演習Ⅶ	1前	2				○							兼1				
特別ハンブル演習Ⅰ	1前	4				○							兼1	集中			

科目区	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
言語・情報科目群 共通教育科目	特別ハンゲル演習Ⅱ	1前		4				○							兼1	集中		
	ハンゲル検定演習	1後		1				○							兼1	集中		
	特別中国語演習Ⅰ	1前		2				○							兼1	集中		
	特別中国語演習Ⅱ	1前		2				○							兼1	集中		
	Reading&StructureⅠ	2前		1				○							兼1			
	Reading&StructureⅡ	2後		1				○							兼1			
	Current Events	4前		1				○							兼1			
	Leadership Development	4後		1				○							兼1			
	Global IssuesⅠ	4前		1				○							兼1			
	Global IssuesⅡ	4後		1				○							兼1			
	Reading & Critical Thinking	4前		1				○							兼1			
	English for Careers	3前		1				○							兼1			
	Reading & Discussion	3後		1				○							兼1			
	Career Workshop	4後		1				○							兼1			
	Speaking & ListeningⅠ	2前		1				○							兼1			
	Speaking & ListeningⅡ	2後		1				○							兼1			
	Speaking & ListeningⅢ	3前		1				○							兼1			
	Basics for PresentationⅠ	2前		1				○							兼1			
	Basics for PresentationⅡ	2後		1				○							兼1			
	WritingⅠ	3前		1				○							兼1			
	WritingⅡ	3後		1				○							兼1			
	Presentation	3後		1				○							兼1			
	ドイツ語Ⅰ	1前・後		2				○							兼2			
	ドイツ語Ⅱ	1後		2				○							兼1			
	フランス語Ⅰ	1前・後		2				○							兼2			
	フランス語Ⅱ	1後		2				○							兼1			
	中国語Ⅰ	1前・後		2				○							兼4			
	中国語Ⅱ	1前・後		2				○							兼3			
	スペイン語Ⅰ	1前・後		2				○							兼1			
	ハンゲルⅠ	1前・後		2				○							兼3			
	ハンゲルⅡ	1前・後		2				○							兼1			
	フランス語ⅠA	1前		1				○							兼1			
	フランス語ⅠB	1後		1				○							兼1			
	TOEIC(初級)	1後		1				○							兼1			
	英語コミュニケーションⅠ	1前・後		2				○							兼1			
	英語コミュニケーションⅡ	1前・後		2				○							兼1			
	英語コミュニケーションⅢ	1前・後		1				○							兼1			
	英語コミュニケーションⅣ	1前・後		1				○							兼1			
	英語リーディングⅠ	1前・後		1				○							兼2			
	英語リーディングⅡ	1前・後		1				○							兼1			
	英語ライティングⅠ	1前・後		1				○							兼2			
	英語ライティングⅡ	1前・後		1				○							兼1			
	TOEIC演習Ⅰ	1前・後		1				○							兼1			
	TOEIC演習Ⅱ	1前・後		1				○							兼1			
	TOEIC演習Ⅲ	1前・後		1				○							兼1			
	TOEFL演習	1前・後		1				○							兼1			
	イタリア語ⅠA	1前・後		1				○							兼1			
	イタリア語ⅠB	1前・後		1				○							兼1			
	(小計60科目)	—		0	90	0			—			0	0	0	0	0	兼21	—
	データリテラシー・AIの基礎	1後		2					○							兼1		
	Accessデータベース基礎	1前・後		2					○							兼1		
	情報社会を生きる技術	1前・後		2					○							兼1		
	Webデザイン基礎	1前・後		2					○							兼1		
	Webデザイン応用	1前・後		2					○							兼1		
	Scratchによるプログラミング	1前・後		2					○							兼1		
	グラフィックデザイン基礎	1後		2					○							兼1		
	フォトレタッチ基礎	1前		2					○							兼1		
データサイエンスの基礎とExcel	1前・後		2					○							兼1			
(小計9科目)	—		2	16	0			—			0	0	1	0	0	兼4	—	
生涯スポーツ論	1前			2				○							兼1			
スポーツと栄養	1前・後			2				○							兼1			
スポーツと現代社会	1前・後			2				○							兼1			
知っておきたい応急処置	1前			2				○							兼1			
(小計4科目)	—		0	8	0			—			0	0	0	0	0	兼4	—	
スポーツ実技(フットサル)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(テニス)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(ゴルフ)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(バレーボール)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(バドミントン)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(エアロビクス)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(軽スポーツ)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(ヨガ)	1前・後			1						○					兼1			
からだどろろと姿勢法	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(スリムエアロ)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(ダンスエアロ)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(バンジーエクササイズ)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(エアリアルワーク)	1前・後			1						○					兼1			
スポーツ実技(スタイルジャズ)	1前・後			1						○					兼1			
(小計14科目)	—		0	14	0			—			0	0	0	0	0	兼11	—	
学び発見ゼミ	1前・後			2				○								兼27		
(小計1科目)	—		0	2	0			—			0	0	0	0	0	兼27	—	

科目区	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	1前	1				○		2	1						
	初期演習Ⅱ（日本語日本文学）	1後	1				○		2	1						
	古文入門	1前	2			○			1							
	漢文入門	1前	2			○			1							兼1
	日本語表現入門	1前		2				○								兼1
	日本語表現演習Ⅰ	2前	1					○	1							兼5
	日本語表現演習Ⅱ	2後	1					○	1							兼5
	情報リテラシーⅠ	1前	2					○								兼3
	情報リテラシーⅡ	1後	2					○								兼3
	Oral Communication	1前		2				○								兼1
小計（10科目）	—	—	12	4	0	—	—	—	5	1	0	0	0		兼10	—
専門教育科目	日本語学概論Ⅰ	1前	2			○			1	1						
	日本語学概論Ⅱ	1後	2			○			1	1						
	音声・音韻論	2前		2		○										兼2
	語彙・意味論	2後		2		○										兼2
	文法・文体論	3前		2		○										兼1
	文字・表記論	3後		2		○			1							
	談話研究	4前		2		○			1							
	日本語学文献講読Ⅰ	2前		2				○								兼1
	日本語学文献講読Ⅱ	2後		2				○								兼1
	日本語史Ⅰ	3前		2		○										兼1
	日本語史Ⅱ	3後		2		○										兼1
	日本語学特講Ⅰ	4前		2				○								兼1
	日本語学特講Ⅱ	4後		2				○								兼1
	社会言語学	1前		2			○									兼1
	言語学Ⅰ	2前		2			○			1						
	言語学Ⅱ	2後		2			○			1						
	日本語教育学入門	1前		2			○			1						
	日本語教授法	2前		2			○									兼1
	日本語教材研究Ⅰ	2後		2				○								兼1
	日本語教材研究Ⅱ	3後		2				○								兼1
	日本語教授法実習	3前		1					○							兼1
	日本語教育史	3後		2			○									兼1
	日本語教育特講	4前		2				○								兼1
	言語発達論	1後		2			○									兼1
	言語と心理	3前		2			○									兼1
	異文化間コミュニケーション	1後		2			○			1						
	多文化共生論	4後		2			○									兼1
	日本語教育インターンシップ	3前		2					○	1						
	日本古典文学概論	1前	2				○			3						
	日本近代文学概論	1前	2				○			2						兼1
	日本古典文学史	1後		2			○			1						兼1
	日本近代文学史	1後		2			○			2						
	上代文学講読Ⅰ	2前		2					○	1						兼1
	上代文学講読Ⅱ	2後		2					○	1						
	中古文学講読Ⅰ	2前		2					○	1						兼1
	中古文学講読Ⅱ	2後		2					○	1						兼1
	中世文学講読Ⅰ	2前		2					○	1						兼1
	中世文学講読Ⅱ	2後		2					○	1						兼1
	近世文学講読Ⅰ	2前		2					○	1						兼1
	近世文学講読Ⅱ	2後		2					○	1						兼1
	近代文学講読Ⅰ	2前		2					○	2						
	近代文学講読Ⅱ	2後		2					○	2						
	上代文学研究Ⅰ	3前		2					○							兼1
	上代文学研究Ⅱ	3後		2					○							兼1
	中古文学研究Ⅰ	3前		2					○							兼1
	中古文学研究Ⅱ	3後		2					○							兼1
	中世文学研究Ⅰ	3前		2					○							兼1
中世文学研究Ⅱ	3後		2					○							兼1	
近世文学研究Ⅰ	3前		2					○							兼1	
近世文学研究Ⅱ	3後		2					○							兼1	
近代文学研究Ⅰ	3前		2					○							兼2	
近代文学研究Ⅱ	3後		2					○							兼1	
児童文学論	1後		2			○									兼1	
現代文学論Ⅰ	3前		2			○									兼1	
現代文学論Ⅱ	3後		2			○									兼1	
日本文学特講Ⅰ	4前		2					○							兼1	
日本文学特講Ⅱ	4後		2					○							兼1	
漢文学講読Ⅰ	2前		2					○	1						兼1	
漢文学講読Ⅱ	2後		2					○	1							
東アジア思想文学Ⅰ	3前		2					○							兼1	
東アジア思想文学Ⅱ	3後		2					○							兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門教育科目	国語教育実践研究Ⅰ	2前		2			○									兼1		
	国語教育実践研究Ⅱ	2後		2			○									兼1		
	国語教育実践研究Ⅲ	3前		2			○									兼1		
	国語教育実践研究Ⅳ	3後		2			○									兼1		
	阪神間の文化	1前		2		○										兼1		
	文化交流史	2前		2		○										兼1		
	美術史	2前		2		○										兼1		
	日本の芸能	3前		2		○										兼1		
	日本の伝統文化	3後		2		○										兼1		
	日本の現代文化	4後		2		○										兼1		
	知的財産論	4前		2		○										兼1		
	書道Ⅰ	1前		2				○				1				兼2		
	書道Ⅱ	1後		2				○				1				兼2		
	書道Ⅲ	2前		2				○				1				兼1		
	書道Ⅳ	2後		2				○				1				兼1		
	書道史Ⅰ	3前		2				○								兼1		
	書道史Ⅱ	3後		2				○								兼1		
	書論・鑑賞学	4前		2				○								兼1		
	身体表現法	1後		2			○									兼1		
	プレゼンテーション技法	2前		2			○									兼1		
	情報デザイン	2後		2			○									兼2		
	文芸創作	3後		2				○								兼1		
	コンピュータ概論	2前		2			○									兼1		
	言語データ処理	2後		1					○							兼1		
	情報検索法	3前		2			○									兼1		
	情報処理特論Ⅰ	3前		2			○									兼1		
	情報処理特論Ⅱ	3後		2			○									兼1		
	言語情報・文献管理特論Ⅰ	4前		2					○							兼1		
	言語情報・文献管理特論Ⅱ	4後		2					○							兼1		
	中国語概説	1前		2			○									兼2		
	韓国語概説	1後		2			○									兼1		
	英語で読む日本Ⅰ	2前		2			○									兼1		
	英語で読む日本Ⅱ	2後		2			○									兼1		
	海外文化体験演習	1前		4					○			1				兼1		
	演習Ⅰ	3通		2								10	3			兼3		
	演習Ⅱ	4通		2								10	3			兼4		
	卒業論文(卒業制作)	4通		4								10	3			兼4		
	小計(98科目)		—	16	182	0	—	—	—	—	—	10	3	0	0	0	兼4	—
	合計(321科目)		—	30	560	0	—	—	—	—	—	10	3	0	0	0	兼225	—
	学位又は称号	学士(日本語日本文学)		学位又は学科の分野			文学関係											
	卒業要件及び履修方法											授業期間等						
	4年以上在学し、共通教育科目16単位以上、基礎教育科目・専門教育科目から64単位以上を修得し、合計124単位以上修得すること。また、外国語科目から合計8単位以上を含めて修得すること。なお、TOEICのスコアに応じて単位(2~8単位)を基礎教育科目として認定する。 (履修科目の登録の上限:50単位未満(年間))										1学年の学期区分			2学期				
											1学期の授業期間			15週				
											1時限の授業時間			90分				

授 業 科 目 の 概 要				
(文学部 歴史文化学科)				
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目 基礎教養科目群 人文科学科目	英語圏の文学・文化	英語圏の代表的な文学作品について学び、その作家や作品が生まれた時代および文化的背景などについて理解を深めることを目的とする。 アメリカ文学の代表的な作品を時代順に取り上げ、その作品の特徴や時代背景について学び、アメリカの歴史・文化・社会についての理解を深める。取り上げる作品は以下の4つ小説である。ハリエット・ビーチャー・ストウ『アンクル・トムの小屋』、マーク・トウェイン『ハuckleベリー・フィンの冒険』、F・スコット・フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』、トニ・モリスン『ピラヴィド』		
	生活の中の心理学	社会生活や対人関係、人の成長・発達、心の健康など日常生活に深く関連する心理学の学びを通じて「こころのメカニズム」や「人間理解と対人援助」のための知識やその実際について理解することを目的とする。 子どもから大人、高齢者まで、すなわち受精してから死に至るまでの生涯にわたる心理学的な発達の变化を研究するのが生涯発達心理学という学問である。本科目では、発達の特徴や理論、各発達段階における心理学的な特徴を学術的に説明していく。また、生涯発達心理学という学問について単に学ぶだけでなく、学生の皆さんのこれまでとこれからの人生や様々な年代の人についての見方、日常生活への応用について考える機会を提供したい。		
	ヨーロッパの名歌歌唱法	これまでにどこかで聞いたことがあるであろうヨーロッパの名歌の数々。イタリア、フランスおよびドイツの歌を中心に、それらを原語にて歌唱することにより、自らの声で表現する楽しさを体験し、各国の文化について学ぶことを目的とする。ヨーロッパの名歌に触れ、その美しさを知ることにより、曲の内容に沿った歌い方で心豊かに表現する。 身体に負担のない理想的な発声法を習得し、その理想的な発声法により各作品に求められる内容を表現できるようにし、各原語の発音法を習得する。 (オムニバス方式/全15回) (11 藤村 匡人/7回) ドイツの歌を中心に行い、各原語の発音法の習得する。 (36 坂口 裕子/8回) イタリア、フランスの歌を中心に行い、各国の文化について学ぶことを目的とする。	オムニバス方式	
	英語を学問する—理論と実践	専門的な視点から深く学ぶことを通して、英語という言語についてより深く理解し、そこで得た知見を英語の学びに活かすことを目的とする。社会の中における英語という言語について考察する。なぜ英語が世界へと広がり「共通語」とも呼ばれるような地位を確立したのか、「バイリンガル」や「グローバル人材」とは何なのか、英語を教えること・学ぶことの意義や影響、英語の多様性、世界における言語格差などについて学び、自分なりの英語とのつきあい方を再考する。文献を読み、さまざまな見解を照らし合わせて自分自身のスタンスを形成する。 社会の中での英語の役割について、教科書を読み、講義を聞くことで、現在「共通語」として認識され広く学ばれる外国語である英語について理解する。参考文献に提示された論文や書籍も参考にする。		
	日本の文化 I	自国の文化を学び、異なる文化的背景を持つ人々と知識を共有することは、現在のグローバル社会を理解するために有意義なアプローチである。この授業では、伝統的な日本文化と現代の日本文化の両方の重要な概念を学ぶことを目的としている。ディスカッションを通して自分の考えをクラスメートと共有し、日本文化を先入観にとらわれずに見直し、自分達の文化を考察することに重点を置く。「Long-Established Businesses」「Uniforms」「Homemakers of Japan」などをテーマとする。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目	日本の文化Ⅱ	自国の文化を学び、異なる文化的背景を持つ人々と知識を共有することは、現在のグローバル社会を理解するために有意義なアプローチである。この授業では、伝統的な日本文化と現代の日本文化の両方の重要な概念を学ぶことを目的としている。ディスカッションを通して自分の考えをクラスメートと共有し、日本文化を先入観にとらわれずに見直し、自分達の文化を考察することに重点を置く。「Japanized Foreign Dishes」「Voice Actors」「Senior Citizens」などをテーマとする。	
			平安朝文学の世界	平安朝の文学を通して、当時の人々の生活・風俗や考え方に触れ、我が国の文学や文化についての理解を深めることを目標とする。 平安時代には、仮名文字の発達により、物語文学や日記文学・随筆など、さまざまなジャンルの散文学が開花した。この時代の人々は、何を考え、どのように生活していたのだろうか。恋愛は、家庭生活は、そして仕事は？——平安時代の文学作品を読み味わい、この時代を身近に感じることを通して、理解を深める。	
			現代フランスの音楽事情	フランスの音楽事情を通してフランスの一側面を学ぶと同時に、音楽と社会について考察できる力を培う。フランスの例から日本の音楽事情にも考えを巡らせることや、更には自らの専門領域に対する深い思考力を身につける。「芸術の都パリ」と言われるが、その表面的な煌びやかさだけでなくそれを支える背景、また社会における芸術の位置づけまで想像できるようにする。先ず、フランスに関する基礎知識を学んだ上で、フランスと文化芸術ないしは音楽の関係について学習する。全授業回数のうち2/3程度は、公的な文化支援について学び、関連する事柄について視聴覚資料などを参照する。残りの1/3では、「芸術音楽」と「ポピュラー・ミュージック」というふたつの側面から、音楽作品の鑑賞を中心に行う。	
			先端芸術表現	膨大な情報そしてモノが溢れる現代社会において、芸術表現の手段となり得るメディアは多岐にわたる。先端芸術の「今」を理解し自ら表現することを通して、芸術表現の可能性に挑む。原始美術から現代美術に至るまで、人類が飽くことなく続けてきた表現の諸相を概観する。美術史の流れに照らして、現在の様々な表現へとつながる文脈を解説する。その上で、先端芸術表現の背景にある時代性をふまえたいくつかの技法・材料による表現活動を行う。	
			ミュージカル歌唱法	音楽によって感受性を豊かにし、表現することで積極性を養うことを目的とする。歌を通じて客観的に自分を理解し、それを表現し伝えることを体感する。 「サウンド・オブ・ミュージック」を教材に、歌唱の基本的なトレーニング、発声練習をし、作品の理解を深めると共に豊かに表現することの実現をめざす。	
			日本舞踊に学ぶ着付けと作法	和の文化 日本舞踊に触れながら、一人のできる着付け・人に着せる着付けを学ぶ。そして楽しみながら自然にマナーを学び、美しい身のこなしや人とのつき合い方を身につけることを主な目的としている。 さまざまな動きを取り入れた日本人の文化遺産である“日本舞踊”を通して、和の心に親しみ'正しい姿勢とご挨拶'、美しい所作を生む和服の着こなし'たおやかな立ち居振る舞いと心得'など大人の女性として恥ずかしくない礼儀や作法を身につける。まずは簡単なわらべ唄を中心に踊りに親しむ。似合う浴衣の選び方からコーディネート楽しさ、基本の着付けと帯結び、着物の種類とTPO別マナー、お手入れ、簡単にできるヘアスタイルとメイクなど浴衣のすべてを修得する。	
			自己発見アート	アート表現を使ったセラピー的学習。ものを創造し、表現していく過程から、普段の生活では自覚しにくい潜在的な自己を発見する。自分自身をうまく表現する術、自発的にものを考える力、さらには、人とうまくコミュニケーションをとる手段などを身につける。様々な方法で自己表現の可能性を追求する。鉛筆を使ったドローイングや、紙を使った造形、プロジェクターを使った現代美術の紹介や、アートや表現についてのディスカッションを行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	人文科学科目		
		未来造形	未来について考え、そのイメージを作品として表現することで、現代を生きる自分自身が未来を構築していくための一員であることを自覚する。既成概念に捕われない発想力や想像力の育成と、基本的な表現技術の習得を目的とする。未来について考え、想像し、そこから生まれるイメージを絵本や作品にして表現する。様々な素材や方法を使い表現の可能性を追求する。	
		日常生活からの哲学入門	西洋と日本の哲学者のさまざまな議論を紹介しながら、「見る」「触れる」「感じる」といった日常にありふれた経験を分析する。これらの経験について考えた哲学者たちの議論の仕方を学ぶことによって、哲学的な考え方・ものの見方を身につけることを目的とする。何気ない日常生活の中にひそむ哲学的な問題を取り上げ、関連する哲学者の議論を学ぶ。まずは、ふだん当たり前のように感じていることに対して疑問を投げかけるところから出発する。その上で、新しい眼差しのもとでこの現実を見つめ直していくような視点を、一つ一つ身につけていく。哲学の枠組みを通して現実を分析することで、日常生活の中にどのような問題が立ち現われてくるのか体験し、理解する。	
		音楽の科学	音楽は今も昔も私たちの生活の一部であり、暮らしに彩りを添えてくれる。近年の研究において、音楽を聴く、歌う、演奏するといった活動を行っている時には、脳の様々な領域が働いていることがわかってきた。本講義では、音や音楽の科学的な側面と社会とのつながりに焦点を当て、音楽を享受する人間の本質の一端を明らかにすることを目的とする。各回の講義についてテーマを設定し、その内容を配信動画で説明する。また、各回のテーマに関する小課題に取り組み提出する。小課題の内容は適宜次回の講義でフィードバックを行い、他の学生の意見やコメントに触れることで視野を広げる。本講義では、高校までの音楽の授業では学習しない内容を多く含んでおり、音楽と脳科学の関係や音楽とともに生きる私たちの暮らしについて、多様な視点から考察していく。	
		歌舞伎鑑賞入門	日本の伝統芸能の一つである歌舞伎について学び、その魅力に触れるとともに、そうした芸能を育んできた我が国の文化についても理解を深めることを目的とする。歌舞伎は、江戸時代以来の歴史を持つ日本独自の演劇であるが、多種多様な娯楽があふれる現代においても、なお多くの観客に支持され続けている。時代の変化と共に新たな要素を盛り込み、現代も生き続けている歌舞伎の魅力を探るとともに、これから歌舞伎を見たい、どんな世界か知りたいといった初心者にも楽しめるよう、代表的な演目について、映像や資料を使い、エピソードも交えて、歌舞伎の見方を解説する。	
		遊びの人類学	「遊びとは何か」、遊びを文化（約束事）の問題として考えることを目的とする。遊びに凝縮・刻印されている文化と社会を、異文化理解と自文化理解の展望のもとに「調べ・考え・まとめ・実践する」ことを進めてゆく。初めに、J. ホイジンガとR. カイヨワや早くから遊びに注目して教育的価値を見出していたプラトンやソクラテスの遊び論について整理しながら、俯瞰的に見ていく。次いで、人類学、歴史学における世界各地の民族・集団における遊び現象についての豊富な事例研究の蓄積を分析することによって、遊びの当該社会においてもつ意味や価値について明らかにしていく。	
		心理学入門	心理学を初めて学ぶ人を対象として、心理学の基本的な考え方や方法論を理解することを目的としている。また、ここでは科学としての心理学を理解し、自己理解や身近な生活への活用について考える。 心理学のさまざまな分野について幅広く学ぶ。また、その内容を自分自身の生活や経験と結び付けて理解することを目指す。	
		人間関係の心理学	私たちは日々、誰かと関わって生活している。人間関係は大きなストレスにもなる反面、心に安らぎも与えてくれるものである。この科目では、人間関係について心理学的に理解することを目的としている。 心理学の中でも人間関係に関連する内容を中心に、教科書を用いて基本的な知識を獲得する。また、その知識を用いてレポートを作成し、クラスメイトと非同期型で意見交換を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通 教育 科目	基礎 教養 科目 群	人文 科学 科目	SNSから日本語を見る	身近な存在であるSNSの言葉そのものに焦点を当て、表現や表記などの用いられ方に一定の法則があることなど、SNSの言葉の面白さと特徴を知ることが第一の目的とする。また、SNSで用いられる言葉の特徴やコミュニケーションのあり方について、その面白さをレポートとして記述できることを第二の目的とする。 SNSで用いられている言葉は、一般的な書き言葉とは異なる表記・表現が多く用いられている。しかし、それらも私たちが日ごろ使っている日本語の一部であることに変わりはない。その特徴的な表記・表現を具体的に取り上げ説明する。そして、それらの多くは無秩序に現れるのではなく傾向が認められることを確認する。また、SNSという身近な言葉の面白さを知るために、ミニ調査を行い、ミニレポートを作成する。	
			日本語と英語の比較	多くの受講生が母語として普段何気なく使っている日本語を英語と比較対照分析することによって、両言語について新たな気づきを得る。また、それを通して英語等の外国語学習への抵抗を減らすことを目的とする。 予習してきた教科書の内容理解を確認しながら講義を行うとともに、内容の批判や新たな疑問を掘り起こし、それについて各自で掘り下げて調べたり考えたりする。また、その情報を全員で共有しながら議論することで深めていく。	
			フランスの音楽と芸術文化	芸術的創造の拠点となる都市としてパリは人を惹きつけ続けている。音楽を中心とする西洋の芸術文化を社会との関わりという視点を交えて体系的に学ぶことで、芸術文化について考察する力を培う。フランスの例から日本の芸術創造環境にも考えを巡らせ、更には自らの専門領域に対する洞察力を身につける。 先ずフランスに関する基礎知識を学びパリという都市について考える。そして、パリで脚光を浴びた作曲家や作品を追いながら、音楽を中心とする芸術文化と社会の関係について学習する。その際、歴史的には王室などの権力やキリスト教と音楽について見渡し、第五共和制以降は文化芸術政策として行われた具体的施策も紹介する。	
	社会 科学 科目	社会 科学 科目	建築と社会	人間が日々の生活を営む上で必要不可欠な、建築とそれを取り巻く社会に着目し、両者の多様なかわりの事例を学ぶ。この学びを通して、これからの建築や社会のあるべき姿と、その実現のために自分自身ができることを探求するための一助とすることを目的とする。 これからの学生生活のみならず、卒業後の人生を通して、建築と社会のあるべき姿を継続的に考え、その実現につながる実践を各自が探求する上で重要な、基礎的・先端的な知識を学ぶとともに、倫理観に支えられた思考力を養うことを目標とする。	
			聴覚障害者の理解と手話言語	聴覚障害者の理解につながる基本的な事柄を学ぶことにより、グローバルな視野に立って、共生社会の意味を考える。また、国内で使用される言語の一形態として手話言語を学び、日常会話ができるようになる。 聴覚障害についての学習を通じて、聴覚障害者の社会参加を妨げる問題について学び、よりよい共生社会のあり方を考える。手話言語の習得に必要な「見る力」「伝える力」を養い、会話によって話題を広げていく。	
			カウンセリングの実践	さまざまな分野から必要性が求められている対人支援のカウンセリング、その実際を理解し、基礎力をつける。1.対人支援において人を理解するとはどのようなことか、説明ができる。2.心のバランスを崩した状態の説明ができる。3.性格や心の葛藤について説明ができる。4.支援するときの聴き手の基本的な態度を説明できる。5.対人支援におけるものの見方について説明ができることを目標とする。 カウンセリングとは何か、対人支援とは何か、支援を必要としている人を理解するとはどのようなことかについて学ぶ。カウンセラーがカウンセリングを行うときのものの見方をベースに、態度や支援について、事例を学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	実践カウンセリング	<p>カウンセリングの基本的な考え方、方法から、生活や仕事に役立つ実践力を学ぶ。1.人を支援するときの原則が説明できる。2.対人支援において人の話を聴くときの留意点が説明できる。3.人を理解するとは何かの説明ができる。4.家族評価について説明できる。5.さわやかな自己表現とは何かを説明できることを目標とする。</p> <p>カウンセリングを行うときの基本姿勢、原則について学び、家族や自分自身についてふりかえるなど、事例をもとに実践カウンセリングを学ぶ。</p>	
			子育てと家族関係	<p>家族の中には、夫婦、親子、兄弟姉妹などといったさまざまな関係が存在している。将来、親として子どもに接する自分像、あるいは家族像を構築するために、青年期から成人期における女性の発達をこれらの家族関係とのかかわりでとらえることにより、現在の家族の一員としての自分を再確認することを目的としている。</p> <p>現代社会における「家族」は女性のライフスタイルの変化などの影響を受け、その形態も変化してきている。家族の意味と機能をふまえ、子育てという選択を自らの人生の中でどのように位置づけるのか、また、家族の中の人間関係がどのように影響し合っているのかについて講述する。さらに、家族をとりまく現代的課題を紹介する。</p>	
			子育てと母性の気づき	<p>現代は、女性の社会進出によるライフスタイルの変化や、日常生活における乳児との接触機会の減少などの影響により、「産む」「育てる」ことが、個々の選択により委ねられる時代になったといえる。これをふまえた上で、出産というライフイベントに対する興味を喚起することを目的としている。母性本能、育児本能という言葉がある一方で、育児意欲の低下についての問題が世界的に一般化しつつあることも事実である。本講義では前半で子どもの発達について、特に変化の著しい乳幼児の身体発育、運動能力や感情の発達を、後半で母性に関するデータを紹介したり、子育て中の母親の問題をとりあげ、心理学的観点から講述する。</p>	
			福祉レクリエーションの実践	<p>福祉レクリエーションとは、高齢者や障がい者に多く見られる生活支援を必要としている人々に対して、身体的・精神的な健康を意図して行われるレクリエーションの一分野である。とすれば、専門職に就く人間にのみ必要と特別扱いされ敬遠されがちな分野であるが、コミュニケーションやレクリエーションの方法を実際に体験しそのスキルを身につけるとともに、学生自身がおかれている家庭環境や社会環境を通じて、そのスキルや考えがこの社会で生活するすべての人間に必要なことであると理解することを目的とする。前半はレクリエーションゲームを体験しながら、コミュニケーションの変化や自分から他者へのアプローチについて学ぶ。後半は高齢者向けの「作る」レクリエーションを体験しながら、高齢者の理解と関わり方について学ぶ。</p>	
			差別と暴力のない世界をめざして	<p>急激な変化を見せている現代社会において、未来世代の子どもたちと共に新しい人権・平和文化を育むことは、教養教育に課せられた大事な仕事である。そのために、人権・平和に関する諸問題について研究を行い、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求する人間形成のあり方を探求する。</p> <p>現代社会を生きる子どもと、子どもたちを取り巻く環境の検討から、人権感覚や平和を阻害している諸矛盾を解明することを目指す。そして、そこで明らかとなった今日的な課題を克服するのにふさわしい人権及び平和問題について研究活動を行い、その教訓を学び取る。そのことを通して、人権・平和文化が根差す新しい社会を形成していくことに貢献する共通教養のあり方を究明する。</p>	
			「ふつう」を考える社会学	<p>私たちは、「ふつう」という言葉をよく使う。その「ふつう」とは、どこまでが「ふつう」で、どこからが「ふつうでない」のか？社会の中でその境界線がどのようにしてつくられるのかを考え、生活世界について多様な見方ができるようになることを目的とする。</p> <p>ある状態が「ふつうでない」とみなされる時、「問題」となる。現代にあらわれているさまざまな社会問題を取り上げ、「逸脱」の概念に基づいて、それがどのように「問題」となっていくのかを考察する。そこから、私たちのいう「ふつう」がいかに社会的、文化的、歴史的に規定されているかを理解する。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	現代世界の教育	現代世界の主な教育事情に注目し、それらにみられる特徴を明らかにし、世界の教育の動向を知ることによって、日本の教育の課題についてともに考えることを目的とする科目である。世界の主だった教育事情の概要およびそれとの関連で日本の教育の課題について受講生が理解し、説明できるようになることを到達目標とする。 世界の教育を、できるだけ視覚的、体験的に学習し、他の受講生の意見を共有しながら、世界や日本の教育が有する世界観・教育観の多様性を理解することをめざす。主に、ヨーロッパ、アメリカ、アジアの国や地域を対象とする。	
			消費者生活論	学生が充実した消費生活を営むために、確かな目で商品・サービスを選択し、安全・安心な豊かな生活を手にすることができるようになることを主な目的としている。また、自身の消費行動が国内だけでなく世界の経済や環境に影響することについて学び、SDGsを達成するために消費者市民としての行動について考察することにより、卒業後の社会生活に活かせることを目的とする。前半は消費生活における問題やしくみ、対処法について解説する。消費生活に関連した資格取得も視野に入れ、消費者政策や法律を学び、消費者トラブルにあわないための正しい知識を習得できる内容とする。後半は、日常生活に関わりの深いテーマを取り上げ、消費者市民として、一人ひとりが社会でどのように行動するのが望ましいか、具体的に学ぶことができる内容とする。	
			英語で学ぶやさしい経済学	経済学の基礎知識を日本語と英語で学び、将来のキャリアに活かせる教養を身につけることを目的とする。テキストから経済学の基礎知識を学び、それを発展させて日常生活・時事ニュース・世界の動向に関連付け、グループでリサーチ、ディスカッション、分析を行い、その結果をクラスでシェアする。従来の英語読解の授業ではなく、英語を使って、経済学のコンセプトを学ぶ。	
			英語で学ぶお金の知識	大学生生活や将来のライフイベント、(就職、結婚、育児、老後)などに備えて、必要なお金の知識を日本語と英語で学び、自分の生き方にあったお金の活用方法を身につけ、合理的なライフプランを設計できる、ファイナンシャル・リテラシーを身につけることを目的とする。日本語教材からパーソナルファイナンスの基礎知識を学び、その知識を英語教材を使って発展させる。日常生活・時事ニュース・世界の動向に関連付け、グループでリサーチ、ディスカッション、分析を行い、その結果をクラスでシェアする。従来の英語読解の授業ではなく、英語を使って、パーソナルファイナンスのコンセプトを学ぶ。	
			現代社会と憲法	日本国憲法の理念、体系について学ぶとともに、日本国憲法が具体的にいかなる形で日常生活に影響を与えているかを知ることによって、法的な思考プロセスの基礎を養うことを目的とする。各回の該当項目につき、パワーポイントで作成した資料を掲げつつ、要点を説明する。主要な論点については、判例等の具体例を示しつつ、掘り下げた説明を行う。必要に応じて最新のトピックにも触れ、憲法の理念を日常生活の具体的事象に落とし込むプロセスを紹介する。	
			我々のくらしと日本の産業	産業とは何かを経済との関係でとらえた上で、日本の産業の移り変わりについて学ぶ。また、産業に対して政策が果たした役割について考え、日本の産業が抱える問題や課題を浮き彫りにする。さらに日本の第二次産業および第三次産業のなかから特徴的な業種を取りあげ、その歴史、特徴、課題等を学ぶとともに、今後の産業の姿を展望する。まず産業の定義や分類について明確にするとともに、日本において現在に至るまでの産業発展を達成した経緯を歴史的に概観する。次に、日本の主要な産業を取り上げ、各産業特有の現状と課題について解説する。また、産業情報の入手、分析方法についても示し、課題において各受講生が自ら興味ある産業を調査できるようにする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	社会科学科目	教養としての法律	初めて法律を学ぶ学生に対して、法律とは何かを学んでもらうとともに、身近な事例を題材として、法律が生活とどのように関わっているのか、いろいろな角度から考えてみることを目的とする。日常生活に根差した具体的な事例をもとに、法律のしくみについて学ぶ。また、法律は時代とともに変化する学問であることを理解するため、講義では裁判員制度や法改正による選挙権者の年齢の変化など、最新の状況を反映したテーマを扱う。さらに、法律に関係する事件や事例で近年耳目を集めるものがあれば、積極的に取り上げることで、法律問題に興味を持ってもらう。	
			暮らしと法律	初めて法律を学ぶ学生に対して、法律とは何かを学んでもらうとともに、身近な事例を題材として、法律が生活とどのように関わっているのか、いろいろな角度から考えてみることを目的とする。日常生活に根差した具体的かつ現実的な事例をもとに、法律のしくみについて学ぶ。取り上げるテーマは、暮らしと関係をもとに大別して、人権・生活・犯罪の3つに分け、それぞれのテーマについて法律がどのように日常生活と関わっているのかを意識しながら、事例とともに学ぶ。また、法律に関係する事件や事例で近年耳目を集めるものがあれば、積極的に取り上げることで、法律問題に興味を持ってもらう。	
			メディア技術と文字デザイン	メディアテクノロジーと文字（書体/タイプデザイン）の歴史を紐解きつつ、メディアテクノロジーの進化が、人々の知覚にどのように関与してきたか考察する。それらを通して、人々の「みる」行為を意識するとともに、自身の情報発信のあり方（デザイン）を見直し、よりよい発信のための思考を身につけることが、本科目の目的である。下記1～4の内容を具体的な事例とともに解説をしていく。 1. 視覚メディアを中心としたメディアテクノロジー史（写真、印刷、映像）、2. グラフィックデザインの基礎（主にタイポグラフィ）、3. 20世紀の表現技術（テクノロジーアート、メディアアートを中心とした現代美術）、4. 21世紀の表現技術（デジタルテクノロジーと表現）	
	自然科学科目		はたらく細胞とくすり	からだの中にはたくさんの”はたらく細胞”がある。その働きを理解したうえで、関連する病気とそのくすりの使用目的、使い方、選び方等を理解する。 からだの中のしくみと各細胞の働きを理解したうえで、生物学、薬学に関連した話題を提供し、くすりの知識を学ぶ。また、薬局において自分で買える市販の薬について、いろいろな商品の違いを知ること、薬を選ぶポイントとなる知識を学ぶ。	
			色彩情報	私たちの生活は色にあふれている。衣・食・住、どれをとっても彩色が施されており、生物にも自然にも色がある。では、みなさんが見ている色と隣の人が見ている色は果たして同じ色なのだろうか。本科目では、色の基礎知識として、色の見えるしくみ、色を正確に伝達する手法、その他、生活の中にみる色情報のしくみを理解することを目的とする。 色彩検定3・2級の公式テキストを基に、色彩の基礎的な内容を身近な例を取り上げながら解説をしていく。	
			生命科学入門	「生物」「いきもの」に関わるテーマについて、自分の身の回りの事柄を科学的に考察し、知っている事実からその現象を連想し理解することで、「生物学」「生命科学」に対する探求心を養うことを目的とする。「生命」とは何か？ どのようにできてきたのか？ 自然とどのようにつながっているのか？ など、自分が毎日「生きている」ことをあらためて考えてみるテーマを用意する。ニュースなどで「生命」に関する報道を聞いた時に、考えたり調べたりする初めの一歩になると同時に、専門講義に不安のある学生にとって「生物学」「生命科学」への第一歩となるように講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	基礎教養科目群	自然科学科目	生活の中の物理学	身の回りに見られる題材から、日常生活の素養となる物理学を習得する。論理的／数理科学的な考え方で自然を眺めたり、応用する力を養う。物理に限らず、科学的なりテラシー能力を得られるような広い話題から講義を進める。虹はどうしてできるのか、飛行機はなぜ飛べるのか、電子レンジのしくみは、など素朴な疑問を大切にしてい、日常生活の基礎に潜んでいる物理法則や理論を、トピックごとに掘り下げて解説する。また、自然現象に対する純粋な興味・疑問を持ち続けることの大切さも伝えたい。	
			最先端物理学が描く宇宙	物理学の歴史的な進展も交え、我々が現在までに得ている「宇宙」の観測的描像と理論的描像を紹介する。論争によって発展をつづけた科学的世界観や、宇宙物理学の諸問題を理解する。現代物理学の2つの柱である相対性理論・量子論を紹介し、宇宙が膨張していること・ブラックホールが存在していることはどうやってわかったのか、素粒子の確率解釈が必要となった理由は何かなど、物理学の根源的な問題を（数式ではなく）論理的な展開を軸に解説する。宇宙の階層構造を説明したのち、歴史的な話に入る。近代科学の発端、そして相対性理論と量子力学が描く現代物理学の内容を紹介し、最先端の宇宙像を紹介する。話題となる科学ニュースの解説も適宜行う。	
			科学から考える衣服と生活	衣服といえば一般的にはファッションが想起され、デザインや流行といった文化的側面に目が行きがちであるが、物としての基本的価値、例えば身体を寒暑等から守ることで人類が地球全体に活動範囲を広げられたことなどを忘れてはいけない。衣服の科学的知識やその根底の考え方は衣生活において極めて重要で、大学等でも古くから系統的に研究され、教えられてきた。本講義では、衣服に関する科学的領域について、人体生理から素材、環境問題まで広くその科学的知識や考え方を教授するとともに、より良い衣生活について受講生と共に模索したい。科学と生活のかかわりに気付くことで、科学を普段の生活に役立てられるようになる。	
	国際理解科目	音楽から見る人と世界	世界の様々な地域や時代における音楽のあり方を通して、音楽が人や社会に及ぼす影響について考える。学生が受講を通じて音楽と人、社会との関連について興味を持ち、今後の生活、専門領域に役立てることを目標とする。 療法、教育、歴史、環境、マスメディアなど多角的な観点から音楽が人と社会及ぼす影響について考察する機会を提供する。		
		韓国文化の理解	韓国の文化と社会について基礎的な知識をはじめ、多様な韓国文化に対する理解を含めることを目標とする。韓国・朝鮮半島における歴史の基礎知識を含め、「文化」というフレーム・ワークに注意を払いながら、韓国におけるサブ・カルチャーというものをテーマ別に分けて取り上げる。特に、現代の韓国文化だけではなく、その源泉ともなる伝統文化にも注目し、「韓国文化」全般に対する理解を深める。		
		世界の中の日本人	普段あまり意識することのない文化が自己形成や心のしくみにどのような影響を与えているのか、また文化の中で生きる人間の生き方が、どのように文化や社会を維持・変革しているのかを分析・考察できるようになることを目的とする。まず、自己イメージや自己形成に文化がどのような影響を与えているのか、また差別や偏見に文化がどのように関わっているのかについて概説する。その後、結婚や育児などの身近な事柄が、文化によってどのように異なるのか、また、日本や日本人は、他国と比較して、どのような特徴があるのかについて考察する。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	基礎教養科目群	国際理解科目 中国文化論	豊かな奥深い中国文化の基礎知識を概説することを目的とする。第一部分「風土と民族」(第1～3回)は、多様な環境から生み出された文化、移動と融合によって形成されてきた「中華民族」の変遷を説明する。第二部分「伝承と沈殿」(第4～6回)は、中国文化を伝承する最も重要な媒体である漢字について解説する。第三部分「家族と統合」(第7～9回)は、中国人の家族・宗族制度とこれを基礎とした社会のあり方を解説する。第四部分「教養と娯楽」(第10～12回)は、教養として文学と絵画、人々の心を引きつける演劇の魅力映像によって感じてもらう。第五部分「心と体」(第13～15回)は、中国人の多様な宗教信仰、パワーの源である中華料理の魅力を伝える。	
		現代トピック科目 スポーツツーリズムと地域創生	スポーツツーリズムの歴史や概念、現状、事例などを学び、自分の身の回りで展開されている。スポーツツーリズムを理解し、説明できるような基礎的知識を身に付ける。また、スポーツツーリズムの国内外の事例を通じて、その概念や現状を理解すること、近接領域である健康をテーマとしたヘルスツーリズムも加えて、ヘルス・スポーツツーリズムの役割や課題について学修する。 比較的新しい領域であるスポーツツーリズムを中心に、近接領域を含め、その関連を学んでいく。また、観光立国を目指す我が国の柱の一つとして期待されているスポーツツーリズムが、期待される理由、課題、地方自治体の取り組みなどについて、理解を深めていく。	
	モラルジレンマから考える私	日常生活には様々なモラルジレンマがあり、これらは正解がはっきりしないことも多い。社会の中で生活するためには、自分の意見を明確にするとともに、他者との議論を通じて、自分の意見を見つめ直すことも必要となる。本授業ではこのジレンマ過程を実際に経験しながら、自分と異なる意見にも耳を傾ける態度を養い、自分自身について見つめ直すことを目的としている。提示したジレンマ課題について、ランダムに賛成か反対かのどちらかに割り振られる。その立場のデータや資料を集め、レポートを作成する。ディベート判定会では、各自のレポートを公開し、互いに読みあい、クラス全体としてのディベート判定を行う。		
	女性のためのマーケティング	身近な事例にもとづいてマーケティングの基本を習得し、マーケティングへの理解と興味を深めて、将来的にマーケティングに関わる業務で活用できることを目的としている。前半はマーケティングの定義と成り立ち、マーケティングの基本概念(STP、マーケティングミックス4P等)について、後半はマーケティングの応用理論としてマーケティングマネジメント(サプライチェーン・営業・リレーションシップ・ブランド・ソーシャル・サービス等)について学ぶ。講義内容を深く理解する為に、身近な商品・サービス事例を取り上げ、概念・理論と関連付けて説明する。		
	Current Affairs in Japan I	日本の様々な時事問題に関連するトピックを、日本人学生と海外からの学生が共同で学び、考え、議論する機会を提供する。メディアや学術論文を読み、日本が直面している様々な社会的・文化的問題や課題について考察する。「日本の学校教育」や「女性の仕事観や管理職の格差」「日米の医療制度」など様々なテーマを用意し、学生同士の議論を通じて日本と海外の共通点や相違点を検討する。		
	Current Affairs in Japan II	日本の様々な時事問題に関連するトピックを、日本人学生と海外からの学生が共同で学び、考え、議論する機会を提供する。メディアや学術論文を読み、日本が直面している様々な社会的・文化的問題や課題について考察する。テーマは日本のアイドルや教育制度、領土問題など様々ある中から学生の興味関心に応じて設定し、学生同士の議論を通じて日本と海外の共通点や相違点を検討する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目 ジェンダー科目群	セクシュアリティ入門Ⅰ	セクシュアリティという概念への着目を通して、性の多様性に関する知識と意識を高め、自分も含めた一人ひとりの違いを尊重できる感覚を培うことである。 セクシュアリティに関する基本的用語を説明し、身体的、心理的、社会的などさまざまな側面からセクシュアリティを概観する。また、人権にまつわる歴史的な出来事を示し、多様な性のあり方について考察する。	
	セクシュアリティ入門Ⅱ	セクシュアリティに関するさらなる知識と理解を修得し、自分も含めた一人ひとりの違いと人権を尊重するだけでなく、社会正義とは何かを問う力を養う。 セクシュアリティにまつわる歴史的・社会的な出来事を示し、さまざまな側面から人権と社会正義を考える。その上で、現代における性のあり方について自分の考えを言語化する。	
	女性と教育	教育における自らの経験や現状をジェンダーの視点から分析・考察することによって、ジェンダーにとらわれないしつけや教育の可能性について考える力を養う。また、学校におけるアンコンシャスバイアス（無意識の思い込み）に基づく教育内容、慣習、言動などについて学び、その影響について知識を養う。さらには、将来起こり得る様々な出来事（就職、転職、進学、結婚、出産、育児、介護等）について主体的に考え、行動できる力を養う。 家庭教育や学校教育に見られる様々なジェンダーバイアスやアンコンシャスバイアスについて情報を得た上で、自らの経験や現状を振り返ることによって、教育の現状に「気づく」。女性大学の創立の歴史や現状について学ぶことによって、女性大学の存在の意義を理解し、自らの学びに活かす。	
	ジェンダーとアイデンティティー	ジェンダーやセクシュアリティをめぐるのは、学問的には日々進展しているものの、日常生活においては依然として理解が進まず、性別二元論や性別分業（観）が根強く残っている。そのために、女性であること、同性愛者であること、トランスジェンダーであること等のために生きづらさを感じている人は少なくない。ジェンダーとセクシュアリティについて学ぶと同時に、性別二元論や性別分業（観）の問題について学ぶことを通じて、「個の尊厳」と多様性（ダイバーシティ）の尊重が、自分や他者が生きる上で、いかに重要かについて学ぶ。	
	ジェンダーと社会	男女共同参画社会、女性活躍社会、国連の2030アジェンダやその中の持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）の提唱やPRIDE指標の作成等により、国内外でジェンダーやセクシュアリティにかかわる問題を解決しようという動きが見られ、女性やLGBTQ+が活躍しやすく、多様性（ダイバーシティ）を尊重する社会の構築をめざす動きが加速している。同時に、ICTや人工知能（AI）は、これまでの雇用のあり方を大きく変えつつある。女性やLGBTQ+に関わるさまざまな社会の変化について、ジェンダー、セクシュアリティ、格差という3つの視点から学ぶことにより、望ましい共生社会のあり方や自らの生き方について主体的に捉える力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	ジェンダー科目群	女性の身体とセクシュアリティ	ジェンダーの理論やセクシュアリティに関する事柄を理解し、自分の身体や性について考察できるようになることを目的とする。ジェンダーに関する理論や日本社会における女性が抱える問題について概説する。また、セクシュアリティに関する概念や若者の性行動や性意識について考察し、LGBTsについての理解を深める。最後に、女性が罹りやすい障害についての情報を共有し、それらへの対処法について考察する。	
		メディアに見るジェンダー	メディアの中にある具体的な事例を通して、ジェンダーの理論や問題を分析することにより、自分自身の中のジェンダー意識を再考できるようになることを目的とする。女性が被害に合うことが多いドメスティック・バイオレンスや女性に多い依存症、また母娘問題などの身近な問題を、漫画やエッセイを通して学習する。また、固定観念やイメージがいかにジェンダー意識に影響を与えているのかを、メディアを通して検討する。尚、この授業は双方向型・参加型の手法を用いる。	
	キャリアデザイン科目群	女性のためのライフプランニング	自らの夢を実現するために、何を学び、いかに自らの能力を伸ばすのかを考える。また、キャリアについてどう戦略的に考え行動するか、女性としてどう生きるかを重要なポイントととらえ、有意義なライフプランを考える。まずライフプランニングの大切さを知り、学生の間にするべきこと、社会人として求められる力を理解して、自分が到達、習得できているかを知る。その後、女性を取り巻く社会環境を学習して、自らの理想のライフプランを確立する。また、円滑なコミュニケーションのためアサーティブコミュニケーションや正しい日本語も学習する。その後、世界の動きを知るため時事問題を学ぶ。	
		自己アピールトレーニング	自分自身を最大にプレゼンテーションすることを目標とするために必要な知識や技能を身につけることを目標とする。まず社会や企業が求める人材を知る。次に自分の長所を明確に出せるプレゼンテーションが面接でできるよう、発声、立ち居振る舞い、ウォーキング、敬語、スピーチトレーニングを行う。実技や実践に重きを置き、ビデオ撮影、フィードバックをすることにより、より確実にスキルを身につける。	
		キャリアビジョンと人物評価	雇用情勢は、有効求人倍率や失業率といったマクロ統計と密接に関連し、日本経済の動向を知るための大きな手がかりの一つである。この授業では、日本の雇用情勢や経済動向を俯瞰し、将来に向けたキャリアビジョンを描くとともに、ビジネスにおける意思決定手法の一つであるSWOT分析を適用した人物評価の技法を理解し、構造化面接法を用いて相互理解のあり方を実践的に学ぶ。	
	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	ハングル検定演習	ハングル検定4級・韓国語能力検定2級合格という具体的な目標に向かって学習を進める。韓国語の文字・発音・文法・会話についての理解を深め、ハングル検定4級・韓国語能力検定2級合格レベルの問題を解く力をつける。
Current Events			新聞、インターネットにニュース、ラジオ、テレビでは、様々な出来事が報道されている。変化の激しい社会に生きる私たちにとって、時事問題について常に情報をアップデートしていく必要があると同時に、さまざまな情報源に目を向けることは現代を生きる我々にとって重要なスキルである。この授業では、英語でのディスカッションを通じて、これらの出来事が私たちの生活にどのような影響を与えるのかを考える。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目		
		Leadership Development	この授業では、世界に様々な貢献をしてきた様々な人物をとりあげ、自らが目指すべきリーダー像を明らかにしていく。これまでの授業で身に付けた技術や情報をもとに、コミュニケーション能力や論理展開能力を生かし、リーダーシップを発揮していく。コミュニケーション能力を高めることに重点を置き、対人関係の構築や効果的なコミュニケーションのための戦略など、リーダーの資質について学ぶことを目的とする。	
		Global Issues I	この授業では、英語コミュニケーション能力の向上、難解なトピックに対応できる語彙力強化を含む総合的な英語力養成、地球上の様々な問題について知識を深めることを目標とする。英語のニュースソースなどから世界中に影響を与える様々な問題を取り上げ、英語でのディスカッションを通じて、英語でのコミュニケーション能力と批判的思考力の両方を伸ばす。授業でとりあげるトピックスは受講性のニーズや興味、関心に合わせて設定する。	
		Global Issues II	「Global Issues I」で培ったスキルをもとに、世界の様々なトピックや問題について議論し、英語でのコミュニケーション能力を高めると同時に、世界の重要な問題を深く批判的に理解する力を養う。学生のニーズ、興味、関心に応じたテーマを取り上げ、会話力、リスニング力を含む英語コミュニケーション能力の向上、様々なトピックに対応できる語彙力強化を含む総合的な英語力の養成、世界の諸問題について知識を深め、個人レベルで最も重要な課題は何かを考えることを目的とする。	
		Reading & Critical Thinking	クリティカル・シンキングを踏まえたリーディングトレーニングを行い、より深く「読む」力を身につける。Critical Thinking (CT)とは、「何事も鵜呑みにせず、自分の頭で考えること」である。本授業では、英語リーディングにCTを応用し、科学的・客観的に物事を捉える力を身につけることを目的とする。クリティカル・シンキングをベースにしたリーディングのための語彙を学び、ディクテーションにより、細部まで音の確認をしたのち、リーディング作業に入る。またクリティカル・シンキングとは何かを考え、リーディングやディスカッションを行う。	
		Reading & Discussion	現代社会が抱える様々な問題についてテキストおよび参考資料を読んだ上で、意見を述べたりディスカッションができるようになることを目標とする。現代の社会問題に関する幅広い知識を「読み」を通して得ると同時に、他の意見を尊重しつつ自分の意見を発信し考えを深める。エネルギー問題、移民問題、女性の社会進出、能力給など現代の社会問題に関するテキストを読み、物事を批判的に考えるスキルを学びつつ、英語で自分の意見をまとめたり、それを基にディスカッションする。	
		Career Workshop	大学入学後から現在までの自身を振り返り、卒業後の進路についてどのように思いが変化したか（あるいは一貫していたか）について自身の言葉で語り、グループで討論しながら、自らの考えを明確にするとともに仲間の意見を通じて新たな考え方や新領域について学ぶ。自己表現と相互理解のためのコミュニケーション力の総仕上げを行うことを目的とする。	
		Speaking & Listening I	対話を成功させるための様々なコミュニケーション方法を学び、聞きとれるが話せない表現を話せるようにすることを目的とする。学んだ表現をすぐに会話の中で繰り返すことによりスピーキングとリスニングのスキルを向上させる。様々なシチュエーションでのコミュニケーション能力を短期間で身につける。	
Speaking & Listening II	「Speaking & Listening I」で学んだスキルを使い、コミュニケーションスキルのさらなる向上を目的とする。スピーキング力を高め、複雑なシチュエーションでスムーズな会話ができるようになり、またリスニング力を高め、実際に話されているような英会話を聞き取れるようにすることを目的とする。このようなスキルを磨くことで、効果的かつ自信を持ってコミュニケーションがとれることを目標とする。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目		
		Speaking & Listening III	「Speaking & Listening I・II」で学んだコミュニケーションスキルのさらなる向上を目的とする。英語で自身の経験やアイデアを用いながら、意見を発する自信をつけていくことを目標とする。学生はスピーキング力の達成状況を記録するツールを使い、学習を進める。授業内だけでなく授業外でも英語を使う機会を増やす。	
		Basics for Presentation I	本科目は演習形式で授業を進める。バランスのとれた高い英語力(話す・聞く・書く・読む)＋社会人基礎力を身につけることを目標に3年間に渡り学習を継続するチャレンジコースにおいて、プレゼンテーション能力は必須である。コース初年度にそのベースを築くために必要な項目をテーマ毎に学びながら、実際のスピーチを繰り返し行い「人前で話す」ことに慣れる訓練を行うことを目的とする。TOEIC 550-600点程度の英語力の習得と、腹式呼吸を身につけ適切な音量で話すことができ、英語で簡単な内容のスピーチを行えることを目標とする。「発信するスピーチ」の練習と講演会などの司会進行の方法を学ぶ。	
		Basics for Presentation II	本科目は演習形式で授業を進める。バランスのとれた高い英語力(話す・聞く・書く・読む)＋社会人基礎力を身につけることを目標に3年間に渡り学習を継続するチャレンジコースにおいて、プレゼンテーション能力は必須である。コース初年度にそのベースを築くために必要な項目をテーマ毎に学びながら、実際のスピーチを繰り返し行い「人前で話す」ことに慣れる訓練を行うことを目的とする。TOEIC 600-650点程度の英語力習得と、英語で即興スピーチを行いながら聴衆の反応をコントロールすることを目標とする。前期に引き続き、短いスピーチを繰り返し行うとともに講演会などの司会進行の方法を学ぶ。	
		Writing I	この授業では、英語のライティング能力を向上させ、質の高い文章が書けるようになることを目指す。効果的な文章構成スキルを学び、語彙や表現、文法などライティング能力を身につける。様々なジャンルやスタイルの英語文章を紹介した上で、学生の興味、関心に応じてトピックを設定し、多くの文章を書く。また、学生同士のディスカッションを通して英語のスピーキングとリスニングを向上させる機会も設ける。	
		Writing II	「Writing I」で学んだライティング能力をさらに発展させ、質の高いエッセイを書く能力を身につける。序文、本文、結論といった英作文の構成に加えて、テーマの立て方や、自らの考えを効果的に表現する方法などを学ぶ。また、実際に英語の文章を作成し、語彙や表現、文法を効果的に使用する方法を学ぶ。様々なトピックについてのエッセイを書くことに加えて、TOEFLなどの資格対策も行う。また、学生同士のディスカッションを通して、英語のスピーキングとリスニングを向上させる機会も設ける。	
		Presentation	プレゼンテーションは、創造的なアイデアや個人的な意見、興味深い情報を人々に伝えるためのものである。この授業ではメディアと科学技術、社会と人間との関係、健康と環境、旅行と文化、教育などのトピックを取り上げ、効果的なプレゼンテーションスキルを身につける。	
		ドイツ語 I	学生がドイツ語の骨組みを理解できるようになることを目的とする。テキストをもとに、「聞く・話す・読む・書く」の技能全体をバランスよく学習する。また対話練習によってコミュニケーション能力を身につける。学生が、ドイツ語圏の文化的背景を具体的に理解できるよう視聴覚教材を使用する。ドイツ語をはじめて学ぶ人々に、発音・文法の説明・練習を通じてドイツ語の読解力・コミュニケーション能力を養成する。また、レーゼテキストを活用した会話練習も行う。それと同時に、学生がドイツ語の学習によって、ドイツという国自体、その文化や価値観に興味を持てるように、コラムやビデオ教材を使い様々な情報を積極的に紹介する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目		
		ドイツ語Ⅱ	ドイツ語コミュニケーション能力を養成し、ドイツ語検定試験4級の合格レベルの実力を養う。教員が各課の文法を説明し、受講者の理解度を確認する。新たに学ぶ文法については練習問題を通じ定着を図る。そののち、受講者はテーマに沿った対話を作成し、発表する。数課ごとに、小テストを実施し、内容を理解できているかを確認する。また、視聴覚教材を使ってリスニングを鍛錬し、簡単な読み物で語彙力や表現力のバリエーションを習得する。	
		フランス語Ⅰ	初めてフランス語に触れる学生が、フランス語の基本的な構造を理解することを目的とする。テキストをもとに、「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能全般をバランスよく学習する。また、テキストとは別にフランスのさまざまな風俗、習慣、文化等の最新情報を映像で紹介していく。この授業を通して学生がさまざまな表情を持ったフランスを発見し、フランスへの関心がさらに増すことを期待している。授業では「暗記」よりも学生の「理解」を前提とし、授業の指針としたい。文法については必要に応じてプリントを配布し、練習問題を通じて各文法事項が確実に身につくよう指導していく。	
		フランス語Ⅱ	フランス語Ⅰで修得したフランス語の基本の発展を目的とする。文法知識を補うとともに、単語面でも充実をはかることを目的とする。テキストをもとに、「読む・書く・聞く・話す」の4つの技能全般をバランスよく学習する。また、テキストとは別にフランスのさまざまな風俗、習慣、文化等の最新情報を映像で紹介していく。この授業を通して学生がさまざまな表情を持ったフランスを発見し、フランスへの関心がさらに増すことを期待している。	
		スペイン語Ⅰ	スペイン語を初めて学習する者を対象に、スペイン語文法の基礎を身につけ、これを用いて平易な文章を理解し、さらにスペイン語による日常会話の習得を目的とする。授業では、スペイン語圏の国々の歴史や文化的背景といったトピックなども適宜取り上げ、学生が語学の外へも興味を広げていくことを目指す。各回で取り上げられるモデル文、および語彙や文法事項を習得し、多くの問題やアクティビティをこなすことによってこれらを定着させる。また、モデル会話を繰り返し聞き、リピートすることで、スペイン語の音に慣れることを目指す。	
		ハングルⅠ	韓国語の基礎を学び、コミュニケーション能力を身につけ、社会的文化的背景を理解する。初めにハングル文字の読み書きを身につけ、ハムニダ体・ヘヨ体の名詞文とその否定、ハムニダ体の用言文、疑問詞の使い方、基本的な助詞、数字を含む表現などを学ぶ。過去形、尊敬形、命令形など、文末の文体や時制の変換、補助語幹の着脱が素早くできるように練習する。発音を重視しながら、身近な会話表現を習得する。	
		ハングルⅡ	韓国語での意思疎通に必要な中級の語尾や語彙を習得するとともに韓国語での情報発信能力と聴解能力をつける。合わせて韓国や日本の文化的な内容も学ぶ。 文法は連体形や変則活用の用言を学んだ後に、テキストに沿ってさまざまな語尾や表現を学ぶ。コンピュータやスマホ上でのハンゲルの入力の仕方も習得する。韓国語の作文（レポート）を書き、添削を通じて正しい韓国語の書き方を学ぶ。	
フランス語ⅠA	初級文法及び日常生活に必要な様々な表現を学びながら、「聞く」「読む」「話す」力を培い、簡単なフランス語でのコミュニケーションを可能にすることを目的とする。またフランス語という言葉を通して、フランスの文化や風土への理解・関心を深める。授業では、まずはフランス語の音と文字に慣れる為に、発音上の主な規則を学ぶ。大体3週で1課のペースで進めるが、適宜履修事項の反復練習を取り入れる事でさらに理解を深めるように努める。またテキストで学んだ事項の応用能力を高める為に、学生同士のペア会話練習・発表やフランス語による質疑応答等も随時行う。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目		
		フランス語 I B	初級文法及び日常生活に必要な様々な表現を学びながら、「聞く」「読む」「話す」力を培い、簡単なフランス語でのコミュニケーションを可能にすることを目的とする。またフランス語という言葉や文化や風土への理解・関心を深める。授業では、まずはフランス語の音と文字に慣れる為に、発音上の主な規則を学ぶ。大体3週で1課のペースで進めるが、適宜履修事項の反復練習を取り入れる事でさらに理解を深めるように努める。またテキストで学んだ事項の応用能力を高める為に、学生同士のペア会話練習・発表やフランス語による質疑応答等も随時行う。	
		TOEIC (初級)	TOEIC試験の形式に慣れ、英語力の向上と共に効率よくスコアアップをはかることを目的とする。TOEICの問題形式に慣れるために、よく用いられるテーマや語彙、又どのような状況で使われるのかといった背景知識も併せて学ぶ。スコア500点を取得するために正答しなければならない問題と、現時点では解く必要がないハイスコアを目指すための問題とを瞬時に判断し、限られた試験時間を無駄にしないためのタイムマネジメント力を身に付ける。	
		英語コミュニケーション I	英語で話すことに慣れていない学生が、英語を用いて、積極的にコミュニケーションを図る態度を身につけ、身近な話題について会話する基礎的な力を培うことを目的とする。授業はすべて英語で行う。講師やクラスメートとのペアワークやアクティビティ等を通じて、基本的な会話を練習する。また、会話を円滑に進めるコツを学び、できるだけスムーズに話す練習をする。	
		英語コミュニケーション II	英会話学習に関心があり、基礎的な英語力がある学生が、日常の身近な話題や、物事について、よりスムーズに会話の「キャッチボール」を楽しむ力を身につけることを目的とする。また、会話に必要な文法事項の復習や、語彙力の強化も同時に行う。授業はすべて英語で行う。授業では、できるだけ長く会話を続けたり、主体的に話したりすることを意識して、講師やクラスメートと英語でのやりとりを練習する。また、基本的なプレゼンテーションの方法やコツを学び、練習をする。	
		英語コミュニケーション III	コミュニケーションスキルを高めることはスピーキングとリスニングの自然な一部である。この科目では旅行、気候、健康、文化、社会に関連するテーマについて知識を深める。批判的思考を通じて様々な集団の人々の持つ視点を見つけることを学ぶ上でコミュニケーションに対する認識が重要視される。興味深い考えが多く含まれるテーマが取り上げられ、受講生は考え、議論することを求められる。	
		英語コミュニケーション IV	授業は受講生のレベル、関心、目標に対応した内容で行う。アジア地域の諸問題、特に東アジアに関する問題を取り上げる。テーマは旅行、家族観、環境、都市生活、ビジネス、食文化、娯楽などを扱う。テーマは基本的に授業担当者が選択するが、受講生はテーマの選択と研究、発表をする場合には好きなテーマを選び、「ディスカッションリーダー」として授業内で共有する。	
英語ライティング I	メールやLINEメッセージなどの日常的なライティングをはじめ、ネット利用の際に発生する「書く」やりとりにも活用できる語彙やフレーズを、「英作文」の練習を繰り返すことで習得し、短いセンテンスを用い、自分の意見を伝えることができるライティングの基礎力を身につけることを目的とする。また「書く」ための文法力を習得、英文ライティングに応用できるようにし、日常のやりとりに役立つレベルの「語彙」が理解できる。学んだ定型文を用い自分の意見を「書いて」伝えることができるようにする。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	言語・情報科目群	言語リテラシー科目	英語ライティングⅡ	エッセイやニュース記事など多種多様なジャンルの英文を読みながら、使用語彙・表現・パラグラフの成り立ちなどを学び、自分の意見・提案・説明など様々な状況に応じ、論理的な英文を書くために必要な文章構成力を身につける。	
			TOEIC演習Ⅰ	TOEIC未受験者を含め、初級レベルの学生が、各設問形式に慣れることを目的とする。授業では演習問題を通じて、各パートの設問形式を理解するとともに、TOEICに頻出する単語や表現と基礎的な文法事項を学ぶ。また、リピート練習や音読練習を行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
			TOEIC演習Ⅱ	基礎的な英語力があり、TOEICの試験形式にある程度慣れている学生が、多くの模擬問題にふれることで、さらなるスコアアップを目指すことを目的とする。授業では、タイムマネージメントを意識しながら演習問題に取り組み、各パートを解く上での解法スキルをマスターする。また、正答の根拠を明らかにすることで、正答率アップと応用力を身につける。リピート練習や音読練習も行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
			TOEIC演習Ⅲ	上級レベルを目指す学生が、難易度が高い問題に数多く取り組むことにより、一層のスコアアップを図ることを目的とする。授業では、高度な情報処理能力が問われるPart3、4、7を中心に大量の問題演習を行い、英語の処理スピードを上げることでスコアアップにつなげる。また、不正解の選択肢の間違っている理由を明確化することで正答率アップと応用力を身につける。リピート練習や音読練習も行い、既習表現を定着させる。毎回単語テストと演習テストを行う。	
			TOEFL演習	大学・大学院留学を目指している、あるいは、よりアカデミックな内容の英語を学びたい学生が、TOEFLの問題形式に慣れ、目標点数取得に必要な語彙力・リスニング力・リーディング力を獲得することを目的とする。Section1対策としてリスニングのPartA、B、C、Section 2で問われる文法知識問題、Section 3対策となる300～400wordsの長文読解等を始めとするTOEFL ITP形式の問題に取り組みながら、テストの形式に慣れる。毎回小テストを行う。	
			イタリア語ⅠA	イタリア語の骨組を修得することを目標とし、テキストをもとに、「聞く・話す・読む・書く」の技能全般の初歩をマスターする。また、イタリアの生活文化に触れることでグローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識を修得する。授業はイタリア語の初歩を、文化的背景を交えつつ、旅行先などでの状況設定を使い、楽しく会話方式で学ぶ。具体的にはカンツォーネやイタリア映画、イタリア語の絵本や新聞記事、Webサイトなどを紹介しながら学ぶ。	
			イタリア語ⅠB	「聞く・話す・読む・書く」の技能全般の初歩をバランスよく学習し、簡単な日常会話、自己紹介、旅行会話ができるようになるレベルの実力を養うことを目的とする。授業ではロールプレイを設定したコミュニケーションの表現を通して、主体的にイタリア語での会話ができるように導く反復練習を行う。またイタリアの文化に触れ、理解を深め、将来の留学・研修にも役立つ実践的基礎力を培う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	言語・情報科目群	情報リテラシー科目	データリテラシー・AIの基礎	AI・データサイエンスに関して興味・興味を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養を習得し、日常や仕事の場で使いこなせるようになる。本授業は、eラーニングシステムを利用し、自身で広い様々な視点からデータサイエンス・AIに関しての基礎的な知識を学習する。社会で起きている変化について学び、データ・AIの活用領域や技術、利活用の最新動向について学んだあと、実際にデータを扱う。また、データを守る上での留意事項を学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (34 榎並 直子/5回) データを処理する際の考え方を説明でき、データ・AIを扱う上での留意事項を説明できるようにする。 (35 長谷川 裕紀/10回) AI・データサイエンスの必要性を説明でき、社会で活用されているデータ・AI活用の事例を示すことができるようにする。	メディア オムニバス方式
			Webデザイン基礎	この科目では、ホームページの作成に利用されるHTML言語の基礎を学び、ホームページの仕組みを理解することが目的である。さらに、HTML言語を用いて、オリジナルのホームページが作成できるようになることが、この科目の目的となる。毎回の授業では、Webページを作成する際に利用するHTML言語の基本を段階を追って学習する。具体的には、Webページ作成に用いるHTML言語の命令であるタグを基礎的なものから応用的なものまで学習する。多数の例題演習を通じて段階的に学習し、その成果物としてオリジナルのWebページを制作する。	
			Webデザイン応用	Web制作の基礎知識を土台にして、CSSを利用した実践的なWebサイトの制作技術を学ぶ。Webサイト制作の実習を行い、サイトコンセプトに応じたWebページを効率よく構築する技法を学習する。これにより今日のWebサイトの仕組みを理解し、仕様に応じたWebサイトを構築する手法を習得する。前半はWebサイト制作例題にそって、Webサイトの制作手法と、CSSによる効率的なデザイン手法を中心に学ぶ。後半はWebサイト掲載用の写真編集、JavaScriptなどインタラクティブ要素の導入、CSSレイアウト機能とレスポンシブデザインについて実習する。	
			グラフィックデザイン基礎	DTPなどグラフィックデザイン分野で、必要不可欠な技術となったコンピュータによるデザイン描画について、その基礎技法を習得する。DTP業界でデファクトスタンダードであるAdobe Systems社のIllustratorを用いた作品制作を実習し、その基礎制作手法を習得する。Illustratorでの描画操作の実習から、オリジナル作品の制作を行う。初期は図形描画技法を実習し、オリジナルマークを制作、中期は文字・段落の表現技法を実習し、オリジナルCDラベルを制作する。後期は立体表現やグラフ描画など発展的な制作手法を学び、オリジナルのカタログを制作する。	
			フォトタッチ基礎	写真表現において、必要不可欠な技術となったコンピュータによるフォトタッチについて、その基礎技法を習得する。写真業界でデファクトスタンダードであるAdobe Systems社のPhotoshopを用いた作品制作を実習し、その基礎制作手法を習得する。Photoshopでの写真加工実習から、オリジナル作品の制作を行う。初期は描画機能と文字機能を実習し、オリジナルバナーを制作、中期は写真の合成手法を実習し、オリジナルのファンタジー写真を制作する。後期は汚れの除去や色調の補正手法を実習し、オリジナルの合成写真を制作する。	
			データサイエンスの基礎とExcel	データサイエンスの基礎として、人文科学、社会科学、自然科学、いずれの分野においても重要となる統計学の基本的な考え方と統計解析の手法を演習形式で習得することを目的とする。前半の授業では、設定されたテーマについて内容を配信動画で説明する。また、テーマに関するExcelの演習問題に取り組み提出する。授業の後半では、実際に行われたアンケート調査データを分析し、データの可視化から現状を分析したり、課題の解決策を提案するなど、課題演習に取り組む。また、それらの内容からレポート (Word) およびプレゼンテーション資料 (PowerPoint) を作成し、第三者にわかりやすく説明する表現内容について学習する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目	スポーツ選手における体力の維持、競技成績向上のために、トレーニングとともに適切な食事が重要である。そのために必要な基礎的栄養学知識を身につけ、競技スポーツ、健康の維持・増進のためのスポーツにおける食事に関しても理解を深める。知識の習得と共に、指導の場での応用方法や必要となるスキルを会得する。栄養学の基礎から学び、運動時に利用される栄養素について理解を深める。目的に合わせた食事計画について、スポーツ指導者として理解すべき科学的根拠から学習する。アスリートに多い栄養障害、ジュニア期の栄養教育などを踏まえた実践方法を習得する。	
		スポーツと現代社会	スポーツの歴史や文化現象を通して、スポーツの文化的特質や社会的役割を理解する。スポーツの成り立ちや文化的特性等の基礎的内容の確認後、学校体育との相違や運動部活動の諸問題など身近なスポーツ活動の問題からオリンピックやドーピングなどのスポーツの社会的問題に関わる事象を取り上げ、その文化現象の課題を批判的に考える。スポーツに関わる文化的な諸問題を取り上げるが、それら諸問題を通して日本社会のあり方を問う。	
	スポーツ実技科目	スポーツ実技（フットサル）	フットサルのルールや特性を学び、個人技術を向上させチームスポーツとしてゲームを楽しめるようにする。また、フットサルを媒体とし、他者とコミュニケーションを図ること、自分の身体や体力に目を向けることを目的とする。 フットサルは比較的小さなスペースで実施でき、年齢・性別に関係なく愛好者の多いスポーツである。この授業では、生涯にわたって楽しむスポーツの一つとして、フットサルを十分に楽しむために必要となる知識・技能・態度の養成を目指す。具体的には、授業毎にテーマ（基本技能あるいは戦略）に応じたトレーニングを行い他者と協働しながら技能習得を図る。基本的には初学者を対象として授業を設計している。「ボールを止めて蹴る」という基本的な動作から、ゆとりをもって徐々に学習を深めていく。	
		スポーツ実技（テニス）	授業では基本技術の習得、ゲームのルールやテニスのマナーを学び応用技術を実習しゲームができるように学習する。グランドストローク（フォアハンド・バックハンド）、ボレー（フォアハンド・バックハンド）、スマッシュ、サーブの技術を習得する。各ショットに適したグリップの説明やシングルス及びダブルスのルールの理解、シングルス、ダブルスのゲームの行い方、テニスのマナーの理解、審判の仕方について学ぶ。	
		スポーツ実技（ゴルフ）	担当講師考案の『ゴルフスイング体操』によって、ゴルフスイングにおける安全で効率的な身体の動かし方を学ぶ。自身の身体を正しく動かすために必要となる機能解剖の基礎を学ぶ。ゴルフスイングの練習の仕方を覚えてボールを打つ技術を向上させる。ゴルフゲームをおこなってスコアのつけ方やゴルフ用語を学ぶ。プレー中のエチケットやマナーなどを知り、ゴルフを自立的に楽しめるようになるための基礎を構築する。	
		スポーツ実技（バレーボール）	基本技術の習得やルールおよび審判方法など種目の特性を知ることができる。また、仲間と楽しみながらゲーム体験をし、生涯において健康的な生活を送るための健康づくりや生涯スポーツへきっかけとなる運動体験ができる。本授業では、授業前半において主に基礎的なボールコントロール（オーバーハンドパス・アンダーハンドパス・ボール遊び）や、サーブ・スパイクなどの個人的技能の習得を目的とし展開する。授業後半では、ゲームを中心とした集団機能およびルール・審判方法などを学習し、実践的にバレーボールに親しめるよう授業を展開する。	
		スポーツ実技（バドミントン）	生涯スポーツとして、年齢男女問わず、レクリエーションにも競技的にも楽しむことのできるバドミントンの特性を、するスポーツ、観るスポーツ、支えるスポーツとして等、様々な角度から理解し、楽しさを多角的に学ぶことを目的とする。前半は、バドミントンの歴史の追体験、ヒッティングの基本的な技術の習得、後半は試合に関するルールの理解、試合をする・観る・支えるということが多角的な学び、レベル別ダブルスの試合を通して仲間との協力から課題発見・解決・向上を目指していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技 (エアロビクス)	音楽に合わせて、リズムカルに楽しく身体を動かし、健康・体力づくりができるのがエアロビックダンスである。本授業では、健康・健康体力づくりに役立つ知識を学び、エアロビックダンスで身体を動かし、生涯に渡って楽しくフィットネスライフを継続できるようになることが目的である。日常生活に取り入れられる運動や知識を紹介し、健康・体力づくりに役立つレクチャーを並行して行う。	
		スポーツ実技 (軽スポーツ)	トランポリン運動により空中で自分の体を動かし、新たな身体能力を発見することを目指す。各自のレベルに合わせて、全身運動により美しいプロポーション作り、脳の活性化・持久力・瞬発力・バランス感覚を養う。まず、器具の特性を知ったうえで基本動作を身につけ、日本トランポリン協会バッチテスト (5級・4級) に挑戦する。	
		スポーツ実技 (ヨガ)	ヨガの知恵を現代社会に取り入れやすいかたちで、実技を中心に体験学習する。学生生活また卒業後も心身のバランスを保つセルフコンディショニングワークとして身につけることを目的とする。授業では、様々な分野に活用されているヨガの知恵をセルフコンディショニングワークとして取り入れやすいかたちで学ぶ。実技は、体の構造的なことを踏まえ段階的に、全身バランス良く効果的に動かす為、気持ち良くマイペースで取り組め爽快感と達成感が得られる。フレキシブルな実技進行から楽しく学びながらクリエイティブな発想に繋がる。実技理論においては、ヨガ概論以外にも体の構造的なことやアーユルベダ、東洋医学などの伝統医学から心身のコンディショニングアップに繋がる要点を学ぶ。	
		からだの気づきと姿勢法	ネヘミア・コーヘン氏によってカナダで開発された姿勢調整法であるミツヴァ・テクニックを中心に、その基本的概念と実践の方法を学ぶ。授業では基本エクササイズを体得すること、またその過程において自己のからだの在り方に目を向け、耳を傾けることで、からだへの気づきを促すことを目的とする。ミツヴァ・テクニックの基本である座る・立つ・歩く・触れあうことを、一つ一つ丁寧にからだに向き合いながら練習する。床でのエクササイズでは日常生活の中で生じる無駄な緊張からからだを解放する。椅子を使ったエクササイズでは背骨の動きと頭の位置をバランスの良い状態に調整する。これらをくり返し練習することで、本来生まれ持った自然の防衛・調整機能を取りもどすよう「からだ」を再教育していく。	
		スポーツ実技 (スリムエアロ)	健康・体力づくりを目的としたエアロビックダンスについて、その特徴や運動内容を理解し、正しい身体の使い方や振付を学ぶ。本授業では、体力向上、シェイプアップを中心に楽しくエアロビックダンスを行い、学生生活から生涯において運動がライフスタイルに根付くことを目指す。エアロビクスダンスエクササイズに必要な知識と実技内容を理解し、安全で効果的、楽しさを兼ね備えた実技構成を身につけ、実践する。	
		スポーツ実技 (ダンスエアロ)	健康・体力づくりを目的としたエアロビックダンスについて、その特徴や運動内容を理解し、正しい身体の使い方や振付を学ぶ。本授業では、様々なリズムの音楽を使ったダンス要素の動きを取り入れたエアロビックダンスを中心に学び、ダンス初心者でも取り組むことができる内容とする。学生生活から生涯において運動がライフスタイルに根付くことを目指す。エアロビクスダンスエクササイズに必要な知識と実技内容を理解し、安全で効果的、楽しさを兼ね備えた実技構成を身につけ、実践する。	
		スポーツ実技 (バソウ・エクササイズ)	医師であり運動科学者が発明したドイツ発の日本最新エクササイズである。様々な人々への体力づくりのために考案されました。このエクササイズを学ぶことで自身のより高い体力の向上をめざす。天井から吊るされたスリング (ゴム・バネ) 器具を利用したサスペンションエクササイズである。強力な弾力のスリングを使い、時には身体を委ね、漸進的なワークを繰り返す行うことで自身のフィットネスレベルを上げる方法を学ぶ。また4D (全方向) に動くことにより全身 (体幹やバランス感覚、筋力など) が機能的に働くことを理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通教育科目	健康・スポーツ科目群	スポーツ実技 (エアリアルワーク)	<p>昨今、AI 機能の進化や医学の発展により、物質的に豊かな成熟社会ではあるが、その反面、多くの人が運動不足や不規則なライフスタイルから心身のアンバランス、不調を起している。こうした背景で、運動による効果は、肉体的な面は勿論のこと、メンタル、脳へも良い効果がある。エアリアルワークの体験学習を通じて、学生生活、そして卒業後も心身の健やかさを保つ方法として身につけることを目的とする。</p> <p>リハビリのレッドコードから進化させたシルクサスペンションや、アクロバティックなヨガ動作の補助具としてハンモックを用いたエアリアルヨガ、またサスペンションピラティス、ファンクショナルトレーニングなど多種多様な動作を包括的にフィットネス観点から安全に効果的に、かつ、段階的に学ぶ。</p>	
		スポーツ実技 (スタイルジャズ)	<p>スタイルジャズを学ぶことにより今日の理解を深め、身体表現の幅を豊かにすることを目的とする。本授業で、洋楽・邦楽(J-Pop)の歌詞に合わせたスタイルジャズの表現のしかた、アップテンポ・スローテンポの身体の使い方の違いを学ぶ。ジャズダンスの中でも、スタイルジャズは流行や話題になった曲で表現することにより、表現の幅が無限にある。さらに、2012年より義務教育で「現代的なリズムのダンス」が必修となり、新学習指導要領への対応として HIP HOP の基礎的な動きも取り入れる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	初期演習Ⅰ	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。このため、本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアパスを自ら構築する。	
	初期演習Ⅱ（歴史文化研究）	大学教育の導入として、高校までの教育と大学教育との違いを理解し、自主的に学び新たな発見を導き出す力を涵養することを目的とする。本学院の教育理念に基づき、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培う。具体的には、歴史文化学科における4年間にわたる専門的学習に必要な基礎的知識・スキルおよび研究態度を身につけ、あわせて社会人基礎力を養成することを目指す。	
	歴史文化資料論	歴史文化研究は、その歴史的・文化的事象を表す資料の内容を理解することによってなされる。したがって資料を理解する能力が第一に求められる基礎的能力となる。本講義では、日本の歴史・文化を学ぶにあたって必要な多様な資料について、アプローチの仕方、作成された背景などを踏まえ、歴史・文化について資料を用いて総合的に理解する力を体得することを目的とする。	
	文化と民族	「文化とは何か？民族とは何か？」この問いに答えるために発展してきた学問分野が文化人類学である。しかし現在では研究の細分化が進行し、総合的な人間学として総体的な姿が失われつつある。この授業では基礎理論の生成過程を回顧しながら、現代的な意味での総合的な人間学とは何かについて考えてみたい。文化人類学の広範な研究領域を構成する各細別分野の概要と、総合的な人間学としての基礎理論の理解をめざし、同時に世界各地の先住民族の多様な生立文化のあり方について解説していく。	
	文化・歴史研究と情報	日本文化や歴史に関連する情報の公開場所、情報の活用、情報の仕組みについてデータベースやウェブサイトを中心として国内外の動向を概観する。日本文化や歴史に関連する資料や情報は近年急速にデジタル・アーカイブ化が進み、大学等の研究機関や美術館・博物館がデータベース等を通じて積極的に公開されている。一方で、公開されている情報の精査や使い方が十分に周知されないまま利用されているという現実もある。公開されている情報・資料の利用方法、基本的なルールについても学び、歴史学研究の基礎を身につける。	
	歴史文化フィールドワーク基礎	ある特定の地域に関して、その地域の現状や変容過程を把握し、さらに地域資源の理解・発掘に寄与するために、歴史地理学的な様々な手法を学ぶ。具体的には、ある地域の自然環境、生活、産業、景観などに関して、事前に資料・文献調査をしたのち、現地に赴いて見学や聞き取りなどのフィールドワーク（巡検）を行う。なお資料調査では、文字資料だけではなく、旧版地形図、古写真、絵図などの視覚資料も重視する。また受講者は、自分の関心に沿う地域的なテーマを設定したうえで、各自必要な統計や資料の収集および現地調査を行い、結果を発表する。	
	文章表現法（歴史文化）	大学での学修や社会人として必要となる日本語の知識を強化しつつ、コミュニケーションやプレゼンテーションの技法を学び、情報機器を適正に利活用しながら、実践的な文章表現能力を習得する。私たちは日本語のしくみやその表現性について自覚的であることが少ないが、この講義を通じて「ことば」という事象に関心を抱くようになってほしい。レポートや報告書作成に必要な、情報収集能力や読解力、また情報整理能力も身につけて、観察・分析したことがらを、簡潔かつ的確に伝達できる記述力、表現力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基礎教育科目	情報リテラシー（歴史文化）	大学での学修や社会人として必要となる情報機器の利用スキル、安全で適切な情報活用のスキルなど、基礎的な情報リテラシーを身につける。また、MS-Officeソフトを確実に使いこなせるよう練習を重ね、そこで習得した技術と知識を適正に利用・駆使して効果的に表現する技能を身につけてゆく。これらの学習を通して、プレゼンテーションおよびレポート・論文作成に関する基礎的な技法、表現力を養成する。	
	Oral Communication	英語でコミュニケーションを図る際のいろいろなフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。高校までに習得した基礎的な英語語彙や文法の知識を活用し、インタラクティブな活動を通して、様々な状況での基本的な実用会話をできるようにする。具体的には、コミュニケーションにとって必要なターゲットをユニットごとに設定し、目標達成のための演習を行う。ペアワークやグループワークを多用したトレーニング形式の会話演習を中心とし、授業は全て英語で行う。	
専門教育科目	歴史文化研究の基礎		
	日本史概説	大学における学問としての歴史学習・研究とは、高等学校までの「覚える」歴史から、「考える」歴史への転換といえる。本講義では、一般的とされる通説の問題点と現在の学問水準を紹介し、通説が形成された背景や、現在の歴史研究における問題点などについて考える。歴史学の営みの展開について、具体的な事例をあげながら検討する。	
	日本史料概説	史料とは、歴史学の研究資料のことをいう。歴史学では、過去の事柄を把握するために、人間の行動や思考によって残されたさまざまな痕跡を素材として用いる。その研究素材を史料と称し、それらの中でも人間が書いた文字情報を特に文献史料と呼ぶ。この授業では、歴史学の素材である史料について、文献史料およびその他の史料を含めた全体的な史料の概観を行う。続けて、日本史学における文献史料の種類、史料の収集・検索方法、文字情報を文献史料として扱う方法などについて詳論する。	
	考古学概説	考古学の研究方法、および考古学研究をすすめるうえで重要な資料を得るための手段である発掘調査の方法について、遺跡の映像資料をまじえながら解説する。日本各地に点在する重要な遺跡とそれぞれの意義についても理解を深めたい。また、歴史時代の考古資料について、絵巻物や文献史料との比較検討などの研究方法についても解説する。	
	人文地理学	都市と農村における空間形成をテーマとする。都市地理学と農村地理学の研究蓄積から、都市や集落の形態の類型や、立地論などの空間形成のメカニズムにかかわる古典的な理論や知識を習得する。さらに都市については、日本や世界のいくつかの都市を取り上げ、都市計画や土地利用に関する政策を把握したうえで、都市地図や行政機関や企業、住民等の関係者の資料、新聞等の同時代資料を用いて、空間形成過程を考察する。都市ほど変化が大きいと思われがちな農村についても、農業政策の変遷、圃場整備の進展などによって、空間は大きく変貌しているため、制度史の把握に加え、旧版地形図や古写真等を用いながら、その過程を明らかにする。	
日本美術史	古代から近代までの主要な美術作品を提示しながら、作品の特徴や作品が生み出された社会的背景について解説し、日本美術の歴史を概観する。現存する美術・工芸作品を紹介及び解説することにより、作品に対する興味・関心を深め、展覧会等を通じて実際の作品に触れることの重要性を認識する。訳語としての「美術」が生まれ、その概念が日本国内に形成されたのは明治維新以降である。当時の欧米各国や国内の動向も概観しながら美術の範疇や作品に対する価値観の変遷、作品を披露する場の形成についても考察する。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	歴史文化研究の基礎 女性史概説	歴史学においてジェンダー（性別による歴史的・文化的・社会的な差異及びその知識）分析の手法・視角が取り入れられてから久しく、日本史学においてもジェンダーの視点から男性中心の歴史叙述の「読み替え」が行われてきた。そのような学術成果を用いて改めて高校教科書を読みなおすとどのような違いが生まれてくるのか。本講義では、最初にジェンダーの視点を獲得するまでの日本史学における女性史研究の流れを概説し、その後、ジェンダー分析の視角を学ぶ。次に高校教科書の主要なトピックを通史的にとりあげて「読み替え」を行いながら、上記したジェンダー分析・手法への理解を深める。	
	古文書入門	日本史学を学ぶうえで史料読解は不可欠である。本講義では、初歩的なくずし字読解の技術を習得するとともに、古文書の用語、様式や伝来など古文書にまつわる基礎知識を学び、その内容を的確に解釈できる力を身に着けることを目指す。阪神間の各史料所蔵機関が所蔵する武家文書・村方文書・町方文書・寺社文書などをテキストとして解説を試みる。その作業を通して、身近な地域におけるさまざまな種類の古文書に触れる機会としたい。	
	自然地理学	日本および世界各地における社会や文化、産業などの人文現象の成立過程には、地域固有の自然環境が深く関わっており、現在の環境問題の解明にも自然現象のメカニズムに関する知識は不可欠である。本講義では、地形・水文・植生・気候など、自然地理学の基礎的事項について講義する。自然環境の成り立ちから、自然災害や地球温暖化といった現代社会に関わることまで広く紹介する。常に社会との関わりを意識することで、一定の自然環境下でいかに人間が暮らすべきかという視点を重視する。	
	民俗資料を読む	日本の文化に根ざす民俗すなわち日本の日常生活について学ぶ。その方法としては、日記・記録、説話・伝承など文字に記された資料を読み解くことに合わせ、文字に記されていない民俗資料を対象とした調査・研究が求められる。この授業科目ではその双方を念頭に置くが、重点は後者に据えて講義することになる。文字化されていない民俗資料とは、たとえば住居、衣服、食事、儀礼、年中行事などである。子どもが誕生したときに人々はどのような儀礼（しきたり）を営み、そこにどのような心意を働かせるか、子どもにも名前を付けるときの祈り・願いはどうか、祭礼を継承し実践する地域社会がどのような問題を抱えているのか、などについて、各自の体験を踏まえながら考察する。	
	文化人類学概説	多様化する現代社会のなかで、社会学や宗教学へと細分化されて総体的な姿を失いつつあるのが文化人類学である。その文化人類学を構成する主要な研究領域から、人生儀礼、イニシエーション、親族組織の形成（多様な婚姻のあり方、婚後居住規定、出自、親族呼称）、非血縁集団の形成とその機能、社会の複雑化の過程（複雑な社会構造を形成する狩猟採集民の実態）、言語の構造、宗教と信仰、シャAMANと呪術、宗教と儀礼等の重要な項目について、具体的な民族事例や資料を提示しながら解説していく。	
	日本思想史	日本の古代から現代に至るまでに形成されたさまざまな思想を概観する。それぞれの時代における主要な政治思想・社会思想・宗教思想について、代表的な思想家の論説や芸術・娯楽作品などをもとに概要と特質を把握する。また、これらのテキストの読解をつうじて、当時の人々が何を考え、また求めていたのかを考察する。さらに、これらの思想が当該期日本の国家・社会・文化の形成に果たした役割についても検討を加える。以上をつうじて、日本史を理解する前提としての思想の重要性を確認する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 歴史文化研究の基礎	地理学概説	地理学は、伝統的に「諸科学の母」、「自然と人間のかかわりを扱う科学」といわれてきた歴史をもち、森羅万象にその学問的関心を向けてきた。中等教育において“社会科”に位置づけられてきた地理的分野の中に自然科学的内容が含まれているのも、大学における地理学系の学科・コースが、文学部にあったり理学部にあったりするの、そうした地理学の多様性を示している。本講義では、古代ギリシャの世界観の中における地理学にはじまり、大航海時代のヨーロッパ人による地理的知識の蓄積、近代地理学の祖とされる研究者の業績、20世紀半ばからの地理学の細分化等について学ぶ。また、時空間を共有しつつも異なるベクトルをもって発展してきた地理学と歴史学の接点について考える。	
	日本古代史史料を読むⅠ	歴史を学び、研究するための最も基礎的な能力は、史料（文献史料）の正確な読解力である。日本古代の史料はその多くが漢文で記されているため、漢文史料を日本語として読み解く方法（訓読）を身につけることが必須となる。また、史料に登場する語句の意味を調べるには、辞典や注釈書といった工具書の使い方にも習熟する必要がある。この授業では、日本古代の基礎的な文献史料すなわち日本書紀・続日本紀・正倉院文書などを取り上げ、それらを読解するための方法を実践的に教授する。	
	日本古代史史料を読むⅡ	歴史を学び、研究するための最も基礎的な能力は、史料（文献史料）の正確な読解力である。日本古代の史料はその多くが漢文で記されているため、漢文史料を日本語として読み解く方法（訓読）を身につけることが必須となる。また、史料に登場する語句の意味を調べるには、辞典や注釈書といった工具書の使い方にも習熟する必要がある。この授業では、木簡や金石文・墨書土器などの一次資料や寺院縁起、氏文などを取り上げ、それらを読解するための方法を実践的に教授する。	
	日本中世史史料を読むⅠ	史料を正確に読解することは、文献を用いる歴史研究において、もっとも基本的な作業である。本講義では受講生に担当箇所を割り当て、史料本文の校訂・史料の読み下し・解釈・語句説明・関連史料の提示、および該当史料が作成された時代状況などについて報告を求める。その後受講生全員で討論を行うことで、歴史研究の基本的なノウハウを修得することを目指す。中世の文献史料のうち、主として日記類を検討の対象とする。	
	日本中世史史料を読むⅡ	史料を正確に読解することは、文献を用いる歴史研究において、もっとも基本的な作業である。本講義では受講生に担当箇所を割り当て、史料本文の校訂・史料の読み下し・解釈・語句説明・関連史料の提示、および該当史料が作成された時代状況などについて報告を求める。その後受講生全員で討論を行うことで、歴史研究の基本的なノウハウを修得することを目指す。中世の文献史料のうち、主として書状を検討の対象とする。	
	日本近世史史料を読むⅠ	『兵庫県史』『西宮市史』『尼崎市史』『芦屋市史』など、阪神間を中心とした自治体史の史（資）料編に掲載されている活字史料をテキストとして、用語の調べ方など日本近世史研究に必要な基本的な技能を身につけ、史料読解力を習得する。自治体史の本文編をはじめ関連する文献を紹介し、時代背景を学ぶなかで史料の内容の理解を深める。また、史料分析の結果から、課題を設定し、その後関連史料・文献にたどり着くための具体的な方法（文献調査方法等）を学び、論文執筆にいたる研究手法の基礎を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	歴史文化研究の基礎 日本近世史史料を読むⅡ	本講義では、自ら近世史料の調査・読解・分析を行うための手法を実践的に学ぶ。講義で取り上げる古文書は事前配布とし、講義の前に解説に取り組み、各自が用語の意味なども調べ、概要の把握に努めておく。講義では、いくつかのテーマ・タイプの史料を取り扱うが、関連文献や、同時代史料を用いた史料批判を行うなど、より正確で精緻な史料解釈の方法を学ぶ。図書館、身近な史料所蔵機関、さらにデジタルアーカイブでの調査方法を学んだうえで、複数のテーマからひとつのテーマを選択し、小レポートを作成してもらう。	
	日本近現代史史料を読むⅠ	近現代日本の政治史・思想史に関する基礎史料の解題・講読を行う。明治～昭和期の新聞に掲載された論説や、中央の政治家・官僚の日記を解説し、政治史・思想史関係史料を研究利用する際の基礎的な知識と方法を修得する。また、史料に登場する人名・地名・団体名・出来事・キーワードを分析・検討し、当該期日本の政治過程や政治思想に関する知見を修得する。一片の文書や記述から、近現代日本の政治・思想のいかなる実体や特徴が浮かび上がるのかという点を意識しながら史料を読み進める。	
	日本近現代史史料を読むⅡ	近現代日本の地域史に関する史料の解題・講読を行う。自治体史に収録された都道府県庁文書・市町村役場文書のほか、旧家に遺された文書や地域住民の日記資料・活動記録等を解説し、近現代地域史料を研究利用する際の基礎的な知識と方法を修得する。また、史料に登場する人名・地名・団体名・出来事・キーワードや、当該史料が作成された背景についても分析・検討する。史料から当該期の地域社会と人々の状況を具体的に把握し、さらに政府や軍部といった「中央」の動向との関連にも留意しながら読み解いていく。	
	古記録と古文書	古記録や古文書に親しみ、その読解に必要な文字・表記、語彙、語法の特徴を学ぶ。また文書の様式や機能の特徴を知ることによって、読解スキルの向上をめざすとともに、歴史学および関連諸領域の最新の知見を活用しながら、文献史料としての性質や特徴の理解を深める。また、これまで蓄積されてきた歴史情報を主体的・実践的に収集・整理し、客観的にその価値を分析・評価する能力を養う。	
	地誌学	学校における地域別の地誌学習や、その他のさまざまな実用に供するために記された、ある地域に関する記述を「地誌」といい、そうした「地誌」が誰によってどのような意図で紡がれてきたかを探求するのが「地誌学」である。本講義では日本の地誌書ととりあげ、風土記から近代の兵要地誌までを含む官撰地誌の系譜と、近世の名所図会から近代の教養書としての地誌書までの私撰地誌の主要な事例について、その概略を学ぶ。また、教育現場で子供たちに「地誌」を学ばせるために行われてきたさまざまな工夫、たとえば地理唱歌、県民歌、郷土かるたなどの事例を通じて、人々が未知なる土地をどのように知ろうとしてきたかを理解する。	
	文化遺産論	文化遺産は次世代に遺すべき価値をもつ人類の所産であるが、その価値基準はさまざまに変化してきた。本講義では、まず日本の文化財行政や、ユネスコの世界文化遺産の歴史を紐解きながら、文化遺産のありかたについての基礎的な知見を理解する。また、こうした公的な文化遺産の選定は、結果として格付け制度として機能することになり、経済的・政治的影響も大きいため、その功罪についても目を向ける。さらに、公的な選定か否かにかかわらず、文化遺産の価値をめぐる議論を幅広く取り上げ、その変遷について論じる。	
歴史文化の諸相	食の文化誌	四方を海に囲まれた日本では、古代から海の幸を利用した食文化が発達してきた。その一方で、山の幸にも恵まれており、山海の食物を利用した固有の食文化が形成されてきている。この授業では、日本の固有の食文化を、現代から歴史遡及する形で、起源を探っていくとともに、アジアの食文化のなかで、どのように位置づけられるのかを明らかにしていきたい。具体的には日本の発酵食品、雑煮と地域性、すしの起源、本膳料理、神饌と佛供、山の食文化、木灰と食品加工等の項目について解説する。最後に、現在の食に関わる問題として、地域の伝統野菜のブランド化、農業の六次産業化、農福連携やハラールについても解説していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	歴史文化の諸相 言語と文字の史的変遷	文献史料に伝存する日本語や文字表記の実態と特徴を学び、その史の変遷をたどる。特に、漢字文化の受容の様相や、文字表記、語彙、語法の展開について、時代ごとの特徴を把握しながら、現代日本語に受け継がれてきた言語文化の軌跡を追う。また、これらの知識を活かし、文献史料の個々の特性を考慮しながら、正確に読解し分析的かつ客観的に評価するための能力を強化する。	
	江戸の風俗と絵画	人々の生活を描いた風俗画・浮世絵を通して、江戸時代の生活や文化を考察することを目的とする。江戸時代の当世風俗を描いた浮世絵を通して、多くの人々が古典や歴史だけでなく、最新の情報を享受していた。浮世絵は日常生活や年中行事、歌舞伎や当時の流行などの情報を伝えてくれる資料であるため、浮世絵に描かれた情報を読むための基礎を習得する。また、浮世絵の展開には近世以前の風俗画の歴史と多色摺木版画である錦絵をはじめとした近世におけるメディアも深く関わるので、並行してメディアの展開についても概観する。	
	縄文・弥生の考古学	日本列島となる地域に現世人類が到達した5万年前ごろから、縄文時代そして弥生時代までの、人々の生活、特に衣食住や土偶などの信仰のあり方について、解説していく。この授業では、実物の石器や土器に直接触れる機会をつくり、縄文人の息吹を体感してもらうとともに、石器作りや粘土に縄文土器の文様をつける等の実地の体験も講義の中に組み込んでいく予定である。さらに、過去の火山災害や地震等の災害の歴史に関する事象が考古学的にどのように確認されるのかも明らかにしていきたい。	
	歴史のなかの女性	歴史上の各時代を代表する女性を素材として取り上げ、それぞれの時代背景や社会の特質を踏まえながら、そこにおいて女性がどのような役割を果たしたのかという点につき、幅広い視点から検討を加えてゆく。その検討にあわせて、現代社会の女性の立場・境遇・考え方と比較を試み、女性として現代を生きる意味を考察する素材の提供をはかりたい。	
	日本の生活文化	生活者にとっての文化というテーマで、文化史的、民俗的観点から講義を行う。日本の服飾文化、日本の食文化、暮らしの中で生まれた習慣や海外との文化交流についても触れる予定である。日本の服飾にはどのような特徴があり、日本の食文化にはどのような特徴があるのか。山野河海に日本人はどのようなイメージを持ってきたのか。未知なるものを日本人はどのように捉えてきたのか。海外の文化の影響をどのように受けてきたのか、また海外の文化にどのような影響を与えてきたのか。生活文化をできるだけ広く捉え、具体的な事例を紹介しながら授業を進めていく。	
	古墳・中近世の考古学	古墳時代以降から平安時代、鎌倉時代、室町時代、そして江戸時代に至るまでの人々の生活文化、特に、衣食住のあり方や葬送等の他界観、伝染病等の元凶とみなされる疫神に対する対応等について、考古学資料をもとにして解説する。この授業では、実物の須恵器や土師器、そして陶磁器等に直接触れる機会をつくり、日常的な什器の変遷を体感できるようにする。さらに、陶磁器については、時代ごとの変化だけでなく、実際の生活の中で、それがどのように配膳されていたのかについても解説していく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目 歴史文化の諸相	日本の祭礼 春夏秋冬	日本の伝統的祭礼に関して、稲作と農耕儀礼、神事芸能との関係性につき、近畿から中国、四国地方の伝統的な祭礼に焦点をあてて、地域的特性と歴史的な展開過程を解説する。具体的には、年初から春の祭礼行事として、各地の寺院の修正会・修二会等の年初の除災行事と春先の農業の予祝儀礼である御田植祭を取り上げる。夏季の祭礼としては、京都の祇園祭りを代表とする各地の祇園祭や曳山行事、大阪の天神祭りについて解説する。ほかにも、中国地方の神楽や各地の獅子神楽について、映像資料をもとに解説していく。最後に秋祭りとして、岸和田のだんじり、灘まつり、春日若宮おん祭を取り上げ、稲作と農耕儀礼、神事芸能と民俗芸能の関係性について解説する。	
	中世の文化史 刀剣・武具	日本の中世(鎌倉・室町期)は、多様な背景を持つ勢力が国内にいくつも並立し、それぞれが自身の存在意義を主張しあう時代であった。そのようなエネルギー溢れる時代において、多様な勢力が多様な文化を展開させたのである。この授業ではとくに武家に着目し、武家文化の象徴ともいえる武器・武具を切り口として、中世の文化的様相について検討する。	
	地理と情報	地理学においては、考察対象に物事の空間的な側面が必ず含まれる。3次元空間の中に存在する地理的事象を文字情報だけで表すことには限界があるため、さまざまな視覚的な情報の活用が不可欠である。特に地図は、地理学では大変重要なツールなので、地形図などの既存の地図の種類、入手方法、読図の基礎等を習得する。一方で地理学では、自らの研究の成果として、現地調査や統計資料などをもとに空間的な分析を行ったり主題図を作成したりすることも求められるため、GIS(地理情報システム)の基礎的な利用法を学ぶ。	
	装いの日本文化	現代の生活でも欠かすことのできない衣服・化粧・装身具を含む身体の装いが、日本文化の中でいかに形作られてきたのかについて、古代から近代までを概説する。装うことは個人的な行為であるが、同時に社会的・文化的な意味を持つ。特に、身分制社会であった近代以前では、装いに用いる文様や色彩、かたちによって性別や年齢など人物の社会的な背景をも読み取ることができた。そのため、装いにおける文様や色彩は身につける人に加え、それを視る人も意識しながら作り上げられてきたのである。この授業では実物資料や絵画資料を通して、装うこと、ひいては日本文化全般について考察してみる。	
	すまいの日本文化	すまいを生活空間と捉え、住居だけではなく一つ一つの住居を含む村や町という空間、景観と文化との関わりについても講義する。具体的にある地域の村落空間と住宅を紹介し、その構造的特徴と地域性の説明をまず行う。つぎに住空間がどのように生活に関わっているか、村落がどのような歴史をたどって現在の姿となっているのかを解き明かしていく。また「すまいの周辺」にも注目し、住まいと生活の構図から生み出された伝承の分析も行う。この講義では、すまいに関わる文化の豊かさに注目することをテーマに授業を進めていく。	
	出版・メディアの文化史	書誌学的な出版の知識を学ぶとともに、日本での出版文化の展開やメディアとしての役割について、基礎的な知識を習得する。これらの知識を活かし、伝存するさまざまな出版物に親しみながら、素材や記載内容をつぶさに観察し、史・資料として正確に分析、評価する能力を養う。また、出版・メディアが担ってきた情報伝達の機能とその享受の様相を把握し、考察することによって、各時代の文化的特徴や史的展開相についての理解を深めたい。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	歴史文化の諸相 信仰の民俗学	人々は古くから、災禍をもたらす神々を畏れ敬ってきた。最大の脅威となっていた伝染病や、生活の糧である稲作にとっての大敵である病虫害の原因や天候不順をもたらす元凶としての疫神について、人々がどのように認識して、対応してきたのかを、この授業では考察する。疫神に対する信仰は現在に至るまで様々な形で伝承しており、そうした信仰の実態について、鎮華祭、須佐能命と牛頭天王への信仰、蘇民将来の信仰、御霊信仰と祇園祭、大祓いと神道祭祀、急々如律令呪符と鍾馗等道教系信仰と陰陽師等の関係性について、実際の信仰に関わる人形や呪符を提示しながら解説していく。	
	古代中世の都市と交通	古代の日本国家は、中国大陸や朝鮮半島から新しい建築技術や測量技術を導入し、宮殿・官衙(役所)・邸宅・寺院などの建造物が建ち並ぶ都市の造営を目指した。東西・南北方向の方格土地区画が施工され、大陸風の建造物が整然と配置された都市は、東アジアの国際環境の中で日本が文明国であることを主張するための、重要な装置であった。この授業では、日本古代の都城(みやこ)や地方都市、およびそれらを繋ぐ道路網について、文献史料や発掘調査成果などに基づいて紹介し、古代日本における都市的景観の実像について検討する。なお、飛鳥時代から平安時代後期(中世初期)までを対象時代とする。	
	画像文化論	古来人々は、文字を用いて情報の記録を試みる一方で、それよりも古くから「絵」を描いて残してきた。その意味では画像は重要な歴史資料である。この授業では、画像として描かれたさまざまな資料を実際に見ることで、その資料が描かれた目的や意図、内容について考える。そのうえで、描かれた画像が社会や生活に果たした役割や機能についても考察を加える。	
歴史文化の応用と展開	地域社会論	日本史における地域社会の存在形態・展開過程・特質を分析する。その際には、つぎの点を意識したい。一点目は、それぞれの時代において、地域社会はいかなる政治・経済・社会構造をもって存在していたのか。二点目は、都市・農村といった地域類型、あるいは東日本・西日本などの地方区分による違いは存在するのか。三点目は、各時期の日本の政治・経済・社会情勢と、地域社会のありようとの間に相関性はあるのか。そして四点目は、時代をつうじた普遍性と時代ごとの固有性は何か、である。これらの問いに沿って考察を進め、地域社会を通史的かつ立体的に把握する。	
	観光文化論	移動の手段や機会が、現在のように恵まれていなかった時代にも、人々はさまざまな目的のために旅をしてきた。宗教的な聖地巡礼は、現在の観光旅行のルーツの一つとされる。また、交通手段が発達して高速かつ大量の輸送が可能になったことにより、現在の観光産業、特に団体旅行という形態の基礎が築かれた。20世紀終盤には、観光旅行の形態も多様化し、定型化された団体旅行にかわり、少人数の個々の関心に即した観光形態が存在感を増している。また現在では、観光資源の種類も旧来の名所旧跡に加え、農山村における日常体験、コンテンツツーリズムにおける「聖地巡礼」、戦争遺跡・産業遺跡から廃墟観光に至るまで、多岐にわたっている。こうした旅行形態や観光資源の時代による変化を、事例を通して学び、文化としての観光のあり方を考える。	
	意匠・デザインの基礎	(概要) 伝存する意匠について、文化史的な視点から基礎的な知識を学ぶとともに、歴史学を学び、調査し、考察した結果を論文以外で発信する場合、どのような手法があり、それぞれいかなる特色があるのか把握し、情報を効果的にデザイン化して伝達するための豊かな表現力や技能を修得する。 (オムニバス方式/全15回) (6 井上 幸/8回) 画像編集・デザインツールなどの技能の修得を中心に行う。 (7 加茂 瑞穂/7回) 文化史的に知識の強化とさまざまな発信方法・メディア(展覧会、Webサイト、データベース、SNS等)の特性にあわせた伝達技法の習得を行う。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門教育科目	歴史文化の応用と展開	日本芸能文化史	日本の多様な芸能を文化史の観点から取り扱う。中国・朝鮮半島からもたらされ、あるいは日本で発生した上演芸術を中心に、それらが文化としてどう根づき、どのように伝えられてきたのかを概観する。平安時代に宮廷音楽としての雅楽、仏教音楽としての声明に始まり、中世を代表する上演芸能である能・狂言に至る過程を説く。さらに、語り物として発生し、近世に人形と結びついて大成した浄瑠璃について、平曲や謡曲・舞曲・歌舞伎などの芸能との影響関係にも目を配りつつ解説する。芸能としての特性に配慮して視聴覚映像を積極的に利用し、実際の舞台を観覧する機会も提供するよう努める。	
	文化財の活用と保存	近代以降の文化財保護の歴史を概観し、文化財の概念の変遷を学んで、文化財に関する基礎知識を習得する。文化財保護及び活用に関する国及び地方自治体といった行政の動き、大学（研究者）・市民等民間による文化財保存・活用の取り組みを紹介し、両者の協業のありかたや今日の課題を学ぶ。また、阪神・淡路大震災以降登場した被災した文化財の救出・保存をボランティアで行う全国の一（史）料ネットの活動を素材とし、身近な地域の文化財をどのように守っていくか、実践的に考える力を養う。		
	伝統工芸の保存と継承	工芸史における重要な作品を取り上げながら、日本における工芸の成り立ちや変遷を保存と継承をキーワードに概観し、受講生自身が考察することを目的とする。日本における工芸の範疇は明治維新以降に形成されたもので、万国博覧会や海外への輸出、ジャポニスムなど国内外の動向と深く関わっているため工芸史の基本的な流れを把握する。現在も日本各地に「伝統工芸」の産地があり、高められた技術によってものづくりが続けられている一方、後継者不足や売り上げの低下など課題は多い。臨時に工芸関係者を講師として招きながら、工芸史とともに現代の工芸のあり方についても考察する。		
	地域の伝承	近畿の各地方に伝わる民話・伝説を調査し、考察する。まず民間伝承全般についての基礎的な知識を付与し、伝承を対象として研究する方法について講義したうえで、日本各地の伝承と比べて近畿地方のそれに看取される特色を述べ、さらに地域を狭く絞って考察を進める。一例としては、兵庫県の南部とりわけ播磨地域に「鬼追い」の行事が密に分布しており、その行事に付随する伝承を分類・整理することで特色を把握する。大学周辺（阪神間）の民間伝承の収集にも努めたい。怪異談、うわさ話、事物名由来譚などはどの地域にも伝わっており、受講者には自身の居住地の伝承に関心を払うことを求める。		
	古代史研究の方法と課題	歴史学のあるテーマについて研究し、論文を書くためには、従来の歴史研究者がそのテーマに関して何をどこまで解明してきたか（先行研究）を正確に把握した上で、これから書く論文で新たに主張したいことを明確にする必要がある。この授業では、日本古代史の著名な研究者がこれまでに執筆した代表的な論文を素材として、研究課題の設定、史料の選び方、先行研究の整理と批判、論文の論理構成などを具体例に即して紹介し、日本古代史分野における論文の書き方を検討する。		
	中世史研究の方法と課題	中世という時代は、現代と遠く隔たっているがゆえに理解が容易には及ばない一方、隔たっているにもかかわらず現代と共通することがあるなど、多彩な側面をもつ。そのことを弁えたうえで、この授業では中世という時代の特色を知り、それを課題として探求する意味を認識する手がかりを得る。まずは日本の中世史研究を概観したうえで、研究史的課題および学問的課題について実践的に学んでいく。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	歴史文化の応用と展開 近世史研究の方法と課題	戦後歴史学における日本近世史研究の一連の流れを史学史的観点から学ぶ。一方で近世史研究に不可欠な近世史料の保存活動の流れ、およびその現状について、アーカイブズの観点から概観する。講義の後半では、ひとつの事例として都市史研究をあげ、研究史を概観したのちに、個別の研究論文を取り上げて講読し、その過程で論文の批判的な読み方を学ぶ。該当論文に関しては事前に指定して講義時まで目を通しておくこととし、講義内容の理解を深めるよう求める。	
	近現代史研究の方法と課題	日本近現代史研究に関する学説・視座・方法・問題点・展望について、主に「時期」と「分野」の二方向から把握する。第一に、日本近現代史研究の基本的な時期区分にそくして日本の歴史的展開を確認し、各時期における主要な問題群、研究手法、到達点と課題を認識する。第二に、基礎的な研究分野である中央政治史を出発点として、国際関係・地域・産業経済・社会運動・生活文化・災害・戦争など多様なテーマから研究状況を把握する。またこれらと併せて、オーラル・ヒストリーなど近現代史ならではの方法についても、具体的な研究事例をもとに学ぶ。以上をつうじて、日本近現代史研究の基礎を修得する。	
	地域政策論	最初に、戦後以降のわが国の地域政策の歩みとともに、地方公共団体における行政の機能、仕組みや政策立案の具体的な過程、議会の役割など、地域政策を理解するうえで必要な知識を概観する。現代日本において地域政策は、行政のみでなく住民をはじめNPO・事業所など地域のステークホルダーが関わり合いながら策定、実施していくことが求められている。そこで、受講者自身が地域づくりを担う主体・実践者としての知識とその活用が図れるよう、実践形式の演習（国ないし地方公共団体が提供する統計資料の活用等）を行うほか、ゲストスピーカーとして公務員、あるいは地域づくりに取り組む団体のキーパーソンを招き、地域政策における現状・課題を学ぶ場をもつ。	
	災害と歴史	近年の日本列島における地震・水害等の多発は、過去の歴史的災害への関心を高めるきっかけとなり、歴史的災害についての検証が進められている。本講義では、以下の2つのテーマを順に取り上げる。第一に、気候変動・災害をめぐる研究史を概観する。第二に、身近に起きた歴史的災害として、阪神間の災害史を学ぶ。その際、災害を伝える伝承・記録の伝来と保存、災害の「記録化」と、写真史料を中心としたWEB上での公開にも触れ、災害をめぐる現代的な取り組みについても学んでいく。	
研究と実践	地域文化研究	地域に根付いた歴史や文化は、土地ごとに異なったさまざまな特徴を持っている。また、そこに住む人々にとってのアイデンティティの根源であり、まちづくりや地域の魅力発信の中核ともなり得る潜在力を秘めている。この授業では、本学が立地する西宮市域・阪神地域・兵庫県域を対象地域として、地域における歴史・文化のあり方を具体的に紹介する。また、地域の歴史・文化を素材とする研究の方法や、それらを活用した行政や民間などのさまざまな取り組みについても検討する。	
	地域文化フィールドワークⅠ	地域に根付いた歴史や文化は、土地ごとに異なったさまざまな特徴を持っている。また、そこに住む人々にとってのアイデンティティの根源であり、まちづくりや地域の魅力発信の中核ともなり得る潜在力を秘めている。この授業では、本学が立地する西宮市域および阪神地域をフィールドとして、土地に残された過去の痕跡（歴史的建造物・古道・石碑・歴史的景観など）を現地で見学し、またそれらを活用したまちづくりや地域の魅力発信などの諸事業に取り組んでおられる方から話を聞き、地域歴史・文化の潜在的可能性について検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	研究 と 実践		
	地域文化フィールドワークⅡ	地域に根付いた歴史や文化は、土地ごとに異なったさまざまな特徴を持っている。また、そこに住む人々にとってのアイデンティティの根源であり、まちづくりや地域の魅力発信の中核ともなり得る潜在力を秘めている。この授業では、兵庫県全域（旧摂津・播磨・但馬・丹波・淡路）をフィールドとして、それぞれの土地に残された過去の痕跡（歴史的建造物・古道・石碑・歴史的景観など）を現地で見学し、またそれらを活用したまちづくりや地域の魅力発信などの諸事業に取り組んでおられる方から話を聞き、地域歴史・文化の潜在的可能性について検討する。	
	歴史文化フィールドワークⅠ	歴史に関わる問題関心に沿って自らフィールドワークを実践できるようになるための基礎的な知識・方法を身に着ける。はじめに、教室内で地域の図書館・博物館・文書館等が所蔵する郷土史(資)料についての調査方法を学ぶ。次に、各施設にそれぞれ足を運び、施設の特徴と利用方法を具体的に学ぶ。グループごとに課題を設定し、再度施設に赴いて調査を実施する。最後は、以上の成果をまとめ、グループごとに報告を行う。	
	歴史文化フィールドワークⅡ	歴史に関わる問題関心に沿って自らフィールドワークを行う実践的な方法を学ぶ。最初にグループワークとしてそれぞれ図書館・博物館・文書館でフィールドワークで巡る地域のスポットの調査を実施する。地域の神社・寺院・史跡等を訪れ、現地で事前調査の結果を共有して学びを深めるとともに、現地で得られる情報として立地・景観、あるいは石造物・歴史的建造物等の調査方法を学ぶ。その際、地域の方から話を聞く機会も設け、現代社会に息づく地域の歴史文化とその意義についても考察を深めていく。	
	歴史文化フィールドワークⅢ	京阪神地域を対象として、日本近代史に関わる遺構・遺物・記録・施設等を巡見する。実施にあたっては、「産業」・「交通」・「教育」・「戦争」など、近代日本の展開と特質を考えるうえで重要なテーマを設定する。巡見に先立って、上記のテーマについて概観して基礎的な知見を修得し、それを前提として、旧跡やモニュメントおよびその周辺地域もふくめた現況を踏査する。また、巡見地域の自治体・博物館・資料館と連携して、上記テーマに関わる展示や資料を実見する。以上をつうじて、地域の「近代化」の局面を具体的に把握する。	
	歴史文化フィールドワークⅣ	京阪神地域を対象として、日本現代史に関わる遺構・遺物・記録・施設等を巡見する。実施にあたっては、「戦災復興」・「都市化」・「公害」・「過疎化」・「大規模自然災害」など、現代日本の展開と特質を考えるうえで重要なテーマを設定する。巡見に先立って、上記のテーマについて概観して基礎的な知見を修得し、それを前提として現地を踏査する。また、巡見地域の自治体・博物館・資料館とも連携して、上記テーマに関わる展示や資料を実見するほか、関係者へのインタビューなど現代史ならではの実践も組み込みながら、地域の「現代化」の局面を具体的に把握する。	
映像メディア・理論と実践	フィールドワークに必須の写真撮影と映像撮影の技術の習得を目指し、映像記録機器の操作とデータの管理について総合的に学習する。はじめにカメラとレンズの基礎として、レンズの写角やシャッタースピード、レンズの絞り等について学び、次に一眼レフデジタルカメラを使用して、屋外および室内簡易スタジオで実際に照明装置を加えて撮影を行う。さらに、ハイビジョンビデオカメラを使用した映像の撮影も行いたい。最後に、コンピューターを使用して、画像と動画の編集とファイル管理について学ぶ。このような実地の撮影技術に加えて、著作権や肖像権などの、撮影に関わる法律上の注意すべき問題点についても解説する。なお、受講者が各自一眼レフカメラを用意する必要はなく、スマートフォンのカメラを使用することも可能である。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	研究と実践		
	歴史文化とプレゼンテーション	歴史文化をプレゼンテーションする際の技法について講義・実践演習を行う。前半ではテーマの設定、調査計画の作成、調査の進め方、資料の作成と構成、発表その他の方法について講義を行い、プレゼンテーションの基礎を理解する。ここで得た知見に基づき、後半ではグループワーク形式により、受講生自身がテーマ設定・調査・資料作成・発表までの一連の過程を実践する。以上をつうじて、調査・研究テーマを正確に把握し、かつ的確に伝えるための読解力・構想力・表現力を修得する。	
	演習Ⅰ	演習担当教員の指導の下、各自の研究を深めるための方法論を学ぶとともに、学生同士が発表・討論等を行い、互いの研究の質を高め合う。卒業論文作成に向け、研究に必要な基本的な知識と技能を身につけることを目指す。18世紀から19世紀における浮世絵を対象資料とし、描かれた内容を読み解いていく方法を体得する。研究史の把握、対象の作品を読むための適切な手続きを調査・考察・発表・質疑応答を実践して学ぶ。これを繰り返すことにより、作品に描かれた内容や文化的な背景を正確に読み取り、論理的な思考とそれを文章化できるよう指導する。	
	演習Ⅱ	「演習Ⅰ」に引き続き、演習担当教員の指導の下、各自の研究を深めるための方法論を学ぶとともに学生同士が発表・討論等を行い、互いの研究の質を高め合う。卒業論文作成に向け、研究に必要な発展的な知識と技能を身に付けていることを目指す。各自の問題意識に基づき資料収集や文献の探索を進めて考察をおこない、その成果を口頭発表する。発表に対しては、受講者全員で意見を交換してよりよい論文作成へと繋げていく。また、論文作成にあたり、資料の収集方法や収集した情報の適切な提示方法、到達した結果を論理的にまとめるための指導をおこなう。	
	卒業論文	学生が各自のテーマを深め、卒業論文に結実させるための演習である。発想法や論文作成術についてのヒントも提示する。卒業論文では、テーマ設定能力・先行研究の批判的検討・資料調査能力・分析力・文章表現力・構成力の面で切磋琢磨することで、社会に出ても役立つ、一過性ではない独創力、構想力、情報収集能力、論理的表現力を研鑽することを到達目標とする。加えて、論文引用の作法など著作権に配慮した、研究倫理に関しても学ぶ。	
言語とキャリア	中国語入門	中国語会話の初歩。簡体字やピンインと声調の仕組みを理解し、発音、語彙、文法などの基礎的な特徴を学んで、さらにその実践として、簡単な挨拶、自己紹介や簡易な日常会話ができることをめざす。また、言語の形式面だけではなく、言語文化や習慣の特徴についても学び、親しみ、そのことを通じて他国の文化を客観的に把握し分析する能力も養い、文化交流を担う一員としての中国語話者を養成する。	
	韓国語入門	韓国語会話の初歩。ハングルの書き方や発音、語彙、文法などの基礎的な特徴を学び、さらにその実践として、簡単な挨拶、自己紹介や簡易な日常会話ができることをめざす。また、言語の形式面だけではなく、言語文化や習慣の特徴についても学び、親しみ、そのことを通じて他国の文化を客観的に把握し分析する能力も養い、文化交流を担う一員としての韓国語話者を養成する。	
	英語で読む日本	日本人や日本文化・社会に関して書かれた英文の記事・エッセイを読むことで、英語の語彙力・文法理解力・読解力などの運用能力を高め、日本文化・社会についての理解を深める。相撲・歌舞伎・着物などの伝統文化や東京（浅草・皇居ほか）・京都・奈良など著名な観光地の文物、その他の衣食住にまつわるテーマを扱う文章を教材とする。日本文化・社会について説明するための英語のキーワードを把握し、他者に対して簡単な英語と日本語で日本文化を紹介する活動を通じて表現力を高め、国際的な文化交流の中で日本文化の再発見を促してゆく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	言語とキャリア 観光英語	国際化の進行する中でビジネスとプライベートの両面にわたって英語使用が求められるようになってきた現状を踏まえ、特に外国人との交流の機会が多い、旅行業・航空業・ホテル業などの観光サービス業界で必要とされる英語運用能力の向上を図る。英語の一般的な能力に加えて、業務の現場で必要とされる実務的な専門用語や表現方法を学び、あわせて関連する知識を習得する。また、京都・奈良など日本の代表的な観光地について、その歴史・地理を英語で紹介できる能力を身に付ける。これらにより国際交流に積極的に関わる意識を涵養する。	
	キャリアとコミュニケーション	社会人として必要なコミュニケーション能力の向上を目指す。社会生活を送るうえで生涯にわたって必要となるコミュニケーション能力の必須条件を理解させ、自己表現、対話能力、プレゼンテーション能力の向上を目指して、講義するとともに実習をする。日本語表現の一般常識的教養を身に付けて、豊かな表現力を習得させる。そのための日本語の敬語力を養成し、また聞く人に好感を持たれる明快な口頭表現の方法を身につける。	
	くらしと言語景観	身近なくらしのなかにある言語や文字表現を具体的に調査、収集し、それが織りなす空間・環境を客観的に観察することによって、言語生活を立体的に把握する。また、この観察を文献史料の分析にも活用し、そこから浮かび上がる当時の言語生活をより具体的に把握する。あわせて、これらの観察から、くらしのなかにある言語の機能と表現効果を考察するとともに、くらしのなかの表現者として豊かな表現力を養う。	
	東洋史	東洋すなわちアジア諸地域の歴史について、西洋の歴史との比較の視点を設けながら、思想・文化・社会制度・交流などさまざまな側面を考究する。全体を概観した後は中国古代における行政および政治思想に重点を置き、その特質と諸問題について講述する。	
	西洋史	本講義では、ヨーロッパの歴史を中心に、古代、中世、近世、近代、現代といった時代の特徴を概観するとともに、宗教改革、啓蒙思想、国民国家などのいくつかのテーマを取り上げながら、それぞれに関する具体的な事象を考察する。授業の中で、同時代の書簡、日記、法令などの一次史料に触れながら歴史研究の基本を学んでいくとともに、絵画や映像なども活用しながら多様な角度から歴史を学ぶことも紹介する。過去と現在の変化や諸地域における多様性を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する多角的なまなざしを養うことを目指す。	
	近代の世界史	近代ヨーロッパにおいて国民国家が形成される過程と、民族意識や国家の構成員たる国民としてのアイデンティティをどのように育成したかについて、歴史学の観点から考察する。講義ではまず、ランケに始まる歴史学の歴史を概観し、続いてアナル学派が提唱した新しい歴史学の分析方法を紹介する。さらに、イギリスやフランス、イタリアの国民国家形成過程における民族主義や国民意識を、絵画や料理、小説や自伝など様々な文化的な史料から読み解く。このような意識が近代に育成されたものであることを認識し、歴史的なものの見方を身につけ、身の回りにある様々なモノや現象から歴史的な要素を見出し、説明できる力を育みたい。	
	多文化共生論	現代の多文化共生社会の諸相について、公共空間で展開されている取り組みを学ぶとともに、歴史知識を文化の受容や文化交流史的な観点から読み取り、これらの知識を活かしながら、身近なくらしを客観的かつ具体的に観察する。そして、社会の一員として自ら課題を発見し、主体的積極的に解決に導く態度を養い、行動するための知識や技術、表現力を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	言語とキャリア 観光と行政	2000年代前半から十数年の間、日本の観光はインバウンドを中心に活況を呈していたが、その背景には、観光業を重要産業と位置付け、強力にその振興を図った行政の力があつた。本講義では、戦前の外客誘致にはじまり現在に至るまでの観光行政をふりかえり、観光行政の意義と役割について論じる。また、行政組織以外の観光関連団体の役割や、観光施設の整備についても考察する。さらに、コロナ禍により大きな方向転換を迫られた観光行政の今後について考える。	
	法律学	教職課程中学社会科を履修する学生にとって必要な、法律・法制度ならびに法律学全般にわたる基礎知識を与える。あわせて、日常生活を送るうえで身につけておきたい法の諸側面を教授し、ひとりひとりの法意識の向上に努めたい。私達の身近なところに存在する「法」に気づくところから始め、そのような法が制定される背後関係に関心を向かわせ、法がどのようにして私たちの生活を規制し、あるいは保護しているのかを知る。講義のなかでは憲法・民法・刑法さらには国際法にも広く言及し、法について多面的かつ包括的に理解させるように配慮する。	
	経済学	教職課程中学社会科を履修する学生にとって必要な、経済学全般にわたる基礎知識を与える。経済すなわち「お金」の動きを考える際には「マクロ」と「ミクロ」の2つの視点が用意されていて、前者は社会全体における経済のメカニズムを、後者はそれよりも細かな単位——家庭や商店、企業——での収入・支出を対象にするものだが、この講義ではそれぞれの視点に即して初歩的な概念・知識および考え方を学ぶ。前者については、日本経済の歴史と現状を知り、あわせて国際経済の動向を踏まえて、経済・金融政策のありかたについて述べる。後者については、市場における需要と供給の問題、消費者と生産者の関係、価格上昇と失業率の関係などをめぐって考察する。新聞の経済面に書かれている記事を正しく理解できるようになるのがこの講義の目的である。	
	社会学	「社会」とは人と人が関係を構成する集団・組織を指し、その範囲は家庭・学校・職場・地域・国際へ拡大していく。社会学はそうした「社会」の仕組みや機能について分析し、そこで析出された課題を改善し、よりよい関係を構築してゆくことを目指す学問である。この授業では社会学的見地から、現代社会の諸問題、すなわち「いじめ」とそれに端を発する「自殺」、家庭内における夫と主婦の役割、結婚・出産行動の変化による少子高齢化の問題、職場の労働環境と人間関係、SNSによる中傷や炎上、さらには国家間の「戦争」などについて、それぞれ具体的事例に則しながら考察する。	
	倫理学	倫理学は古代ギリシア哲学にその始発を見、ソクラテス・プラトンを経て中世キリスト教世界にひとつのピークを迎える。東洋にも孔子以来の倫理的思考の展開があり、日本にあっても近代以降に倫理学が追究された。授業ではまず西洋・東洋の過去の代表的な諸理論について成り立ちや概要を学ぶ。倫理的思考とは、われわれの行動規範がどこにあるのかを明確に認識するところに発する。社会に存在する多種多様な規範がどのような根拠に基づいて成立しているのか、善悪是非の判断は何に立脚して下されるのか、しばしば「良心」という言葉で表されるその判断はどこまで客観性を保持していると言えるのか、などについて講義を通じて改めて問い直してみたい。	

学校法人武庫川学院 設置認可等に関わる組織の移行表

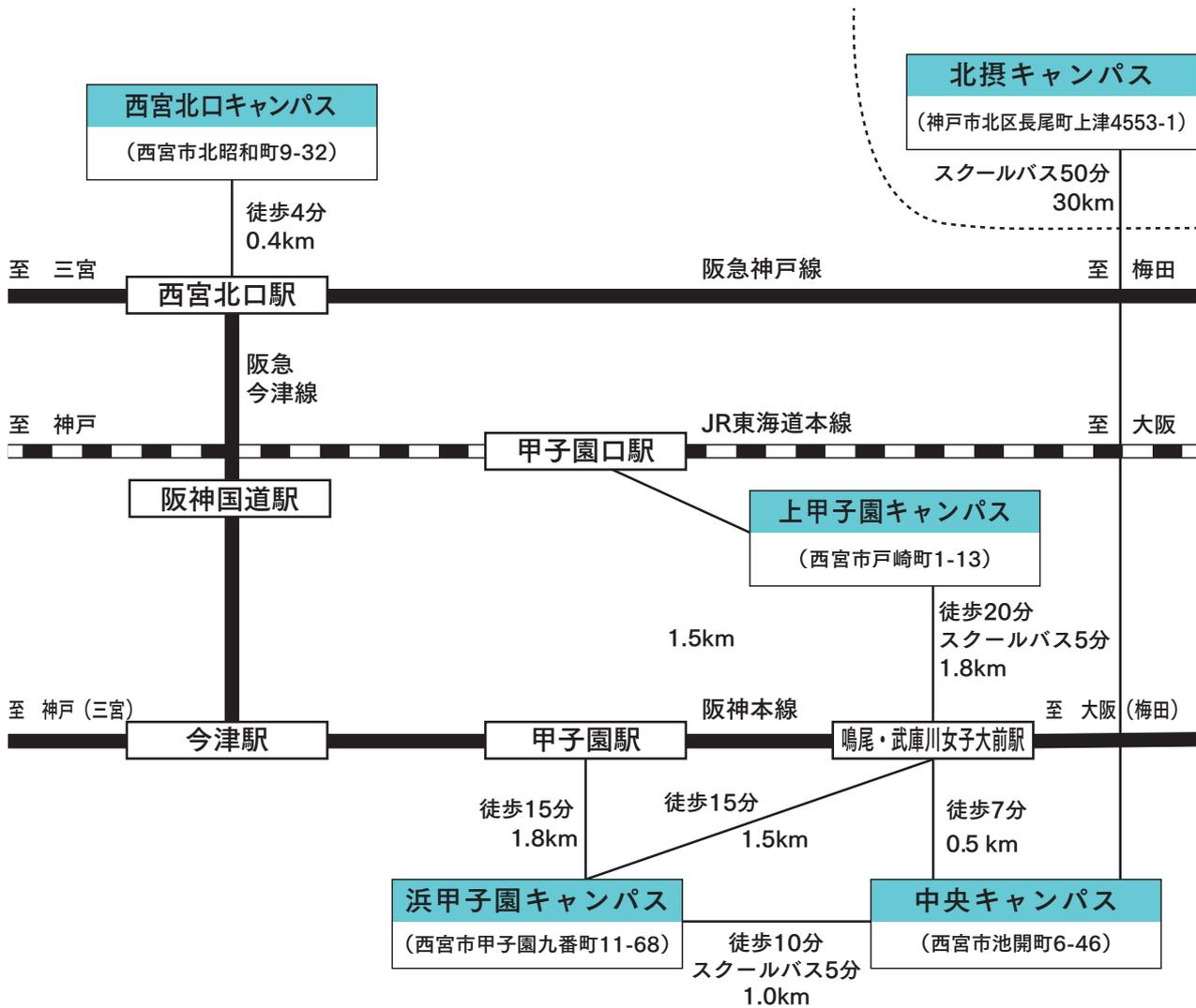
令和5年度				令和6年度				変更の事由	
入学定員	編入学定員	収容定員	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由			
武庫川女子大学				武庫川女子大学				学科の設置(届出) 編入学定員変更(15) 定員変更(△105) 定員変更(20)	
文学部				文学部					
日本語日本文学科	150	3年次 25	650	日本語日本文学科	150	3年次 25	650		
英語グローバル学科	200	3年次 25	850	歴史文化学科	80	—	320		
教育学部				教育学部					
教育学科	240	3年次 25	1,010	英語グローバル学科	200	3年次 25	850		
心理・社会福祉学部				教育学科	240	3年次 40	1,040		
心理学科	150	—	600	心理・社会福祉学部					
社会福祉学科	70	—	280	心理学科	150	—	600		
健康・スポーツ科学部				社会福祉学科	70	—	280		
健康・スポーツ科学科	180	3年次 20	760	健康・スポーツ科学部					
スポーツマネジメント学科	100	—	400	健康・スポーツ科学科	180	3年次 20	760		
生活環境学部				スポーツマネジメント学科	100	—	400		
生活環境学科	165	3年次 20	700	生活環境学部					
社会情報学部				生活環境学科	165	3年次 20	700		
社会情報学科	180	—	720	社会情報学部					
食物栄養科学部				社会情報学科	180	—	720		
食物栄養学科	200	3年次 10	820	食物栄養科学部					
食創造科学科	80	3年次 5	330	食物栄養学科	200	3年次 10	820		
建築学部				食創造科学科	80	3年次 5	330		
建築学科	45	—	180	建築学部					
景観建築学科	40	—	160	建築学科	45	—	180		
音楽学部				景観建築学科	40	—	160		
演奏学科	30	—	120	音楽学部					
応用音楽学科	20	—	80	演奏学科	30	—	120		
薬学部				応用音楽学科	20	—	80		
薬学科(6年制)	210	—	1,260	薬学部					
健康生命薬科学科	40	—	160	薬学科(6年制)	105	—	630		
看護学部				健康生命薬科学科	60	—	240		
看護学科	80	—	320	看護学部					
経営学部				看護学科	80	—	320		
経営学科	200	—	800	経営学部					
計	2,380	3年次 130	10,200	経営学科	200	—	800		
				計	2,375	3年次 145	10,000		
武庫川女子大学大学院				武庫川女子大学大学院					定員変更(9)
文学研究科				文学研究科					
日本語日本文学専攻(M)	12	—	24	日本語日本文学専攻(M)	12	—	24		
日本語日本文学専攻(D)	3	—	9	日本語日本文学専攻(D)	3	—	9		
英語英米文学専攻(M)	12	—	24	英語英米文学専攻(M)	12	—	24		
英語英米文学専攻(D)	3	—	9	英語英米文学専攻(D)	3	—	9		
教育学専攻(M)	6	—	12	教育学専攻(M)	6	—	12		
臨床心理学専攻(M)	20	—	40	臨床心理学専攻(M)	20	—	40		
臨床教育学研究科				臨床教育学研究科					
臨床教育学専攻(M)	16	—	32	臨床教育学専攻(M)	16	—	32		
臨床教育学専攻(D)	6	—	18	臨床教育学専攻(D)	6	—	18		
健康・スポーツ科学研究科				健康・スポーツ科学研究科					
健康・スポーツ科学専攻(M)	20	—	40	健康・スポーツ科学専攻(M)	20	—	40		
生活環境学研究科				生活環境学研究科					
生活環境学専攻(M)	6	—	12	生活環境学専攻(M)	6	—	12		
生活環境学専攻(D)	2	—	6	生活環境学専攻(D)	2	—	6		
食物栄養科学研究科				食物栄養科学研究科					
食物栄養学専攻(M)	8	—	16	食物栄養学専攻(M)	8	—	16		
食物栄養学専攻(D)	2	—	6	食物栄養学専攻(D)	2	—	6		
食創造科学専攻(M)	4	—	8	食創造科学専攻(M)	4	—	8		
食創造科学専攻(D)	2	—	6	食創造科学専攻(D)	2	—	6		
建築学研究科				建築学研究科					
建築学専攻(M)	22	—	44	建築学専攻(M)	22	—	44		
建築学専攻(D)	2	—	6	建築学専攻(D)	2	—	6		
景観建築学専攻(M)	6	—	12	景観建築学専攻(M)	15	—	30		
景観建築学専攻(D)	1	—	3	景観建築学専攻(D)	1	—	3		
薬学研究科				薬学研究科					
薬学専攻(4年制D)	2	—	8	薬学専攻(4年制D)	2	—	8		
薬科学専攻(M)	30	—	60	薬科学専攻(M)	30	—	60		
薬科学専攻(D)	2	—	6	薬科学専攻(D)	2	—	6		
看護学研究科				看護学研究科					
看護学専攻(M)	15	—	30	看護学専攻(M)	15	—	30		
看護学専攻(D)	5	—	15	看護学専攻(D)	5	—	15		
計	207	—	446	計	216	—	464		
武庫川女子大学短期大学部				武庫川女子大学短期大学部				令和6年4月学生募集停止 令和6年4月学生募集停止 定員変更(△100) 定員変更(△40) 定員変更(△30)	
日本語文化学科	100	—	200	日本語文化学科	0	—	0		
英語キャリア・コミュニケーション学科	100	—	200	英語キャリア・コミュニケーション学科	0	—	0		
幼児教育学科	150	—	300	幼児教育学科	50	—	100		
食生活学科	80	—	160	食生活学科	40	—	80		
生活造形学科	90	—	180	生活造形学科	60	—	120		
計	520	—	1,040	計	150	—	300		

(1) 都道府県（兵庫県）内における位置関係の図面



(2) 最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面 武庫川女子大学キャンパス関係図

(注：本図は、校地面積不算入施設用地を除く。)



(3) 校舎、運動場等の配置図

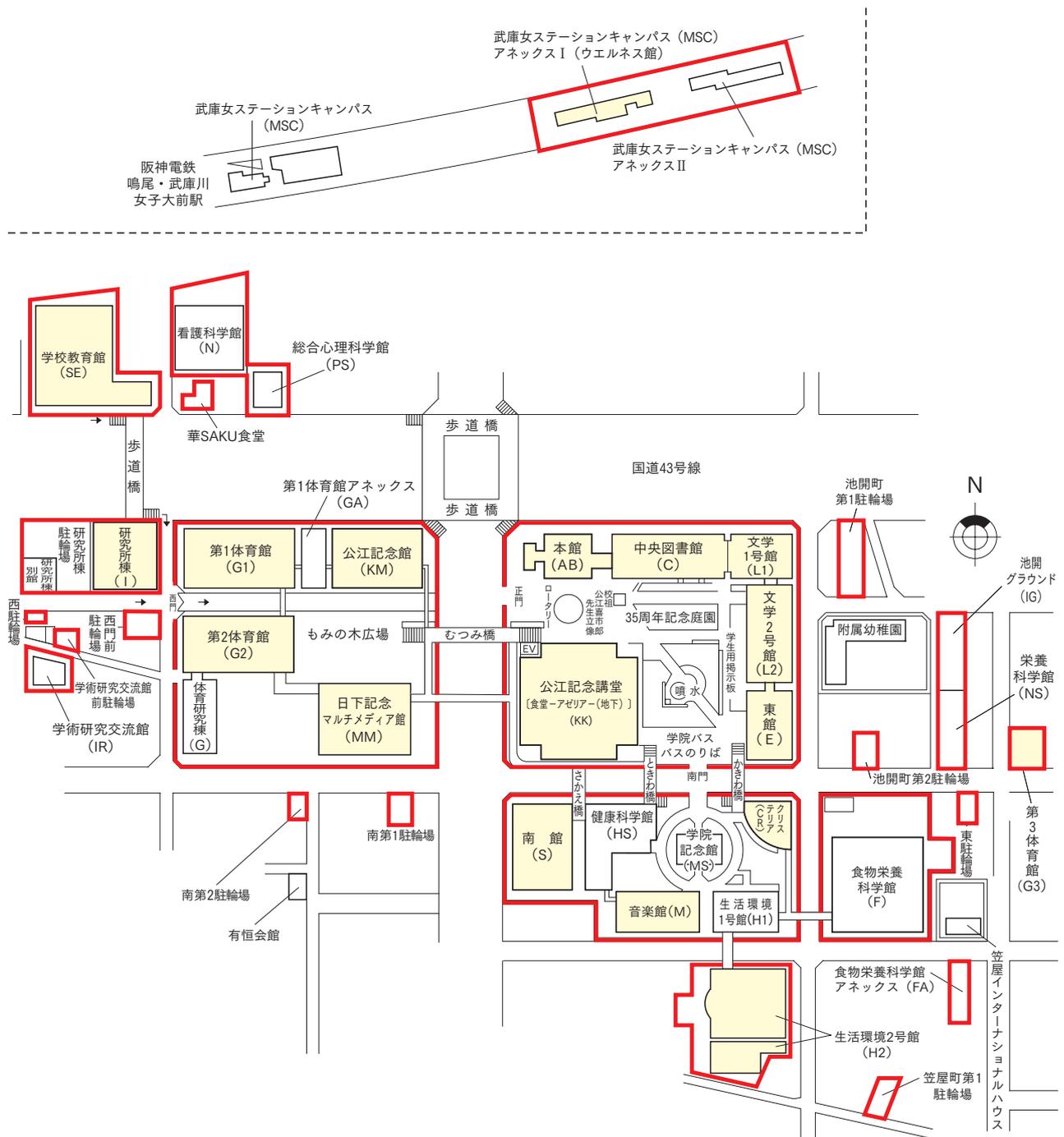
中央キャンパス

(西宮市池開町他)

	校地面積	校舎面積
専用	2,316.11m ²	20,490.22m ²
共用*	113,763.19m ²	109,287.34m ²
	(うち借用1,129.19m ²)	
合計	116,079.30m ²	129,777.56m ²

※武庫川女子大学短期大学部との共用

校地面積算入部分
 歴史文化学科が使用する校舎

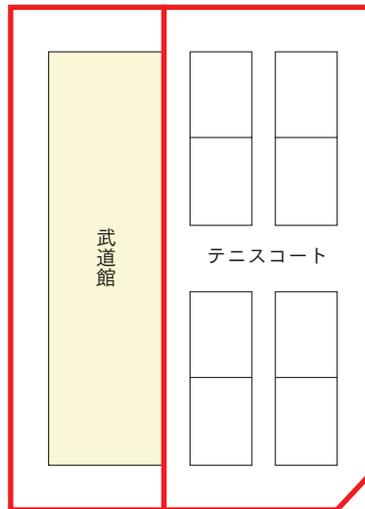


(中央キャンパス) 上田テニスコート

(西宮市上田西町)

大学・短大共用

 校地面積算入部分
 歴史文化学科が使用する校舎

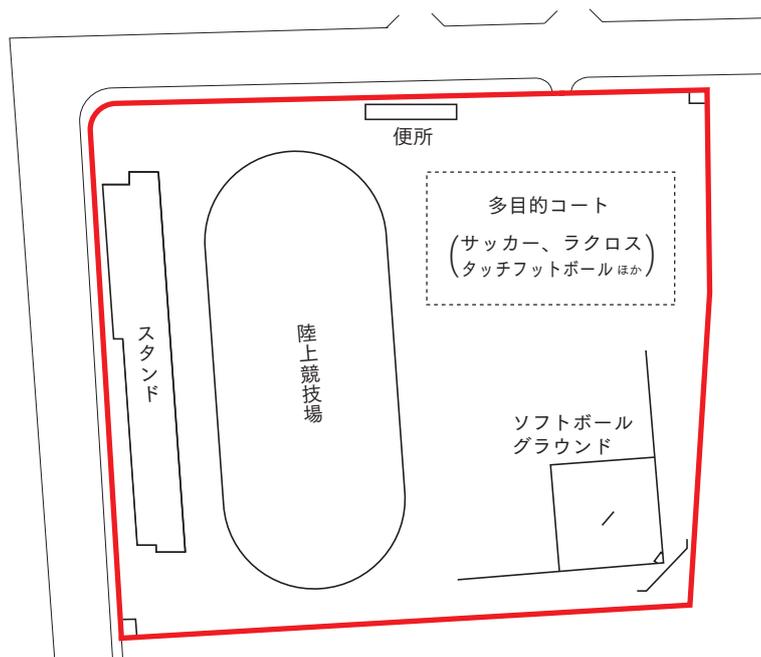


〈中央キャンパスから徒歩5分〉

(中央キャンパス) 総合スタジアム

(西宮市鳴尾浜)

大学・短大共用



〈中央キャンパスからスクールバス10分〉

浜甲子園キャンパス

(西宮市甲子園九番町、枝川町)

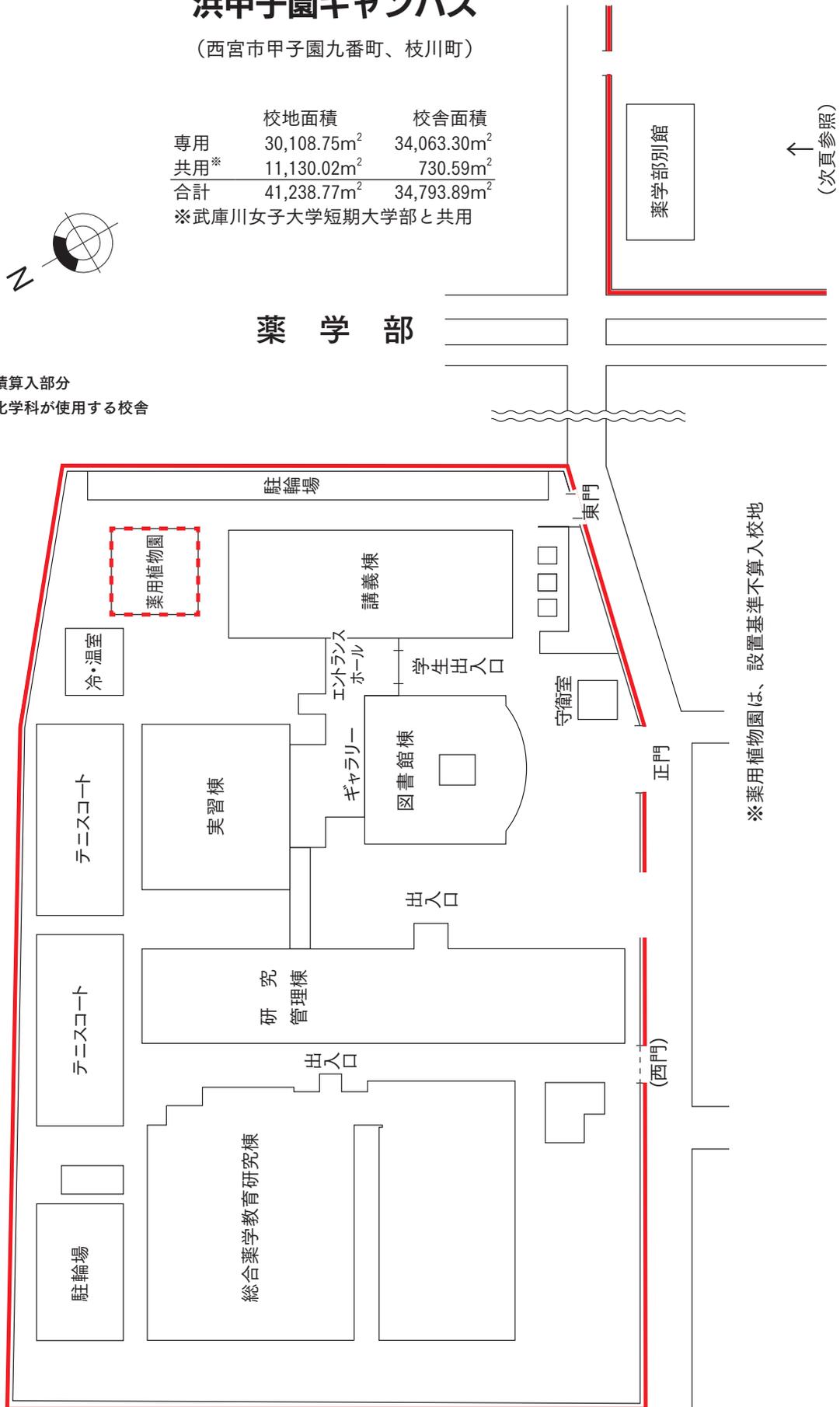
	校地面積	校舎面積
専用	30,108.75m ²	34,063.30m ²
共用 [※]	11,130.02m ²	730.59m ²
合計	41,238.77m ²	34,793.89m ²

※武庫川女子大学短期大学部と共用



薬学部

- 校地面積算入部分
- 歴史文化学科が使用する校舎

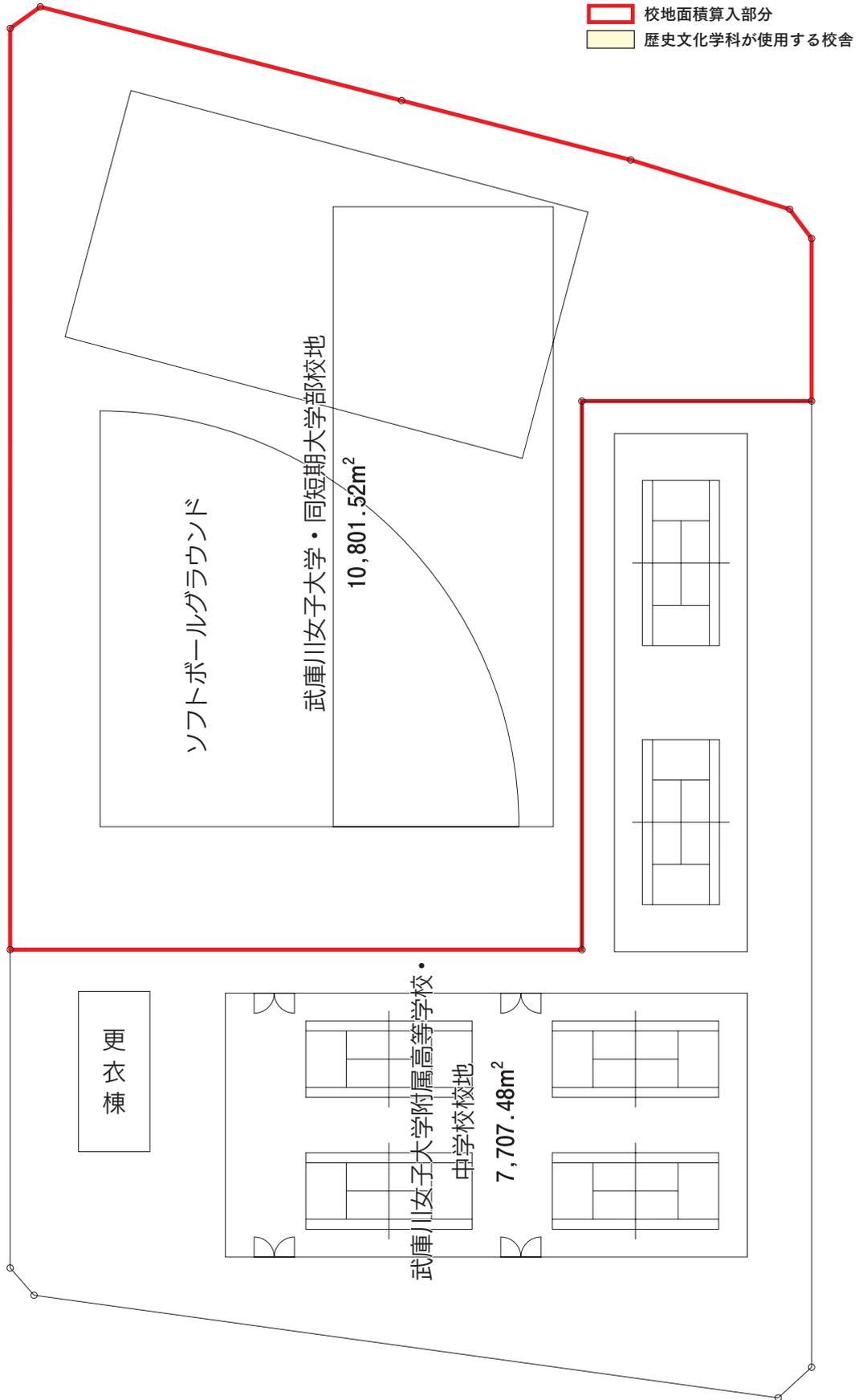


※薬用植物園は、設置基準不算入校地

↑
(次頁参照)

(浜甲子園キャンパス) 浜甲子園グラウンド

(西宮市枝川町)



- 校地面積算入部分
- 歴史文化学科が使用する校舎

上甲子園キャンパス

(西宮市戸崎町)

	校地面積	校舎面積
専用	35,614.74m ²	17,388.59m ²

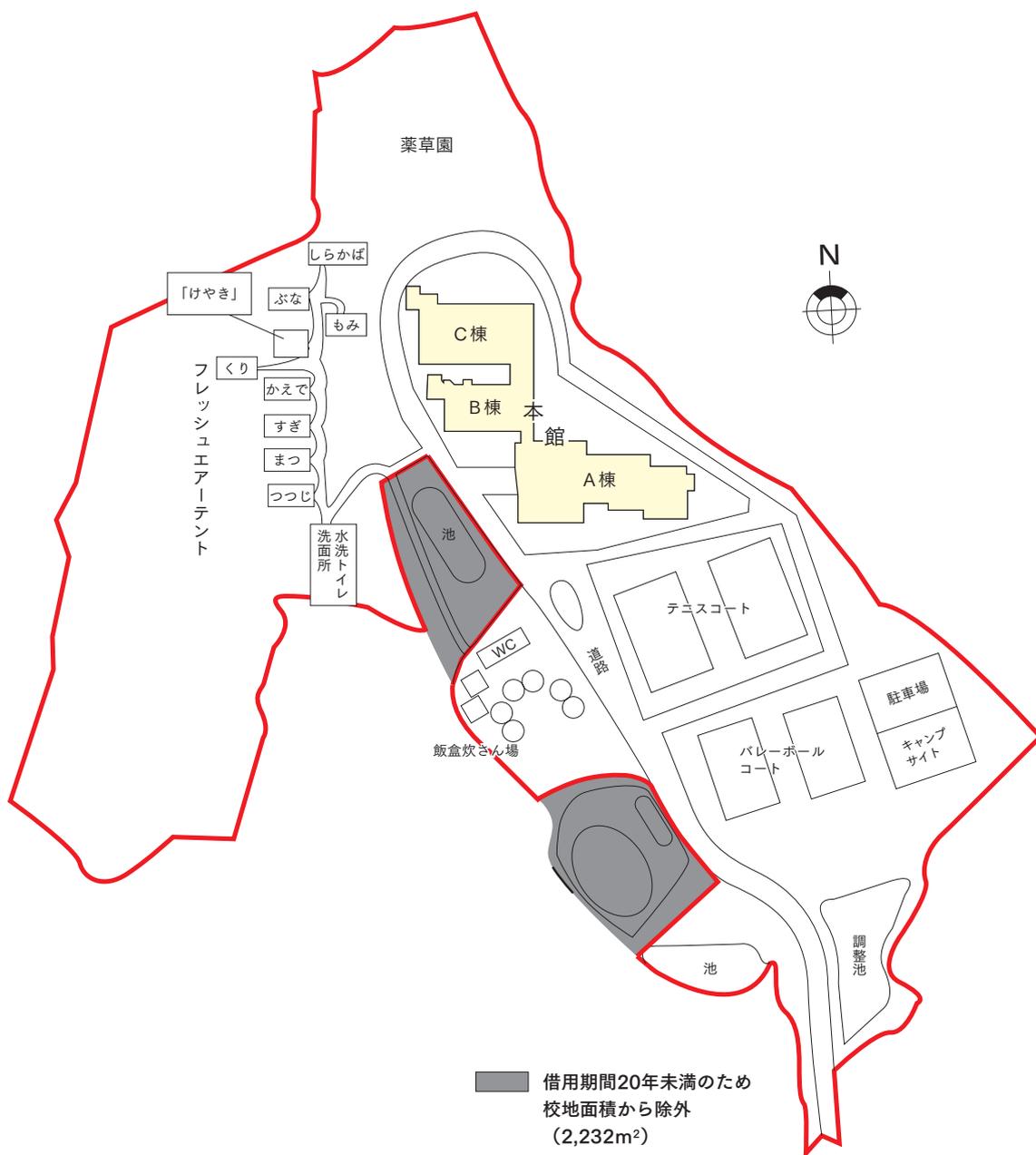


北摂キャンパス

(神戸市北区長尾町)

 校地面積算入部分
 歴史文化学科が使用する校舎

校地面積 校舎面積
共用* 40,220.00m² 4,243.68m²
※武庫川女子大学短期大学部と共用



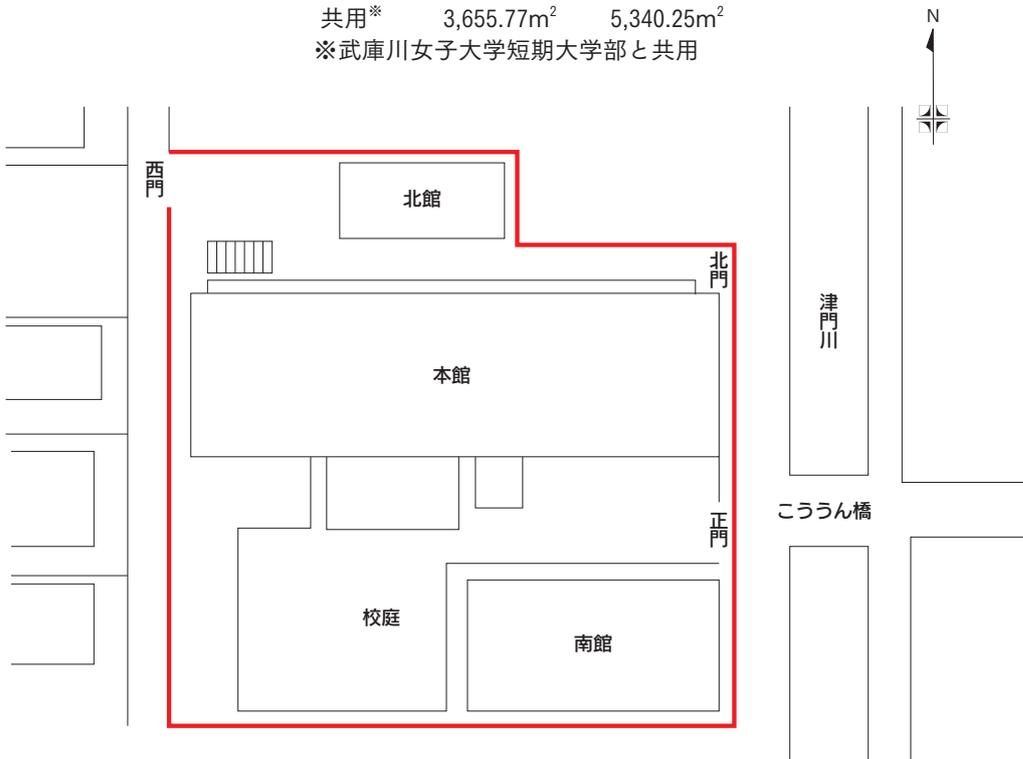
- 校地面積算入部分
- 歴史文化学科が使用する校舎

西宮北口キャンパス

(西宮市北昭和町)

	校地面積	校舎面積
共用*	3,655.77m ²	5,340.25m ²

※武庫川女子大学短期大学部と共用



(4) 校舎平面図

記載省略

令和6年4月1日 改正

学 則 (案)

武庫川女子大学

第1章 総則

(目的)

第1条 本学は、武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献することを目的とする。

(名称)

第2条 本学は、武庫川女子大学と称する。

(所在地)

第3条 本学は、兵庫県西宮市池開町6番46号に設置する。

(自己点検及び評価)

第4条 本学は、その教育研究水準の向上を図り、第1条の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、教育研究の改善に努める。

2 前項の点検及び評価の実施に関して必要な事項は、別に定める。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第4条の2 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るため、本学における研修及び研究を組織的に実施するものとする。

2 前項の教育内容等の改善のための組織的な研修等の実施に関して必要な事項は、別に定める。

第2章 学部・学科・収容定員・目的及び修業年限

(学部・学科及び収容定員)

第5条 本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学 科	入学定員	編入学定員	収容定員
文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科	150	3年次 25	650
	歴 史 文 化 学 科	80	—	320
	英 語 グ ロ ー バ ル 学 科	200	3年次 25	850
教 育 学 部	教 育 学 科	240	3年次 40	1,040
心 理 ・ 社会福祉学部	心 理 学 科	150	—	600
	社 会 福 祉 学 科	70	—	280
健康・スポーツ 科学部	健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 科	180	3年次 20	760
	ス ポ ー ツ マ ネ ジ メ ン ト 学 科	100	—	400
生活環境学部	生 活 環 境 学 科	165	3年次 20	700
社会情報学部	社 会 情 報 学 科	180	—	720
食物栄養科学部	食 物 栄 養 学 科	200	3年次 10	820
	食 創 造 科 学 科	80	3年次 5	330
建 築 学 部	建 築 学 科	45	—	180
	景 観 建 築 学 科	40	—	160
音 楽 学 部	演 奏 学 科	30	—	120
	応 用 音 楽 学 科	20	—	80
薬 学 部	薬 学 科	105	—	630
	健 康 生 命 薬 科 学 科	60	—	240
看 護 学 部	看 護 学 科	80	—	320
経 営 学 部	経 営 学 科	200	—	800

(目的)

第5条の2 各学部・学科の目的は次のとおりとする。

2 文学部は、人間の本質と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。

(1) 日本語日本文学科は、日本語日本文学の教育研究を通じて、健全な社会の構築と発展に寄与することのできる、有為な女性を養成することを目的とする。

(2) 歴史文化学科は、現代日本の社会が歴史的に形成されてきたことを理解した上で、多元的な歴史認識に立って未来社会を創造する有為な女性を養成することを目的とする。

(3) 英語グローバル学科は、英語英米文化文学の教育研究を通して、言語や文化、文学を深く理解し、自文化のみならず異文化の優れた理解者として、実践的に英語を使って国際社会で活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。

3 教育学部教育学科は、立学の精神と教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、時代と社会の要請に応えつつ高度化していく教育・保育を担える有為な女性の育成を目的とする。

この目的を実現するために、教育学・保育学の優れた知見を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、国内・国外の様々な教育・保育の場において必要とされる優れた実践的指導力、高い意欲及び創造性を養う。

4 心理・社会福祉学部は、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、来るべき人間中心社会の担い手として、「誰一人取り残さない (leave no one behind) 世界」の実現に向けて、社会が抱えるさまざまな課題の解決や新たな価値創造のために、心理学や社会福祉学の知識とスキルを積極的に活用して「持続可能な社会」の実現に向けて、自ら考え行動する力、他者と共に生きる社会の共同的な価値を創造する力、社会の多様性や異質性を理解し社会的な課題に立ち向かうことができる力を備えた人材の育成を目的とする。

(1) 心理学科は、自身の理想を探求・追求し、社会の一員としての自覚を持ち、人びとの幸福に貢献することを目指して、心理学の諸領域における専門的知識と方法論を習得するとともに、個人・社会的問題および学術的課題を主体的に発見し、その解決過程を他者と協働しながら実践的に学ぶことによって、課題発見力と実践力を身につけ、多様な課題に想像力と柔軟性をもって取り組むことができる人材を養成することを目的とする。

(2) 社会福祉学科は、一人ひとりの個性とその人らしく生きる権利を尊重し、支援を必要としている人たちと共に自らも、さらには地域や社会もエンパワメントしていけるよう、グローバルな社会の一員としてさまざまな領域で活躍することを目指し、人間中心社会の理念を理解し、持続可能な包摂的社会の実現に向け地域市民として、また福祉専門職として、他者と共に生きる社会における共同的な価値の創造を希求し、社会の多様性、異質性に謙虚に向き合い、社会的な課題の解決に向けて実践することができる人材を養成することを目的とする。

5 健康・スポーツ科学部は、幅広い専門知識並びに豊かな人間性と倫理観を養い、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者・管理者となる有為な女性を育成

することを目的とする。

(1) 健康・スポーツ科学科は、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導者的役割を担う、幅広い分野の健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成することを目的とする。

(2) スポーツマネジメント学科は、健康スポーツ科学の優れた知見と実践を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深め、多様な社会的課題の解決やダイバーシティの推進に資するマネジメント力と創造性を有する女性を育成することを目的とする。

6 生活環境学部生活環境学科は、衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した生活環境としてとらえ、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的能力を持った有為な女性を育成することを目的とする。

7 社会情報学部社会情報学科は、情報化社会を超えるデータ駆動の新しい世界に向けて、社会科学と情報科学を両翼とし、これをデータサイエンスで結合する実践的教育研究体系によって、コンピュータネットワークがもたらす仮想空間においても、人間性をいかに発揮できる知恵と技術をそなえた人材を育成することを目的とする。

8 食物栄養科学部は、栄養士・管理栄養士の基礎資格の基礎から応用までの科目を修得させ、実践力と応用力を有する人材育成を実施する。さらに食物栄養学科では、あらゆる人々に対して食による予防・医療栄養を遂行できる指導力のある人材、また食創造科学科では国内外の食産業界で第六次産業をグローバルな発想力で企画運営できる人材の育成を目的とする。

(1) 食物栄養学科は、食物栄養の分野にとどまらず、公衆衛生学、臨床医学、栄養学、栄養教育、臨床栄養学、公衆栄養学分野等の専門的な知識と技術を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、管理栄養士として必要とされる実践的指導力、高い意欲と創造性を身につけることを目的とする。

(2) 食創造科学科は、初年次よりキャリア意識を育みながら、栄養士関連科目を修得して専門性を高め3年次後期には全員に食産業界へのインターンシップ参加を義務づける。在学中の就業体験を通じて、実践的な知識を深め、人間形成・キャリア形成を図り、次世代の食産業界を牽引する女性人材の輩出を目的とする。

9 建築学部は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培うことを目的とする。

(1) 建築学科は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を、UNESCO-UIA 建築教育憲章に対応した世界基準の学びを通して培うことを目的とする。

(2) 景観建築学科は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎

的能力を、自然との共生や景観映像情報技術の幅広い学びを通して培うことを目的とする。

10 音楽学部は、理論と実践を通じて、音楽知識・技術及び東西文化の普遍的な美的価値観を追求するとともに、音楽応用を探究し、文化・社会の発展に寄与する音楽家をはじめ、音楽の指導者、音楽応用の専門家を育成することを目的とする。

(1) 演奏学科は、音楽演奏を通して、豊かな人間性と幅広い教養、高い専門知識・技術を養い、演奏家、指導者として文化・社会の発展に寄与する有為な女性を養成することを目的とする。

(2) 応用音楽学科は、豊かな人間性と幅広い教養、音楽専門知識・技術に基づく音楽の応用によって、地域・社会の活性化及び人間の心身の健康の維持・安定に貢献できる有為な女性を養成することを目的とする。

11 薬学部は、幅広い教養と人間性豊かな専門知識を基盤として、医療と薬並びに健康に関する多様な分野で、医療人としての薬剤師をはじめ、薬の創製・管理、衛生薬学、薬事行政などの諸活動を通して、薬学に課せられた社会的使命を遂行し得る有為な女性を養成することを目的とする。

(1) 薬学科は、薬剤師として高度な臨床能力と実践力を有し、医療人としての使命感を持ち、病院・薬局などの医療機関をはじめ、薬の専門家としてあらゆる場面で活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。

(2) 健康生命薬科学科は、健康科学、生命科学を重視した薬科学教育によって、研究機関、医薬品関連業界、環境衛生行政など、薬と健康に関連した多彩な分野で社会に貢献できる有為な女性を養成することを目的とする。

12 看護学部看護学科は、豊かな人間性に裏づけられた感性を生かし、様々な健康レベルの人々（患者）を生活者としてとらえ、豊かな人間性と高い倫理観、科学的根拠に裏づけられた行動力をもって、心身両面にわたってトータルケアのできる未来志向の看護実践者を育成することを目的とする。

13 経営学部経営学科は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。

(大学院及び専攻科)

第6条 本学に大学院及び専攻科を置く。

2 大学院の学則並びに専攻科に関する必要な事項は、別に定める。

(修業年限及び在学年限)

第7条 本学の修業年限は4年とする。ただし、薬学部薬学科については6年とする。

2 第16条の規定により編入学した者、再入学及び転入学した者の修業年限の取扱いについては、

別に定める。

3 在学年限は、修業年限の2倍を超えることができない。

4 本条第3項のほか、薬学部薬学科においては、同一学年に在学することができる年数は2年を限度とする。

第3章 学年・学期及び休業日

(学年)

第8条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第9条 学年を次の2学期に分ける。

前学期 4月1日より8月31日まで

後学期 9月1日より3月31日まで

(休業日)

第10条 休業日は次のとおりとする。

(1) 国民の祝日に関する法律に規定する休日

(2) 創立記念日 2月25日

(3) 日曜日

(4) 夏季休業 8月5日より9月14日まで

(5) 冬季休業 12月25日より翌年1月7日まで

(6) 春季休業 3月20日より4月2日まで

2 学長は、必要がある場合、前項の休業日を臨時に変更することができる。

3 学長は、第1項に規定するもののほか、臨時の休業日を定めることができる。

第4章 入学・編入学・再入学・留学・転学部・転学科・退学・休学・復学及び除籍

(入学の時期)

第11条 入学期日は学年の始めとする。ただし、後学期の始めに入学させることができる。

(入学資格)

第12条 本学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

(1) 高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者

(3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者、又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの

(4) 大学入学資格検定規程により、文部科学大臣の行う大学入学資格検定に合格した者

(5) 高等学校卒業程度認定試験規則により、文部科学大臣の行う高等学校卒業程度認定試験に合格した者

(6) 文部科学大臣が高等学校若しくは中等教育学校の課程と同等の課程を有するものとして認定

した在外教育施設の当該課程を修了した者

(7) 文部科学大臣の指定した者

(8) 大学において、相当の年齢に達し高等学校若しくは中等教育学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

(入学の出願)

第13条 本学に入学を志願する者は、本学所定の書類に入学検定料を添えて提出しなければならない。提出の時期、方法、提出すべき書類等については別に定める。

(入学者の選抜)

第14条 前条の入学志願者については、別に定めるところにより選抜を行う。

(入学手続き及び入学許可)

第15条 前条の選抜の結果に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、所定の入学金を納付しなければならない。

2 学長は、前項の入学手続きを完了した者に入学を許可する。

3 入学を許可された者は、所定の期日までに、入学誓書兼同意書・保証書・その他本学所定の書類を提出しなければならない。

4 前項の保証書の保証人は、独立の生計を営む満25歳以上の者で、確実に保証人の責務を履行し得るものでなければならない。若し、本学において不相当と認められたときは、保証人の変更を命ずることがある。

5 保証人が死亡又はその他の理由で、その責をつくし得ないときは、新たに保証人を選定して、直ちに届け出なければならない。

6 保証人が転居した場合は、直ちにその旨を届け出なければならない。

(編入学)

第16条 本学に、編入学を志願する者があるときは、編入学定員を定める学科等のほかは、欠員のある場合に限り、選抜の上、入学を許可することがある。

2 編入学の入学資格は、次の各号の一に該当するものとする。

(1) 短期大学を卒業した者

(2) 大学に2年以上在学し、本学が定める所定の単位を修得した者

(3) 高等専門学校を卒業した者

(4) 学校教育法第132条の規定により、大学に編入学することができる者

3 第1項の規定により、入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

4 編入学について必要な事項は、別に定める。

(再入学)

第16条の2 本学に、再入学を志願する者があるときは、欠員のある場合に限り、選考の上、相当年次に入学を許可することがある。

2 前項の規定により、入学を許可された者の既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在

学すべき年数については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

3 再入学について必要な事項は、別に定める。

(留学)

第16条の3 本学と交換留学協定又は派遣留学に関する協定を締結している外国の大学に留学を志願する者があるときは、選考の上、留学を許可する。

2 前項により留学した期間は、第7条に規定する修業年限及び在学年限に算入する。

3 留学に関する規定は、別に定める。

(転学部・転学科)

第17条 本学学生が、同一学部に属する他の学科へ転学科を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

2 本学学生が、他学部属する学科へ転学部を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

3 転学部又は転学科した者の在学年数には、転学部又は転学科前の在学年数の全部又は一部を通算することができる。

(他大学等からの転学)

第18条 他大学等の学生が、正当な理由により、本学に転学を志願したときは、欠員のある場合に限り、選考の上、これを許可することがある。

2 前項の転学生については、第16条第3項の規定を準用する。

(他大学等への転学)

第19条 他大学等に転学を志望する者があるときは、やむを得ない事情のある場合にのみ許可することがある。

(退学)

第20条 退学しようとする者は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署の上、願い出て、許可を受けなければならない。

2 第7条第4項の規定に基づき、在学することができない者は退学とする。

(休学)

第21条 疾病その他やむを得ない事情により、2か月以上修学することのできない者は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署の上、願い出て、許可を受けなければならない。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 疾病のため、修学することが適当でないと認められる者については、休学を命ずることがある。

(休学の期間)

第22条 休学の期間は、1年を超えることができない。ただし、特別の理由がある場合は、引き続き更に1年まで延長することができる。

2 休学の期間は、通算して2年を超えることができない。

3 休学の期間は、第7条第3項及び第4項の在学年限に算入しない。

(復学)

第23条 休学期間中に、その理由が消滅した場合は、所定の用紙にその理由を記入し、保証人連署の上、願い出て、復学することができる。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

(除籍)

第24条 次の各号の一に該当する者は除籍する。

- (1) 第7条第3項に規定する在学年限を超えた者
- (2) 第22条第2項に規定する休学の期間を超えて、なお修学できない者
- (3) 休学期間満了後正当な理由なくして、復学、休学の継続、退学のいずれかの願い出がない者
- (4) 学費の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- (5) 長期間にわたり所在不明の者
- (6) 法に定める在留資格が得られない者
- (7) 死亡した者

第25条 入学・編入学・再入学・留学・転学部・転学科・退学・休学・復学及び除籍する者は、教授会の意見を聴いて、学長が定める。

第5章 教育課程及び履修方法等

(授業科目)

第26条 授業科目を分けて、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目とする。

- 2 前項の授業科目のほか、特別教育科目を置く。
- 3 共通教育科目の授業科目並びにその単位数は、別表第1のとおりとする。
- 4 基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数は、別表第2のとおりとする。
- 5 特別教育科目の授業科目並びにその授業時間数は、別表第3のとおりとする。

第27条 前条に規定するもののほか、教職、司書、司書教諭及び学芸員に関する専門教育科目を置く。

- 2 前項の各授業科目並びにその単位数は、別表第4から第7のとおりとする。

(教育職員免許状)

第27条の2 教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法(別表第1、第2の備考)、並びに別表第4に従い修得しなければならない。

- 2 本学で開設する教育職員免許法施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」の授業科目並びにその単位数は、別表第4のとおりとする。ただし、教育学部教育学科においては別表第2のとおりとする。健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科における教育職員免許法施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」は別表第4のとおり、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「各教科の指導法」、「大学が独自に設定する科目」は別表第2のとおりとする。スポーツマネジメント学科に

における教育職員免許法施行規則第66条の6に定める「日本国憲法」、「教育の基礎的理解に関する科目等」、「大学が独自に設定する科目」は別表第4のとおり、「各教科の指導法」は別表第2のとおりとする。

- 3 食物栄養科学部食物栄養学科の学生で栄養教諭一種免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第1項によるほか、栄養士法、同法施行規則及び管理栄養士学校指定規則に定める所定の単位を修得しなければならない。
- 4 本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。

学 部	学 科	免許状の種類	免許教科又は領域
文 学 部	日 本 語 日 本 文 学 科	中学校教諭一種免許状	国 語
		高等学校教諭一種免許状	国語・書道
	歴 史 文 化 学 科	中学校教諭一種免許状	社 会
		高等学校教諭一種免許状	地 理 歴 史
	英 語 グ ロ ー バ ル 学 科	中学校教諭一種免許状	英 語
		高等学校教諭一種免許状	英 語
教 育 学 部	教 育 学 科	幼稚園教諭一種免許状	—
		小学校教諭一種免許状	—
		中学校教諭一種免許状	国語・英語
		特別支援学校教諭一種免許状	知的障害者 肢体不自由者 病弱者
健康・スポーツ 科 学 部	健康・スポーツ科学科 スポーツマネジメント学科	中学校教諭一種免許状	保 健 体 育
		高等学校教諭一種免許状	保 健 体 育
生活環境学部	生 活 環 境 学 科	中学校教諭一種免許状	家 庭
		高等学校教諭一種免許状	家 庭
社会情報学部	社 会 情 報 学 科	高等学校教諭一種免許状	情 報
食物栄養科学部	食 物 栄 養 学 科	栄養教諭一種免許状	—
音 楽 学 部	演 奏 学 科 応 用 音 楽 学 科	中学校教諭一種免許状	音 楽
		高等学校教諭一種免許状	音 楽
薬 学 部	健 康 生 命 薬 科 学 科	中学校教諭一種免許状	理 科
		高等学校教諭一種免許状	理 科

(図書館司書、学校図書館司書教諭)

第27条の3 図書館司書課程履修可能な学科において図書館司書の資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、図書館法及び同法施行規則に定める単位を別表第5に従い修得しなければならない。

- 2 学校図書館司書教諭講習修了証書授与の資格要件取得可能な学科において学校図書館司書教諭講習修了証書授与の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める小学校、中学校又は高等学校の教育職員免許状授与の所要資格を得るた

めに必要な単位を修得するとともに、学校図書館司書教諭講習規程に定める単位を別表第6に従い修得しなければならない。

(博物館学芸員)

第27条の4 博物館学芸員課程履修可能な学科において博物館学芸員の資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、博物館法及び同法施行規則に定める単位を別表第7に従い修得しなければならない。

(保育士)

第27条の5 教育学部教育学科の学生で保育士証交付の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、児童福祉法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 教育学部教育学科の指定養成施設としての定員は100名である。

3 履修方法は別に定める。

(栄養士、管理栄養士)

第27条の6 食物栄養科学部食物栄養学科及び食創造科学部の学生で栄養士免許証交付の資格要件を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、栄養士法及び同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 食物栄養科学部食物栄養学科の学生で管理栄養士国家試験受験資格を得ようとする者は、前項の規定により栄養士免許証交付の資格要件を得るとともに、管理栄養士学校指定規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

3 履修方法は別に定める。

(建築士)

第27条の7 生活環境学部生活環境学科及び建築学科、建築学部建築学科及び景観建築学科の学生で本学を卒業後2年以上の実務の経験を経て一級建築士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、建築士法第14条第1号に基づき、国土交通大臣の指定する建築に関する科目の単位を修得しなければならない。

2 履修方法は別に定める。

(社会福祉士、精神保健福祉士)

第27条の8 心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、社会福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、社会福祉士及び介護福祉士法並びに同法施行規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 心理・社会福祉学部社会福祉学科の学生で、精神保健福祉士国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、精神保健福祉士法に定める所定の単位を修得しなければならない。

3 心理・社会福祉学部社会福祉学科の定員は70名である。

4 心理・社会福祉学部社会福祉学科の、社会福祉士の指定養成施設としての定員は70名である。

5 心理・社会福祉学部社会福祉学科の、精神保健福祉士の指定養成施設としての定員は40名である。

6 履修方法は別に定める。

(看護師)

第27条の9 看護学部看護学科の学生で、看護師国家試験受験資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 履修方法は別に定める。

(単位の計算方法)

第28条 第26条第1項並びに第27条第1項に規定する各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

- (1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習及び実技については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、必要がある場合には、授業科目の内容及び授業の方法に応じ、教育効果を考慮して、30時間の授業をもって1単位とすることができる。音楽の個人指導による実技の授業については、特に授業時間外に必要な学修を考慮して、5時間又は10時間の授業をもって1単位とすることができる。なお、社会福祉士国家試験受験資格に係る「ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ」、精神保健福祉士国家試験受験資格に係る「ソーシャルワーク実習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅳ」、保育士資格に係る「保育実習、保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ」、及び公認心理師国家試験受験資格に係る「心理実習」として開設の授業科目のうち実習施設における授業時間数については、厚生労働省がそれぞれの指定基準に定める実習時間数に基づき、40時間又は45時間の授業をもって1単位とする。
- (3) 1の授業科目について、講義、演習、実験又は実習のうち2以上の方法により行なう場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準により算定した時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

3 特別教育科目である、ボランティア活動及びインターンシップ活動による単位認定は30時間の活動をもって1単位とする。対象となる活動については、別に定める。

(多様なメディアを高度に利用した学修)

第28条の2 文部科学大臣が別に定めるところにより、前条に規定する講義、演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(1年間の授業期間)

第29条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(単位の授与)

第30条 特別教育科目を除く授業科目にあつては、その授業科目を履修し、成績評価の結果、合格した者には所定の単位を与える。ただし、第28条第2項の授業科目については、適切な方法により学修の成果を評価して所定の単位を与えることができる。

2 第28条第3項の基準に従って認定された者には所定の特別単位を与える。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第31条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学の協定した他の大学又は短期大学の授業科目を履修し修得した単位を、60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が第16条の3の規定により外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であつて、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第32条 本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

3 第1項に規定する学修に対する単位の認定等について必要な事項は、別に定める。

(入学前の既修得単位の認定)

第33条 本学の第1年次に入学した学生が、入学する前に大学又は短期大学(外国の大学又は短期大学を含む。)において履修した授業科目について、修得した単位(科目等履修生により修得した単位を含む。)を、本学が教育上有益と認めるときは、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 本学の第1年次に入学した学生が、入学する前に行った前条第1項に規定する学修を本学が教育上有益と認めるときは、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることができる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第31条第1項及び第2項並びに前条第1項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(成績の評価)

第34条 試験等成績の評価は、S、A、B、C、不合格、E、F、認をもって表わし、S、A、B、

C、認を合格とする。

2 この学則に定めるもののほか、成績の評価に関する必要な事項は、別に定める。

第6章 卒業及び学位の授与

(卒業の要件)

第35条 本学の卒業要件は、第7条に規定する修業年限以上在学し、別表第1、第2に掲げる授業科目の中から、同表に定める履修方法に従い、124単位以上を修得しなければならない。ただし、生活環境学部建築学科及び建築学部の学生は128単位以上を、薬学部薬学科の学生は190単位以上を、看護学部看護学科の学生は127単位以上を修得しなければならない。

2 前項に規定するもののほか、別表第4から第7に掲げる授業科目を履修し、単位を修得した場合、20単位を超えない範囲で、卒業に必要な単位数に含めることができる。

(卒業)

第36条 本学に第7条に規定する修業年限以上在学し、前条に規定する所定の単位数を修得した者については、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定する。

(学位の授与)

第37条 学長は、卒業を認定した者に対して、武庫川女子大学学位規程の定めるところにより、学士の学位を授与する。

第38条 削除

第7章 入学検定料・入学金・学費

(入学検定料等の金額)

第39条 本学の入学検定料・入学金及び学費は、別表第8のとおりとする。

(学費の納入期)

第40条 学費は年2回に分けて納入しなければならない。

2 学費の納入時期については、別に定める。

第41条 納入した入学検定料及び入学金は、事情の如何にかかわらず返還しない。

2 納入した授業料・教育充実費及び学生研修費等の取扱いについては、別に定める。

(退学・停学・休学・復学の場合の学費)

第42条 退学・停学・休学・復学の場合の学費の納入方法については、別に定める。

2 休学中は、学費の納入は免除する。ただし、休学中は、休学在籍料を納入しなければならない。

休学在籍料に関する必要な事項は、別に定める。

(留年・卒業延期の場合の学費)

第42条の2 留年・卒業延期の場合の学費に関する必要な事項は、別に定める。

第8章 教職員組織

(教職員組織)

第43条 本学に学長、副学長、教授、准教授、講師、助教、助手、副手、事務職員、技術職員、その他必要な職員を置く。

(学長)

第44条 学長は本学の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(副学長)

第45条 副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

2 学長に事故あるときは、その職務を代行する。

(学部長)

第46条 本学に学部長を置く。

2 学部長は、当該学部の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(共通教育部長)

第46条の2 本学に共通教育部長を置く。

2 共通教育部長は、共通教育部の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(学科長)

第47条 本学に学科長を置く。

2 学科長は、当該学科の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(共通教育科長)

第47条の2 本学に共通教育科長を置く。

2 共通教育科長は、共通教育の学務を掌理し、所属職員を統督する。

(幹事教授)

第48条 本学に幹事教授を置く。

2 幹事教授は、学科長を補佐する。

第9章 学部教授会、共通教育部教授会及び評議会

(学部教授会)

第49条 本学に学部教授会（以下「教授会」という。）を置く。

(共通教育部教授会)

第49条の2 本学に共通教育部教授会を置く。

(教授会の構成)

第50条 教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは、当該学部の専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

2 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。

(共通教育部教授会の構成)

第50条の2 共通教育部教授会は、当該部の専任教授をもって構成する。ただし、共通教育部長が

必要と認めるときは、当該部の専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

2 共通教育部教授会は、共通教育部長が招集し、その議長となる。

(教授会の審議事項)

第51条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(共通教育部教授会の審議事項)

第51条の2 共通教育部教授会は、学長が、共通教育に係る教育研究に関する重要な事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

2 共通教育部教授会は、学長及び共通教育部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる共通教育に係る教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(評議会)

第52条 本学に大学評議会（以下「評議会」という。）を置き、全学部を横断する事項について審議する。

(評議会の構成)

第53条 評議会は、開設する学部・学科を代表する者を含む学長の申請に基づき理事長が任命した次に掲げる評議員をもって構成する。

- (1) 学 長
- (2) 副 学 長
- (3) 各学部長
- (4) 共通教育部長
- (5) 各学科長
- (6) 教育研究所長
- (7) 附属図書館長
- (8) その他、学長が必要と認めたる者

2 評議会は、学長が招集し、その議長となる。

(評議会の審議事項)

第54条 評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学則に基づく規程の制定改廃に関する事項
- (2) 学務に関する全般的事項

- (3) 学生の入学及び卒業の基準に関する事項
 - (4) 教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価等に関する事項
 - (5) 教育、研究に関する全般的事項
 - (6) その他学長が評議会の意見を聴くことが必要と定める事項
- (その他)

第55条 本章に定めるもののほか、教授会、共通教育部教授会及び評議会に関し必要な事項は、別に定める。

第10章 科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生

(科目等履修生・特別聴講生)

第56条 本学において、特定の授業科目の履修を志望する者があるときは、本学の教育に支障がない限り、選考の上、科目等履修生として在籍を許可することがある。科目等履修生が受講した授業科目について試験を受け、これに合格した場合は、所定の単位を与える。

- 2 他の大学又は短期大学（外国の大学・短期大学を含む。）との協議に基づき、当該他の大学又は短期大学の学生が、本学の授業科目について履修を願い出たときは、選考の上、これを特別聴講生として履修を許可することができる。特別聴講生が受講した授業科目について試験を受け、これに合格した場合は、所定の単位を与える。

- 3 科目等履修生の履修料等は、別表第9のとおりとし、特別聴講生の聴講料等は、別に定める。
- (研究生)

第57条 本学において、特に研究を志望する者があるときは、その願い出により、研究生として許可することがある。

- 2 研究生の研究料は、別表第10のとおりとする。

(研修員)

第58条 本学以外の機関に所属する者で、その所属機関の長の委託により、大学において特定事項について研修しようとするときは、願い出により、研修員として許可することがある。

- 2 研修員の研修料は、別に定める。

(外国人留学生)

第59条 外国人で、本学に入学を志願する者があるときは、選抜の上、外国人留学生として入学を許可することがある。

(その他)

第60条 科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生の許可については、教授会の意見を聴いて、学長が決定する。

- 2 科目等履修生・特別聴講生・研究生及び外国人留学生の本学則の適用については、修学上必要な事項のほか第62条並びに第63条の規定を準用する。
- 3 この学則に定めるもののほか、科目等履修生・特別聴講生・研究生・研修員及び外国人留学生に関する必要な事項は、別に定める。

第61条 削除

第11章 賞罰

(表彰)

第62条 学生として全学生の模範となる善行のあった者は、教授会の意見を聴いて、学長が表彰する。

(懲戒)

第63条 本学の規則、命令に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした学生は、教授会の意見を聴いて、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、退学・停学及び訓告とする。

3 前項の退学は、次の各号の一に該当する学生に対して行う。

(1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

(2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

(3) 正当な理由がなくて出席常でない者

(4) 本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

4 前2項により停学となった期間は、第7条に規定する修業年限に含めることはできない。

5 この学則に定めるもののほか、懲戒に関する必要な事項は、別に定める。

第12章 附属図書館

(附属図書館)

第64条 本学に附属図書館を置く。

2 附属図書館に関する規定は、別に定める。

第13章 スポーツセンター

(スポーツセンター)

第65条 本学にスポーツセンターを置く。

2 スポーツセンターに関する規定は、別に定める。

第14章 研究所

(研究所)

第66条 本学に教育研究所、発達臨床心理学研究所、言語文化研究所、生活美学研究所、情報教育研究センター、バイオサイエンス研究所、国際健康開発研究所、トルコ文化研究センター、健康運動科学研究所、栄養科学研究所、学校教育センター、女性活躍総合研究所及び附属総合ミュージアムを置く。

2 研究所に関する規定は、別に定める。

第15章 公開講座

(オープン・カレッジ)

第67条 本学にオープン・カレッジを置く。

2 オープン・カレッジに関する規定は、別に定める。

第16章 学寮

(学寮)

第68条 本学に学寮を置く。

2 学寮に関する規定は、別に定める。

第17章 改廃

(改廃)

第69条 本学則の改廃は、評議会の意見を聴いて、理事会において決定する。

附 則

この学則は、昭和24年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和33年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和34年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和37年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和38年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和39年8月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和40年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和41年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和44年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和47年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和48年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和49年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和50年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和52年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和62年1月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年9月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成3年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成11年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成14年7月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成17年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年1月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成24年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第35条の規定にかかわらず、平成24年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成25年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第35条の規定にかかわらず、平成25年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

この学則は、平成26年9月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 第7条第4項、第20条第2項及び第22条第3項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の在学年限、退学及び休学の期間については、なお従前のおりとする。
- 3 第26条第4項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 4 第27条の2第2項の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の「教職に関する科目」及び「教科又は教職に関する科目」の授業科目並びにその単位数（別表第4）については、なお従前のおりとする。
- 5 第35条の規定にかかわらず、平成26年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成27年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。

附 則

この学則は、平成28年11月1日から施行する。

附 則

- 1 この学則は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第27条の3第1項及び第2項の規定にかかわらず、平成28年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成30年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第27条の2の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の中学校・高等学校教諭「教職に関する科目」の授業科目及びその単位数（別表第4）、並びに教育職員免許状授与の所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域については、なお従前のおりとする。
- 4 第28条第1項第3号の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。
- 5 第35条の規定にかかわらず、平成29年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、平成31年4月1日から施行する。

- 2 文学部教育学科は、平成31年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 第26条第4項の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 4 第27条の2、第27条の5及び第27条の8の規定にかかわらず、平成30年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- 2 生活環境学部食物栄養学科は、令和2年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 3 生活環境学部建築学科は、令和2年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 4 第5条の2第6項、第7項及び第11項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。
- 5 第26条第4項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお、従前のおりとする。
- 6 第27条の2第3項及び第4項の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。
- 7 第27条の6の規定にかかわらず、平成31年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和3年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第27条の2（別表第4）の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学生については、なお従前のおりとする。
- 4 第35条の規定にかかわらず、令和2年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- 2 第26条第4項の規定にかかわらず、令和3年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のおりとする。
- 3 第27条の2の規定にかかわらず、令和3年度以前の入学生の各教科の指導法及び教育の基礎的理解に関する科目等、大学が独自に設定する科目の授業科目並びにその単位数（別表第4）については、なお従前のおりとする。
- 4 第35条の規定にかかわらず、令和3年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のおりとする。

おりとする。

附 則

- 1 この学則は、令和5年4月1日から施行する。
- 2 第5条に規定する心理・社会福祉学部心理学科及び社会福祉学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
心理・社会福祉学部 心理学科		150	300	450
心理・社会福祉学部 社会福祉学科		70	140	210

- 3 文学部心理・社会福祉学科は、令和5年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 4 第27条の8の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の文学部心理・社会福祉学科社会福祉コースの、精神保健福祉士の指定養成施設としての定員は30名である。
- 5 第5条に規定する健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科		100	200	300

- 6 第5条に規定する社会情報学部社会情報学科の収容定員は令和5年度から令和7年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
		収容定員	収容定員	収容定員
社会情報学部 社会情報学科		180	360	540

- 7 生活環境学部情報メディア学科は、令和5年3月31日に当該学科に在学する者が、当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 8 第5条の2第4項、第5項及び第7項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。
- 9 第26条第4項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお、従前のとおりとする。
- 10 第27条の2第4項の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。
- 11 第27条の8の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生については、なお従前のとおりとする。
- 12 第35条の規定にかかわらず、令和4年度以前の入学生の卒業の要件については、なお従前のとおりとする。

附 則

- この学則は、令和6年4月1日から施行する。
- 第5条に規定する文学部歴史文化学科の収容定員は、令和6年度から令和8年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
		収容定員	収容定員	収容定員
文学部 歴史文化学科		80	160	240

- 第5条に規定する教育学部教育学科の収容定員は、令和6年度は次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和6年度
		収容定員
教育学部 教育学科		1,025

- 第5条に規定する薬学部薬学科の収容定員は、令和6年度から令和10年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
		収容定員	収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
薬学部 薬学科		1,155	1,050	945	840	735

- 第5条に規定する薬学部健康生命薬科学科の収容定員は、令和6年度から令和8年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
		収容定員	収容定員	収容定員
薬学部 健康生命薬科学科		180	200	220

- 第26条第4項の規定にかかわらず、令和5年度以前の入学生の基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数（別表第2）については、なお従前のとおりとする。

別表第1

共通教育科目

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教養科目群 人文科学科目				「ふつう」を考える社会学		2	
平安朝文学の世界		2		現代世界の教育		2	
英語圏の文学・文化		2		聴覚障害者の理解と手話言語		2	
日常生活からの哲学入門		2		子育てと家族関係		2	
現代フランスの音楽事情		2		子育てと母性の気づき		2	
先端芸術表現		1		現代社会と憲法		2	
ミュージカル歌唱法		1		教養としての法律		2	
音楽の科学		2		暮らしと法律		2	
フランスの音楽と芸術文化		2		建築と社会		2	
ヨーロッパの名歌歌唱法		1		消費者生活論		2	
自己発見アート		1		英語で学ぶやさしい経済学		2	
未来造形		1		英語で学ぶお金の知識		2	
日本舞踊に学ぶ着付けと作法		1		我々の暮らしと日本の産業		2	
歌舞伎鑑賞入門		2		メディア技術と文字デザイン		2	
日本の文化 I		2		基礎教養科目群 自然科学科目			
日本の文化 II		2		生命科学入門		2	
遊びの人類学		2		生活の中の物理学		2	
心理学入門		2		最先端物理学が描く宇宙		2	
人間関係の心理学		2		色彩情報		2	
SNSから日本語を見る		2		科学から考える衣服と生活		2	
日本語と英語の比較		2		はたらく細胞とくすり		2	
英語を学問する一理論と実践		2		基礎教養科目群 国際理解科目			
生活の中の心理学		2		音楽から見る人と世界		2	
基礎教養科目群 社会科学科目				韓国文化の理解		2	
カウンセリングの実際		2		中国文化論		2	
実践カウンセリング		2		世界の中の日本人		2	
福祉レクリエーションの実際		2		基礎教養科目群 現代トピック科目			
差別と暴力のない世界をめざして		2		Current Affairs in Japan I		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
Current Affairs in Japan II		2		英語ライティングII		1	
女性のためのマーケティング		2		T O E I C 演 習 I		1	
スポーツツーリズムと地域創生		2		T O E I C 演 習 II		1	
モラルジレンマから考える私		2		T O E I C 演 習 III		1	
ジェンダー科目群				T O E F L 演 習		1	
セクシュアリティ入門I		2		W r i t i n g I		1	
セクシュアリティ入門II		2		W r i t i n g II		1	
女 性 と 教 育		2		P r e s e n t a t i o n		1	
ジェンダーとアイデンティティー		2		C u r r e n t E v e n t s		1	
ジェンダーと社会		2		L e a d e r s h i p D e v e l o p m e n t		1	
女性の身体とセクシュアリティ		2		G l o b a l I s s u e s I		1	
メディアに見るジェンダー		2		G l o b a l I s s u e s II		1	
キャリアデザイン科目群				ド イ ツ 語 I		2	
女性のためのライフプランニング		2		ド イ ツ 語 II		2	
自己アピールトレーニング		2		フ ラ ン ス 語 I		2	
キャリアビジョンと人物評価		2		フ ラ ン ス 語 II		2	
言語・情報科目群 言語リテラシー科目				フ ラ ン ス 語 I A		1	
Reading & Critical Thinking		1		フ ラ ン ス 語 I B		1	
Reading & Discussion		1		T O E I C (初級)		1	
Career Workshop		1		イ タ リ ア 語 I A		1	
Speaking & Listening I		1		イ タ リ ア 語 I B		1	
Speaking & Listening II		1		ス ペ イ ン 語 I		2	
Speaking & Listening III		1		ハ ン グ ル I		2	
Basics for Presentation I		1		ハ ン グ ル II		2	
Basics for Presentation II		1		ハン グ ル 検 定 演 習		1	
英語コミュニケーションI		2		言語・情報科目群 情報リテラシー科目			
英語コミュニケーションII		2		W e b デ ザ イ ン 基 礎		2	
英語コミュニケーションIII		1		W e b デ ザ イ ン 応 用		2	
英語コミュニケーションIV		1		グラフィックデザイン基礎		2	
英語ライティングI		1		フォトタッチ基礎		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
データサイエンスの基礎と Excel		2					
データリテラシー・AIの基礎	2						
健康・スポーツ科目群 健康・スポーツ科学科目							
ス ポ ー ツ と 栄 養		2					
ス ポ ー ツ と 現 代 社 会		2					
健康・スポーツ科目群 スポーツ実技科目							
スポーツ実技（テニス）		1					
スポーツ実技（ゴルフ）		1					
スポーツ実技（バレーボール）		1					
スポーツ実技（バドミントン）		1					
スポーツ実技（エアロビクス）		1					
スポーツ実技（軽スポーツ）		1					
ス ポ ー ツ 実 技 （ ヨ ガ ）		1					
からだと気づきと姿勢法		1					
スポーツ実技（スリムエアロ）		1					
スポーツ実技（ダンスエアロ）		1					
スポーツ実技（バンジーエクササイズ）		1					
スポーツ実技（エアリアルワーク）		1					
スポーツ実技（スタイルジャズ）		1					
スポーツ実技（フットサル）		1					

別表第2

基礎教育科目及び専門教育科目

文学部 日本語日本文学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				日 本 語 学 特 講 I		2	
初 期 演 習 I	1			日 本 語 学 特 講 II		2	
初期演習Ⅱ(日本語日本文学)	1			社 会 言 語 学		2	
古 文 入 門	2			言 語 学 I		2	
漢 文 入 門	2			言 語 学 II		2	
日 本 語 表 現 入 門		2		日 本 語 教 育 学 入 門		2	
日 本 語 表 現 演 習 I	1			日 本 語 教 授 法		2	
日 本 語 表 現 演 習 II	1			日 本 語 教 材 研 究 I		2	
情 報 リ テ ラ シ ー I	2			日 本 語 教 材 研 究 II		2	
情 報 リ テ ラ シ ー II	2			日 本 語 教 授 法 実 習		1	
Oral Communication		2		日 本 語 教 育 史		2	
T O E I C 認 定 英 語 I		2		日 本 語 教 育 特 講		2	
T O E I C 認 定 英 語 II		2		言 語 発 達 論		2	
T O E I C 認 定 英 語 III		2		言 語 と 心 理		2	
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		異文化間コミュニケーション		2	
専門教育科目				多 文 化 共 生 論		2	
日 本 語 学 概 論 I	2			日 本 語 教 育 イ ン タ ー ナ ー シ ッ プ		2	
日 本 語 学 概 論 II	2			日 本 古 典 文 学 概 論	2		
音 声 ・ 音 韻 論		2		日 本 近 代 文 学 概 論	2		
語 彙 ・ 意 味 論		2		日 本 古 典 文 学 史		2	
文 法 ・ 文 体 論		2		日 本 近 代 文 学 史		2	
文 字 ・ 表 記 論		2		上 代 文 学 講 読 I		2	
談 話 研 究		2		上 代 文 学 講 読 II		2	
日 本 語 学 文 献 講 読 I		2		中 古 文 学 講 読 I		2	
日 本 語 学 文 献 講 読 II		2		中 古 文 学 講 読 II		2	
日 本 語 史 I		2		中 世 文 学 講 読 I		2	
日 本 語 史 II		2		中 世 文 学 講 読 II		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
近世文学講読Ⅰ		2		日本の芸能		2	
近世文学講読Ⅱ		2		日本の伝統文化		2	
近代文学講読Ⅰ		2		日本の現代文化		2	
近代文学講読Ⅱ		2		知的財産論		2	
上代文学研究Ⅰ		2		書道Ⅰ		2	
上代文学研究Ⅱ		2		書道Ⅱ		2	
中古文学研究Ⅰ		2		書道Ⅲ		2	
中古文学研究Ⅱ		2		書道Ⅳ		2	
中世文学研究Ⅰ		2		書道史Ⅰ		2	
中世文学研究Ⅱ		2		書道史Ⅱ		2	
近世文学研究Ⅰ		2		書論・鑑賞学		2	
近世文学研究Ⅱ		2		身体表現法		2	
近代文学研究Ⅰ		2		プレゼンテーション技法		2	
近代文学研究Ⅱ		2		情報デザイン		2	
児童文学論		2		文芸創作		2	
現代文学論Ⅰ		2		コンピュータ概論		2	
現代文学論Ⅱ		2		言語データ処理		1	
日本文学特講Ⅰ		2		情報検索法		2	
日本文学特講Ⅱ		2		情報処理特論Ⅰ		2	
漢文学講読Ⅰ		2		情報処理特論Ⅱ		2	
漢文学講読Ⅱ		2		言語情報・文献管理特論Ⅰ		2	
東アジア思想文学Ⅰ		2		言語情報・文献管理特論Ⅱ		2	
東アジア思想文学Ⅱ		2		中国語概説		2	
国語教育実践研究Ⅰ		2		韓国語概説		2	
国語教育実践研究Ⅱ		2		英語で読む日本Ⅰ		2	
国語教育実践研究Ⅲ		2		英語で読む日本Ⅱ		2	
国語教育実践研究Ⅳ		2		海外文化体験演習		4	
阪神間の文化		2		演習Ⅰ	2		
文化交流史		2		演習Ⅱ	2		
美術史		2		卒業論文(卒業制作)	4		

文学部 歴史文化学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				日本近現代史史料を読むⅡ		2	
初 期 演 習 I	1			古 記 録 と 古 文 書		2	
初期演習Ⅱ（歴史文化研究）	1			地 誌 学		2	
歴 史 文 化 資 料 論	2			文 化 遺 産 論		2	
文 化 と 民 族	2			食 の 文 化 誌		2	
文化・歴史研究と情報	2			言語と文字の史の変遷	2		
歴史文化フィールドワーク基礎	2			江戸の風俗と絵画		2	
文章表現法（歴史文化）	2			縄文・弥生の考古学		2	
情報リテラシー（歴史文化）	2			歴史のなかの女性		2	
Oral Communication		2		日本の生活文化	2		
専門教育科目				古墳・中近世の考古学		2	
日 本 史 概 説	2			日本の祭礼 春夏秋冬		2	
日 本 史 料 概 説	2			中世の文化史 刀剣・武具		2	
考 古 学 概 説	2			地 理 と 情 報		2	
人 文 地 理 学	2			装 い の 日 本 文 化		2	
日 本 美 術 史		2		すまいの日本文化		2	
女 性 史 概 説	2			出版・メディアの文化史		2	
古 文 書 入 門		2		信 仰 の 民 俗 学		2	
自 然 地 理 学		2		古代中世の都市と交通		2	
民俗資料を読む		2		画 像 文 化 論		2	
文化人類学概説	2			地 域 社 会 論		2	
日 本 思 想 史		2		観 光 文 化 論		2	
地 理 学 概 説	2			意匠・デザインの基礎		2	
日本古代史史料を読むⅠ		2		日 本 芸 能 文 化 史		2	
日本古代史史料を読むⅡ		2		文化財の活用と保存	2		
日本中世史史料を読むⅠ		2		伝統工芸の保存と継承		2	
日本中世史史料を読むⅡ		2		地 域 の 伝 承		2	
日本近世史史料を読むⅠ		2		古代史研究の方法と課題		2	
日本近世史史料を読むⅡ		2		中世史研究の方法と課題		2	
日本近現代史史料を読むⅠ		2		近世史研究の方法と課題		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
近現代史研究の方法と課題		2					
地 域 政 策 論		2					
災 害 と 歴 史		2					
地 域 文 化 研 究		2					
地域文化フィールドワークⅠ		2					
地域文化フィールドワークⅡ		2					
歴史文化フィールドワークⅠ		2					
歴史文化フィールドワークⅡ		2					
歴史文化フィールドワークⅢ		2					
歴史文化フィールドワークⅣ		2					
映像メディア・理論と実践		2					
歴史文化とプレゼンテーション		2					
演 習 Ⅰ	2						
演 習 Ⅱ	2						
卒 業 論 文	4						
中 国 語 入 門		2					
韓 国 語 入 門		2					
英 語 で 読 む 日 本		2					
観 光 英 語		2					
キャリアとコミュニケーション		2					
くらしと言語景観		2					
東 洋 史		2					
西 洋 史		2					
近 代 の 世 界 史		2					
多 文 化 共 生 論		2					
観 光 と 行 政		2					
法 律 学		2					
経 済 学		2					
社 会 学		2					
倫 理 学		2					

文学部 英語グローバル学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				Basic Preparation for English Proficiency Tests FF (資格英語演習 FF)		1	
初 期 演 習 I	1			リーディング・ライティング IA	1		
初期演習Ⅱ (海外留学に向けて)	1			リーディング・ライティング IB	1		
情報リテラシー I	2			リーディング・ライティングⅡA	1		
情報リテラシーⅡ		2		リーディング・ライティングⅡB	1		
リスニング I A	1			オーラルコミュニケーション IA	1		
リスニング I B	1			オーラルコミュニケーション IB	1		
リスニングⅡ	1			オーラルコミュニケーションⅡA		1	
スピーキング I A	1			オーラルコミュニケーションⅡB		1	
スピーキング I B	1			専門教育科目			
スピーキングⅢ	1			英語の発音 A	1		
リーディング I A	1			英語の発音 B	1		
リーディング I B	1			活用文法 A	2		
リーディングⅢ	1			活用文法 B	2		
ライティング I A	1			英米文学入門		2	
ライティング I B	1			American Culture (アメリカの文化)		4	
ライティングⅢ	1			American Society (アメリカの社会)		4	
TOEIC/TOEFL 演習 I	1			American Literature (アメリカの文学)		4	
TOEIC/TOEFL 演習Ⅱ	1			Business English Writing (ビジネス・イングリッシュ)		2	
TOEIC/TOEFL 演習Ⅲ		1		The Culture of the American Southwest (アメリカ南西部の文化)		4	
検定英語演習		1		Academic Writing (英文論文の書き方)		1	
資格認定英語 I		2		Public Speaking (パブリック・スピーキング)		2	
資格認定英語Ⅱ		2		University Preparation (ユニバーシティ・プレパレーション)		2	
資格認定英語Ⅲ		2		英米文学鑑賞		2	
資格認定英語Ⅳ		2		英語学入門		2	
SpeakingⅡF (スピーキングⅡF)		3		ビジネスコミュニケーション入門		2	
ReadingⅡF (リーディングⅡF)		3		Business English FF (ビジネス・イングリッシュFF)		2	
WritingⅡF (ライティングⅡF)		3		American Culture FF (アメリカ文化FF)		4	
Reading and Writing FF (リーディング・ライティングFF)		2		Academic Writing FF (英語論文作成法FF)		1	
Oral Communication FF (オーラルコミュニケーションFF)		2		Public Speaking FF (パブリック・スピーキングFF)		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
University Preparation FF (ユニバーシティ・プレパレーションFF)		2		児 童 英 語 教 育 B		2	
English and American Literature FF (英 米 文 学 F F)		2		卒 業 研 究 I A	2		
Introduction to English Linguistics FF (英 語 学 F F)		2		卒 業 研 究 I B	2		
Business Communication FF (ビジネスコミュニケーションFF)		2		卒 業 研 究 II	4		
G e r m a n FF (ド イ ツ 語 FF)		2		翻 訳 ワークショップ A		1	
F r e n c h FF (フ ラ ン ス 語 FF)		2		文 学 作 品 演 習 I A		1	
ド イ ツ 語 I		2	} ※必修6	文 学 作 品 演 習 II A		1	
ド イ ツ 語 II		2		ア メ リ カ 文 化 と 文 学 の 流 れ A		2	
ド イ ツ 語 III		2		翻 訳 ワークショップ B		1	
ド イ ツ 語 IV A		1		文 学 作 品 演 習 I B		1	
ド イ ツ 語 IV B		1		文 学 作 品 演 習 II B		1	
ド イ ツ 文 化 と 文 学 A		2		ア メ リ カ 文 化 と 文 学 の 流 れ B		2	
ド イ ツ 文 化 と 文 学 B		2		文 学 作 品 演 習 III A		1	
フ ラ ン ス 語 I		2	} ※必修6	イ ギ リ ス 文 化 と 文 学 の 流 れ A		2	
フ ラ ン ス 語 II		2		英 語 児 童 文 学 A		2	
フ ラ ン ス 語 III		2		文 学 作 品 演 習 III B		1	
フ ラ ン ス 語 IV A		1		イ ギ リ ス 文 化 と 文 学 の 流 れ B		2	
フ ラ ン ス 語 IV B		1		英 語 児 童 文 学 B		2	
フ ラ ン ス 文 化 と 文 学 A		2		現 代 コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 英 語 IA		1	
フ ラ ン ス 文 化 と 文 学 B		2	現 代 コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 英 語 II A		1		
国 際 社 会 と 英 語 情 報		2	※「ドイツ語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」または「フランス語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のいずれか6単位を必修	英 語 の 構 造 A		2	
ビ ジ ネ ス ・ ラ イ ティ ン グ A		2		英 語 の 文 化 的 背 景 A		2	
ビ ジ ネ ス ・ ラ イ ティ ン グ B		2		現 代 コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 英 語 IB		1	
英 語 デー タ ベー ス 活 用 法		1		現 代 コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 英 語 II B		1	
イ ン タ ラ ク ティ ブ ・ ウェ ブ		1		英 語 の 構 造 B		2	
メ デ ィ ア 英 語 A		2		英 語 の 文 化 的 背 景 B		2	
メ デ ィ ア 英 語 B		2		英 語 の 談 話 分 析 A		1	
最 新 の 企 業 実 務 A		2		現 代 コ ミ ュ ニ ケー シ ョ ン 英 語 III A		1	
最 新 の 企 業 実 務 B		2		英 語 の 歴 史 A		2	
児 童 英 語 教 育 A		2		英 語 の 談 話 分 析 B		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
現代コミュニケーション英語ⅢB		1					
英 語 の 歴 史 B		2					
ビジネス・イングリッシュIA		1					
ビジネスコミュニケーション演習		1					
ビジネス通訳基礎A		1					
ツ ー リ ズ ム 概 論		2					
ビジネス・イングリッシュIB		1					
ホスピタリティ英語		1					
ビジネス通訳基礎B		1					
グローバルビジネス論		2					
ビ ジ ネ ス 翻 訳 A		1					
ビジネス・イングリッシュIIA		1					
国 際 関 係 論 A		2					
ビ ジ ネ ス 翻 訳 B		1					
ビジネス・イングリッシュIIB		1					
国 際 関 係 論 B		2					
英米文化・文学演習A		1					
グローバル化と日本A		1					
英米文化・文学演習B		1					
グローバル化と日本B		1					
英 語 学 演 習 A		1					
会 議 通 訳 A		1					
国 際 関 係 論 講 義		2					
英 語 学 演 習 B		1					
会 議 通 訳 B		1					
グローバルビジネス研究		2					

教育学部 教育学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				発 達 心 理 学		2	
初 期 演 習 I	1			教 育 行 政 学	2		
初 期 演 習 II	1			特 別 支 援 教 育 総 論	2		
日 本 国 憲 法		2		国 際 教 育 論		2	
英 語 I	2			教 育 学 へ の 招 待		2	
英 語 II	2			器 楽 基 礎		1	
教 育 と I C T	2			子 ど も 家 庭 福 祉		2	
体 育 I		1		理 科 内 容 論		1	
体 育 II		1		音 楽 科 内 容 論		1	
T O E I C 認 定 英 語 I		2		体 育 科 内 容 論		1	
T O E I C 認 定 英 語 II		2		外 国 語 科 内 容 論		1	
T O E I C 認 定 英 語 III		2		国 語 科 教 育 法		2	
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		算 数 科 教 育 法		2	
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン I		1		社 会 科 教 育 法		2	
外 国 語 コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン II		1		理 科 教 育 法		2	
専門教育科目				生 活 科 教 育 法		2	
2 年 次 演 習	1			音 楽 科 教 育 法		2	
教 育 演 習	2			図 画 工 作 科 教 育 法		2	
卒 業 研 究	2			家 庭 科 教 育 法		2	
国 語 科 内 容 論		1		体 育 科 教 育 法		2	
算 数 科 内 容 論		1		外 国 語 科 教 育 法		2	
社 会 科 内 容 論		1		教 育 課 程 論		2	
生 活 科 内 容 論		1		道 徳 教 育 の 理 論 と 実 践		2	
家 庭 科 内 容 論		1		教 育 方 法 の 理 論 と 実 践	2		
図 画 工 作 科 内 容 論		1		生 徒 指 導 ・ 進 路 指 導 の 理 論 と 実 践		2	
保 育 内 容 総 論		2		教 育 相 談 の 理 論 と 実 践	2		
教 職 入 門		2	} 必修 2	特 別 活 動 の 指 導 法		2	
保 育 者 論		2		総 合 的 な 学 習 の 時 間 の 指 導 法		2	
教 育 原 理	2			学 校 教 育 参 加 実 習		1	
教 育 心 理 学 総 論	2			教 育 実 習 事 前 事 後 指 導 I (小 幼)		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
教育実習Ⅰ（小幼）		4		教室で使う英語表現		1	
教 職 実 践 演 習		2		教育プログラミング		2	
教 育 社 会 学		2		学 級 担 任 論		2	
教 育 史		2		教 科 指 導 演 習		1	
教 育 哲 学		2		教 職 総 合 実 践		1	
人権教育と福祉		2		教育実習事前事後指導Ⅱ(小)		1	
子ども理解と教育		2		教 育 実 習 Ⅱ（小）		2	
社 会 調 査 法 Ⅰ		1		知的障害者の心理・生理・病理		2	
学校教材としての文学		1		肢体不自由者の心理・生理・病理		2	
児 童 文 学 論		2		病弱者の心理・生理・病理		2	
日本現代文学の探究		2		L D 等 教 育 総 論		2	
言 語 学 概 論		2		教育課程・保育計画論		2	
英 語 文 法 論 Ⅰ		2		子 ど も と 健 康		1	
異文化理解とコミュニケーション		2		子 ど も と 人 間 関 係		1	
英 語 文 学 入 門		2		子 ど も と 環 境		1	
英 語 児 童 文 学		2		子 ど も と 言 葉		1	
時事問題と英語表現		2		保 育 内 容 ・ 健 康		2	
国際教育フィールドワークⅠ		1		保 育 内 容 ・ 環 境		2	
国際教育フィールドワークⅡ		1		保 育 内 容 ・ 人 間 関 係		2	
海外教育参加実習指導		1		保 育 内 容 ・ 言 葉		2	
海外教育参加実習		1		保 育 内 容 ・ 表 現 Ⅰ		1	
世界の子どもたち		1		保 育 内 容 ・ 表 現 Ⅱ		1	
子 ど も と 数 学		1		子 ど も 理 解 と 幼 児 教 育		2	
理 科 教 育 実 践		1		教育実習事前事後指導Ⅱ(幼)		1	
音 楽 科 教 育 実 践		1		教 育 実 習 Ⅱ（幼）		2	
子 ど も と 音 楽 表 現		1		特 別 支 援 教 職 論		2	
子 ど も と 造 形 表 現		1		知 的 障 害 教 育		2	
調理と裁縫の生活スキル		1		障 害 児 指 導 法		2	
子 ど も と 身 体 表 現		1		肢 体 不 自 由 教 育		2	
体 育 ・ ス ポ ー ツ 演 習		1		病 弱 教 育		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
知的障害教育総論		2		外国語コミュニケーションⅢ		1	
肢体不自由教育総論		2		外国語コミュニケーションⅣ		1	
病弱教育総論		2		ライティングⅠA		1	
視覚障害教育総論		2		ライティングⅠB		1	
聴覚障害教育総論		2		リーディングⅠA		1	
重複障害等教育総論		2		リーディングⅠB		1	
特別支援学校教育実習事前事後指導		1		中等英語科教育法Ⅰ		2	
特別支援学校教育実習		2		中等英語科教育法Ⅱ		2	
日本語表現Ⅰ		2		中等英語科教育法Ⅲ		2	
日本語表現Ⅱ		2		中等英語科教育法Ⅳ		2	
日本語学概論Ⅰ		2		教育実習事前事後指導(中)		1	
日本語学概論Ⅱ		2		教育実習(中)		4	
日本語文法		2		日本古典文学の探究Ⅰ		2	
日本語の歴史		2		日本古典文学の探究Ⅱ		2	
日本古典文学概論		2		日本近代文学の探究		2	
日本近代文学概論		2		英語文法論Ⅱ		2	
日本古典文学史		2		英語文学の探究		2	
日本近代文学史		2		外国語コミュニケーションⅤ		1	
漢文入門		2		教育実習事前事後指導Ⅰ(幼小)		1	
漢文学		2		教育実習Ⅰ(幼小)		4	
書道Ⅰ		2		保育・教職実践演習(幼)		2	
書道Ⅱ		2		教職総合実践(幼)		1	
中等国語科教育法Ⅰ		2		学級担任論(幼)		2	
中等国語科教育法Ⅱ		2		幼児教育実践演習		1	
中等国語科教育法Ⅲ		2		運動遊び演習		1	
中等国語科教育法Ⅳ		2		アンサンブルと弾き歌い		1	
英語学		2		保育原理		2	
英語文学と日本		2		社会福祉		2	
英語文学と世界		2		子ども家庭支援論		2	
異文化間教育Ⅰ		2		子ども家庭支援の心理学		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
社会的養護Ⅰ		2		環境教育論		2	
子どもの保健		2		地域問題研究		2	
子どもの食と栄養		2		データリテラシーと教育		2	
乳児保育Ⅰ		2					
乳児保育Ⅱ		1					
子どもの健康と安全		1					
障害児保育		2					
社会的養護Ⅱ		1					
子育て支援		1					
教育実習事前事後指導Ⅱ(小)		1					
教育実習Ⅱ(小)		2					
地域福祉論		2					
施設経営論		2					
家庭支援論演習		1					
保育実習指導ⅠA		1					
保育実習指導ⅠB		1					
保育実習Ⅰ(保育所)		2					
保育実習Ⅰ(施設)		2					
保育実習指導Ⅱ		1					
保育実習Ⅱ		2					
保育実習指導Ⅲ		1					
保育実習Ⅲ		2					
国際教育フィールドワークⅢ		1					
国際教育フィールドワークⅣ		1					
国際教育フィールドワークⅤ		1					
社会調査法Ⅱ		1					
共生社会論		2					
シティズンシップ教育		2					
グローバル社会論		2					
異文化間教育Ⅱ		2					

心理・社会福祉学部 心理学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				神 経 心 理 学		2	
人間と社会 (HEARTプログラムコア)	2			心理学的支援法Ⅰ		2	
初 期 演 習 Ⅰ	1			心理学的支援法Ⅱ		2	
初期演習Ⅱ (心理学実験演習)	1			認 知 心 理 学		2	
英 語 Ⅰ	2			グループダイナミクス		2	
英 語 Ⅱ	2			心 理 学 実 験		2	
Oral Communication Ⅰ		1		社 会 調 査 概 論		2	
Oral Communication Ⅱ		1		社 会 調 査 実 習		2	
T O E I C 認 定 英 語 Ⅰ		2		心理学日本語文献講読		2	
T O E I C 認 定 英 語 Ⅱ		2		心理学英語文献講読		2	
T O E I C 認 定 英 語 Ⅲ		2		心 理 学 統 計 法		2	
T O E I C 認 定 英 語 Ⅳ		2		応用心理学統計法		2	
専門教育科目				デ ー タ 処 理 論 Ⅰ		2	
心 理 学 概 論	2			デ ー タ 処 理 論 Ⅱ		2	
臨 床 心 理 学 概 論	2			障害者・障害児心理学		2	
心 理 学 史		2		臨 床 人 格 心 理 学		2	
感 情 ・ 人 格 心 理 学		2		言 語 心 理 学		2	
メディアリテラシー		2		プロジェクトマネジメントの実践		2	
発 達 心 理 学 Ⅰ		2		行 動 変 容 ・ ナ ッ ジ		2	
発 達 心 理 学 Ⅱ		2		公 認 心 理 師 の 職 責		2	
心 理 学 研 究 法		2		教 育 ・ 学 校 心 理 学		2	
臨 床 心 理 学 研 究 法		2		健 康 ・ 医 療 心 理 学		2	
知 覚 ・ 認 知 心 理 学		2		司 法 ・ 犯 罪 心 理 学		2	
学 習 ・ 言 語 心 理 学		2		消 費 者 心 理 学		2	
神 経 ・ 生 理 心 理 学		2		デ ー タ 解 析 法		2	
社 会 ・ 集 団 ・ 家 族 心 理 学		2		質 的 デ ー タ 解 析 法		2	
リ ス ク 心 理 学		2		心理的アセスメント(概論)		2	
コミュニケーション論		2		心理的アセスメント(実習)		2	
人体の構造と機能及び疾病		2		社 会 実 践 実 習 Ⅰ		1	
精神疾患とその治療		2		社 会 実 践 実 習 Ⅱ		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
福 祉 心 理 学		2					
産 業・組 織 心 理 学		2					
関 係 行 政 論		2					
マ ー ケ テ ィ ン グ 論		2					
感 性 心 理 学		2					
臨 床 社 会 心 理 学		2					
心 理 演 習		2					
心 理 実 習		1					
心 理 実 習 指 導		1					
コ ミ ュ ニ テ ィ 心 理 学		2					
経 済 心 理 学		2					
環 境 心 理 学		2					
多 文 化 社 会 概 論		2					
社 会 貢 献 と ボ ラ ン テ ィ ア		2					
N G O ・ N P O 概 論		2					
ソ ー シ ャ ル ビ ジ ネ ス 概 論		2					
フ ェ ア ト レ ー ド 概 論		2					
虐 待 と ソ ー シ ャ ル ワ ー ク		2					
共 生 の 社 会 心 理		2					
ジ ェ ン ダ ー と 開 発		2					
ス ー パ ー ビ ジ ョ ン 論		2					
多 文 化 社 会 の コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン		2					
ス ク ー ル ソ ー シ ャ ル ワ ー ク		2					
専 門 演 習 I A	1						
専 門 演 習 I B	1						
専 門 演 習 II A	1						
専 門 演 習 II B	1						
卒 業 研 究	6						
プ レ プ ロ フ ェ ッ シ ョ ナ ル 教 育		2					

心理・社会福祉学部 社会福祉学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				福祉サービスの組織と経営		2	
人間と社会 (HEARTプログラムコア)	2			更生保護制度		2	
初期演習 I	1			社会保障論 A		2	
初期演習 II (社会福祉)	1			社会保障論 B		2	
心理学概論	2			保健医療サービス		2	
ソーシャルワーク概論 A	2			ソーシャルワーク論 I A		2	
ソーシャルワーク概論 B	2			ソーシャルワーク論 I B		2	
人体の構造と機能及び疾病		2		ソーシャルワーク論 II A		2	
社会学		2		ソーシャルワーク論 II B		2	
多文化社会概論	2			ソーシャルワーク演習 I A		2	
社会貢献とボランティア		2		ソーシャルワーク演習 I B		2	
英語 I	2			ソーシャルワーク演習 II A		2	
英語 II	2			ソーシャルワーク演習 II B		2	
Oral Communication I		1		ソーシャルワーク演習 III		2	
Oral Communication II		1		ソーシャルワーク実習指導 I		1	
TOEIC 認定英語 I		2		ソーシャルワーク実習指導 II		1	
TOEIC 認定英語 II		2		ソーシャルワーク実習 I		1	
TOEIC 認定英語 III		2		ソーシャルワーク実習 II		5	
TOEIC 認定英語 IV		2		医療ソーシャルワーク		2	
専門教育科目				虐待とソーシャルワーク		2	
権利擁護と成年後見制度		2		スーパービジョン論		2	
児童・家庭福祉論		2		スクールソーシャルワーク		2	
障害者福祉論		2		社会福祉事業史		2	
高齢者福祉論		2		社会福祉特講		2	
地域福祉論 A		2		専門演習 I A	1		
地域福祉論 B		2		専門演習 I B	1		
社会調査法		2		専門演習 II A	1		
現代社会と福祉 A		2		専門演習 II B	1		
現代社会と福祉 B		2		卒業論文	6		
公的扶助論		2		精神保健 A		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
精 神 保 健 B		2		フイールド調査の基礎	2		
精神保健福祉の原理 A		2		フイールドワーク演習 I	1		
精神保健福祉の原理 B		2		フイールドワーク演習 II	1		
精神障害リハビリテーション論		2		フイールドワーク実習指導 I		1	
精神保健福祉制度論		2		フイールドワーク実習指導 II		1	
精神疾患とその治療 A		2		フイールドワーク実習指導 III		1	
精神疾患とその治療 B		2		フイールドワーク実習		1	
ソーシャルワークの理論と方法 (専門) A		2		知覚・認知心理学		2	
ソーシャルワークの理論と方法 (専門) B		2		学習・言語心理学		2	
ソーシャルワーク演習 (専門) A		2		感情・人格心理学		2	
ソーシャルワーク演習 (専門) B		2		神経・生理心理学		2	
ソーシャルワーク演習 (専門) C		2		社会・集団・家族心理学		2	
ソーシャルワーク実習指導 III		1		発達心理学 I		2	
ソーシャルワーク実習指導 IV		1		障害者・障害児心理学		2	
ソーシャルワーク実習 III		3		心理学的支援法 I		2	
ソーシャルワーク実習 IV		2		リスク心理学		2	
多文化社会実践論		2		コミュニケーション論		2	
多文化社会のコミュニケーション		2		グループダイナミクス		2	
多文化社会のソーシャルワーク I		2		消費者心理学		2	
多文化社会のソーシャルワーク II		2		マーケティング論		2	
N G O ・ N P O 概 論	2			プレプロフェッショナル教育		2	
NGO・NPO マネジメント演習		1					
ソーシャルビジネス概論	2						
ソーシャルビジネス・マネジメント		2					
ソーシャルビジネス計画演習		1					
フェアトレード概論		2					
共生の社会心理		2					
コミュニティメディア論		2					
コミュニティ防災論		2					
ジェンダーと開発		2					

健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				公 衆 衛 生 学		2	} 必修 1
初 期 演 習 I	1		発 育 発 達 ・ 老 化 論		2		
初期演習II (健康・スポーツ)	1		ス ポ ー ツ 指 導 論		2		
健康・スポーツ科学論	2		ス ポ ー ツ 社 会 学		2		
スポーツの文化・歴史	2		ス ポ ー ツ 行 政 ・ 法 規		2		
情報リテラシー	2		ス ポ ー ツ 経 営 管 理 学		2		
基 礎 英 語 I	1		体 力 の 測 定 評 価 演 習		2		
基 礎 英 語 II	1		ス ポ ー ツ 心 理 学 実 験		1		
Oral Communication I	1		運 動 生 理 学 実 験		1		
Oral Communication II	1		バ イ オ メ カ ニ ク ス 実 験		1		
T O E I C 認 定 英 語 I		2	専 門 英 語 A		1		
T O E I C 認 定 英 語 II		2	専 門 英 語 B		1		
T O E I C 認 定 英 語 III		2	コ ー チ ン グ 論		2		
T O E I C 認 定 英 語 IV		2	健 康 ・ ス ポ ー ツ カ ウ ン セ リ ン グ		2		
健 康 科 学 I		2	生 活 習 慣 病 論		2		
専門教育科目				運 動 処 方		2	
ス ポ ー ツ 心 理 学		2	フ ィ ッ ト ネ ス 指 導 法		2		
ス ポ ー ツ 栄 養 学		2	介 護 法 ・ 介 護 予 防 演 習		2		
運 動 生 理 学		2	運 動 療 法 演 習		2		
ス ポ ー ツ 医 学		2	健 康 行 動 科 学 ・ 演 習		2		
ス ポ ー ツ 運 動 学		2	健 康 ・ ス ポ ー ツ 実 践 実 習		1		
体 育 原 理		2	レ ク リ エ ー シ ョ ン 論		2		
運動器の解剖と機能I		2	レ ク リ エ ー シ ョ ン 指 導 法 演 習		1		
運動器の解剖と機能II		2	レ ク リ エ ー シ ョ ン 指 導 法 実 習		1		
スポーツ外傷・障害の基礎知識I		2	障 が い 者 ス ポ ー ツ 論 I		2		
スポーツトレーニングの科学I		2	障 が い 者 ス ポ ー ツ 論 II		2		
アスレティックトレーニング論		2	障 が い 者 ス ポ ー ツ 指 導 法		2		
救 急 処 置 演 習	1		ス イ ミ ン グ		1		
バ イ オ メ カ ニ ク ス		2	ト ラ ッ ク ア ン ド フ ィ ー ル ド		1		
学 校 保 健		2					

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
体 操		1	} 必修 1	教 職 入 門		2	} *必修 3 ※「パフォーマンス向上論」・「パフォーマンス向上演習」又は「ジュニアスポーツ指導論」・「ジュニアスポーツ指導演習」のいずれか・3単位を必修
器 械 運 動		1		教 育 原 理		2	
バ レ ー ボ ー ル		1	} 必修 1	教 育 史		2	
バ ス ケ ッ ト ボ ー ル		1		教 育 心 理 学		2	
ハ ン ド ボ ー ル		1		発 達 心 理 学		2	
柔 道		1	} 必修 1	教 育 行 政 学		2	
剣 道		1		教 育 課 程 総 論		2	
ダ ン ス I	1			教育方法の理論と実践		1	
ダ ン ス II		1		ICT 活用の理論と実践		1	
ダ ン ス III		1		道 徳 教 育 指 導 論		2	
卓 球		1		生徒指導・進路指導		2	
バ ド ミ ン ト ン		1		教育相談の理論と方法		2	
保 健 体 育 科 指 導 法 I		2		教育実習事前事後指導(中高)		1	
保 健 体 育 科 指 導 法 II		2		教育実習 I (中高)		2	
保 健 体 育 科 指 導 法 III		2		教育実習 II (中高)		2	
保 健 体 育 科 指 導 法 IV		2		教職実践演習(中高)		2	
保 健 体 育 科 指 導 法 (陸上競技・水泳)		1		特 別 支 援 教 育 論		2	
保 健 体 育 科 指 導 法 (球技)		1		総合的な学習の時間と特別活動		2	
保 健 体 育 科 指 導 法 (武 道 ・ ダ ン ス)		1		教育実習事前指導(中高)		1	
保 健 体 育 科 指 導 法 (体 つ く り 運 動 ・ 器 械 運 動)		1		スポーツ外傷・障害の基礎知識II		2	
エ ア ロ ビ ッ ク ダ ン ス		1		コンディショニング指導論		2	
ア ク ア エ ク サ サ イ ズ		1		コンディショニング指導演習 I		2	
海 外 の 健 康 ・ ス ポ ー ツ の 研 究		2		コンディショニング指導演習 II		2	
マ リ ン ス ポ ー ツ 実 習		1	} 必修 1	検 査 ・ 測 定 評 価 実 習 I		1	
キ ャ ン プ 実 習		1		パ フ ォ ー マ ン ス 向 上 論		2	
ス ノ ー ス ポ ー ツ 実 習		1		パ フ ォ ー マ ン ス 向 上 演 習		1	
健 康 ・ ス ポ ー ツ 科 学 の 統 計 学 演 習		1		ジュニアスポーツ指導論		2	
2 年 次 演 習	1			ジュニアスポーツ指導演習		1	
卒 業 研 究 I	2			健康管理とスポーツ医学		2	
卒 業 研 究 II	4			A T 実 践 実 習		2	
				ス ポ ー ツ ト レ ー ニ ン グ の 科 学 II		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
検査・測定評価実習Ⅱ		1					
アスレティックトレーニングⅠ		2					
アスレティックトレーニングⅡ		2					
アスレティックトレーニングⅢ		2					
スポーツの心理と栄養		2					
健 康 科 学 Ⅱ		2					
プレプロフェッショナル教育		2					

健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				アカウンティングⅠ		2	
初 期 演 習 Ⅰ	1			アカウンティングⅡ		2	
初期演習Ⅱ(スポーツマネジメント)	1			実務技能対策論		2	
健康・スポーツ科学論	2			経 営 組 織 論		2	
スポーツの文化・歴史	2			ファイナンシャルマネジメント		2	
情報リテラシー	2			消費者行動論		2	
基礎英語Ⅰ	1			販 売 管 理 論		2	
基礎英語Ⅱ	1			マーチャンダイジング		2	
Oral CommunicationⅠ	1			ヒューマンリソースマネジメント		2	
Oral CommunicationⅡ	1			スポーツマネジメント学内演習	2		
TOEIC認定英語Ⅰ		2		スポーツマネジメント学外実習		1	
TOEIC認定英語Ⅱ		2		専 門 英 語 A		1	
TOEIC認定英語Ⅲ		2		専 門 英 語 B		1	
TOEIC認定英語Ⅳ		2		海外のスポーツビジネス研究		2	
専門教育科目				ス ポ ー ツ 心 理 学		2	
スポーツビジネス最前線	2			ス ポ ー ツ 栄 養 学		2	
スポーツ産業と政策		2		運 動 生 理 学		2	
スポーツビジネス論	2			ス ポ ー ツ 医 学		2	
スポーツマネジメント論	2			ス ポ ー ツ 運 動 学		2	
スポーツマーケティング論	2			体 育 原 理		2	
スポーツガバナンス論		2		運動器の解剖と機能		2	
スポーツ情報・メディア論		2		スポーツトレーニングの科学		2	
スポーツイノベーション論		2		救 急 処 置 演 習	1		
ホスピタリティマネジメント論		2		バイオメカニクス		2	
地域スポーツマネジメント論		2		学 校 保 健		2	
スポーツイベントの企画・運営		2		公 衆 衛 生 学		2	
スポーツ施設マネジメント論		2		発 育 発 達 ・ 老 化 論		2	
トップスポーツ経営論		2		ス ポ ー ツ 指 導 論		2	
スポーツ・ヘルスツーリズム論		2		ス ポ ー ツ 社 会 学		2	
ヘルスケアマネジメント論		2		ス ポ ー ツ 行 政 ・ 法 規		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
スポーツ経営管理学		2		バドミントン		1	
体力の測定評価演習		2		保健体育科指導法Ⅰ		2	
コーチング論		2		保健体育科指導法Ⅱ		2	
健康・スポーツカウンセリング		2		保健体育科指導法Ⅲ		2	
生活習慣病論		2		保健体育科指導法Ⅳ		2	
運動処方		2		保健体育科指導法(体づくり運動・器械運動)		1	
フィットネス指導法		2		保健体育科指導法(陸上競技・水泳)		1	
介護法・介護予防演習		2		保健体育科指導法(球技)		1	
運動療法演習		2		保健体育科指導法(武道・ダンス)		1	
健康行動科学・演習		2		エアロビックダンス		1	
健康・スポーツ実践実習		1		アクアエクササイズ		1	
レクリエーション論		2		マリンスポーツ実習		1	} 必修1
レクリエーション指導法演習		1		キャンプ実習		1	
レクリエーション指導法実習		1		スノースポーツ実習		1	
障がい者スポーツ論Ⅰ		2		健康・スポーツ科学の統計学演習		1	
障がい者スポーツ論Ⅱ		2		卒業研究Ⅰ	2		
障がい者スポーツ指導法		2		卒業研究Ⅱ	4		
スイミング		1		プレプロフェッショナル教育		2	
トラックアンドフィールド		1					
体 操		1					
器 械 運 動		1					
バレーボール		1					
バスケットボール		1					
ハンドボール		1					
柔 道		1					
剣 道		1					
ダンスⅠ	1						
ダンスⅡ		1					
ダンスⅢ		1					
卓 球		1					

生活環境学部 生活環境学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				統 計 学 II		2	
初 期 演 習 I	1			阪 神 間 文 化 論		2	
初期演習II (生活環境)	1			生 活 美 学		2	
情 報 リ テ ラ シ ー	2			生 活 文 化 演 習 I		2	
Oral Communication		2		生 活 文 化 演 習 II		2	
生 活 環 境 英 語		2		生 活 文 化 演 習 III		2	
T O E I C 認 定 英 語 I		2		界 面 科 学		2	
T O E I C 認 定 英 語 II		2		界 面 科 学 実 験		2	
T O E I C 認 定 英 語 III		2		織 維 学		2	
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		織 維 科 学 実 験		2	
専門教育科目				織 維 製 品 材 料 学		2	
生 活 環 境 論		2		織 維 製 品 材 料 学 実 験		2	
基 礎 造 形 実 習		2		工 芸 染 色 実 習		2	
生 活 科 学		2		被 服 学 総 合 演 習 I		2	
ファッションビジネス論		2		被 服 学 総 合 演 習 II		2	
ア パ レ ル 構 成 学		2		衣 環 境 学		2	
住 居 学		2		衣 環 境 実 験		2	
建 築 概 論		2		染 色 加 工 学		2	
基 礎 ・ 設 計 製 図 演 習		2		染 色 加 工 学 実 験		2	
生 活 科 学 演 習		2		衣 料 分 析 法		2	
服 飾 デ ザ イン 論		2		衣 料 分 析 実 験		2	
アパレル構成学実習I		2		消 費 科 学		2	
インテリアデザイン論		2		消 費 生 活 論		2	
グラフィックデザイン基礎実習		2		アパレル設計生産論		2	
環 境 共 生 概 論		2		アパレル生産実習A		2	
環 境 デ ザ イン 演 習		2		アパレル生産実習B		2	
建 築 設 計 基 礎 実 習		2		アパレル構成学実習II		1	
ま ち づ くり 基 礎 演 習		2		ア パ レ ル 企 画 論		2	
色 彩 学		2		ス タ イ ル 画 実 習		1	
統 計 学 I		2		テキスタイルデザイン実習I		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
テキスタイルデザイン実習Ⅱ		2		建築材料学実験		2	
ドラフティングCAD実習Ⅰ		1		建築施工		2	
ドラフティングCAD実習Ⅱ		1		建築計画学Ⅰ		2	
ドレーピング実習		2		建築計画学Ⅱ		2	
ファッションコンピュータ実習		2		住宅設計		2	
V M D 演 習		2		建築CAD実習		2	
服 飾 史		2		建築・インテリア設計Ⅰ		4	
現代ファッション論		2		建築・インテリア設計Ⅱ		3	
ファッションデザイン演習		2		建築・インテリア設計Ⅲ		3	
生活デザイン論		2		世界建築史		2	
生活デザイン実習Ⅰ		2		日本建築史		2	
生活デザイン実習Ⅱ		2		近代建築論		2	
生活デザイン実習Ⅲ		2		現代建築論		2	
生活デザイン実習Ⅳ		2		建築一般構造Ⅰ		2	
デザイン技法Ⅰ		2		建築一般構造Ⅱ		2	
デザイン技法Ⅱ		2		構造力学Ⅰ		2	
デザインリサーチ実習		2		構造力学Ⅰ演習		1	
視覚文化論		2		構造力学Ⅱ		2	
インテリアテキスタイル概論		2		構造力学Ⅱ演習		1	
人間工学		2		建築法規		2	
人間工学実験		2		測量実習		2	
環境計画Ⅰ		2		景観論		2	
環境計画実習Ⅰ		2		まちづくり論Ⅰ		2	
環境計画Ⅱ		2		まちづくり論Ⅱ		2	
環境計画実習Ⅱ		2		フィールドデザイン演習Ⅰ		2	
環境計画Ⅲ		2		フィールドデザイン演習Ⅱ		2	
環境リスク学		2		フィールドデザイン演習Ⅲ		3	
福祉生活環境概論		2		フィールドデザイン特別演習		2	
福祉住環境実習		2		フィールド・サーヴェイ実習		1	
建築設備		2		プレゼンテーション演習		2	
建築材料学		2		造園学・同演習		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
家 庭 生 活 論		2					
保 育 学		2					
調 理 学 実 習		2					
家 庭 工 学		2					
食 物 学		2					
テキスタイルアドバイザー実習		1					
海 外 語 学 研 修		3					
海外の生活環境研修 I		1					
海外の生活環境研修 II		2					
卒 業 基 礎 演 習	2						
卒 業 研 究	6						

社会情報学部 社会情報学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				経 営 情 報 演 習		2	
初 期 演 習 I	1			地 域 産 業 論		2	
初期演習Ⅱ (社会情報入門)	1			IT 活 用 と ビ ジ ネ ス		2	
データ・情報リテラシー	2			コ ミ ュ ニ ティ ビ ジ ネ ス 論		2	
Oral Communication I		1		コ ン テ ン ツ プ ラ ン ニ ン グ 演 習		2	
Oral Communication II		1		衣 生 活 情 報 論		2	
T O E I C 認 定 英 語 I		2		企 業 経 営 論		2	
T O E I C 認 定 英 語 II		2		消 費 者 経 済 学		2	
T O E I C 認 定 英 語 III		2		マ ー ケ ッ ト デ ザ イン 演 習		2	
T O E I C 認 定 英 語 IV		2		情 報 科 学 入 門	2		
専門教育科目				コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク 入 門		2	
情報とコミュニケーション		2		コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク 演 習		2	
メ デ ィ ア 論		2		コ ン ピ ュ ー タ ネ ッ ト ワ ー ク 論		2	
コンセプトデザイン論		2		プ ロ グ ラ ミ ン グ 入 門		2	
ネットワーク社会論		2		プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 I		2	
SNSリテラシー演習		2		プ ロ グ ラ ミ ン グ 演 習 II		2	
科学技術と社会		2		ウ ェ ブ 入 門		2	
メディアと生活文化		2		ウ ェ ブ プ ロ グ ラ ミ ン グ		2	
メディアカルチャー論		2		ウ ェ ブ ア プ リ ケ ー シ ョ ン 設 計		2	
メディア産業論		2		ウ ェ ブ ア プ リ ケ ー シ ョ ン 開 発 演 習		2	
文化社会学		2		ウ ェ ブ エ ン ジ ニ ア リ ン グ		2	
文化社会学演習		2		ウ ェ ブ コ ン ピ ュ ー テ ィ ン グ 論		2	
映像文化史		2		デ ー タ ベ ー ス 入 門		2	
組織コミュニケーション論		2		ア ル ゴ リ ズ ム 論		2	
マーケティング論		2		シ ス テ ム セ キ ュ リ ティ 入 門		2	
マーケティング戦略論		2		情 報 セ キ ュ リ ティ 論		2	
広告メディア論		2		情 報 基 礎 数 学		2	
広告メディア演習		2		情 報 数 学		2	
グローバルビジネス論		2		ソ フ ト ウ ェ ア エ ン ジ ニ ア リ ン グ		2	
経営情報論		2		ソ フ ト ウ ェ ア 工 学 演 習		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
シ ス テ ム 設 計		2		情 報 英 語 II		2	
シ ス テ ム 設 計 演 習		2		社 会 情 報 学 概 論	2		
プ ラ ッ ト フ ォ ー ム 概 論		2		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 入 門		2	
ユ ー ザ イン タ フ ェ ー ス 論		2		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 I		2	
A I 入 門		2		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 II		2	
A I 概 論		2		プ ロ ジ ェ ク ト 演 習 III		2	
A I 演 習		2		ハ ッ カ ソ ン		2	
統 計 学 I	2			卒 業 基 礎 研 究	4		
統 計 学 II		2		卒 業 基 礎 演 習 I	2		
社 会 調 査 入 門		2		卒 業 基 礎 演 習 II	2		
社 会 調 査 I		2		卒 業 研 究	4		
社 会 調 査 II		2		キ ャ リ ア プ ラ ン ニ ン グ		1	
社 会 調 査 演 習		2		生 涯 学 習 論		2	
デ ー タ サ イ エ ン ス 基 礎 演 習		2					
デ ー タ サ イ エ ン ス 演 習 A		2					
デ ー タ サ イ エ ン ス 演 習 B		2					
デ ー タ サ イ エ ン ス 演 習 C		2					
デ ー タ サ イ エ ン ス 演 習 D		2					
デ ー タ サ イ エ ン ス 論 A		2					
デ ー タ サ イ エ ン ス 論 B		2					
ICT 社 会 の ビ ジ ネ ス	2						
IT パ ス ポ ー ト 認 定 情 報 技 術		2					
オ フ ィ ス ツ ー ル の 活 用		2					
デ ジ タ ル 表 現 入 門		2					
デ ジ タ ル 表 現		2					
色 彩 情 報 論		2					
色 彩 情 報 演 習		2					
情 報 倫 理		2					
ウ ェ ブ デ ザ イン 演 習		2					
情 報 英 語 I		2					

食物栄養科学部 食物栄養学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				生 化 学 II		2	
初 期 演 習 I	1			生 化 学 実 験	1		
初期演習Ⅱ(食物栄養学入門)	1			臨床病原微生物学		2	
食物栄養科学概論	1			臨床医学Ⅰ	2		
管理栄養士論	1			臨床医学Ⅱ		2	
基礎化学	2			臨床学実習		1	
基礎化学実験	1			食 品 学	2		
栄養学の基礎	2			食品学実験	1		
食品素材学	2			食品加工学実験		1	
微生物学	2			食品機能学		2	
食文化論	2			食品機能学実験		1	
TOEIC Preparation I		1		食品衛生学	2		
TOEIC Preparation II		1		食品衛生学実験	1		
栄養学英語Ⅰ	2			調 理 学	2		
栄養学英語Ⅱ	2			調理学実習Ⅰ		1	
予防医学概論	1			調理学実習Ⅱ		1	
栄養統計学	2			基礎栄養学	2		
疫 学	1			基礎栄養学実験	1		
食事調査法演習	1			応用栄養学Ⅰ	2		
食事摂取基準論	1			応用栄養学Ⅱ		2	
健康科学Ⅰ		2		応用栄養学Ⅲ		2	
専門教育科目				応用栄養学実習	1		
公衆衛生学	2			栄養教育論Ⅰ	2		
公衆衛生学実習		1		栄養教育論Ⅱ	2		
環境科学		2		栄養教育論Ⅲ		2	
社会福祉概論	2			栄養教育論実習Ⅰ	1		
解剖生理学Ⅰ	2			栄養教育論実習Ⅱ	1		
解剖生理学Ⅱ	2			臨床栄養学Ⅰ	2		
解剖生理学実習	1			臨床栄養学Ⅱ	2		
生 化 学 I	2			臨床栄養学Ⅲ		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
臨 床 栄 養 学 IV		2					
臨 床 栄 養 学 実 習 I	1						
臨 床 栄 養 学 実 習 II	1						
公 衆 栄 養 学 I	2						
公 衆 栄 養 学 II		2					
公 衆 栄 養 学 実 習	1						
給 食 経 営 管 理 論 I	2						
給 食 経 営 管 理 論 II	2						
給 食 経 営 管 理 学 実 習	1						
管 理 栄 養 総 合 演 習 I		1					
管 理 栄 養 総 合 演 習 II		1					
臨 地 実 習 I	1						
臨 地 実 習 II		2					
臨 地 実 習 III	1						
分 子 栄 養 学		2					
在 宅 栄 養 ケ ア 支 援 論		2					
リハビリテーション栄養学		1					
健 康 ス ポ ー ツ 栄 養 学		2					
国 際 栄 養 学 演 習		4					
食 糧 経 済 学		2					
卒 業 英 語 演 習 I	1						
卒 業 英 語 演 習 II	1						
卒 業 研 究 方 法 論	1						
卒 業 論 文		6	} 必修6				
卒 業 演 習		6					
学 校 栄 養 教 育 ・ 指 導 論 I		2					
学 校 栄 養 教 育 ・ 指 導 論 II		2					
健 康 科 学 II		2					
プレプロフェッショナル教育		2					

食物栄養科学部 食創造科学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				臨床栄養学概論	2		
初期演習Ⅰ	1			臨床栄養学実習	1		
初期演習Ⅱ(食創造の可能性)	1			栄養教育論Ⅰ	2		
基礎化学	2			栄養教育論Ⅱ	2		
食品化学	2			栄養教育論実習Ⅰ	1		
食品化学実験	1			栄養教育論実習Ⅱ	1		
食物栄養科学概論	1			公衆栄養学	2		
統計学	2			調理学	2		
実践TOEIC演習Ⅰ	1			調理学実習Ⅰ	1		
実践TOEIC演習Ⅱ	1			調理学実習Ⅱ	1		
専門教育科目				給食管理論	2		
社会福祉概論	2			給食管理学実習	2		
公衆衛生学	2			校外実習	1		
解剖生理学	2			食品産業論実習Ⅰ	1		
解剖生理学実習	1			食品産業論実習Ⅱ	1		
臨床医学	2			食品製造学Ⅰ	2		
生化学Ⅰ	2			食品製造学Ⅱ	2		
生化学Ⅱ	2			食品産業論	2		
生化学実験	1			異文化コミュニケーション論	2		
食品学	2			フードサイエンス英語Ⅰ	2		
食品学実験	1			フードサイエンス英語Ⅱ	2		
食品加工学	2			食品開発論	2		
食品加工学実習	1			栄養資源開発論		2	
食品衛生学	2			調理科学	2		
食品衛生学実験	1			調理科学実験	1		
基礎栄養学	2			バイオテクノロジー概論		2	
基礎栄養学実験	1			食品機能学	2		
応用栄養学Ⅰ	2			官能評価・鑑別論		2	
応用栄養学Ⅱ	2			食品安全学Ⅰ	2		
応用栄養学実習	1			食品安全学Ⅱ		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考	
	必修	選択			必修	選択		
食 品 安 全 学 実 験	1			実 践 英 会 話 I		2	※選必	
グローバルレギュラトリーサイエンス		2		実 践 英 会 話 II		2		
H A C C P 管 理 実 践 論		2		実 践 英 会 話 III		2		
マ ー ケ ッ ト リ サ ー チ 法	1			実 践 英 会 話 IV		2		
フ ー ド ビ ジ ネ ス 論 I	2			実 践 英 会 話 V		2		
フ ー ド ビ ジ ネ ス 論 II	2			卒業演習 (国際インターンシップ含む)		6	※※選必	
補 完 代 替 医 学		2						
比 較 食 文 化 論		2						
卒 業 英 語 演 習 I		1	※選必					
卒 業 英 語 演 習 II		1	※選必					
卒 業 論 文		6	※※選必					
卒 業 演 習		6	※※選必					
食 経 営 学		2						
フ ー ド デ ザ イン 演 習		1	※「卒業英語演習 I」、「卒業英語演習 II」、「実践英会話 I」のうち2単位必修。					
メ ニ ュ ー 企 画 ・ 開 発 論		2						
メ ニ ュ ー 企 画 ・ 開 発 実 習		1						
食 マ ー ケ テ ィ ン グ 演 習 I		1						
食 マ ー ケ テ ィ ン グ 演 習 II		1						
イ ン タ ー シ ッ プ (フ ー ド マ ネ ジ メ ン ト)		2						
食 品 機 器 分 析 学		2		※※「卒業論文」、「卒業演習」、「卒業演習 (国際インターンシップ含む)」のうち6単位必修。				
食 品 機 器 分 析 学 実 験 I		1						
食 品 機 器 分 析 学 実 験 II		1						
実 験 計 画 法 演 習		1						
イ ン タ ー シ ッ プ (フ ー ド イ ノ ベ ー シ ョ ン)		2						
グ ロ ー バ ル フ ー ド 研 修 事 前 演 習		1						
食 の 国 際 理 解		2						
グ ロ ー バ ル フ ー ド 学		2						
国 際 食 流 通 論		2						
国 際 食 科 学		2						
国 際 食 科 学 演 習		1						

建築学部 建築学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				建築環境工学Ⅰ	2		
初期演習Ⅰ	1			建築環境工学Ⅱ	2		
初期演習Ⅱ（建築入門）	1			建築環境工学実験	2		
建築英語Ⅰ	2			建築環境工学Ⅲ		2	※選必
建築英語Ⅱ	2			建築設備Ⅰ	2		
建築英語Ⅲ	2			建築設備Ⅱ		2	※選必
建築英語Ⅳ	2			建築構造力学Ⅰ	2		
建築数学	2			建築構造力学Ⅱ	2		
建築物理	2			地盤・振動論		2	※選必
専門教育科目				建築一般構造Ⅰ	2		
空間表現演習Ⅰ	5			建築一般構造Ⅱ	2		
空間表現演習Ⅱ	5			建築各種構造		2	※選必
建築設計演習Ⅰ	5			建築材料	2		
建築設計演習Ⅱ	5			建築構造材料実験	2		
建築設計演習Ⅲ	6			建築生産	2		
建築設計演習Ⅳ	6			建築施工	2		
建築設計演習Ⅴ	6			建築法規Ⅰ	2		
図学・情報基礎演習Ⅰ	2			建築法規Ⅱ	2		
図学・情報基礎演習Ⅱ	2			都市計画・デザイン論	2		
CAD・CG応用演習Ⅰ	2			造園学		2	※選必
CAD・CG応用演習Ⅱ	2			測量実習	2		
卒業研究	6			建築フィールドワークⅠA		1	
現代建築論	2			建築フィールドワークⅠB		1	
建築設計計画Ⅰ	2			建築フィールドワークⅡA		1	
建築設計計画Ⅱ	2			建築フィールドワークⅡB		1	※選必から8単位を必修
建築設計計画Ⅲ	2			建築フィールドワークⅢA		1	
建築設計計画Ⅳ	2			建築フィールドワークⅢB		1	
日本建築史	2			建築フィールドワークⅣ		1	
世界建築史	2			海外研修		2	
近代建築史	2						

建築学部 景観建築学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				構 造 力 学 I	2		
初 期 演 習 I	1			構 造 力 学 II	2		
初期演習II (景観建築入門)	1			建 築 一 般 構 造 I	2		
景 観 建 築 英 語 I	2			建 築 一 般 構 造 II	2		
景 観 建 築 英 語 II	2			建 設 材 料	2		
景 観 建 築 英 語 III	2			建 築 生 産	2		
景 観 建 築 英 語 IV	2			建 築 施 工		2	※選必
景 観 建 築 数 学	2			建 築 法 規 I	2		
景 観 建 築 物 理	2			建 築 法 規 II		2	※選必
生 態 学	2			測 量 学	2		
専門教育科目				都 市 計 画	2		
表 現 基 礎 演 習	4			環 境 職 業 倫 理	2		
設 計 基 礎 演 習	4			土 質 力 学		2	※選必
景観建築設計演習I	4			水 理 学		2	※選必
景観建築設計演習II	4			自 然 環 境 保 全 学	2		
景観建築設計演習III	6			文 化 遺 産 保 全 学		2	※選必
景観建築設計演習IV	6			流 域 保 全 学		2	※選必
景観建築設計演習V	6			日 本 庭 園 史	2		
景観映像情報基礎	2			世 界 庭 園 史	2		
測 量 学 実 習	2			景 観 建 築 原 論	2		
景観映像情報演習I	2			景 観 緑 地 計 画 論	2		
景観映像情報演習II	2			景 観 設 計 施 工 技 術		2	※選必
卒 業 研 究	6			景 観 建 築 植 物 学	2		
日 本 建 築 史	2			景 観 建 築 植 物 実 習 I		1	※選必
世 界 建 築 史	2			景 観 建 築 植 物 実 習 II		1	※選必
近 代 建 築 史	2			建 築 都 市 緑 化 実 習 I		1	※選必
建 築 計 画	2			建 築 都 市 緑 化 実 習 II		1	※選必
建 築 環 境 工 学 I	2			建 築 都 市 緑 化 実 習 III		1	※選必
建 築 環 境 工 学 II		2	※選必	建 築 都 市 緑 化 実 習 IV		1	※選必
建 築 設 備	2			景 観 建 築 特 別 実 習 I		1	※選必

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
景観建築特別実習Ⅱ		1	※選必				
景観建築フィールドワークⅠA		1					
景観建築フィールドワークⅠB		1	※選必から14単位を必修				
景観建築フィールドワークⅡA		1					
景観建築フィールドワークⅡB		1					
景観建築フィールドワークⅢA		1					
景観建築フィールドワークⅢB		1					
景観建築フィールドワークⅣ		1					

音楽学部 演奏学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				副専声楽実技ⅢA		1	
初 期 演 習 I	1			副専声楽実技ⅢB		1	
初期演習Ⅱ(音楽探究への誘い)	1			副専ピアノ実技ⅢA		1	
2 年 次 演 習	1			副専ピアノ実技ⅢB		1	
英 語 A	1			副専ピアノ実技ⅣA		1	
英 語 B	1			副専ピアノ実技ⅣB		1	
Oral Communication		2		ソルフェージュⅠA	2		
情報リテラシーⅠ	2			ソルフェージュⅠB	2		
情報リテラシーⅡ		2		ソルフェージュⅡ		4	
TOEIC認定英語Ⅰ		2		和 声 法 A	2		
TOEIC認定英語Ⅱ		2		和 声 法 B	2		
TOEIC認定英語Ⅲ		2		指 揮 法 I		1	
TOEIC認定英語Ⅳ		2		指 揮 法 II		1	
専門教育科目				作家作品研究Ⅰ		2	
主 専 実 技 I A	2			作家作品研究Ⅱ		2	
主 専 実 技 I B	2			即 興 演 奏 A		2	
主 専 実 技 II A	2			即 興 演 奏 B		2	
主 専 実 技 II B	2			作 ・ 編 曲 法 A	2		
主 専 実 技 III A	2			作 ・ 編 曲 法 B	2		
主 専 実 技 III B	2			旋 律 と 和 声 A		2	
主 専 実 技 IV	2			旋 律 と 和 声 B		2	
卒 業 演 奏	3			教 育 伴 奏 法		2	
副専声楽実技ⅠA		1		楽 曲 研 究 A		2	
副専声楽実技ⅠB		1		楽 曲 研 究 B		2	
副専ピアノ実技ⅠA		1		電 子 楽 器		2	
副専ピアノ実技ⅠB		1		音 楽 史 I	4		
副専声楽実技ⅡA		1		音 楽 史 II	4		
副専声楽実技ⅡB		1		合 唱 I	2		
副専ピアノ実技ⅡA		1		合 唱 II	2		
副専ピアノ実技ⅡB		1		合 唱 III		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
学 内 演 奏 I	1						
学 内 演 奏 II	1						
学 内 演 奏 III	1						
器 楽 合 奏		1					
邦 楽		2					
副 科 器 楽 A		1					
副 科 器 楽 B		1					
イタリア語表現演習		2					
声 楽 演 奏 研 究 I A		1					
声 楽 演 奏 研 究 I B		1					
声 楽 演 奏 研 究 II A		1					
声 楽 演 奏 研 究 II B		1					
声 楽 演 奏 研 究 III A		1					
声 楽 演 奏 研 究 III B		1					
演 技 演 習		2					
オ ペ ラ		2					
合 唱 指 導 法		2					
協 奏 曲 I		2					
協 奏 曲 II		2					
伴 奏 法		2					
ピアノアンサンブル		2					
ピ ア ノ 指 導 法		2					
チ ェ ン バ ロ		2					
重 奏 演 習		2					
合 奏 指 導 法		2					
合 奏 I		2					
合 奏 II		2					
合 奏 III		2					
合 奏 IV		2					

音楽学部 応用音楽学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				ソルフェージュⅠA	2		
初 期 演 習 Ⅰ	1			ソルフェージュⅠB	2		
初期演習Ⅱ(音楽探究への誘い)	1			ソルフェージュⅡ		4	
2 年 次 演 習	1			和 声 法 A	2		
英 語 A	1			和 声 法 B	2		
英 語 B	1			指 揮 法 Ⅰ		1	
応 用 英 語 Ⅰ A		1		指 揮 法 Ⅱ		1	
応 用 英 語 Ⅰ B		1		即 興 演 奏 A		2	
応 用 英 語 Ⅱ A		1		即 興 演 奏 B		2	
応 用 英 語 Ⅱ B		1		作 ・ 編 曲 法 A		2	
Oral Communication		2		作 ・ 編 曲 法 B		2	
情報リテラシーⅠ	2			旋 律 と 和 声 A		2	
情報リテラシーⅡ	2			旋 律 と 和 声 B		2	
TOEIC認定英語Ⅰ		2		教 育 伴 奏 法		2	
TOEIC認定英語Ⅱ		2		実 用 楽 器 入 門		2	
TOEIC認定英語Ⅲ		2		音 楽 史 Ⅰ	4		
TOEIC認定英語Ⅳ		2		音 楽 史 Ⅱ	4		
専門教育科目				合 唱 Ⅰ	2		
ピアノ実技ⅠA	2			合 唱 Ⅱ	2		
ピアノ実技ⅠB	2			合 唱 Ⅲ		2	
ピアノ実技ⅡA	2			学 内 演 奏 Ⅰ	1		
ピアノ実技ⅡB	2			学 内 演 奏 Ⅱ		1	
ピアノ実技ⅢA		2		学 内 演 奏 Ⅲ		1	
ピアノ実技ⅢB		2		イタリ語表現演習		2	
ピアノ実技ⅣA		2		楽 器 ・ 合 奏 指 導 法		2	
ピアノ実技ⅣB		2		歌 唱 ・ 合 唱 指 導 法		2	
声 楽 実 技 Ⅰ A	2			器 楽 合 奏		1	
声 楽 実 技 Ⅰ B	2			邦 楽		2	
声 楽 実 技 Ⅱ A		2		演 習	2		
声 楽 実 技 Ⅱ B		2		卒 業 論 文	4		

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
音 楽 療 法 論 I	2			表 現 技 術 演 習		4	
音 楽 療 法 論 II		2		音 楽 文 化 創 造 学		4	
発 達 心 理 学		2		音 楽 文 化 事 業 企 画 演 習		2	
音 楽 心 理 学		2		音 楽 活 用 実 習		2	
臨 床 心 理 学 I		4		プレプロフェッショナル教育		2	
臨 床 心 理 学 II		2					
社 会 福 祉 論		2					
障 害 児 教 育		2					
介 護 論		2					
レパートリーラーニング		2					
ダ ン ス と 動 き		2					
医 学 概 論		2					
音 楽 療 法 各 論 I		2					
音 楽 療 法 各 論 II		2					
音 楽 療 法 各 論 III		2					
臨 床 医 学 各 論 I		2					
臨 床 医 学 各 論 II		2					
音 楽 療 法 演 習		4					
音 楽 療 法 実 習 I	1						
音 楽 療 法 実 習 II		2					
音 楽 療 法 実 習 III		2					
音 楽 療 法 実 習 IV		2					
音 楽 療 法 研 究 法		4					
音 楽 療 法 総 論		1					
音 楽 社 会 学 概 論	4						
音 楽 教 育 学 研 究		4					
環 境 と 音 楽		4					
生 涯 学 習 関 係 論 I		2					
生 涯 学 習 関 係 論 II		2					
音 楽 と マ ル チ メ デ ィ ア		2					

薬学部 薬学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				物 理 化 学 I	2		
初 期 演 習 I	1			物 理 化 学 II	2		
初期演習II (薬の世界へ)	1			物 理 化 学 III	2		
Oral Communication I		1		分 析 化 学 I	2		
Oral Communication II		1		分 析 化 学 II	2		
基 礎 英 語	1			分 析 化 学 III	2		
英 語 I	1			医 薬 品 試 験 法		1	
英 語 II	1			放 射 化 学	2		
英 語 III	1			有 機 化 学 I	2		
発 展 英 語 I	1			有 機 化 学 II	2		
基 礎 化 学	2			有 機 化 学 III	2		
基 礎 生 物	2			スペクトル構造解析学	2		
基礎数学・物理	2			医 薬 品 化 学	2		
情報リテラシー I	2			発 展 有 機 化 学		1	
情報リテラシー II		2		発 展 医 薬 品 化 学		1	
TOEIC認定英語		2		薬用植物・生薬学	2		
専門教育科目				天 然 物 化 学	2		
薬 学 へ の 招 待	2			生 化 学	2		
早期体験学習 I	0.5			代 謝 生 化 学	2		
早期体験学習 II	0.5			分 子 生 物 学	2		
ヒューマニズム論 I	2			免 疫 学	2		
ヒューマニズム論 II	2			細 胞 生 物 学	2		
薬剤師のための生涯教育		1		病 原 微 生 物 学	2		
医療コミュニケーション		1		解 剖 学	2		
感染制御とがん医療		1		生 理 学	2		
医薬品開発論	2			生体恒常性のメカニズム		1	
医療保険と地域医療	2			薬 学 基 礎 演 習 I		1	
薬事関係法規	2			薬 学 基 礎 演 習 II		1	
薬剤師のリスクマネジメント		1		薬 学 基 礎 演 習 III		1	
地域医療における薬剤師		1		薬 学 基 礎 演 習 IV		1	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
公 衆 衛 生 学	2			実 践 治 療 学		1	
栄 養 ・ 食 品 衛 生 学	2			薬 学 臨 床 実 習 概 論	2		
環 境 衛 生 学	2			処 方 解 析 学 演 習	1		
臨 床 栄 養 学		1		医 薬 品 の 適 正 使 用 I		1	
国 民 衛 生 の 最 新 動 向		1		医 薬 品 の 適 正 使 用 II		1	
基 礎 薬 理 学 I	2			一 般 用 医 薬 品 総 論		1	
基 礎 薬 理 学 II		1		薬 剤 師 の 職 能 と 業 務		1	
臨 床 薬 理 学 I	2			臨 床 薬 学 基 本 実 習 I	1		
臨 床 薬 理 学 II	2			臨 床 薬 学 基 本 実 習 II	1		
臨 床 薬 理 学 III	2			臨 床 薬 学 基 本 実 習 III	1		
臨 床 薬 理 学 IV		1		薬 学 臨 床 実 習	20		
疾 患 から み た 薬 理 学		1		薬 学 臨 床 演 習		1	
薬 物 動 態 学 I	2			有 機 化 合 物 を つ く る	1		
薬 物 動 態 学 II	2			医 薬 品 を つ く る	1		
臨 床 統 計 学 I	2			生 薬 ・ 天 然 物 医 薬 品 を 取 扱 う	1		
臨 床 統 計 学 II		1		物 質 の 特 性 を 調 べ る	1		
物 理 薬 剤 学	2			物 質 を 解 析 す る	1		
製 剤 学	2			生 体 成 分 と 免 疫 を 調 べ る	1		
薬 物 代 謝 論		1		体 の 成 り 立 ち と 働 き を 調 べ る	1		
薬 物 送 達 シ ス テ ム 学		1		薬 の 働 き を 調 べ る	1		
臨 床 薬 物 動 態 学		1		薬 物 を 製 剤 化 し 体 内 動 態 を 調 べ る	1		
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 I	2			人 と 環 境 へ の 影 響 と 細 菌 を 調 べ る	1		
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 II	2			発 展 英 語 II	1		
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 III	2			基 礎 薬 学 英 語 演 習		2	
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 IV	2			薬 学 英 語 演 習		4	
病 態 ・ 薬 物 治 療 学 V	2			卒 業 研 究 I	2		
症 例 解 析 学	2			卒 業 研 究 II	2		
医 薬 品 情 報 学	2			総 合 演 習 I	2		
漢 方 治 療 学		1		総 合 演 習 II	2		
化 粧 品 学 概 論		1					

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
卒 業 研 究 Ⅲ		1	} 必修 1				
総 合 演 習 Ⅲ		1					
プレプロフェッショナル教育		2					

薬学部 健康生命薬科学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				バイオメディカル分析化学		2	
初 期 演 習 I	1			基 礎 有 機 化 学	2		
初期演習Ⅱ(薬科学への第一歩)	1			応 用 有 機 化 学 I		2	
健康生命薬科学概論	2			応 用 有 機 化 学 II		2	
実 験 基 礎	1			薬 品 合 成 化 学		2	
生 命 倫 理 学	2			反 応 開 発 論		2	
Oral Communication I		1		薬 用 植 物 学		2	
Oral Communication II		1		天 然 物 化 学		2	
基 礎 薬 学 英 語 I	1			基 礎 生 化 学	2		
基 礎 薬 学 英 語 II	1			応 用 生 化 学 I		2	
基 礎 数 学	2			応 用 生 化 学 II		2	
基 礎 生 物 学	2			分 子 生 物 学	2		
情報リテラシー I	2			微 生 物 学		2	
情報リテラシー II		2		遺 伝 学		2	
健 康 科 学 I		2		細胞の情報伝達と疾患		2	
T O E I C 認 定 英 語		2		遺伝子情報リテラシー		2	
専門教育科目				免 疫 学 総 論		2	
薬 学 英 語 I	1			基 礎 解 剖 生 理 学	2		
薬 学 英 語 II	1			機 能 生 理 学		2	
薬 学 英 語 III	1			基 礎 薬 理 学		2	
キ ャ リ ア 英 語	1			応 用 薬 理 学		2	
実 践 薬 学 英 語	2			病 態 疾 病 学		2	
物 理 学		2		薬 物 動 態 学		2	
地 学		2		基 礎 統 計 学	2		
薬 学 化 学 I	2			物 理 薬 剤 学・製 剤 学 I		2	
基 礎 物 理 化 学	2			物 理 薬 剤 学・製 剤 学 II		2	
応 用 物 理 化 学		2		衛 生 薬 学 I		2	
基 礎 分 析 化 学	2			衛 生 薬 学 II		2	
応 用 分 析 化 学		2		実 践 薬 物 治 療 学		2	
機 器 分 析 学		2		皮 膚 科 学		2	

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
化粧品学総論		2		薬剤学実験		1	
化粧品製造学		2		基礎薬学英語演習		2	
実践化粧品学		2		卒業研究Ⅰ	2		
東洋美容学基礎		2		卒業研究Ⅱ	8		
臨床化粧品学		2		健康科学Ⅱ		2	
応用化粧品学		2		プレプロフェッショナル教育		2	
臨床検査総論		2					
臨床免疫学		2					
脳神経科学		2					
腫瘍生物学		2					
医薬品開発論		2					
化粧品開発論		2					
保健食品機能学		2					
健康サポート論		2					
統合医療概論		2					
薬事関係法規		2					
医薬品情報学		2					
物理学実験		1					
地学実験		1					
臨地体験学習	0.5						
早期体験学習	0.5						
創薬体験学習Ⅰ	1						
創薬体験学習Ⅱ	1						
基礎有機化学実験		1					
生化学実験Ⅰ		1					
化粧品学実験		1					
分析化学実験		1					
解剖生理学実験		1					
衛生薬学実験		1					
薬理学実験		1					

看護学部 看護学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				地 域 看 護 学	2		
初 期 演 習 I	1			地域・在宅看護学実習	2		
初期演習Ⅱ(生活と看護)	1			成人看護学概論	1		
医 学 英 語	2			成人看護学ⅠA	2		
看護英語基礎	1			成人看護学ⅠB	2		
情報活用の基礎	2			成人看護学Ⅱ(慢性期)	1		
看護応用統計学	2			成人看護学Ⅱ(急性期)	1		
解剖生理学Ⅰ	2			サポーターケア	1		
解剖生理学Ⅱ	2			成人看護学実習(慢性期)	3		
栄養代謝学	2			成人看護学実習(急性期)	3		
臨床病態栄養学	2			老年看護学概論	1		
微生物学と感染防御	2			老年看護学Ⅰ	2		
看護薬理学	2			老年看護学Ⅱ	1		
疾病治療概論	2			アクティブエイジング	1		
リハビリテーション学	2			老年看護学実習	3		
保健医療福祉制度	2			小児看護学概論	1		
チーム医療論	2			小児看護学Ⅰ	2		
疫 学	2			小児看護学Ⅱ	1		
専門教育科目				チャイルドデイベロップメンタルアプローチ	1		
看護学概論	2			小児看護学実習	2		
看護援助論	2			母性看護学概論	1		
基礎看護技術演習Ⅰ	2			母性看護学Ⅰ	2		
基礎看護技術演習Ⅱ	2			母性看護学Ⅱ	1		
基礎看護技術演習Ⅲ	2			ウイメンズヘルスケア	1		
看護アセスメント演習	1			母性看護学実習	2		
基礎看護学実習Ⅰ	1			精神看護学概論	1		
基礎看護学実習Ⅱ	2			精神看護学Ⅰ	2		
在宅看護学概論	1			精神看護学Ⅱ	1		
在宅看護学Ⅰ	2			グループアプローチ	1		
在宅看護学Ⅱ	1			精神看護学実習	2		

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
統 合 看 護 学 実 習	3						
看 護 マ ネ ジ メ ン ト	1						
家 族 看 護 学	1						
看 護 研 究 方 法	2						
卒 業 演 習	2						
災 害 ・ 国 際 看 護 論	1						

経営学部 経営学科

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
基礎教育科目				パブリックマネジメント入門	2		
初 期 演 習 I	1			法 律 入 門 I		2	
初期演習Ⅱ（経営）	1			法 律 入 門 II		2	
経 営 課 題 演 習 I	2			民 法 入 門 I		2	
経 営 課 題 演 習 II	2			民 法 入 門 II		2	
Oral Communication	2			地 域 振 興 論		2	
Business English I	2			中小企業イノベーション論		2	
Business English II		2		企 業 の 社 会 連 携 論		2	
情報リテラシー I	2			公 共 総 合 基 礎 演 習 I		2	
情報リテラシー II	2			公 共 総 合 基 礎 演 習 II		2	
経 営 学 入 門	2			C S R		2	
経 営 組 織 論		2		ビジネスシンキング	2		
ビジネスプラン構築論		2		論 理 と 数 理 入 門		2	
経 営 戦 略 論 入 門		2		消 費 者 行 動 論		2	
経 営 環 境 論		2		デ ザ イン 思 考		2	
組 織 行 動 論		2		ロジカルシンキング		2	
会 計 入 門	2			社 会 心 理 学		2	
商 業 簿 記 I		2		キャリアデザイン特講Ⅰ	2		
商 業 簿 記 II		2		キャリアデザイン特講Ⅱ		2	
原 価 計 算 I		2		実 践 へ の い ざ な い	2		
原 価 計 算 II		2		イ ン タ ー ン シ ッ プ I		1	※選必
企 業 財 務 論		2		イ ン タ ー ン シ ッ プ II		1	※選必
マーケティング入門	2			イ ン タ ー ン シ ッ プ III		1	※選必
マーケティングリサーチ		2		サ ー ビ ス ラ ー ニ ン グ I		1	※選必
消費者思考の製品開発		2		サ ー ビ ス ラ ー ニ ン グ II		1	※選必
ネットビジネス入門		2		サ ー ビ ス ラ ー ニ ン グ III		1	※選必
ク ラ ウ ド 入 門		2		フ ィ ー ル ド ワ ー ク I		1	※選必
企業情報システム		2		フ ィ ー ル ド ワ ー ク II		1	※選必
経 済 学 入 門		2		フ ィ ー ル ド ワ ー ク III		1	※選必
ヴァジュアルマーチャンダイジング		2					

授 業 科 目	単 位 数		備 考	授 業 科 目	単 位 数		備 考
	必修	選択			必修	選択	
専門教育科目				グローバル経営論		2	※※※選必
経営管理論		2	※※選必	グローバル製品開発論		2	※※※選必
流通小売論		2	※※選必	ブランド戦略論		2	※※※選必
財務会計論Ⅰ		2	※※選必	企業の投資意思決定		2	※※※選必
管理会計論Ⅰ		2	※※選必	M&Aと企業価値評価		2	※※※選必
経営戦略論Ⅰ		2	※※選必	新興国企業論		2	※※※選必
マーケティング戦略論		2	※※選必	パブリックマネジメント		2	※※※選必
A I 戦略論		2	※※選必	産学教育連携論		2	※※※選必
商品企画論		2	※※選必	環境マーケティング		2	※※※選必
ビジネスモデル論		2	※※選必	公共政策論		2	※※※選必
中小企業論		2	※※選必	地域産業論		2	※※※選必
財務会計論Ⅱ		2	※※選必	地方財政論		2	※※※選必
人的資源管理論		2	※※選必	市民協働参画論		2	※※※選必
労使コミュニケーション論		2	※※選必	行政法		2	※※※選必
ベンチャービジネス論		2	※※選必	福祉経営論		2	※※※選必
管理会計論Ⅱ		2	※※選必	地域政策論		2	※※※選必
経営戦略論Ⅱ		2	※※選必	情報政策論		2	※※※選必
広告・PR論		2	※※選必	地域ブランド論		2	※※※選必
サプライチェーンマネジメント		2	※※選必	美容業界論		2	※※※選必
上級財務会計論		2	※※選必	健康ヘルスケア産業論		2	※※※選必
イノベーションプロセス論		2	※※選必	ファッション・アパレル業態論		2	※※※選必
W r i t i n g		3	※※選必	ホテル・ホスピタリティ産業論		2	※※※選必
R e a d i n g		3	※※選必	レジャー・エンターテインメント産業論		2	※※※選必
C o n v e r s a t i o n		3	※※選必	専 門 演 習 Ⅰ	2		
Microeconomics		2	※※選必	専 門 演 習 Ⅱ	2		
Financial Accounting		2	※※選必	専 門 演 習 Ⅲ	2		
Corporate Finance		2	※※選必	専 門 演 習 Ⅳ	2		
ビジネスライティング		2	※※選必	卒 業 研 究	4		
スピーチプレゼンテーション		2	※※選必				

※選必から2単位を必修 ※※選必から12単位を必修 ※※※選必から6単位を必修
 ※※※選必から6単位を必修 ※※※※選必から4単位を必修

履 修 方 法 （別表第1、第2の備考）

1. 卒業までに修得すべき最低単位数

学生は、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目の中から124単位（建築学科・景観建築学科は128単位、薬学科は190単位及び看護学科は127単位）以上を修得しなければならない。ただし、下記の学部、学科においては、それぞれに規定する単位を含めて修得しなければならない。なお、編入学生の履修方法については、別に定める。

文学部 日本語日本文学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計2単位以上、「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目及び専門教育科目の中から64単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

文学部 歴史文化学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計2単位以上、「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目及び専門教育科目の中から64単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

文学部 英語グローバル学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計4単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」（2単位・必修）
- 3 基礎教育科目の中から30単位以上
- 4 専門教育科目の中から60単位以上

教育学部 教育学科

- 1 共通教育科目の中から12単位以上
(ただし、次の2の共通教育科目で修得した外国語の単位を含めることができる)
- 2 共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目の中から、外国語科目8単位以上(英語Ⅰ・英語Ⅱの4単位を含む)
- 3 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」から2単位以上を含み、『基礎教養科目群』から合計8単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 4 基礎教育科目及び専門教育科目から81単位以上

心理・社会福祉学部 心理学科

- 1 共通教育科目の中から6単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から8単位以上
- 4 専門教育科目の中から54単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

心理・社会福祉学部 社会福祉学科

- 1 共通教育科目の中から10単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から16単位以上
- 4 専門教育科目の中から46単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

健康・スポーツ科学部 健康・スポーツ科学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』、『ジェンダー科目群』、「学び発見ゼミ」から合計6単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から12単位以上
- 4 専門教育科目の中から62単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

健康・スポーツ科学部 スポーツマネジメント学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目「基礎教養科目群」、『ジェンダー科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計6単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から12単位以上

- 4 専門教育科目の中から62単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

生活環境学部 生活環境学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」、『ジェンダー科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から4単位以上
- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

社会情報学部 社会情報学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」、『キャリアデザイン科目群』及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から4単位以上
- 4 専門教育科目の中から80単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

食物栄養科学部 食物栄養学科

- 1 共通教育科目の中から6単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から25単位以上
- 4 専門教育科目の中から90単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

食物栄養科学部 食創造科学科

- 1 共通教育科目の中から6単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目12単位
- 4 専門教育科目の中から90単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

建築学部 建築学科

- 1 共通教育科目 6 単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」及び「社会科学科目」からそれぞれ 2 単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AI の基礎」(2 単位・必修)
- 3 基礎教育科目 14 単位
- 4 専門教育科目の中から 108 単位以上

建築学部 景観建築学科

- 1 共通教育科目 6 単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」及び「社会科学科目」からそれぞれ 2 単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AI の基礎」(2 単位・必修)
- 3 基礎教育科目 16 単位
- 4 専門教育科目の中から 106 単位以上

音楽学部 演奏学科

- 1 共通教育科目の中から 14 単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」、「ジェンダー科目群」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計 2 単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計 2 単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」(ドイツ語又はフランス語) から合計 4 単位以上及び「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AI の基礎」(2 単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から 7 単位以上
- 4 専門教育科目の中から 80 単位以上
- 5 上記 2 のドイツ語又はフランス語の 4 単位以上を含む学科指定外国語科目の中から 8 単位以上

音楽学部 応用音楽学科

- 1 共通教育科目の中から 8 単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」、「ジェンダー科目群」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計 2 単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計 2 単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AI の基礎」(2 単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から 9 単位以上
- 4 専門教育科目の中から 80 単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から 8 単位以上

薬学部 薬学科

- 1 共通教育科目の中から14単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目及び専門教育科目の中から174単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

薬学部 健康生命薬科学科

- 1 共通教育科目の中から8単位以上
- 2 共通教育科目『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目及び専門教育科目の中から116単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

看護学部 看護学科

- 1 共通教育科目の中から21単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」、「国際理解科目」、「現代トピック科目」、「ジェンダー科目群」、「キャリアデザイン科目群」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計6単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計5単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎(2単位・必修)」、「健康・スポーツ科目群」から合計1単位以上
- 3 基礎教育科目31単位
- 4 専門教育科目の中から75単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

経営学部 経営学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「人文科学科目」、「社会科学科目」から合計2単位以上、『基礎教養科目群』の中の「自然科学科目」、「国際理解科目」、「現代トピック科目」から合計2単位以上、『ジェンダー科目群」、「キャリアデザイン科目群」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計4単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」、「健康・スポーツ科目群」、「大学・初年次ゼミ」の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎」(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目の中から40単位以上
- 4 専門教育科目の中から50単位以上
- 5 学科指定外国語科目の中から8単位以上

2 教育職員免許状取得に必要な単位数

教育職員免許状を取得するためには、第27条の2に定められた要件を充足する必要がある。
また、各学科において定められた履修要項に従って、必要単位を修得しなければならない。

別表第3

特別教育科目

1 ボランティア活動

ボランテ ィア 活 動	(注)	選 択
-------------	-----	-----

(注) ボランティア活動30時間に対して1単位を認定する。修得した単位は卒業要件の単位に含めない。

2 インターンシップ活動

イ ン タ ー ン シ ッ プ 活 動	(注)	選 択
---------------------	-----	-----

(注) インターンシップ活動30時間に対して1単位を認定する。修得した単位は卒業要件の単位に含めない。

別表第4

教育職員免許状

(中学校・高等学校教諭、栄養教諭 教育職員免許法施行規則第66条の6「日本国憲法」)

免許法施行規則に定める科目	修得単位 法定最低	本学の開設授業科目	単位数	必修単位 中一種免	必修単位 高一種免	備考
日本国憲法	2	日本国憲法	2	2	2	

【履修方法】

- (1) その他の教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目（本学では「教職基礎科目」と称する。）については、別表第1・別表第2より履修すること。

(中学校・高等学校教諭「各教科の指導法」)

免許法施行規則に定める科目		修得単位 法定最低	本学の開設授業科目	単位数	必修単位 中一種免	必修単位 高一種免	備考
第二欄	左の科目に含めることが 必要な事項						
教科及び教科の指導法に関する科目	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	中 8 ・ 高 4	国語科指導法Ⅰ	2	2	2	各自が取得する免許状の教科に応じて修得すること
			国語科指導法Ⅱ	2	2	2	
			国語科指導法Ⅲ	2	2	2	
			国語科指導法Ⅳ	2	2	2	
			書道科指導法Ⅰ	2	—	2	
			書道科指導法Ⅱ	2	—	2	
			英語科指導法Ⅰ	2	2	2	
			英語科指導法Ⅱ	2	2	2	
			英語科指導法Ⅲ	2	2	2	
			英語科指導法Ⅳ	2	2	2	
			社会・地歴科指導法Ⅰ	2	2	2	
			社会・地歴科指導法Ⅱ	2	2	2	
			社会・地歴科指導法Ⅲ	2	2	—	
			社会・地歴科指導法Ⅳ	2	2	—	
			家庭科指導法Ⅰ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅱ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅲ	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅳ	2	2	2	
			情報科指導法Ⅰ	2	—	2	
			情報科指導法Ⅱ	2	—	2	
			音楽科指導法Ⅰ	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅱ	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅲ	2	2	2	
音楽科指導法Ⅳ	2	2	2				
理科指導法Ⅰ	2	2	2				
理科指導法Ⅱ	2	2	2				
理科指導法Ⅲ	2	2	2				
理科指導法Ⅳ	2	2	2				
合計		中 8 ・ 高 4	計		8	8	

【履修方法】

- (1) 「各教科の指導法」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
 (2) 上表の科目のうち、各自が取得する免許状の教科に応じて8単位（書道科指導法・情報科指導法は4単位）を修得すること。

(中学校・高等学校教諭「教育の基礎的理解に関する科目等」)

免許法施行規則に定める科目		修得単位 法定最低	本学の開設授業科目	単位数	必修単位 中一 種免	必修単位 高一 種免	備考
左の科目に含めることが 必要な事項							
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2	2	2	
			教育史	2			
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2	2	2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学 発達心理学	2 2	2	2	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	2	2	2	
		・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程総論	2	2	2	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育指導論	2	2	—	
		・総合的な学習の時間の指導法 [中]	総合的な学習の時間と特別活動	2	2	2	
		・総合的な探究の時間の指導法 [高]					
		・特別活動の指導法	教育方法の理論と実践	1	1	1	
		・教育の方法及び技術					
		・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
		・生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導	2	2	2	
・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談の理論と方法	2	2	2			
第五欄	教育実践に関する科目	・教育実習	教育実習事前指導(中高)	1	1	1	事前事後指導
			教育実習事前事後指導(中高)	1	1	1	
			教育実習Ⅰ(中高)	2	2		
			教育実習Ⅱ(中高)	2	2	2	
		・教職実践演習	教職実践演習(中高)	2	2	2	
合計		中 27 ・ 高 23	計	34	30	26	

【履修方法】

- 「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- 上表の「免許法施行規則に定める科目区分」ごとに指定されている必修単位数を含んで中学校教諭30単位以上、高等学校教諭26単位以上。
- 「教育実習事前事後指導(中高)」「教育実習Ⅰ(中高)」「教育実習Ⅱ(中高)」「教職実践演習(中高)」については、その履修要件を充足すること。当該履修要件についての詳細は別に定める。
- 「道徳教育指導論」は、高等学校教諭においては「大学が独自に設定する科目」として開設する。
- 「教育の基礎的理解に関する科目等」として修得した単位数のうち中学校教諭27単位、高等学校教諭23単位を超えて修得した単位数を「大学が独自に設定する科目」の修得単位数に含めることができる。

(中学校・高等学校教諭「大学が独自に設定する科目」)

免許法施行規則に定める科目	修得単位 法定最低	算入可能な科目 及び 本学の開設授業科目	単位数	中一種免		高一種免		備考
				必修	選択	必修	選択	
大学が独自に設定する科目	中4 ・ 高12	① 中学校教諭：28単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」・27単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」						いずれかの単位で、中学校教諭4単位以上、高等学校教諭12単位以上修得すること
		① 高等学校教諭：24単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」・23単位を超えて修得した「教育の基礎的理解に関する科目等」						
		② 道徳教育指導論	2	—		2		

【履修方法】

- (1) 「大学が独自に設定する科目」②の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の①②いずれかの単位で、中学校教諭4単位以上、高等学校教諭12単位以上。
- (3) 「道徳教育指導論」は、中学校教諭においては「教育の基礎的理解に関する科目等」として開設する。

(栄養教諭「教育の基礎的理解に関する科目等」)

	免許法施行規則に定める科目		修得単位 法定最低	本学の開設授業科目	単位数	栄教一種免 必修単位	備考
	教育の基礎的理解に関する科目	左の科目に含めることが必要な事項					
第三欄	教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	8	教育原理*	2	2	
		・教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教職入門*	2	2	
		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育行政学*	2	2	
		・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学*	2	2	
		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論*	2	2	
		・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程総論*	2	2	
第四欄	道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容	6	道徳教育指導論*	2	2	
		・教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)		総合的な学習の時間と特別活動*	2	2	
		・生徒指導の理論及び方法		教育方法の理論と実践*	1	1	
		・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		ICT活用の理論と実践*	1	1	
				生徒指導の理論と方法	2	2	
第五欄	教育実践に関する科目	・栄養教育実習	2	栄養教育実習事前事後指導	1	1	事前事後指導
		・教職実践演習		2	2		
		合計	18	計	26	26	

【履修方法】

- (1) 「教育の基礎的理解に関する科目等」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「免許法施行規則に定める科目区分」ごとに指定されている必修単位数を含んで26単位以上。
- (3) 「栄養教育実習(学校現場)」「教職実践演習(栄教)」については、その履修要件を充足すること。当該履修要件についての詳細は別に定める。
- (4) *の科目は、中学校・高等学校教職課程と共通開設。

別表第 5

図書館司書専門教育科目

図書館法施行規則に規定する科目	必要単位数	左記に相当する本学の開講科目	単位数	必修単位	
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2	
図書館概論	2	図書館概論	2	2	
図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	2	
図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	2	
図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	2	
情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
児童サービス論	2	児童サービス論	2	2	
情報サービス演習	2	情報サービス演習Ⅰ	1	1	
		情報サービス演習Ⅱ	1	1	
図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	2	
情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	2	
情報資源組織演習	2	情報資源組織演習Ⅰ	1	1	
		情報資源組織演習Ⅱ	1	1	
図書館基礎特論	2	図書館基礎特論	2	4	
図書館サービス特論		図書館サービス特論	2		
図書館情報資源特論		図書館情報資源特論	2		
図書・図書館史		図書・図書館史	2		
図書館実習		図書館実習	1		
図書館施設論		—			
図書館総合演習		—			
	24	計	31	26	

【履修方法】

- (1) 図書館司書専門教育科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「図書館法施行規則に規定する科目」ごとに指定されている必修単位数を含んで26単位以上。

別表第 6

学校図書館司書教諭専門教育科目

学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	必要単位数	左記に相当する本学の開講科目	単位数	司書教諭必修
学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	2
学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	2
学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	2
読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	2
情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	2
	10	計	10	10

【履修方法】

- (1) 学校図書館司書教諭専門教育科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の「学校図書館司書教諭講習規程に定める科目」ごとに指定されている必修単位数を含んで10単位以上。

別表第 7

博物館学芸員専門教育科目

博物館法施行規則 に規定する科目	必 要 単位数	左記に相当する 本学の開講科目	単位数	必 修 単 位
生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	2
博物館概論	2	博物館概論	2	2
博物館経営論	2	博物館経営論	2	2
博物館資料論	2	博物館資料論	2	2
博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	2
博物館展示論	2	博物館展示論	2	2
博物館教育論	2	博物館教育論	2	2
博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	2
博物館実習	3	博物館実習 A	2	2
		博物館実習 B	1	1
	19	計	19	19

【履修方法】

- (1) 博物館学芸員専門教育科目を履修するために必要な手続きは別に定める。
- (2) 上表の「博物館法施行規則に規定する科目」ごとに指定されている必修単位数を19単位取得。

別表第8（第39条関係）

令和6年度の入学生

学部・学科		費目	※1 入学検定料	入学金	学 費（年 額）			
					授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	935,000	209,000	—	—
	歴史文化学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	935,000	209,000	—	—
	英語グローバル学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	975,000	209,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	249,000	—	—
社会福祉学部	心理学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	239,000	—	—
	社会福祉学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	239,000	—	—
スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	279,000	※3 26,000	—
	スポーツマネジメント学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	279,000	※3 26,000	—
境界学部	生活環境学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	290,000	—	—
報社会情	社会情報学科	1年次	35,000	200,000	990,000	180,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,060,000	259,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	51,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	410,000	51,000	—
	食創造科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	51,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	410,000	51,000	—
建築学部	建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	409,000	80,000	—
	景観建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	409,000	80,000	—
音楽学部	演奏学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,440,000	390,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	—	—	1,440,000	390,000	—	—
薬学部	薬学科	1年次	35,000	200,000	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	—	—	1,532,000	403,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	35,000	200,000	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	—	—	1,170,000	379,000	160,000	—
学部看護	看護学科	1年次	35,000	200,000	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,367,000	337,000	—	—
学部経営	経営学科	1年次	35,000	200,000	800,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,000,000	200,000	—	—

※1 出願方法、出願回数に応じた割引金額とする。

※2 野外実習費

※3 野外実習費 2年次のみ

令和5年度の入学生

学部・学科		費目	※1 入学検定料	入学金	学 費 (年 額)			
					授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	935,000	209,000	—	—
	英語グローバル学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	975,000	209,000	—	—
学部教育	教 育 学 科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	249,000	—	—
社会福祉学部	心 理 学 科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	239,000	—	—
	社会福祉学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	239,000	—	—
スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	279,000	※3 26,000	—
	スポーツマネジメント学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	※2 26,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	279,000	※3 26,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	290,000	—	—
社会情報学部	社会情報学科	1年次	35,000	200,000	990,000	180,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,060,000	259,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	51,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	410,000	51,000	—
	食創造科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	51,000	—
		2～4年次	—	—	1,035,000	410,000	51,000	—
建築学部	建 築 学 科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	409,000	80,000	—
	景観建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	—	—	1,160,000	409,000	80,000	—
音楽学部	演 奏 学 科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,440,000	390,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	—	—	1,440,000	390,000	—	—
薬学部	薬 学 科	1年次	35,000	200,000	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	—	—	1,532,000	403,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	35,000	200,000	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	—	—	1,170,000	379,000	160,000	—
看護学部	看 護 学 科	1年次	35,000	200,000	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,367,000	337,000	—	—
経営学部	経 営 学 科	1年次	35,000	200,000	800,000	200,000	—	—
		2～4年次	—	—	1,000,000	200,000	—	—

※1 出願方法、出願回数に応じた割引金額とする。

※2 野外実習費

※3 野外実習費 2年次のみ

令和4年度の入学生

学部・学科		費目	学 費 (年 額)			
			授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円
		2～4年次	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	975,000	200,000	—	—
	心理・社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	230,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	240,000	—	—
スポーツ健康科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 26,000	—
		2～4年次	1,035,000	270,000	※2 26,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
	情報メディア学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
	食創造科学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
建築学部	建築学科	1年次	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	1,160,000	400,000	80,000	—
	景観建築学科	1年次	1,120,000	300,000	80,000	—
		2～4年次	1,160,000	400,000	80,000	—
音楽学部	演奏学科	1年次	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	1,532,000	394,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	1,170,000	370,000	160,000	—
学部看護	看護学科	1年次	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	1,367,000	328,000	—	—
学部経営	経営学科	1年次	800,000	200,000	—	—
		2～4年次	1,000,000	200,000	—	—

※1 野外実習費

※2 野外実習費 2年次のみ

令和2～3年度の入学生

学部・学科		費目	学 費 (年 額)			
			授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円
		2～4年次	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	975,000	200,000	—	—
	心理・社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	230,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	240,000	—	—
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 20,000	—
		2～4年次	1,035,000	270,000	※2 20,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
	情報メディア学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
	食創造科学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
建築学部	建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	—
		2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	—
	景観建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	—
		2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	—
音楽学部	演奏学科	1年次	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	1,532,000	394,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	1,170,000	370,000	160,000	—
学部看護	看護学科	1年次	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	1,367,000	328,000	—	—
学部経営	経営学科	1年次	800,000	200,000	—	—
		2～4年次	1,000,000	200,000	—	—

※1 野外実習費

※2 野外実習費 2年次のみ

令和元年度の入学生

学部・学科		費目	学 費 (年 額)			
			授 業 料	教育充実費	実験実習費	実務実習費
文学部	日本語日本文学科	1年次	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円
		2～4年次	935,000	200,000	—	—
	英語文化学科	1年次	895,000	200,000	—	—
		2～4年次	975,000	200,000	—	—
	心理・社会福祉学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	230,000	—	—
学部教育	教育学科	1年次	995,000	230,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	240,000	—	—
スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	995,000	230,000	※1 20,000	—
		2～4年次	1,035,000	270,000	※2 20,000	—
生活環境学部	生活環境学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
	食物栄養学科	1年次	995,000	250,000	50,000	—
		2～4年次	1,035,000	350,000	50,000	—
	情報メディア学科	1年次	995,000	250,000	—	—
		2～4年次	1,035,000	250,000	—	—
建築学科	1年次	1,100,000	300,000	60,000	—	
	2～4年次	1,140,000	340,000	60,000	—	
音楽学部	演奏学科	1年次	1,370,000	330,000	—	—
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	1,370,000	330,000	—	20,000
		2～4年次	1,440,000	330,000	—	—
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	0	—
		2～6年次	1,532,000	362,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	0	—
		2～4年次	1,170,000	370,000	160,000	—
学部看護	看護学科	1年次	1,347,000	328,000	—	—
		2～4年次	1,367,000	328,000	—	—

※1 野外実習費

※2 野外実習費 2年次のみ

平成30年度の入学生

学部・学科		学 費 (年 額)					
		授 業 料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費	
文学部	日本語日本文学科	895,000 ^円	200,000 ^円	— ^円	— ^円	— ^円	
	英語文化学科	895,000	200,000	—	—	—	
	教育学科	995,000	230,000	—	—	—	
	心理・社会福祉学科	995,000	230,000	—	—	—	
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	995,000	230,000	—	*1 20,000	—	
生活環境学部	生活環境学科	995,000	250,000	—	—	—	
	食物栄養学科	995,000	250,000	—	46,000	—	
	情報メディア学科	995,000	250,000	—	—	—	
	建築学科	1,100,000	300,000	—	60,000	—	
音楽学部	演奏学科	1,370,000	330,000	—	—	—	
	応用音楽学科	1,370,000	330,000	—	—	*2 20,000	
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	362,000	—	0	—
		2~6年次	1,502,000	362,000	—	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	370,000	—	0	—
		2~4年次	1,130,000	370,000	—	160,000	—
看護学部	看護学科	1,347,000	300,000	3,000	—	—	

※1 野外実習費。1年次、2年次のみ

※2 1年次のみ

平成26～29年度の入学生

学部・学科		学 費 (年 額)					
		授 業 料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費	
文学部	日本語日本文学科	895,000 ^円	175,000 ^円	3,000 ^円	— ^円	— ^円	
	英語文化学科	895,000	175,000	3,000	—	—	
	教育学科	995,000	205,000	3,000	—	—	
	心理・社会福祉学科	995,000	205,000	3,000	—	—	
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	995,000	205,000	3,000	*1 20,000	—	
生活環境学部	生活環境学科	995,000	225,000	3,000	—	—	
	食物栄養学科	995,000	225,000	3,000	46,000	—	
	情報メディア学科	995,000	225,000	3,000	—	—	
	建築学科	1,100,000	275,000	3,000	60,000	—	
音楽学部	演奏学科	1,370,000	305,000	3,000	—	—	
	応用音楽学科	1,370,000	305,000	3,000	—	*2 20,000	
薬学部	薬学科	1年次	1,502,000	337,000	3,000	0	—
		2～6年次	1,502,000	337,000	3,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	1,130,000	345,000	3,000	0	—
		2～4年次	1,130,000	345,000	3,000	160,000	—
看護学部	看護学科	1,347,000	300,000	3,000	—	—	

※1 野外実習費。1年次、2年次のみ

※2 1年次のみ

・看護学部看護学科は平成27年度開設

平成25年度以前の入学生

学部・学科		学 費 (年 額)					
		授 業 料	教育充実費	学生研修費	実験実習費	実務実習費	
文 学 部	日本語日本文学科	895,000 ^円	150,000 ^円	3,000 ^円	— ^円	— ^円	
	英語文化学科	895,000	150,000	3,000	—	—	
	教 育 学 科	995,000	180,000	3,000	—	—	
	心理・社会福祉学科	995,000	180,000	3,000	—	—	
健康・ スポーツ 科学部	健康・スポーツ科学科	995,000	180,000	3,000	*1 20,000	—	
生 活 環 境 学 部	生活環境学科	995,000	200,000	3,000	—	—	
	食物栄養学科	995,000	200,000	3,000	46,000	—	
	情報メディア学科	995,000	200,000	3,000	—	—	
	建 築 学 科	1,100,000	250,000	3,000	60,000	—	
音 楽 学 部	演 奏 学 科	1,370,000	280,000	3,000	—	—	
	応用音楽学科	1,370,000	280,000	3,000	—	*2 20,000	
薬 学 部	薬 学 科 (平成23年度以前の入学生)	1,502,000	320,000	3,000	—	80,000	
	薬 学 科 (平成24・25年度の入学生)	1年次	1,502,000	320,000	3,000	0	—
		2～6年次	1,502,000	320,000	3,000	96,000	—
	健康生命薬科学科 (平成23年度以前の入学生)	1,250,000	320,000	3,000	—	—	
	健康生命薬科学科 (平成24・25年度の入学生)	1年次	1,130,000	320,000	3,000	0	—
		2～4年次	1,130,000	320,000	3,000	160,000	—

※1 野外実習費。1年次、2年次のみ

※2 1年次のみ

別表第9（第56条関係）

区 分		金 額	備 考
科目等履修生	選 考 料	10,000円	本学卒業生は免除
	登 録 料	15,000円	本学卒業生は半額
	履 修 料	1単位 30,000円 ただし、薬学部基礎・専門教育科目のうち講義科目 1単位 60,000円 「臨床薬学基本実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の履修料は 1単位 60,000円 「薬学臨床実習」の履修料は750,000円 〔健康生命薬科学科卒業生の薬剤師国家試験 受験資格取得に関する経過措置対応のため〕	単位不要の場合は半額

別表第10（第57条関係）

区 分		金 額	備 考
研 究 生	研 究 料	日本語日本文、英語文化 月額 25,000円	
		教育学部、健康・スポーツ科学部、 心理・社会福祉 月額 29,000円	
		生活環境学部、食物栄養科学部 月額 29,000円	
		社会情報学部 月額 28,000円	
		建築学部 月額 32,000円	
		音楽学部 月額 39,000円	
		薬学 月額 43,000円	
		健康生命薬科 月額 32,000円	
経営学部 月額 23,000円			

変更事項を記載した書類

1. 変更の事由

令和6年4月、文学部歴史文化学科を設置し、また教育学部教育学科、薬学部薬学科及び健康生命薬科学科の定員を変更することから、学則の一部を変更する。

2. 変更点

- (1) 第5条（学部・学科及び収容定員）に文学部歴史文化学科の記載を加え、また、教育学部教育学科、薬学部薬学科及び健康生命薬科学科の定員を変更する。
- (2) 第5条の2（目的）、第27条の2（教育職員免許状）に文学部歴史文化学科の記載を加える。
- (3) 附則において施行日を明確にし、完成年度までの移行措置を追加する。
- (4) 別表第1（共通教育科目の授業科目及びその単位数）を令和6年度開設科目に変更する。
- (5) 別表第2（基礎教育科目及び専門教育科目）、履修方法において、文学部歴史文化学科の記載を加える。
- (6) 別表第4の（中学校・高等学校教諭「各教科の指導法」）に社会・地歴科指導法Ⅰ～Ⅳの記載を加える。
- (7) 別表第8（入学検定料・入学金及び学費）において、文学部歴史文化学科の記載を加える。

3. 変更の時期

令和6年4月1日

武庫川女子大学学則 変更部分の新旧対照表

新(改正後(案))					旧(現行)					
(学部・学科及び収容定員)					(学部・学科及び収容定員)					
第5条 本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする。					第5条 本学に置く学部・学科及び収容定員は、次のとおりとする。					
学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	学部	学科	入学定員	編入学定員	収容定員	
文学部	日本語日本文学科	150	3年次25	650	文学部	日本語日本文学科	150	3年次25	650	
	歴史文化学科	80	—	320		(新設)				
	英語グローバル学科	200	3年次25	850		英語グローバル学科	200	3年次25	850	
教育学部	教育学科	240	3年次40	1,040	教育学部	教育学科	240	3年次25	1,010	
心理・社会福祉学部	心理学科	150	—	600	心理・社会福祉学部	心理学科	150	—	600	
	社会福祉学科	70	—	280		社会福祉学科	70	—	280	
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	180	3年次20	760	健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	180	3年次20	760	
	スポーツマネジメント学科	100	—	400		スポーツマネジメント学科	100	—	400	
生活環境学部	生活環境学科	165	3年次20	700	生活環境学部	生活環境学科	165	3年次20	700	
社会情報学部	社会情報学科	180	—	720	社会情報学部	社会情報学科	180	—	720	
食物栄養科学部	食物栄養学科	200	3年次10	820	食物栄養科学部	食物栄養学科	200	3年次10	820	
	食創造科学科	80	3年次5	330		食創造科学科	80	3年次5	330	
建築学部	建築学科	45	—	180	建築学部	建築学科	45	—	180	
	景観建築学科	40	—	160		景観建築学科	40	—	160	
音楽学部	演奏学科	30	—	120	音楽学部	演奏学科	30	—	120	
	応用音楽学科	20	—	80		応用音楽学科	20	—	80	
薬学部	薬学科	105	—	630	薬学部	薬学科	210	—	1,260	
	健康生命薬科学科	60	—	240		健康生命薬科学科	40	—	160	
看護学部	看護学科	80	—	320	看護学部	看護学科	80	—	320	
経営学部	経営学科	200	—	800	経営学部	経営学科	200	—	800	
(目的)					(目的)					
第5条の2 各学部・学科の目的は次のとおりとする。					第5条の2 各学部・学科の目的は次のとおりとする。					
2 文学部は、人間の本質と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。					2 文学部は、人間の本質と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。					
(略)					(略)					
(2) 歴史文化学科は、現代日本の社会が歴史的に形成されてきたことを理解した上で、多元的な歴史認識に立って未来社会を創造する有為な女性を養成することを目的とする。					(新設)					
(3) (略)					(2) (略)					
3～13 (略)					3～13 (略)					
第27条の2 教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法(別表第1、第2の備考)、並びに別表第4に従い修得しなければならない。					第27条の2 教育職員免許状授与の所要資格を得ようとする者は、第35条の規定によるほか、教育職員免許法及び同法施行規則に定める所定の単位を、別表第1、第2及び履修方法(別表第1、第2の備考)、並びに別表第4に従い修得しなければならない。					
2～3(略)					2～3(略)					
4 本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。					4 本学において当該所要資格を取得できる学部学科、教員免許状の種類及び免許教科又は領域を次のとおりとする。					
学部	学科	免許状の種類	免許教科又は領域		学部	学科	免許状の種類	免許教科又は領域		
文学部	日本語日本文学科	中学校教諭一種免許状	国語		文学部	日本語日本文学科	中学校教諭一種免許状	国語		
		高等学校教諭一種免許状	国語・書道				高等学校教諭一種免許状	国語・書道		
	歴史文化学科	中学校教諭一種免許状	社会			(新設)				
		高等学校教諭一種免許状	地理歴史			英語文化学科	中学校教諭一種免許状	英語		
英語文化学科	中学校教諭一種免許状	英語		英語文化学科	高等学校教諭一種免許状	英語				
教育学部			(略)		教育学部			(略)		
健康・スポーツ科学部			(略)		健康・スポーツ科学部			(略)		
生活環境学部			(略)		生活環境学部			(略)		
社会情報学部			(略)		社会情報学部			(略)		
食物栄養科学部			(略)		食物栄養科学部			(略)		
音楽学部			(略)		音楽学部			(略)		
薬学部			(略)		薬学部			(略)		
附 則					(新設)					
1 この学則は、令和6年4月1日から施行する。										
2 第5条に規定する文学部歴史文化学科の収容定員は、令和6年度から令和8年度までの間、次のとおりとする。										
	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度						
学部・学科		収容定員	収容定員	収容定員						
文学部 歴史文化学科		80	160	240						

新(改正後(案))

旧(現行)

3 第5条に規定する教育学部教育学科の収容定員は、令和6年度は次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和6年度
		収容定員
教育学部 教育学科		1,025

4 第5条に規定する薬学部薬学科の収容定員は、令和6年度から令和10年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
		収容定員	収容定員	収容定員	収容定員	収容定員
薬学部 薬学科		1155	1050	945	840	735

5 第5条に規定する薬学部健康生命薬科学科の収容定員は、令和6年度から令和8年度までの間、次のとおりとする。

学部・学科	年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
		収容定員	収容定員	収容定員
薬学部 健康生命薬科学科		180	200	220

6 第26条第4項の規定にかかわらず、令和5年度以前の入学生基礎教育科目及び専門教育科目の授業科目並びにその単位数(別表第2)については、なお従前のとおりとする。

別表第1

共通教育科目

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
基礎教養科目群 人文科学科目			
(削除)			
平安朝文学の世界		2	
(削除)			
英語圏の文学・文化		2	
日常生活からの哲学入門		2	
現代フランスの音楽事情		2	
先端芸術表現		1	
ミュージカル歌唱法		1	
音楽の科学		2	
フランスの音楽と芸術文化		2	
ヨーロッパの名歌歌唱法		1	
自己発見アート		1	
未来造形		1	
日本舞踊に学ぶ着付けと作法		1	
歌舞伎鑑賞入門		2	
日本の文化 I		2	
日本の文化 II		2	
(削除)			
(削除)			
遊びの人類学		2	
心理学入門		2	
人間関係の心理学		2	
SNSから日本語を見る		2	
日本語と英語の比較		2	
英語を学問する—理論と実践		2	
(削除)			
生活の中の心理学		2	
(削除)			

別表第1

共通教育科目

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
基礎教養科目群 人文科学科目			
神話・伝説の世界から		2	
平安朝文学の世界		2	
芭蕉をめぐる人々		2	
雨月物語に込められた情念		2	
芭蕉と旅		2	
「心中天網島」の女房「おさん」		2	
英語圏の文学・文化		2	
日常生活からの哲学入門		2	
現代フランスの音楽事情		2	
(新設)			
ミュージカル歌唱法		1	
音楽の科学		2	
フランスの音楽と芸術文化		2	
ヨーロッパの名歌歌唱法		1	
自己発見アート		1	
未来造形		1	
日本舞踊に学ぶ着付けと作法		1	
歌舞伎鑑賞入門		2	
日本の文化 I		2	
日本の文化 II		2	
建築文化論		2	
建築と歴史		2	
遊びの人類学		2	
(新設)			
(新設)			
SNSから日本語を見る		2	
(新設)			
英語を学問する—理論と実践		2	
日本語の世界		2	
生活の中の心理学		2	
合唱表現		1	

新(改正後(案))				旧(現行)			
基礎教養科目群 社会科学科目				基礎教養科目群 社会科学科目			
(削除)				情報化と教育		2	
(削除)				現代の教育・保育事情		2	
カウンセリングの実際		2		カウンセリングの実際		2	
実践カウンセリング		2		実践カウンセリング		2	
(削除)				生涯福祉論		2	
(削除)				社会福祉とボランティア		2	
福祉レクリエーションの実際		2		福祉レクリエーションの実際		2	
差別と暴力のない世界をめざして		2		(新設)			
「ふつう」を考える社会学		2		(新設)			
現代世界の教育		2		(新設)			
聴覚障害者の理解と手話言語		2		聴覚障害者の理解と手話言語		2	
子育てと家族関係		2		子育てと家族関係		2	
子育てと母性の気づき		2		子育てと母性の気づき		2	
現代社会と憲法		2		現代社会と憲法		2	
教養としての法律		2		教養としての法律		2	
暮らしと法律		2		暮らしと法律		2	
(削除)				女性と子どものヘルスケア		2	
(削除)				まちづくりと地方自治の役割		2	
建築と社会		2		建築と社会		2	
消費者生活論		2		消費者生活論		2	
英語で学ぶやさしい経済学		2		英語で学ぶやさしい経済学		2	
英語で学ぶお金の知識		2		英語で学ぶお金の知識		2	
我々の暮らしと日本の産業		2		我々の暮らしと日本の産業		2	
メディア技術と文字デザイン		2		メディア技術と文字デザイン		2	
基礎教養科目群 自然科学科目				基礎教養科目群 自然科学科目			
(削除)				エコロジーと私たちの暮らし		2	
(削除)				数的能力の発達過程		2	
(削除)				数や図形の科学		2	
生命科学入門		2		生命科学入門		2	
(削除)				環境問題の歴史		2	
(削除)				科学技術の歩み		2	
(削除)				生命科学の基礎		2	
生活の中の物理学		2		生活の中の物理学		2	
最先端物理学が描く宇宙		2		最先端物理学が描く宇宙		2	
色彩情報		2		色彩情報		2	
科学から考える衣服と生活		2		科学から考える衣服と生活		2	
(削除)				健康を支える仕組み		2	
(削除)				生活習慣と脳と心と身体の科学		2	
(削除)				薬とからだ		2	
(削除)				健康生活とライフステージ		2	
(削除)				薬の歴史と未来		2	
はたらく細胞とくすり		2		はたらく細胞とくすり		2	
(削除)				身近にある科学		2	
(削除)				発達障害の理解とリエゾン支援		2	
基礎教養科目群 国際理解科目				基礎教養科目群 国際理解科目			
音楽から見る人と世界		2		音楽から見る人と世界		2	
韓国文化の理解		2		韓国文化の理解		2	
(削除)				International Perspectives I		2	
(削除)				International Perspectives II		2	
中国文化論		2		中国文化論		2	
(削除)				国際協力入門		2	
世界の中の日本人		2		世界の中の日本人		2	
基礎教養科目群 現代トピック科目				基礎教養科目群 現代トピック科目			
Current Affairs in Japan I		2		Current Affairs in Japan I		2	
Current Affairs in Japan II		2		Current Affairs in Japan II		2	
(削除)				心理学トピックス		2	
(削除)				現代社会と保健医療		2	
(削除)				社会福祉の学び		2	
(削除)				テレビ映像と現代社会		2	

新(改正後(案))				旧(現行)			
女性のためのマーケティング		2		女性のためのマーケティング		2	
スポーツツーリズムと地域創生		2		スポーツツーリズムと地域創生		2	
モラルジレンマから考える私		2		(新設)			
ジェンダー科目群				ジェンダー科目群			
セクシュアリティ入門Ⅰ		2		セクシュアリティ入門Ⅰ		2	
セクシュアリティ入門Ⅱ		2		セクシュアリティ入門Ⅱ		2	
女性と教育		2		女性と教育		2	
ジェンダーとアイデンティティー		2		ジェンダーとアイデンティティー		2	
ジェンダーと社会		2		ジェンダーと社会		2	
女性の身体とセクシュアリティ		2		女性の身体とセクシュアリティ		2	
メディアに見るジェンダー		2		メディアに見るジェンダー		2	
(削除)				女性が輝く社会づくり		2	
キャリアデザイン科目群				キャリアデザイン科目群			
(削除)				教員から見た社会人基礎力		2	
女性のためのライフプランニング		2		女性のためのライフプランニング		2	
自己アピールトレーニング		2		自己アピールトレーニング		2	
(削除)				文章表現の基礎		2	
(削除)				プレゼンテーションの基礎		2	
キャリアビジョンと人物評価		2		キャリアビジョンと人物評価		2	
(削除)				公務員の魅力		2	
(削除)				ベンチャービジネス概論		2	
(削除)				ビジネスプラン構築概論		2	
(削除)				SOAR 人生100年をきり拓く力		2	
言語・情報科目群 言語リテラシー科目				言語・情報科目群 言語リテラシー科目			
(削除)				English for Studying Abroad		1	
Reading & Critical Thinking		1		Reading & Critical Thinking		1	
(削除)				English for Careers		1	
Reading & Discussion		1		Reading & Discussion		1	
(削除)				Trends in Society		1	
Career Workshop		1		Career Workshop		1	
Speaking & Listening Ⅰ		1		Speaking & Listening Ⅰ		1	
Speaking & Listening Ⅱ		1		Speaking & Listening Ⅱ		1	
Speaking & Listening Ⅲ		1		Speaking & Listening Ⅲ		1	
Basics for Presentation Ⅰ		1		Basics for Presentation Ⅰ		1	
Basics for Presentation Ⅱ		1		Basics for Presentation Ⅱ		1	
(削除)				Successful English Discussion		1	
英語コミュニケーションⅠ		2		英語コミュニケーションⅠ		2	
英語コミュニケーションⅡ		2		英語コミュニケーションⅡ		2	
英語コミュニケーションⅢ		1		(新設)			
英語コミュニケーションⅣ		1		(新設)			
(削除)				英語リーディングⅠ		1	
(削除)				英語リーディングⅡ		1	
英語ライティングⅠ		1		英語ライティングⅠ		1	
英語ライティングⅡ		1		英語ライティングⅡ		1	
TOEIC演習Ⅰ		1		TOEIC演習Ⅰ		1	
TOEIC演習Ⅱ		1		TOEIC演習Ⅱ		1	
TOEIC演習Ⅲ		1		TOEIC演習Ⅲ		1	
TOEFL演習		1		(新設)			
Writing Ⅰ		1		Writing Ⅰ		1	
Writing Ⅱ		1		Writing Ⅱ		1	
Presentation		1		Presentation		1	
(削除)				Reading & Structure Ⅰ		1	
(削除)				Reading & Structure Ⅱ		1	
Current Events		1		Current Events		1	
Leadership Development		1		Leadership Development		1	
Global Issues Ⅰ		1		Global Issues Ⅰ		1	
Global Issues Ⅱ		1		Global Issues Ⅱ		1	

新(改正後(案))				旧(現行)			
(削除)				英語リーディングⅢ			1
(削除)				留学準備演習			1
ドイツ語Ⅰ		2		ドイツ語Ⅰ			2
ドイツ語Ⅱ		2		ドイツ語Ⅱ			2
フランス語Ⅰ		2		フランス語Ⅰ			2
フランス語Ⅱ		2		フランス語Ⅱ			2
フランス語ⅠA		1		フランス語ⅠA			1
フランス語ⅠB		1		フランス語ⅠB			1
TOEIC(初級)		1		(新設)			
(削除)				中国語Ⅰ			2
(削除)				中国語Ⅱ			2
イタリア語ⅠA		1		イタリア語ⅠA			1
イタリア語ⅠB		1		イタリア語ⅠB			1
スペイン語Ⅰ		2		スペイン語Ⅰ			2
(削除)				スペイン語Ⅱ			2
ハンゲルⅠ		2		ハンゲルⅠ			2
ハンゲルⅡ		2		ハンゲルⅡ			2
ハンゲル検定演習		1		ハンゲル検定演習			1
(削除)				特別英語演習Ⅰ			4
(削除)				特別英語演習Ⅱ			4
(削除)				特別英語演習Ⅷ			2
(削除)				特別中国語演習Ⅰ			2
(削除)				特別中国語演習Ⅱ			2
(削除)				特別ハンゲル演習Ⅰ			4
(削除)				特別ハンゲル演習Ⅱ			4
(削除)				海外演習Ⅰ(タイ)			1
(削除)				海外演習Ⅱ(タイ)			2
(削除)				海外演習Ⅰ(豪州)			1
(削除)				海外演習Ⅱ(豪州)			2
(削除)				海外演習Ⅰ(台湾)			1
(削除)				海外演習Ⅱ(台湾)			2
(削除)				海外演習Ⅰ(韓国)			1
(削除)				海外演習Ⅱ(韓国)			2
(削除)				日本語・上級Ⅰ			2
(削除)				日本語・上級Ⅱ			2
(削除)				日本語・上級Ⅲ			2
(削除)				日本語・上級Ⅳ			2
(削除)				日本語中級A			3
(削除)				日本語中級B			3
(削除)				日本語中級C			3
(削除)				日本語中級D			3
言語・情報科目群 情報リテラシー科目				言語・情報科目群 情報リテラシー科目			
(削除)				Accessデータベース基礎			2
(削除)				情報社会を生きる技術			2
Webデザイン基礎		2		Webデザイン基礎			2
Webデザイン応用		2		Webデザイン応用			2
(削除)				Scratchによるプログラミング			2
グラフィックデザイン基礎		2		グラフィックデザイン基礎			2
フォトタッチ基礎		2		フォトタッチ基礎			2
データサイエンスの基礎とExcel		2		データサイエンスの基礎とExcel			2
(削除)				データサイエンスの応用とExcel			2
データリテラシー・AIの基礎	2			データリテラシー・AIの基礎	2		
(削除)				データサイエンスのためのPython			2
(削除)				実用的ITリテラシー			2
(削除)				現代社会と情報			2
健康・スポーツ科目群 健康・スポーツ科学科目				健康・スポーツ科目群 健康・スポーツ科学科目			
スポーツと栄養		2		(新設)			
(削除)				生涯スポーツ論			2
スポーツと現代社会		2		スポーツと現代社会			2
(削除)				知っておきたい応急処置			2
(削除)				障がい者とパラスポーツ			2

新(改正後(案))				旧(現行)			
健康・スポーツ科目群 スポーツ実技科目				健康・スポーツ科目群 スポーツ実技科目			
スポーツ実技(テニス)		1		スポーツ実技(テニス)		1	
スポーツ実技(ゴルフ)		1		スポーツ実技(ゴルフ)		1	
スポーツ実技(バレーボール)		1		スポーツ実技(バレーボール)		1	
スポーツ実技(バドミントン)		1		スポーツ実技(バドミントン)		1	
スポーツ実技(エアロビクス)		1		スポーツ実技(エアロビクス)		1	
(削除)				スポーツ実技(水泳)		1	
スポーツ実技(軽スポーツ)		1		スポーツ実技(軽スポーツ)		1	
スポーツ実技(ヨガ)		1		スポーツ実技(ヨガ)		1	
からだと気づきと姿勢法		1		からだと気づきと姿勢法		1	
スポーツ実技(スリムエアロ)		1		スポーツ実技(スリムエアロ)		1	
スポーツ実技(ダンスエアロ)		1		スポーツ実技(ダンスエアロ)		1	
スポーツ実技(ハンジーエクササイズ)		1		スポーツ実技(ハンジーエクササイズ)		1	
スポーツ実技(エアリアルワーク)		1		スポーツ実技(エアリアルワーク)		1	
スポーツ実技(スタイルジャズ)		1		スポーツ実技(スタイルジャズ)		1	
スポーツ実技(フットサル)		1		スポーツ実技(フットサル)		1	
(削除)				スポーツ実技(ジャズダンス)		1	
(削除)				マッサージ実習		1	
大学・初年次ゼミ 学び発見ゼミ				大学・初年次ゼミ 学び発見ゼミ			
(削除)				大学 学び発見ゼミ		2	
単位互換協定科目				単位互換協定科目			
(削除)				ソマティック実践&ダンス		2	
(削除)				のぞいてみたい薬学の世界		2	
(削除)				西宮フィールドトリップ		2	
(削除)				知っておきたい薬学のおはなし		2	

別表第2

基礎教育科目及び専門教育科目
(略)

文学部歴史文化学科

授業科目	単位数		備考
	必修	選択	
基礎教育科目			
初期演習Ⅰ	1		
初期演習Ⅱ(歴史文化研究)	1		
歴史文化資料論	2		
文化と民族	2		
文化・歴史研究と情報	2		
歴史文化フィールドワーク基礎	2		
文章表現法(歴史文化)	2		
情報リテラシー(歴史文化)	2		
Oral Communication		2	
専門教育科目			
日本史概説	2		
日本史料概説	2		
考古学概説	2		
人文地理学	2		
日本美術史		2	
女性史概説	2		
古文書入門		2	
自然地理学		2	
民俗資料を読む		2	
文化人類学概説	2		
日本思想史		2	
地理学概説	2		
日本古代史史料を読むⅠ		2	
日本古代史史料を読むⅡ		2	
日本中世史史料を読むⅠ		2	
日本中世史史料を読むⅡ		2	
日本近世史史料を読むⅠ		2	
日本近世史史料を読むⅡ		2	

別表第2

基礎教育科目及び専門教育科目
(略)

(新設)

新(改正後(案))		旧(現行)	
日本近現代史史料を読むⅠ		2	
日本近現代史史料を読むⅡ		2	
古記録と古文書		2	
地誌学		2	
文化遺産論		2	
食の文化誌		2	
言語と文字の史の変遷	2		
江戸の風俗と絵画		2	
縄文・弥生の考古学		2	
歴史のなかの女性		2	
日本の生活文化	2		
古墳・中近世の考古学		2	
日本の祭礼 春夏秋冬		2	
中世の文化史 刀剣・武器		2	
地理と情報		2	
装いの日本文化		2	
すまいの日本文化		2	
出版・メディアの文化史		2	
信仰の民俗学		2	
古代中世の都市と交通		2	
画像文化論		2	
地域社会論		2	
観光文化論		2	
意匠・デザインの基礎		2	
日本芸能文化史		2	
文化財の活用と保存	2		
伝統工芸の保存と継承		2	
地域の伝承		2	
古代史研究の方法と課題		2	
中世史研究の方法と課題		2	
近世史研究の方法と課題		2	
近現代史研究の方法と課題		2	
地域政策論		2	
災害と歴史		2	
地域文化研究		2	
地域文化フィールドワークⅠ		2	
地域文化フィールドワークⅡ		2	
歴史文化フィールドワークⅠ		2	
歴史文化フィールドワークⅡ		2	
歴史文化フィールドワークⅢ		2	
歴史文化フィールドワークⅣ		2	
映像メディア・理論と実践		2	
歴史文化とプレゼンテーション		2	
演習Ⅰ	2		
演習Ⅱ	2		
卒業論文	4		
中国語入門		2	
韓国語入門		2	
英語で読む日本		2	
観光英語		2	
キャリアとコミュニケーション		2	
くらしと言語景観		2	
東洋史		2	
西洋史		2	
近代の世界史		2	
多文化共生論		2	
観光と行政		2	
法律学		2	
経済学		2	
社会学		2	
倫理学		2	

新(改正後(案))

履修方法(別表第1、第2の備考)

(略)

文学部 歴史文化学科

- 1 共通教育科目の中から16単位以上
- 2 共通教育科目『基礎教養科目群』の中の「社会科学科目」、「自然科学科目」及び『ジェンダー科目群』から合計4単位以上、『基礎教養科目群』の中の「国際理解科目」、「現代トピック科目」及び『大学・初年次ゼミ』の中の「学び発見ゼミ」から合計2単位以上、『言語・情報科目群』の中の「言語リテラシー科目」から合計2単位以上、「情報リテラシー科目」から「データリテラシー・AIの基礎1(2単位・必修)
- 3 基礎教育科目及び専門教育科目の中から64単位以上
- 4 学科指定外国語科目の中から8単位以上

別表第4

教育職員免許状

(略)

(中学校・高等学校教諭「各教科の指導法」)

免許法施行規則に定める科目		法定単位	本校の開設授業科目	単位数	必修単位	中一単位	高一単位	備考
左の科目に含めることが必要な事項	左の科目に含めることが必要な事項							
第二欄 教科及び教科の指導法に関する科目	・各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	中8・高4	国語科指導法Ⅰ	2	2	2	2	各自が取得する免許状の教科に応じて修得すること
			国語科指導法Ⅱ	2	2	2	2	
			国語科指導法Ⅲ	2	2	2	2	
			国語科指導法Ⅳ	2	2	2	2	
			普通科指導法Ⅰ	2	—	2	—	
			普通科指導法Ⅱ	2	—	2	—	
			英語科指導法Ⅰ	2	2	2	2	
			英語科指導法Ⅱ	2	2	2	2	
			英語科指導法Ⅲ	2	2	2	2	
			英語科指導法Ⅳ	2	2	2	2	
			社会・地歴科指導法Ⅰ	2	2	2	2	
			社会・地歴科指導法Ⅱ	2	2	2	2	
			社会・地歴科指導法Ⅲ	2	2	—	—	
			社会・地歴科指導法Ⅳ	2	2	—	—	
			家庭科指導法Ⅰ	2	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅱ	2	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅲ	2	2	2	2	
			家庭科指導法Ⅳ	2	2	2	2	
			情報科指導法Ⅰ	2	—	2	—	
			情報科指導法Ⅱ	2	—	2	—	
			音楽科指導法Ⅰ	2	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅱ	2	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅲ	2	2	2	2	
			音楽科指導法Ⅳ	2	2	2	2	
			理科指導法Ⅰ	2	2	2	2	
			理科指導法Ⅱ	2	2	2	2	
			理科指導法Ⅲ	2	2	2	2	
			理科指導法Ⅳ	2	2	2	2	
合計		中8・高4	計	8	8			

【履修方法】

- (1) 「各教科の指導法」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の科目のうち、各自が取得する免許状の教科に応じて8単位(普通科指導法・情報科指導法は4単位)を修得すること。

旧(現行)

履修方法(別表第1、第2の備考)

(略)

(新設)

別表第4

教育職員免許状

(略)

(中学校・高等学校教諭「各教科の指導法」)

免許法施行規則に定める科目		法定単位	本校の開設授業科目	単位数	必修単位	中一単位	高一単位	備考				
左の科目に含めることが必要な事項	左の科目に含めることが必要な事項											
第二欄 教科及び教科の指導法に関する科目	・各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	中8・高4	国語科指導法Ⅰ	2	2	2	2	各自が取得する免許状の教科に応じて修得すること				
			国語科指導法Ⅱ	2	2	2	2					
			国語科指導法Ⅲ	2	2	2	2					
			国語科指導法Ⅳ	2	2	2	2					
			普通科指導法Ⅰ	2	—	2	—					
			普通科指導法Ⅱ	2	—	2	—					
			英語科指導法Ⅰ	2	2	2	2					
			英語科指導法Ⅱ	2	2	2	2					
			英語科指導法Ⅲ	2	2	2	2					
			英語科指導法Ⅳ	2	2	2	2					
			家庭科指導法Ⅰ	2	2	2	2					
			家庭科指導法Ⅱ	2	2	2	2					
			家庭科指導法Ⅲ	2	2	2	2					
			家庭科指導法Ⅳ	2	2	2	2					
			情報科指導法Ⅰ	2	—	2	—					
			情報科指導法Ⅱ	2	—	2	—					
			音楽科指導法Ⅰ	2	2	2	2					
			音楽科指導法Ⅱ	2	2	2	2					
			音楽科指導法Ⅲ	2	2	2	2					
			音楽科指導法Ⅳ	2	2	2	2					
			理科指導法Ⅰ	2	2	2	2					
			理科指導法Ⅱ	2	2	2	2					
			理科指導法Ⅲ	2	2	2	2					
			理科指導法Ⅳ	2	2	2	2					
			合計		中8・高4	計	8		8			

【履修方法】

- (1) 「各教科の指導法」の科目を履修するために必要な手続きの詳細は別に定める。
- (2) 上表の科目のうち、各自が取得する免許状の教科に応じて8単位(普通科指導法・情報科指導法は4単位)を修得すること。

新(改正後(案))

旧(現行)

別表第8(第39条関係)
令和6年度の入学生

別表第8(第39条関係)
(新設)

令和6年度の入学生

学部・学科	費目	入学検定料	入学金	学費(年間)				
				授業料	教育充実費	実験実習費	実務実習費	
文学部	日本語日本文学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2~4年次	—	—	935,000	209,000	—	—
	歴史文化学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—
		2~4年次	—	—	935,000	209,000	—	—
英語グローバル学科	1年次	35,000	200,000	895,000	200,000	—	—	
	2~4年次	—	—	975,000	209,000	—	—	
教育学部	教育学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2~4年次	—	—	1,035,000	249,000	—	—
社会福祉学部	心理学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2~4年次	—	—	1,035,000	239,000	—	—
社会福祉学部	社会福祉学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	—	—
		2~4年次	—	—	1,035,000	239,000	—	—
スポーツ健康科学部	健康・スポーツ科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	26,000	—
		2~4年次	—	—	1,035,000	279,000	26,000	—
	スポーツマネジメント学科	1年次	35,000	200,000	995,000	230,000	26,000	—
		2~4年次	—	—	1,035,000	279,000	26,000	—
環境生活学部	生活環境学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	—	—
		2~4年次	—	—	1,035,000	29,000	—	—
福祉学部	社会情報学科	1年次	35,000	200,000	990,000	180,000	—	—
		2~4年次	—	—	1,060,000	259,000	—	—
食物栄養科学部	食物栄養学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	51,000	—
		2~4年次	—	—	1,035,000	410,000	51,000	—
	食創造科学科	1年次	35,000	200,000	995,000	250,000	51,000	—
		2~4年次	—	—	1,035,000	410,000	51,000	—
建築学部	建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2~4年次	—	—	1,160,000	409,000	80,000	—
	景観建築学科	1年次	35,000	200,000	1,120,000	300,000	80,000	—
		2~4年次	—	—	1,160,000	409,000	80,000	—
音楽学部	演奏学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	—
		2~4年次	—	—	1,440,000	390,000	—	—
	応用音楽学科	1年次	35,000	200,000	1,370,000	330,000	—	20,000
		2~4年次	—	—	1,440,000	390,000	—	—
薬学部	薬学科	1年次	35,000	200,000	1,502,000	362,000	0	—
		2~6年次	—	—	1,532,000	403,000	96,000	—
	健康生命薬科学科	1年次	35,000	200,000	1,130,000	370,000	0	—
		2~4年次	—	—	1,170,000	379,000	160,000	—
学部新設	看護学科	1年次	35,000	200,000	1,347,000	328,000	—	—
		2~4年次	—	—	1,367,000	337,000	—	—
学部新設	経営学科	1年次	35,000	200,000	800,000	200,000	—	—
		2~4年次	—	—	1,000,000	200,000	—	—

※1 出願方法、出願回数に応じた割引金額とする。
 ※2 野外実習費
 ※3 野外実習費 2年次のみ

○武庫川女子大学学部教授会規程

平成2年3月26日

規程第2号

改正 平成3年4月1日

平成4年4月1日

平成5年4月1日

平成7年4月1日

平成10年4月1日

平成18年4月1日

平成19年4月1日

平成27年4月1日

令和3年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、武庫川女子大学学則第55条の規定に基づき、武庫川女子大学学部教授会（以下「教授会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 教授会は、当該学部の教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めたときは、准教授、講師及び助教を加えることができる。

(審議事項)

第3条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

(招集)

第4条 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。学部長に事故あるとき、又は学部長が欠けたときは、学部長があらかじめ指名した者が、その職務を代理し、又はその職務を

行う。

(定足数及び議決)

第5条 教授会の定足数は、委任状の提出者を含め構成員の3分の2以上とし、議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

2 休職中の者その他長期にわたって出席できない者は、前項の定足数から除く。

3 議長は、教授会構成員に直接の利害関係のある事項について審議するときは、当該構成員を議決に加えないことができる。

(非構成員の出席)

第6条 議長は、必要があるときは、構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(守秘義務)

第7条 人事に関する事項及び学生の個人情報に関する事項の審議内容については、秘密を漏らしてはならない。

(議事録)

第8条 議事録は、中央キャンパス大学事務室又は学部事務室職員が作成し、学長の確認を得なければならない。ただし、前条に定める事項の議事録は公開しない。

(庶務)

第9条 教授会の庶務は、中央キャンパス大学事務室又は学部事務室が担当する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、評議会の意見を聴いて、学長が決定する。

(その他)

第11条 学部長は、この規程に定めるもののほか、必要な事項を定めることができる。

附 則

1 この規程は、平成2年4月1日から施行する。

2 武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部教授会規程（昭和45年4月1日）は、これを廃止する。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成4年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成5年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

○武庫川女子大学評議会規程

平成2年3月26日

規程第4号

改正 平成10年4月1日

平成21年4月1日

平成27年4月1日

平成31年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、武庫川女子大学学則第55条の規定に基づき、武庫川女子大学評議会（以下「評議会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 評議会は、開設する学部・学科を代表する者を含む次に掲げる評議員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 共通教育部長
- (5) 各学科長
- (6) 教育研究所長
- (7) 附属図書館長
- (8) その他、学長が必要と認めた者

(任命)

第3条 評議員は、学長の申請に基づき理事長が任命する。

(審議事項)

第4条 評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。

- (1) 学則に基づく規程の制定改廃に関する事項
- (2) 学務に関する全般的事項
- (3) 学生の入学及び卒業の基準に関する事項
- (4) 教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価等に関する事項
- (5) 教育、研究に関する全般的事項
- (6) その他学長が評議会の意見を聴くことが必要と定める事項

(招集)

第5条 評議会は、学長が招集し、その議長となる。学長に事故あるとき、又は学長が欠けたときは、学長があらかじめ指名した者が、その職務を代理し、又はその職務を行う。

(定足数及び議決)

第6条 評議会の定足数は、構成員の3分の2以上とし、議事は、出席者の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

2 休職中の者その他長期にわたって出席できない者は、前項の定足数から除く。

3 議長は、評議会構成員に直接の利害関係のある事項について審議するときは、当該構成員を議決に加えないことができる。

(非構成員の出席)

第7条 議長は、必要があるときは、構成員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(議事録)

第8条 議事録は、教務部教務課長が作成し、学長の確認を得なければならない。

2 議事録は、評議会の上を以て外部に漏らしてはならない。

(庶務)

第9条 評議会の庶務は、教務部教務課が担当する。

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、評議会の意見を聴いて、学長が決定する。

(その他)

第11条 学長は、この規程に定めるもののほか、必要な事項を定めることができる。

附 則

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

武庫川女子大学 文学部歴史文化学科

設置の趣旨等を記載した書類

目 次

1. 設置の趣旨及び必要性P.2
2. 学部・学科等の特色P.9
3. 学部・学科等の名称及び学位の名称P.10
4. 教育課程の編成の考え方及び特色P.11
5. 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件P.13
6. 多様なメディアを高度に利用して, 授業を教室以外の場所で履修 させる場合の具体的計画P.15
7. 実習の具体的計画P.16
8. 取得可能な資格P.18
9. 入学者選抜の概要P.19
10. 教員組織の編制の考え方及び特色P.22
11. 研究の実施についての考え方, 体制, 取組P.23
12. 施設, 設備等の整備計画P.24
13. 管理運営及び事務組織P.26
14. 自己点検・評価P.28
15. 情報の公表P.29
16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等P.31
17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制P.35

1. 設置の趣旨及び必要性

武庫川女子大学は、昭和 14 年に公江喜市郎によって創設された武庫川学院を母体とし、戦後間もない昭和 24 年に武庫川学院女子大学（昭和 33 年に現名称に改称）として開学した。「武庫川学院立学の精神に基づき、女子に広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、高い知性と善美な情操と高雅な徳性を兼ね具えた有為な日本女性を育成して、平和的世界文化の向上に貢献する。」（学則第 1 条）ことを目的とし、創立以来、社会に有為な女性を育成してきた。

開学当初は学芸学部のみであったが、常に時代や社会の要請に応え得る進取の精神と学問探究の姿勢を堅持しつつ、教育研究体制の整備と充実に邁進してきた結果、令和 5 年度現在で大学には文学部、教育学部、心理・社会福祉学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、社会情報学部、食物栄養科学部、建築学部、音楽学部、薬学部、看護学部および経営学部の 12 学部 19 学科、大学院には文学研究科、臨床教育学研究科、健康・スポーツ科学研究科、生活環境学研究科、食物栄養科学研究科、建築学研究科、薬学研究科及び看護学研究科の 8 研究科 14 専攻を有する全国最大規模の女子総合大学へと発展を遂げている。

【資料 1：武庫川女子大学教学組織図】

文学部は昭和 33 年 4 月に設置され、設置する 12 学部のうち最も伝統ある学部である。現在、日本語日本文学科及び英語グローバル学科の 2 学科で構成されているが、これまで歴史学を専門的に学ぶ学科はなかった。この度、文学部の「人間の本质と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成する。」という目的のもと、現代日本の社会が歴史的に形成されてきたことを理解した上で、多元的な歴史認識に立って未来社会を創造する有為な女性を育成するため、「歴史文化学科」（入学定員 80 人）を令和 6 年 4 月に設置する。

(1) 設置の理由及び必要性について

これまでの文学部の歩みは、大学進学率の向上を踏まえ、国際化・情報化・高齢化など多岐にわたる社会環境の変化に即応し、高等教育機関に求められる社会的要請に敏速かつ適切に応えて、未来社会の構築のために有為な人材の育成を図ることに注力することで進展してきた。その間、学修内容および教育手法、付与する資格とその取得のための支援などについても柔軟に対処し、学生のニーズに沿う教育活動を展開してきた。その成果は当初の予測を大きく超え、社会の諸方面（産業界・初等中等教育機関等の教育界・地域・父母等の層）から高い評価を得るまでになったと自負する。

もっとも、少子高齢化が一気に進み、社会はますます多様化の度合いを深め、不安定な経済動向に加えて近年の緊迫した国際情勢などを鑑みるに、日本社会の未来像への予測がいっそう立てにくい時代に入ってゆくことが懸念される。人々は、何を指針としてどのように行動し、いずれの方向に進むべきなのか、判断不能に陥る場合が生じてくるであろう。そう

した混迷の時代の到来を間近に見通すならば、大学は、いまいちど大学教育の本質と役割について原点に立ち戻って熟考を重ねるべきではないか。高等教育のそもそもの役割は、教育基本法第七条に規定されるとおり「学術の中心として、高い教養と専門的能力を培うとともに、深く真理を探究して新たな知見を創造し、これらの成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与する」というものであった。その精神は本学のあらゆる学部学科において十分に咀嚼されているものの、昨今の急激な社会変化に素早く対応するには、即効性の高い知識・技能を付与して公的資格の取得を目指し、喫緊に求められる職業人の養成を優先する必要があったことを認めないわけにはゆかない。高等学校卒業者の大学・短大・専門学校への進学率がすでに83%を超えている現状にあってそれはやむを得ない選択だったと振り返られる。しかし一方で、社会のめまぐるしい変転に柔軟に対応してゆくという観点からは、むしろ今こそ学術探究の純粋性とその普遍的価値を再認識し、より長い射程を設定して人間・社会・諸現象を捉え、「深く真理を探究」して「新たな知見を創造」することにより「社会の発展に寄与する」人材の育成にも力を注ぐべきであると痛感するに至った。女性が国家・社会・組織を実質として牽引する時代に差し掛かってきた今、その方面の教育は必須かつ急務であると本学は認識している。

一般的に、文学部の教育内容は「人間」の営みの全般に及ぶ。言語、思想、行動、心理、芸術、風俗習慣などの領域がそれに該当するが、それらの事象を公正かつ多面的に把握するためには、共時的観点から比較・究明すると同時に通時的観点に立つ分析の蓄積が不可欠である。すなわちそれは歴史学的方法である。本学文学部に設置する日本語日本文学科および英語グローバル学科のいずれにもそのふたつの観点は既に設定されているが、その場合の通時的観点は言語および言語芸術の史的変遷にほぼ限定されており、歴史事象の総体に考察を及ぼすことはなかった。そこで今般、上記の学的領域の不足を補い、文学部の整備拡充を図るべく、歴史系学科の設置を企画することにした。

文学部日本語日本文学科では現状においても「美術史」「日本の伝統文化」「日本の現代文化」など歴史学関連の授業科目を開講し、例年それらを履修する学生は多く、とりわけ博物館学芸員課程を履修する学生に当該分野への学修意欲が高い。卒業論文のテーマを文化史にわたる部門に求める学生も年々増加傾向にあり――「化粧を行う目的の変遷」「清水寺と縁結びの関係について」／いずれも令和3年度卒業論文題目――、学修者間に歴史学への要請は着実に増益していると判断される。この実態を踏まえるなら、文学部日本語日本文学科が現在に至るまでに蓄積してきた知的資源を有効に活用し、さらに拡充・発展することによって、学修者の需要に応え学修意欲の向上を図ることができるとの見通しを立てられる。

一方、新たに設置する歴史系学科は、当然のことながら既設の2学科とは明確に異なる教育内容・質を具備し、志願者層に対して新たな魅力を訴求する学科でなければならない。さらに、本学が大学の集中する阪神間に立地することを踏まえれば、他の大学に早くから設置されている歴史系学科とは異なる特色・美点を用意する必要もある。そこで、令和6年度に新たに設置する学科名称を「歴史文化学科」とし、ここではグローバル志向――本学部英語

グローバル学科が目指すところの——とは対極にあるローカルの方向性を徹底的に追求して、むしろ国際的な視点は確保しつつも自国の文化に深く観察の目を向けることにする。従来の歴史学は、ともすれば政治・経済・軍事など為政者の側に着眼して記述されることが多かったが、本学科では一般庶民の、とりわけ女性たちの暮らし——すなわち衣食住や身のこなし、生活習慣、ことば遣いなど——に観察の対象を据え、抽象よりも具象のなかに考察の切り口を求めたい。近畿圏を中心とした地域でのフィールドワークを通じ、「ひと」「もの」「ところ」に直に触れて、学修者にはそこに自ら問題を発見することを促す。

幸い、本学が所在する兵庫県西宮市（旧摂津国武庫郡）は古代から近現代に至るまでの歴史文化が重層する地域であり、大学周辺（尼崎市、宝塚市、神戸市、大阪市）にすでに教材となる史跡・歴史遺産が豊富に点在するほか、近時は阪神電鉄なんば線の開通により奈良北部とのアクセスが容易になったため、京都・姫路などを含む歴史遺産にたやすく接することのできる環境にある。平成7年に発生した阪神淡路大震災で本学周辺にも甚大な被害をもたらしたが、その後目覚ましい復興を遂げた。それもまた歴史の貴重な証言であり、かように歴史文化学科を育む土壌は着実に整っている。教育・研究を通じて、地域に眠る歴史文化遺産を新たに発見し、それを地域の活性化に利用することもあらかじめ企図の内にある。

なお、この学科のコンセプトは、令和4年度より高等学校において必履修とされている「歴史総合」の目指す方向性とも合致する。平成28年5月に日本学術会議史学委員会・高校歴史に関する分科会が提起した「『歴史総合』に期待されるもの」に明記されるように、これからの学修者には「能動的に学ぶ」姿勢が不可欠であり、「歴史的思考力」の養成が求められている。

(2) 研究対象とする中心的学問分野ならびに養成する人材像

本学科の教育を支える中心的な専門学術領域は、日本史学・日本地理学および日本民俗学であり、過去から現在に至るこの国の制度・文化・生活様式などを丹念にあとづけ、日本文化の特性と本質を把握し、さらにその基盤に存在する精神性をも悟得し、もって未来社会を創造する指針とすることを目指す。資格取得や就職に短絡するのではなく、一人ひとりが歴史文化的課題に真摯に向き合い、学問探究の意義を了知して、そこに生じる知的な喜びを実感できるよう注力する。過去の（先人の）営みを知ることが自らの行為の結果や帰着点を予測する最良のヒントになるはずであり、歴史的知見・知識を知識のままに終わらせることなく、われわれが将来を豊かに生きるための知恵に変換するのがこの学科の学びの目的である。本学は学生を育成するスローガンとして「一生を描ききる女性力を。」を掲げているが、その健全な具現化を図るためにも歴史文化学科の設置が必要であると考えている。

したがって、この学科が養成するのは日本文化の本質とその史的変容を深く弁え、日々社会に出来るさまざまな現象を公平な目で客観的に評価し、獲得した知恵を基盤にして信念をもって自らの行動を起こすことのできる人材である。浮薄な流行を追い求めるのではなく、日本文化の核心を見極めたうえで新たな文化価値を創造して、社会の発展に寄与する

ことのできる人材を数多く育成したいと考えている。

上に「資格取得に短絡しない」旨を述べたが、もとよりそれは資格を軽視するものではない。本学科が設置する教職課程の履修を通して中学校また高等学校教諭の免許状を取得し、専門教科を正確に教授することのできる人材の養成が本学科の一つの責務であることは論を俟たない。高等学校新学習指導要領「歴史総合」は、その目標として「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」の育成を掲げているが、その趣旨はそのまま本学科の教育目標に整合するものであり、本学科の教育課程を修了して教職に就いた卒業生は中等教育現場の即戦力として貢献することが期待される。また、学芸員資格を取得して博物館等に就職し、デジタルアーカイブの構築・整備を牽引できる人材を養成することも本学科の果たすべき責務である。

(3) 歴史文化学科 3つのポリシー

本学の立学の精神には「高い知性と善美な情操と高雅な徳性」を兼ね具えた有為な女性の育成が謳われている。文学部および歴史文化学科では、この立学の精神に基づいて、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーおよびアドミッション・ポリシーを以下の通り定めている。

・卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

[文学部のディプロマ・ポリシー]

武庫川女子大学文学部は、人間存在の本質および人類が創り出した文化全般につき人文諸科学の観点と方法を用いて探究し、その過程と成果を通して、現代から未来にわたる社会の要請にこたえる有為な女性を育成します。以下の資質・能力を身につけたうえで所属する学科において卒業要件を満たし、学長が卒業を認定した者に、それぞれの専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与します。

1. 独自に課題を発見し、解決に導くために創意工夫して、主体的に実践することができる。
2. 主体的に学ぶ意志と習慣を持ち、論理的に思考する力を身につけている。
3. 幅広い教養に裏付けられた豊かな感性を備えている。
4. 高度の倫理観と使命感に支えられた実践力・指導力を発揮することができる。
5. 専門的知識を修得し、それらを社会の諸方面で実践的に活用することができる。

[歴史文化学科のディプロマ・ポリシー]

本学科では、本学が定める修業年限を満たし、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 124 単位以上を修得したうえで、次のような能力・資質を身につけた者に対し、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（歴史文化学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

- 1-1: 日本史および隣接領域（日本地理学、民俗学、人類学、考古学、文化史等）に関する基礎的・専門的知識を修得している。
 - 1-2: 日本の歴史および日本の文化を体系的に理解し、他国の歴史・文化との関連性を正しく認識している。
 - 1-3: 本学が所在する阪神間とその周辺地域に根付いた歴史・文化を深く理解している。
 - 1-4: 女性の歴史的・文化的な役割や機能を理解し、女性として未来を作り上げる基盤となる歴史的意識・態度を体得している。
2. 技能・表現
- 2-1: 日本史および隣接領域の特性を深く理解し、自らの思考を他者に適切に発信する能力を備えている。
 - 2-2: 史・資料を正確に読解し、それを分析的かつ客観的に評価するための能力を備えている。
 - 2-3: 情報機器等の扱いの取り扱いを通じてその重要性を理解し、それを活用するための技能と豊かな表現力を身につけている。
3. 思考・判断
- 3-1: 日本史および隣接領域に関して身につけた専門的知識をもとに、批判的に考察する能力を備えている。
 - 3-2: 論理的思考力を身につけ、自ら課題を発見して、解決に導く能力を備えている。
4. 態度・志向性
- 4-1: 日常生活のなかで大学における学修の価値を認識し、常に学問的な態度を保っている。
 - 4-2: 広範で体系的な知識と、豊かな感性、および知的好奇心を備えながら、高い倫理観に基づいて自らの専門領域を探究しようとする強い意欲と意思を持っている。

・教育課程編制・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

[文学部のカリキュラム・ポリシー]

武庫川女子大学文学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、体系的かつバランスのとれた教育課程を編成し、学修者の知的好奇心を涵養するとともに主体的積極的な学びを促します。学修者は、「共通教育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」および「特別教育・資格関係科目」にわたって計画的に履修し、1つ1つの科目の学びがもたらす意義を自覚して、知識・技能・判断力を養成します。

「基礎教育科目」では専門教育への導入的役割を担う授業を開講します。全学的に実

施している「初期演習」は、学生が主体的に学び、実践する姿勢を身につけるとともに、コミュニケーション能力を高め、学生相互の豊かで円滑な人間関係の構築を目指します。そのほかの科目では、専門分野の学びの基礎となる知識を修得し、倫理観を育成する教育を行います。

「専門教育科目」ではそれぞれの学科における専門知識を修得し、さらにその知識を体系的に統合して実践的に応用する能力を養います。そうして得られた学識と能力とを駆使して、最終学年では卒業論文に結実させます。

教育課程の編成にあたっては、開講学年・配当学期・科目ナンバリングをあらかじめ示すことで科目間の順次性・体系性を確保します。また、開講科目に設定される知識と技術を修得し、その実践的活用を可能にするために、アクティブ・ラーニングなど学修者の能動的学修を促す教育手法を活用します。

各科目の学修成果の測定と評価にあたっては、学修者に対してあらかじめ評価指標を明示し、適切かつ公正な評価を実施します。また、卒業論文をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

[歴史文化学科のカリキュラム・ポリシー]

本学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

本学科が開講する科目は、専門的学修の基礎となる「基礎教育科目」と専門的知識・技能を段階的に高めてゆく「専門教育科目」を2つの柱として構成します。

「基礎教育科目」は、「歴史文化資料論」「歴史文化フィールドワーク基礎」など高等学校までの学修内容を踏まえながら大学での専門的学修へ円滑に移行していく科目、および「歴史・文化研究と情報」など実践的な課題への対応を目的とする科目によって構成します。

「専門教育科目」は、全体を「歴史文化研究の基礎」「歴史文化の諸相」「歴史文化の応用と展開」「研究と実践」「言語とキャリア」の5つの部門に分ち、基礎から実践までを体系的かつ順次的に学べるようにしています。1年次の「日本史概説」「人文地理学」「文化人類学概説」「女性史概説」などから4年次の「卒業論文」まで、本学科の中核となる専門学修を段階的に配当する一方で、「日本の祭礼 春夏秋冬」「食の文化誌」「装いの日本文化」など、文化事象のうちの個別具体的なことがらを取り出して詳しく体験的に学ぶ科目を配置します。カリキュラムを構成する領域は、古代から現代に至る歴史学、地理学、文化人類学、民俗学、言語生活、文化史、女性史などであり、学生はそれぞれを関連付けながら学ぶことで知識と関心の幅を広げます。3・4年次の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」では、学生が自らの意思で選択した専門領域に即して主体的・能動的に学び、それぞれの知識を定着・深化させ、歴史・文化を体系的に把握します。

技能・表現に関する科目では、現物史資料の取り扱いを双方向的な授業形態で行い、学生が主体的に学び、発信する姿勢を養います。「地域文化研究」と「地域文化フィールド

ワーク（Ⅰ～Ⅱ）」「歴史文化フィールドワーク（Ⅰ～Ⅳ）」は近隣の自治体と連携を図りながら阪神間また兵庫・近畿地方を対象として学習・臨地調査を行い、調査結果を発信してゆくものです。それらの成果がすべて「卒業論文」に結集されます。

「基礎教育科目」および「専門教育科目」の系統的な学修を通して日本史および隣接領域に関する広範な知識・技能を修得し、実践的な歴史的思考を身につけ、課題発見能力、問題解決能力を獲得します。

・入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

【文学部のアドミッション・ポリシー】

武庫川女子大学文学部は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・資質・意欲を備えた女性を求めます。

1. 高等学校までの教育課程を偏りなく修得し、十分な基礎学力を身につけている。
2. 人文諸科学の学修研究に積極的に取り組む姿勢と意欲を持っている。
3. 将来に向けての見通しと目的意識を確立している。
4. 豊かな感性と公平な視点を持ち、考え方の異なる他者とも協同して活動することができる。

また、開設する学科のそれぞれの専門性やディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ人材像に対応する、透明性の高い公正な入学者の選抜試験を複数の機会および方法で行います。

【歴史文化学科のアドミッション・ポリシー】

本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

日本の歴史・文化に関心を持ち、それらの学修を通して得た専門的知識と技能を活かして、①論理的、批判的思考力を備え、高いコミュニケーション能力を有する職業人として社会に貢献しようとする意欲を持った人、②中学校の社会科教諭、高等学校の地理歴史科教諭、図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員等の職業に就き、それぞれ分野で活躍し、社会に高く貢献しようという意思を持った人、を求めます。

具体的には、高等学校において歴史総合をはじめ、日本史・地理分野を深く学び、加えて外国史および外国語にも一定の知識と関心を持ち、文系・理系とも幅広く学修して基礎的な学力を確保していることが必要です。

【資料2：カリキュラムツリー】

【資料3：カリキュラムマップ】

(4) 廃止する短期大学部学科との関係

上述のとおり、新たに設置する歴史文化学科は文学部日本語日本文学科が蓄積してきた知的資源を一部継承し発展を図るものでありつつ、同時に本学短期大学部日本語文化学科の教育内容を継承する一面がある。短期大学部日本語文化学科は令和5年度入学生を最終年度として募集停止し、在籍学生が存在しなくなる年度をもって廃止する予定だが、同学科の学びの特色に掲げてきたことからのうち、【日本文化の昔と今を学ぶことで、現代を生きる自分の立ち位置を捉え直し、英語など異なる言語・文化圏の知恵やものの見方を身に付けて、多角的に日本語・日本文化を見つめ直します。これによって、グローバル社会で活躍するのに必要な真の国際的センスを養います。(武庫川女子大学短期大学部日本語文化学科ホームページより)】というねらいは、「ことばと美意識」「日本の伝統文化Ⅰ」「日本の伝統文化Ⅱ」「現代の日本文化」「日本語の歴史」などの授業科目によって実践されてきたものだったが、歴史文化学科においては、これらの要素を歴史学の専門性のなかでより深化・具体化させたいと考えている。このことにより、文学部日本語日本文学科および短期大学部日本語文化学科の在籍学生に内在していた歴史・文化志向が新たな学科において着実に伸張すると見込んでいる。

2. 学部・学科等の特色

本学文学部は学部全体のディプロマ・ポリシーを次のように定めている。

武庫川女子大学文学部は、人間存在の本質および人類が創り出した文化全般につき人文諸科学の観点と方法を用いて探究し、その過程と成果を通して、現代から未来にわたる社会の要請にこたえる有為な女性を育成します。

新たに設置しようとする歴史文化学科は、この主旨に合致する学科として構想される。

平成17年「我が国の高等教育の将来像」答申には、大学が担うべき役割として「世界的研究・教育拠点」から「社会貢献機能」まで7項目が例示された。そのうち本学科が目指すところはまず「総合的教養教育」にあり、あわせて「特定の専門的分野の研究・教育」である。上記したとおり文科系基礎的学術である歴史学(地理学、民俗学を含む)は現代社会が必ずしも喫緊に要請する領域とは言えず、その学芸の修得がただちに社会(組織)を改革に向かわせることは考えにくい。しかし、それゆえにこそ歴史学的知見の高度な成果と豊潤な蓄積は未来社会にとって重要不可欠であり、高等教育機関において着実に学的資産を蓄え、その分野の知識・技能を身につけた人材を養成しておかなければならないと考える。実学志向、グローバル志向はたしかに現代社会の求める方向性に違いないが、学究への志向とローカルへの眼差しもまた社会貢献のうえで疎かにしてはならないからである。

歴史文化学科の特色は次の4点にまとめられる。

- 1) 本学が立地する兵庫・阪神地区に研究・教育の基盤を置き、その特性を正確に把握するとともに、そこを起点として文化の普遍性を理解する。

- 2) 暮らしの視点と女性の立場に立って日本の歴史文化を観察する。
- 3) 歴史史料の精緻な読解を通して、偏りのないものの見方を確立する。
- 4) 「ひと」「もの」「ところ」に直に触れ、歴史・文化を実感する。

これを達成するため、教育課程は基礎的学習（座学）と実践的学習（フィールドワーク）とをバランスよく組み合わせて構成する。近隣諸大学に設置される歴史系学科と異なる独自性は、2)の「暮らしの視点と女性の立場」にまず発揮されるであろう。従来の歴史学が権力行使主体の側に重点を置いて記述されてきたのは、男性中心に維持される社会構造に照らして必然であったが、本学科では、日本の過去から現在にいたる時間の流れのなかで人々がどのような暮らしを成り立たせてきたかという点に注目し、一般庶民の、とりわけ女性の暮らし――すなわち衣・食・住や身のこなし、生活習慣、ことば遣いなど――に関心を集中し、それらの具体相のなかに考察を向かわせることになる。社会の制度・しくみを創り出すのが男性の側であったとすると、それを応用し、生活の局面に沿うよう加工して溶け込ませてきたのが過去の女性たちであった。フィールドワークの実践にあってもこの点にとりわけ意を注ぎ、「ひと」「もの」「ところ」に直に触れて、女性の立場から問題を発見する姿勢の獲得に努めたい。

大学周辺の地域に視座を据えることは、必ずしも歴史を限定的閉鎖的に捉えようとするのではなく、もちろん日本全体を広く視野に収め、他国の歴史文化にも考察を及ぼして、〔自国―他国〕の文化現象を総合的に考察するものである。その際に、まず軸足を兵庫・阪神地区に据えることで実感的内省的に事象を把握することができる、その利点を重視しての選択である。

入学定員は80人、卒業要件のほかに中学校教諭一種免許状（社会）および高等学校教諭一種免許状（地理歴史）教職課程を設置し、加えて図書館司書・博物館学芸員・学校図書館司書教諭の免許状の取得も可能とする。ただし、かかる資格取得も含めて目指すところは、良質の教養を備え、広範で公平なものを見方を身に付けて、状況に応じた的確な判断を下し、柔軟に対処することのできる「おとなの女性」の育成である。

3. 学部・学科等の名称及び学位の名称

(1) 学部・学科の名称

主として日本の歴史と文化を究明するという趣旨に基づき、学科名称を「歴史文化学科」とする。所定の在学年限を満たし、所定の単位を修得して卒業要件を充足した者には、文学部教授会の審議を経て、学士「歴史文化学」を授与する。学科名の英訳名称は“Department of History and Culture”とする。

【学部名称】 文学部 School of Letters

【学科名称】 歴史文化学科 Department of History and Culture

(2) 学位に付記する専攻分野の名称

学位の名称は、組織として研究対象とする学問分野をより具体的に反映させるために、本学では学科の名称と連動させている。従って学位の名称は、「歴史文化学科」では「学士（歴史文化学）」、英語名称は“Bachelor of History and Culture”とする。

【学位名称】 学士（歴史文化学） Bachelor of History and Culture

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

科目区分の設定及びその理由、各科目区分の科目構成とその理由

本学科のカリキュラム・ポリシーは上に記したとおりだが、開講科目を大きく分けて「共通教育科目」、「基礎教育科目」、「専門教育科目」に分け、「基礎教育科目」は歴史文化に関する専門的学修の基礎を固める科目群、「専門教育科目」は歴史文化に関する専門的知識・技能を順次的に高めていく科目群として位置づける。

①共通教育科目

「共通教育科目」は、全ての学部・学科の学生が自由に選択できる。歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化が激しい現代社会において的確に判断できる知性及び知識、技能の修得、真摯な学修と実践を通じ、思いやりと心の豊かな感性をもつ自律的な個人の確立をめざしている。さらに、専門教育との有機的な連携に努力し、卒業後、様々な分野で社会をリードする女性を育成することを目的としている。以下に示された5つの教育目標(MW 教養コア)の理念のもと、「基礎教養科目群」「ジェンダー科目群」「キャリアデザイン科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」などの科目群で構成される。

共通教育理念「MW 教養コア」

1. 人文、社会、自然の各分野における人間理解に関する広い知識と学ぶ態度の修得
2. 心身の健康のための運動習慣の形成と生命の尊さや倫理に関する知識・態度の向上
3. ジェンダーの視点の理解と主体的な判断力・行動力の獲得
4. 自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力の育成
5. 異文化を理解し、グローバルな視点で活躍するためのリテラシーと基礎知識の修得

さらに「基礎教養科目群」「言語・情報科目群」「健康・スポーツ科目群」は下表の通り細分化されている。

①基礎教養科目群	人文科学科目
	社会科学科目
	自然科学科目
	国際理解科目
	現代トピック科目

②ジェンダー科目群	
③キャリアデザイン科目群	
④言語・情報科目群	言語リテラシー科目
	情報リテラシー科目
⑤健康・スポーツ科目群	健康・スポーツ科学科目
	スポーツ実技科目

なお、共通教育科目については基本的にすべて選択科目であり、本学科では共通教育科目を16単位以上修得することを卒業要件としている。また、外国語についても共通教育科目・基礎教育科目・専門教育科目それぞれのなかから選択して合計8単位以上を修得することが卒業要件となる。

②基礎教育科目

「基礎教育科目」にあつては、本学が全学共通に設定する「初期演習Ⅰ」「初期演習Ⅱ（歴史文化研究）」によって高等学校の学修スタイルから大学の学修へ円滑に移行できるよう導き、「文章表現法（歴史文化）」「情報リテラシー（歴史文化）」の履修を通して基本的な日本語運用能力と情報機器活用技法を確認、同時に「歴史文化資料論」「文化と民族」「文化・歴史研究と情報」「歴史文化フィールドワーク基礎」により本学科における本格的学修への導入を図る。この趣旨に基づき、この科目群の授業科目は、外国語科目を除いてすべて必修とする。

③歴史文化学科専門教育科目

「専門教育科目」は、内容と目的の観点からさらに5つの群に細分し、「歴史文化研究の基礎」「歴史文化の諸相」「歴史文化の応用と展開」「研究と実践」「言語とキャリア」の項目を設ける。「歴史文化研究の基礎」には「日本史概説」「日本史料概説」「考古学概説」「人文地理学」「文化人類学概説」「地理学概説」などの授業科目を配置し、本学科の学修研究の基盤となる学的領域の基礎知識を付与するとともに、「日本古代史史料を読むⅠ」から「日本近現代史史料を読むⅡ」までの科目において歴史史料読解の基礎力を養成する。「日本史概説」ほか7科目を必修科目とし、「日本古代史史料を読むⅠ・Ⅱ」「日本中世史史料を読むⅠ・Ⅱ」「日本近世史史料を読むⅠ・Ⅱ」「日本近現代史史料を読むⅠ・Ⅱ」は全8科目のうち4科目8単位を選択必修とする。これらの必修指定により一定水準の学力をすべての学修者に確保する。

「歴史文化の諸相」では「食の文化誌」「江戸の風俗と絵画」「装いの日本文化」「出版・メディアの文化史」など、歴史文化にかかわる具体的な切り口を授業科目名に明示して、「暮らし」と「女性」の観点から個別の文化事象を深く掘り下げることがをねらいとする。この群では「言語と文字の史的変遷」「日本の生活文化」の2科目を必修とし、他は選択科目として学修者の主体的な学びを促したい。

「歴史文化の応用と展開」は、修得した知識を学修者のなかに正しく定着させたいうえでそれを活用・発信することができる、発展的能力の養成を図る科目群であり、「地域社会論」

「観光文化論」「文化財の活用と保存」「伝統工芸の保存と継承」などを配当する。「文化財の活用と保存」を必修とし、「古代史研究の方法と課題」から「近現代史研究の方法と課題」に至る4科目については2科目4単位を選択必修に指定する。

「研究と実践」は、本学科の特色のひとつであるフィールドワークを中心に構成し、4年間にわたる学修研究の成果をここに結実させる。「地域文化研究」は地域社会の歴史文化を調査研究するうえでの基礎知識を学び、「地域文化フィールドワークⅠ・Ⅱ」では大学の立地する阪神間を中心にして調査を実施、「ひと」「もの」「ところ」に直に触れつつ、歴史文化を体感的に学んでゆく。「歴史文化フィールドワークⅠ～Ⅳ」では調査対象地域を次第に拡張し、それぞれの地域に則した課題を発見して、文化の特色や重層性、文化財の活用方法などについて学修者が主体的に考え、かつ行動する授業を展開する。「演習Ⅰ・Ⅱ」では、各自が発見した課題をめぐって学修者と指導者とが相互に議論を交わし、自身の思考の相対化を図りながら考究を深化させ、課題の解決へと導いてゆく。その成果は「卒業論文」に具現化される。「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業論文」は必修科目である。

「言語とキャリア」では、各自が蓄積した文化的コンテンツを外部に向けて発信する際の言語運用能力を向上させるべく「中国語入門」「英語で読む日本」などを配置する一方、「キャリアとコミュニケーション」「観光と行政」「法律学」「経済学」などにより実社会との接点を保ち、教職免許状の取得を含めた卒業後の進路をそれぞれが考えるための科目を置いている。従って、この群の授業科目はすべて選択科目である。

5. 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

(1) 授業内容に応じた授業の方法、学生数、配当年次の設定について

◆授業の方法

本学科において開設し、受講することが可能な授業科目は全213科目（歴史文化学科基礎教育科目・専門教育科目計88科目、共通教育科目125科目）、このうち、全学部学科に対して開かれる共通教育科目を別にして、学科独自の授業科目を必修科目と選択科目および自由科目に振り分けるとき、必修科目は21科目44単位、選択科目は67科目である。ただし、選択科目のうち一部の科目については、範囲を指定して選択必修の要件を課している。

授業の形態は、その目的によって講義科目・演習科目および実験・実習科目の3種に分けるが、基盤となる学問領域の性質上、開講科目の大部分が講義科目の形態をとる（基礎教育科目・専門教育科目計88科目のうち74科目）。講義形式の授業科目のうち必修科目については、原則として1クラス展開とするため80名の規模となるものの、選択科目については「初期演習」やクラス担任によるガイダンスを通じてきめ細かに履修指導を行い、40名前後の少人数クラスを実現するように努める。また、講義科目にあっても随時学外見学を行い、あるいは講義時間内に体験学習の要素を積極的に取り入れるなど、一方通行に陥らない立体的な学びの形態を実現する。「初期演習」は1学年につき2クラス展開、また講義科目で

はあるが「文章表現法」「情報リテラシー」は実習の側面を併せ持つため2クラス展開とし、学生一人ひとりに目の届く教室環境を整える。「演習Ⅰ・Ⅱ」については第2学年次後期の段階で希望調査を行って分属を決定するが、8クラスを用意するので10名前後の規模が維持される。

なお、「初期演習」は演習科目として実施するものの、ホームルーム機能やガイダンス機能を持つため1 Semester 1単位とし、その他の授業科目講義・演習とも大学設置基準第21条第2項一の規定に従ってすべて2単位とする。

授業科目の年次配当は、学修内容の順次性に配慮し、概説・入門の性質を帯びる科目を低学年次に、専門性や抽象度の高い科目を高学年次に配当する。先修条件を付すことはしないが、本学は従前より標準時間割制を導入しており、学生は原則として配当された学年の授業科目を履修する習慣がある。学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修し、予習復習の時間等を十分とるために妥当な単位として、本学科各学年の履修登録上限単位数は、全学的なルールに従い、年間50単位未満（前期25単位以下、後期25単位以下）とする。なお教育実習を履修する学生に対しては、実習までに履修すべき科目及び単位に履修要件を別途設定し、現場実習へ参加する学生の質を確保するための措置をとる。

本学は、学則第26条において教育課程の編成につき次のように記している。
授業科目を分けて、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目とする。

◆授業への出席確認の励行と定期試験の成績評価対象資格確認の実施

本学では開学以来、効果的な学修を達成するための方策として、履修規程で「講義・演習・実験実習及び実技においては、毎回出席、欠席、遅刻、早退の調査を受けなければならない。」と規定し、学生の授業への出席を義務付け、全ての授業において出席確認を励行している。認定欠席理由一覧に基づき、学生がやむを得ず欠席した場合のみ代替措置の対象とし、自己都合での欠席は認めないこととしている。

また前期・後期の定期試験を受けるための成績評価対象資格についても、履修規程で「週1回各期開講科目では、その欠席回数が4回以下の者のみ成績評価対象資格を与える。」と規定しており、受講（履修）科目で4回を超える欠席があった者は、当該科目の試験は自動的に受けられなくなるなど、日々の勉学の重要性を徹底させる。

◆履修指導方法

入学時には、学科の専任教員からなる教務委員らが中心となって、オリエンテーションを実施し、履修指導を行う。また学年毎のガイダンス（4月と9月）を実施するほか、1・2年次にはクラス担任を、3・4年次には学年担任ならびにゼミ担当者を配置し、日々の個別指導や助言を行うとともに、事務局関連部局とも密接な連携を図って、無理なく卒業できるように配慮する。

特に、基礎教育科目の初期演習Ⅰ・Ⅱ（1年次前・後期開講 必修2単位）はクラス担任が受け持ち、履修指導・生活指導とあわせて、専門教育科目への導入のための基礎段階の演習を行う。

共通教育科目については、幅広い教養を身につけるため、1年次だけに限らず4年次に至るまで履修するよう促す。そのため、共通教育科目が開講される月曜日の1～4限目及び水曜日の4限目には、基礎教育科目及び専門教育科目を配当しないように配慮する。

(2) 卒業要件

卒業の要件は、共通教育科目、基礎教育科目及び専門教育科目から、それぞれ所要の単数を修得し、その合計が124単位以上でなければならない。

共通教育科目	16 単位以上（選択科目から 16 単位以上）
基礎教育科目	14 単位以上（必修科目 14 単位）
専門教育科目	64 単位以上（必修科目 28 単位、選択必修科目 12 単位以上、選択科目 24 単位以上）
卒業必要単位数	124 単位以上

専門教育科目のうちの「歴史文化研究の基礎」科目群中の「日本古代史資料を読むⅠ・Ⅱ」「日本中世史資料を読むⅠ・Ⅱ」「日本近世史資料を読むⅠ・Ⅱ」「日本近現代史資料を読むⅠ・Ⅱ」の計8科目のうちから4科目8単位を、「歴史文化の応用と展開」科目群中の「古代史研究の方法と課題」「中世史研究の方法と課題」「近世史研究の方法と課題」「近現代史研究の方法と課題」計4科目のうちから2科目4単位を選択必修とする。そのほかは、学生一人ひとりの興味関心に従い、あるいは卒業後の進路希望に沿って自由に科目を選択し、4年間の学びを自ら設計することになる。すなわち、教職課程を履修して中学・高校教員を目指す学生、大学院進学を視野に入れながら高度な研究技法を習得しようとする学生、幅広い教養と偏りのないものの見方を身につけて一般企業への就職を目指す学生など、それぞれ異なる受講設計が可能である。

【資料4：履修モデル】

6. 多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修

させる場合の具体的計画

(1) 学則における規定

学則第28条の2では「文部科学大臣が別に定めるところにより、前条に規定する講義、演習、実験、実習及び実技による授業を、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。」と規定されており、昨今のコロナ禍によって対面授業とメディアを利用した遠隔授業を併用して教育効果を高めている。基礎教育科目及び専門教育科目における指導は、本学設備を使用する研究や教育目的に基づく直接的な指導を重視する立場から、対面を原則としている。その上で、共通教育科目ではウィズコロナの時代に対応した授業運営方法として、一部科目では多様なメディアを高度に利用した授業を実施する。

(2) 実施方法

本学では感染症流行以前よりクラウド型教育支援システム G Suite (Google) を教育ツールのひとつとして導入していたため、遠隔型授業を行う場合や補習・時間外学習を実施する場合には、その機能（遠隔会議システム Meet を含む）を有効に活用して授業を展開することができた。感染症流行の沈静化した段階では遠隔型授業と教室における対面型授業とが併存することになるため、遠隔型授業については原則としてオンデマンド形式を採用する。学生は入学時から一人一台のノートパソコンまたはタブレットを保有するよう推奨しているので、自宅あるいは大学構内で遠隔型授業に取り組むことができる。大学の施設内には Wi-Fi を設置しており (LAVY SPOT)、たとえば図書館等でも学習が可能である。通信障害や PC 操作の不具合などに備えて学内に「ICT ヘルプデスク」を置き、学生および教職員が当面したトラブルに対応している。現在は、履修学生数の多い共通教育科目（講義科目）や、履修学生が複数の学部学科にまたがる司書課程・博物館学芸員課程科目においてこのシステムを利用し、一定の成果を収めている。また、共通教育科目のうち「データリテラシー・AI の基礎」（2 単位）は e-Learning によって履修させるもので、そのサポートのしくみとして「データサイエンス学習支援ルーム」を設けている。

本学科においても一部の講義科目についてこの形式を用いる場合があるが、講義科目であっても実習の要素を取り入れる授業が多いため、学期を通じてすべて遠隔型の授業を行うことは現時点で予定していない。

7. 実習の具体的計画

中学校教諭一種免許状（社会）・高等学校教諭一種免許状（地理歴史）を取得するための教育実習を以下のように計画している。

ア 実習の目的

実習校において生徒との接触を通じ、教員たるに必要な基盤—知識・技術・意欲・態度を修得することにある。

イ 実習先の確保の状況

本学部の教育実習では、地元の西宮市教育委員会及び近隣自治体（芦屋市教育委員会、兵庫県教育委員会）の公立学校、本学の附属中学校及び高等学校の協力を得て実習を行う。

実習先の配当については、学校園の規模や学生の通勤時間等を配慮し、「学校教育センター」が実習先・人数等を決定する。

【資料 5：教育実習受入承諾書】

ウ 実習先との契約内容

教育委員会や学校長会（場合によっては、直接実習学校）を通じ、実習生の受入人数、実習期間を明記した依頼状及び必要な検査等に関する調査票を送付する。実習学校が承諾書

を返送した時点で実習受入の契約が成立する。なお実習依頼時に実習学校からの要望に応じて、個人情報保護、サービス規程の遵守等契約の遵守等に関する取り決め（学生と実習施設）を規定した契約書を取り交わす。

エ 実習水準の確保の方策

教育実習科目の履修条件として、①実習の前年度末までに「教育実習事前指導(中高) 1 単位と「社会・地理科指導法Ⅰ・Ⅱ」 4 単位、「社会・地理科指導法ⅢまたはⅣ」の 1 単位を含んで、指導法と教育の基礎的理解に関する科目等を 20 単位以上修得済みであること、②①を含めて実習の前年度末までに、修得総単位が 70 単位以上修得済みであること、③事前ガイダンスに出席していることの 3 点が大前提になるほか、履修要件を満たした者に対して、「学校教育センター」で組織する常任委員会及び同委員会が科目履修の可否の判定を行い、その結果を通知する。

なお教育実習の実習期間・総時間数は、中学校又は高等学校で 3～4 週間・120 時間である。

オ 実習先との連携体制

学科長をはじめ、本学部の専任教員や学校教育センター常任委員会が中心となって都道府県・市町村教育委員会等との連絡調整機能を果たし、教育実習のあり方や実習施設の状況について共有できるようにしている。

【資料 6：教育実習ハンドブック（中学校・高等学校実習用）】

カ 実習前の準備の状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

学校保健安全施行規則に規定する学校伝染病の予防対策に努めている。

本学では、入学時に麻疹・風疹の罹患歴及び予防接種状況について調査しており、罹患歴又は要望摂取を受けていない学生に対しては、ワクチン接種を受けておくよう指導し、実習先の求めに応じて、大学から特定の感染症の抗体検査及びワクチン接種等も指示している。

さらに、各学年の初めに本学にて実施する「定期健康診断」において、胸部エックス線撮影、内科健診、身体測定、視力検査、尿検査を行う。異常がある場合は、再検査等を勧めている。教育実習前には、各学校の指示に従って検便（検査項目はサルモネラ、O-157 等）を行う。

また、本学学生（実習生）は、大学として団体に賠償責任保険（対人対物）に加入している。学生本人が事故により、負傷した場合は、本学の「学生障害見舞金制度」による見舞金が支払われる場合がある。

キ 事前・事後における指導計画

事前指導は 3 年次の後期に 45 時間、事前事後指導は 4 年次の前・後期に 45 時間実施する。

実習の事前指導の内容は、教育実習の目的と意義を理解し、実習で行う上で必要となる基礎的・予備的な知識や技能の習得をめざすとともに、発表やグループディスカッション、模擬授業、ロールプレイなど具体的な活動を通して実践的指導力の基礎を養う。事後について

は、実習の振り返りを行いつつ、教職への認識を確かなものとする指導を行う。

ク 教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

科目担当教員が指導にあたることとし、実習学校ごとに巡回指導教員を配置し、必要に応じて実習期間中に実習施設に派遣する。その際、授業参観と学生への面談を通しての指導、実習指導者との情報共有を図る。また実習期間中、学生からの質問や相談に対しても随時受け、科目担当教員や「学校教育センター」のメンバーが指導助言する。

ケ 実習施設における指導者の配置計画

実習学校での教育実習指導者については、指導力に長けた教員の配置を教育委員会や学校長に依頼する。

コ 成績評価体制及び単位認定方法

成績は、実習先の学校長と指導教員から提出される評価 50 点（10 項目 5 段階）と実習記録をもとに科目担当教員が評価する 50 点の合計 100 満点で構成され、これらを科目担当教員が総合的に評価する。単位は、100 点満点の 60 点以上をもって認定する。

【資料 7：教育実習成績通知票】

8. 取得可能な資格

本学科の教育課程に設置する養成課程およびその履修によって取得することのできる資格は次のとおりである。これらはいずれも卒業の要件とはせず、課程の履修は学生の自由意志に任される。ただし、学科の教育目標に整合するという観点から、教職課程または博物館学芸員のうちいずれかの課程履修を推奨したいと考えている。

資格名	種別 所管	資格取得・ 受験資格の別	卒業要件と のかかわり	追加科目履 修の必要性
中学校教諭一種免許状 (社会)	国家資格 文部科学省	資格取得	なし	あり
高等学校教諭一種免許状 (地理歴史)	国家資格 文部科学省	資格取得	なし	あり
学校図書館司書教諭	国家資格 文部科学省	資格取得	なし	あり
図書館司書	国家資格 文部科学省	資格取得	なし	あり
博物館学芸員	国家資格 文部科学省	資格取得	なし	あり

9. 入学者選抜の概要

(1) 入学者選抜の概要

入学者選抜は、文部科学省通知「大学入学者選抜実施要項」に基づき、本学が定める入学者選抜試験により実施する。本学科のアドミッション・ポリシーは下記のとおりである。

日本の歴史・文化に関心を持ち、それらの学修を通して得た専門的知識と技能を活かして、①論理的、批判的思考力を備え、高いコミュニケーション能力を有する職業人として社会に貢献しようとする意欲を持った人、②中学校の社会科教諭、高等学校の地理歴史科教諭、図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員等の職業に就き、それぞれの分野で活躍し、社会に高く貢献しようという意思を持った人、を求めます。具体的には、高等学校において歴史総合をはじめ、日本史・地理分野を深く学び、加えて外国史および外国語にも一定の知識と関心を持ち、文系・理系とも幅広く学修して基礎的な学力を確保していることが必要です。

これに適合する、意欲ある優秀な女子学生を確保するために、以下の入試制度を設けている。すなわち、一般選抜A(前期)では3科目型と2科目型を実施する。一般選抜A(前期)の3科目型、一般選抜B(中期)、一般選抜C(後期)、一般選抜D(大学入学共通テスト利用型)、公募制推薦入試(前期及び後期)では2科目型で同一配点方式や高得点傾斜配点方式による入試を実施する。また、これに先だって指定校推薦入試・附属高校推薦入試および社会人特別選抜入試を実施する。志願者の便宜を図るために複数回の受験機会を設けることとする。

学生募集に関しては大学ホームページをはじめキャンパスガイド、入試案内、学生募集要項の配布等により多様な広報活動を展開し、さらには高等学校での出張講義等を積極的に行い、志願者の確保に努めている。

出願方法は、インターネットによる出願方式を採用し、複数回の受験機会をまとめて出願する場合は入学検定料の併願割引制度などの利便性を図るとともに、一般選抜D(大学入学共通テスト利用型)において入学試験成績優秀者には奨学金(年間授業料の半額～最大50万円)を給付する。

○令和6年度 入学者選抜試験実施案

- ・公募制推薦入試(前期)スタンダード型/高得点重視型

試験科目：2科目型

必修科目：国語(1)

選択科目：英語・数学(1)・数学(2)・化学・生物のうちから1科目

試験実施：11月上旬、合格発表：11月中旬、

募集人員：10人 / 8人

- ・公募制推薦入試(後期)スタンダード型/高得点重視型

試験科目：公募制推薦入試（前期）と同じ
試験実施：11月下旬、合格発表：12月上旬
募集人員：7人 / 4人

・一般選抜A（前期）

試験科目：3科目型 同一配点／傾斜配点
必修科目：日本史
選択科目：【国語(1)または国語(2)】、【英語】、【化学または生物】

募集人員：10人 / 8人

試験科目：2科目型 同一配点

必修科目：日本史

選択科目：国語(1)・国語(2)・英語・化学・生物のうちから1科目

募集人員：10人

試験実施：1月下旬、合格発表：2月上旬

・一般選抜B（中期）

試験科目：2科目型 同一配点／傾斜配点
一般入試A（前期）と同じ

試験実施：2月中旬、合格発表：2月下旬

募集人員：6人 / 4人

・一般選抜C（後期）

試験科目：2科目型

必修科目：国語(1)

選択科目：英語・数学(2)・化学・生物のうちから2科目

試験実施：3月上旬、合格発表：3月中旬

募集人員：2人

・一般選抜D（大学入学共通テスト利用型）

試験科目：3科目型

選択教科を3教科以上受験した場合は、高得点の2教科を判定に採用する。ただし、数学の教科について①、②から2科目受験した場合、および地理歴史、公民の教科について2科目受験した場合、高得点の1科目をその教科の得点とする。『理科』の教科については、基礎を付した科目2科目のみ受験の場合は、2科目の合計得点を判定に採用する。基礎を付した科目2科目および基礎を付さない科目1科目を受験の場合は、基礎を付した2科目の合計得点と基礎を付さない科目の得点を比較し高得点のものを判定に使用する。基礎を付さない科目を2科目受験した場合は、高得点の科目を判定に使用する。

試験実施：1月下旬、合格発表：2月上旬

募集人員：3人

・指定校推薦入試・附属高校推薦入試

試験科目：学校長の推薦、書類審査、口頭試問

試験実施：指定校推薦入試 11月下旬、合格発表：12月上旬

附属高校推薦入試 11月上旬、合格発表：2月上旬

募集人員：若干名

・社会人特別選抜入試

試験科目：筆記試験（国語(1)・数学(1)・英語から1科目及び小論文）、
口頭試問、書類審査

試験実施：11月上旬、合格発表：11月中旬

募集人員：若干名

(※各科目の出題範囲)

国語(1)：国語総合（現代文のみ）、現代文B

国語(2)：国語総合、現代文B、古典B（いずれも漢文を除く）

英語：コミュニケーション英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、英語表現Ⅰ、Ⅱ

数学(1)：数学Ⅰ、数学Aの全範囲

数学(2)：数学Ⅰ・Ⅱの全範囲、数学Aの全範囲、B（数列・ベクトル）

世界史：世界史B

日本史：日本史B

化学：「化学基礎」の全範囲及び「化学」（「高分子化合物の性質と利用」を除く）の全範囲

生物：「生物基礎」の全範囲及び「生物」（「生体と環境」、「生物の進化と系統」を除く）の全範囲

(2) 合格者決定手続き

合格者の決定については、本学が定める「入学者選抜規程」に基づき、各入学者選抜試験終了後にアドミッション協議会（判定会議）を開催して原案を策定したうえ、文学部教授会の審議を経て学長が行う。

(3) 科目等履修生の受け入れ

科目等履修生は、正規学生に対する教育に支障を生じないことを条件にして、本学学則第56条規定に従いこれを受け入れる。科目等履修を受け入れることのできる授業科目は、演習・実習およびフィールドワークを除く講義科目に限るものとし、授業内容に関心を持つ一般社会人また卒業生を積極的に受け入れる予定である。

10. 教員組織の編制の考え方及び特色

(1) 教員配置の考え方

本学科は、上記したカリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーに沿って教育課程を維持・実践し、所期の成果を収めて人材養成を具現化するために、8人の専任教員を配置する。その内訳は、学科開設年度において教授4人、准教授2人、講師2人の計8人である。大学設置基準上の必要専任教員数6名を上回り、基準を満たしている。収容定員数320人に対する専任教員数（ST比）は40人である。

(2) 中心となる研究分野、研究体制、年齢構成

専任教員の男女比は男性4（うち教授3）：女性4（うち教授1）であり、専任教員8人全員が博士の学位を有している。それぞれの専攻分野、職位、性別および年齢は次のとおりである（年齢は令和6年度の開設時点）。

- 1 日本民俗学、考古学専攻〔教授 男性 65歳〕
- 2 日本中世史学専攻〔教授 男性 55歳〕
- 3 日本地理学、地誌学専攻〔教授 女性 54歳〕
- 4 日本古代史学専攻〔教授 男性 50歳〕
- 5 日本近世史学専攻〔准教授 女性 48歳〕
- 6 日本語学、言語生活史専攻〔准教授 女性 47歳〕
- 7 日本近世近代美術史学専攻〔講師 女性 40歳〕
- 8 日本近現代史学専攻〔講師 男性 39歳〕

上記のとおり日本通史の各時代を網羅し、考古・美術・言語など個別事象をもカバーして、全体としては近世・近代に重点を置いた教員配置であり、年齢構成もおおむねバランスがとれていると考えられるため、教育研究水準の維持およびその活性化において支障を生じる懸念はない。「初期演習」「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」「卒業論文」ほか必修科目は原則として専任教員が担当することとし、学科開設時の計画では兼任・兼任教員による必修科目担当を3科目に留めている。教育課程をチームで展開し教育・学生支援にあたる体制を構築するうえで、その限定を不可欠と考えるためである。いずれの教員も過去の職歴において遺跡遺物調査、古文書調査、聞き取り調査などフィールドワークに豊富な経験と知見を蓄積しており、本学科の教育課程はそれら資産を有効に活用する。

なお、本学「武庫川学院職員就業規則」はその第17条第1項に、満66歳に達した年度の3月末日をもって定年退職とすることを定めており、上記1の専任教員は本学科の完成年度までに定年を超えることになるが、同条第4項の規定を適用して完成年度まで専任教員待遇を維持する。完成年度を過ぎた段階で同分野の新たな人材を補充する予定である。

【資料8：定年に関する規定】

11. 研究の実施についての考え方、体制、取組

本学では、法人の中期計画である「MUKOJO Principles 2019→2039」の柱の一つとして、「研究の高度化と多様性の追求」を掲げ、以下の6点を具体的な方針として研究活動を推進している。

- ・女性研究者やプロフェッショナル（女性専門職）育成の強化
- ・多様化する社会の課題解決やイノベーション創出に向けた研究の高度化
- ・総合大学の長を生かした領域架橋や共同による独創的な研究の推進
- ・新たな価値創造を目指した女性テーマ研究の開拓
- ・研究ブランドの確立
- ・社会をリードする高度な人材育成に向けた大学院教育・研究の推進

歴史文化学科においては、ディプロマ・ポリシーに沿い年次的に学生を育成するうえでの教育・研究に学科総体として取り組むと同時に、所属教員個々の研究領域・研究課題に則した専門教育に弛むことなく注力し、関係学会や社会に還元し、ひいては日本社会全体の発展に寄与することを使命とする。

個人研究の支援と促進のため、本学は各年度1人あたり40万円（教育研究費、研究旅費）程度を配賦している（学科予算枠により年度ごと若干の増減がある）。また、教員の研究に関する支援業務を担う部署として「研究開発支援室」を学内に設置し、科学研究費等競争的研究費や委託研究費等外部資金の獲得を積極的に推進して、研究の活性化を促している。

講師以上の専任教員にはすべて個人研究室（個室）を割り当て、教育研究に必要な備品類を標準配備している。担当授業時間数については「専任教員の授業担当時間に関する内規」を定めて、過重な負担を課さないよう配慮し、出勤を要する日は週4日以上として、2日間は研究のための時間に充当できるものとしている。在外研究に関しても「武庫川学院在外研修規程」によってその制度を整備している。

本学には附置研究所として「言語文化研究所」「生活美学研究所」「女性活躍総合研究所」など計13の研究組織を有しており、そのうちには「附属総合ミュージアム」も含まれる。本学科の教員がそれら研究所の研究員を兼務し、個人研究または共同研究に従事する可能性が考えられ、とくに「附属総合ミュージアム」は本学科の教育課程と接点が大きいため、教育研究上の有機的連携を図ることができる。教員および学生の研究成果発信にそれら研究所を活用する方途も探られてよい。

研究成果公表の媒体としては、大学全体には『武庫川女子大学紀要』（人文・社会科学編／自然科学編／薬学部編 いずれも査読誌）を定期刊行し、ほかに各研究所が刊行する媒体がある。令和6年4月に本学科が発足した後には学内学会「武庫川女子大学史学会」（仮称）を立ち上げ、そこを教員と学生とのコミュニケーションの場とするとともに、研究活動の拠点として育てていく。同学会を主体にした研究機関誌「武庫川史学」（仮称）を定期刊行し、教員（専任、非常勤とも）の研究成果を公表するなどして、研究の促進と活性化を図る。

12. 施設、設備等の整備計画

本学では開学以来、教育研究環境の整備・充実には不断の努力を傾けており、学内には全学部学科の学生が使用する中央図書館や講堂、体育館、マルチメディア館など最新の設備を備えた大型施設があり、様々な分野の学びに対応した環境が整っている。近年においては、アクティブ・ラーニングに対応した図書館や各教室のリニューアル、スマートキャンパスを目指した学内 Wi-Fi 環境整備、学生の安全安心のための各建物の耐震工事、学生満足度向上のためのキャリアセンター移転・機能拡充、食堂改装など大規模な施設・設備改修を行っている。

本学の教育研究環境の整備に関する方針を以下のとおり定め、ホームページで公表し、周知している

1. 施設・設備の整備

学生及び教職員等、全ての大学施設利用者が快適かつ安全で安心して教育研究等に取り組める環境の構築に配慮した施設・設備の整備を図る。

2. 教員の教育・研究等環境の整備

教員が教育・研究を行うのに適した研究室の整備や、研究時間及び研究費の確保に努めるとともに、各種競争的研究資金獲得支援、研究助成・奨励金制度の拡充に努める。

3. 情報環境の整備

ネットワーク環境や情報通信技術(ICT)機器を十分に整備・管理し、その活用の促進を図る。教育・研究のために、信頼性の高い安全で快適な学内ネットワークの整備を推進する。

4. 図書館、学術情報サービスの整備

教育・研究に必要な専門書、学術雑誌等の図書資料を広範囲に取りそろえるとともに、十分な座席数と開館時間を確保する。

(1) 校地、運動場の整備計画

令和6年度の学科等設置により、設置基準上必要となる校地・校舎面積(本学及びキャンパスを共用している併設の武庫川女子大学短期大学部の合計)は、校地 103,000 m²となるが、開設時の面積は校地 236,808.58 m²と、設置基準の2倍を上回る十分な面積を有している。近年は、令和元年10月には中央キャンパス最寄りの阪神電車「鳴尾・武庫川女子大前」駅の高架下空間に「武庫女ステーションキャンパス」を開設、さらに令和4年4月には西宮市内に「西宮北口キャンパス」を開設するなど、大学の定員規模拡大にあわせて校地拡充にも力を入れている。

本申請に係る学科を置く「中央キャンパス」(兵庫県西宮市池開町)は、校地約 116,079.30 m²、校舎 129,777.56 m²と、大学と併設短期大学部あわせて約1万人の学生が学ぶ大学のメインキャンパスに相応しい規模である。中央キャンパスには、大学設置基準第34条に定め

られる「学生が休息その他に利用するのに適当な空地」として、噴水、35周年記念庭園、もみの木広場が整備されている。また、その周辺には各種のオブジェ、植樹、休憩用ベンチ等も配置され、学生の憩いの場となっている。大学設置基準第35条に定められる運動場についても、中央キャンパス隣接のグラウンド、テニスコート、浜甲子園キャンパス隣接の浜甲子園グラウンド、中央キャンパスからスクールバスで南に約10分の場所にある総合スタジアムがあり、運動場の面積は合計9万㎡を超える十分な面積を有している。

(2) 校舎等施設の整備計画

本学科の開設時の校舎面積は191,543.97㎡と、設置基準上の必要面積74,766㎡を上回る十分な面積を有している。

本学科の開設にあたり、中央図書館及び研究所棟に専任教員の研究室を設置する。1室あたり約25㎡の広さを確保する。

本学科が主に利用する教室として、文学1号館8階の80名規模の教室1室、中央図書館棟6階の60名規模の教室2室、7階の80名規模の教室1室、8階の80名規模の教室2室、日下記念マルチメディア館3階の60名規模の教室1室が想定されている。また本学科で開講する科目のうち、講義科目と演習科目については他学部他学科と共同利用の教室を確保し、本学科開設後も無理なく運用が可能な室数を用意している。

【資料9：時間割】

(3) 図書等の資料及び図書館の整備計画

① 図書館の概要及び整備計画

本学附属図書館は、中央キャンパスの「中央図書館」、上甲子園キャンパスの「甲子園会館分室」、浜甲子園キャンパスの「薬学分館」から構成されており、中央図書館が管理・運営の中心となって連携し、図書館システムを活用して図書資料の相互貸借業務を行っており、各キャンパスの図書資料を利用できる。中央キャンパスの中央図書館は平成25年に大幅にリニューアルした。授業開講期は毎日8時30分から21時30分まで開館しており、館内にはアクティブ・ラーニングや実習・演習に役立つラーニング・コモنزの設置、インターネットWi-Fi環境、マルチスクリーン、音響設備、貸出用ノートパソコン、TV会議システム等、多彩なメディアが利用できる環境を整備し、学生の学習活動のサポート及び教員の教育・研究活動の支援を行っている。本学部では、本学部の学びに関連する分野の以下の雑誌等を整備する。

◆国内雑誌：

日本史研究、歴史学研究、ヒストリア、史学雑誌、史林、古文書研究、地方史研究、歴史科学、地域史研究、歴史と神戸、続日本紀研究、年報中世史研究、年報日本現代史、現代史研究、国立歴史民俗博物館研究報告、考古学雑誌、日本考古学、考古学ジャーナル、月刊文化財、日本民俗学、現代民俗学研究、文化人類学、美術フォーラム21、服飾美学、民藝、

和楽、淡交、ふでばこ

②データベース、電子ジャーナル等の整備

データベースは、国立情報学研究所等が作成する文献検索データベースのほか、「JDreamIII」「国立国会図書館サーチ」「国文学論文目録データベース」「Academic Search Premier」「日本文学 Web 図書館」といった専門データベースを完備している。新聞についても「毎日新聞クロスサーチ」「日経テレコン」「毎索」「ヨミダス歴史館」「Global Newsstream」等、国内外の各紙電子版を購入し、文献検索ツールのリンクリゾルバ「SFX」も導入している。これらの各種有料データベース・電子ジャーナルは VPN 接続での環境を構築し、学外からでも利用できるようにしている。

③閲覧室等について

大学全体で図書館の閲覧座席数は 1,909 席ある。本学で所蔵していない資料については、24 時間いつでもウェブ上で文献複写と貸借の申込みができる。ほかにも「E-CatsLibrary」の「マイライブラリ」機能では、直接利用者が貸出・予約状況の確認と延長処理ができ、自身の研究・学修分野に関係のあるインターネット・サイトを集めたオリジナルリンク集の作成や、研究分野に応じた電子ジャーナルリンク集の作成、SDI (Selective Dissemination Information) サービスの登録・確認、複数のデータベースを利用した横断検索ができるようになっている。仮に開館時間内に来館することが難しい状況であっても、ウェブ・ベースの利点を活かして通常と変わらぬ学修環境を提供している。

④他大学の図書館等との協力について

国公立の大学図書館協会、兵庫県下の大学図書館協議会はもとより、国立国会図書館、各公共図書館等あらゆる関係諸機関との連携強化を図り、相互利用サービスを推進している。これらは国立情報学研究所の ILL システムに参加することによって料金の支払いが簡便になり、図書の貸借、文献複写の相互協力業務の効率化を図っている。

13. 管理運営及び事務組織

(1) 教授会

本学では、学部ごとに「学部教授会」(以下、教授会という)を置いており、毎月 1 回程度、歴史文化学科における学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項、学位の授与に関する事項、その他の教育研究に関する重要な事項は、教授会において審議し、決定者である学長に意見を述べるものとする。

学則及び武庫川女子大学学部教授会規程に定める審議事項、構成員、役割は以下のとおり。なお、学部教授会の議事概要については大学ホームページに掲載し、情報公表にも配慮している。

(役割)

平成 27 年 4 月 1 日改正の学校教育法第 93 条で、教授会の役割について明確されたことを受け、本学においても学則、学部教授会規程を改正し、「学長が教育研究に関する重要な事項について決定を行うに当たり意見を述べる」「学長及び学部長等がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長及び学部長等の求めに応じ、意見を述べるができる」機関であることを明確にしておき、適切に運用している。

(教授会の構成)

教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。ただし、学部長が必要と認めるときは、当該学部の専任の准教授、講師及び助教を加えることができる。

2 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。

(教授会の審議事項)

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項

(2) 学位の授与に関する事項

(3) 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長（以下この項において「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。

(2) 関連する委員会等

○大学評議会

学部教授会や共通教育部教授会の上位機関として、大学全体の重要事項を審議する「大学評議会」を設置している。学則 52、53、54 条及び武庫川女子大学評議会規程を根拠とし、学長、副学長、各学部長、共通教育部長、各学科長、教育研究所長、附属図書館長、その他学長が必要と認めた者によって構成され、毎月 1 回学長が議長となって、以下の事項を審議している。本学科設置後は、文学部より学部長、学科長が大学評議会評議員として出席する。

評議会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当り意見を述べるものとする。

(1) 学則に基づく規程の制定改廃に関する事項

(2) 学務に関する全般的事項

(3) 学生の入学及び卒業の基準に関する事項

(4) 教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価等に関する事項

(5) 教育、研究に関する全般的事項

(6) その他学長が評議会の意見を聴くことが必要と定める事項

○人事委員会

教員人事に関しては、理事会の諮問に応じるため、武庫川女子大学人事委員会規程を根拠

に、学院長、学長、副学長及び全学部の専任教授によって構成される「人事委員会」を置き、教授・准教授・講師・助教及び助手の任用並びに昇格等に関する事項を審議している。

○教学局各種委員会

教学上の各種ニーズに対応する組織として「教学局」を設けている。教学局には、教務部、入試センター、学生部、学生相談センター、キャリアセンター、学校教育センター、国際センター、研究開発支援室、教育研究社会連携推進室及びリカレント教育センターで組織される。

各部署には、専任教員の中から学長によって任命される部長職、次長職及び常任委員と事務職の管理職で構成される常任委員会を設置している。常任委員会では、議案の事前協議、自部署の運営方針の企画立案及び業務計画に関すること等を審議し、常任委員会で検討された事項が、それぞれの委員会に提案されるシステムとなっている。これらの委員会には、各学部・学科から推薦された専任教員が委員として参加し、それぞれ当該部署の課題について、各学部・学科の意見を参考にしながら、全学的な視点で審議している。審議結果は、委員がそれぞれの所属学科に持ち帰り、学科会議に提案・報告され、所属の全専任教員に周知して、全学的な調整を図っている。この教学局には、教学局長を置き、定例で毎月1回、教学局全体の問題や教学局各部署の業務と各部署の連携を密にするために、教学局会議を開催している。

(3) 事務組織

事務組織は、法人と大学に分化せず一元化することによって、事務部門における業務の重複をなくすとともに、社会や時代の多様なニーズに応じ、教育研究活動の支援、学生支援をはじめ、地域貢献、社会連携や国際化の推進のために効率的かつ柔軟な事務組織を目指している。事務組織は「武庫川学院の事務組織に関する規則」に基づき編成され、「事務分掌に関する規程」により事務分掌を定めている。

文学部における事務的な諸業務は中央キャンパス学部事務サポート室が担当し、学生の厚生補導は、教学局の各部署が担当する。令和5年度には学長補佐体制として「学長企画室」を新たに設置し、学長がリーダーシップを発揮し、教育改革を推進できるような体制を強化した。

【資料10：学校法人武庫川学院事務組織図】

14. 自己点検・評価

(1) 実施方法

本学では、学則第4条において、その教育研究水準の向上を図り、大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、教育研究の

改善に努めると規定している。

実施の方法としては、公益財団法人大学基準協会が示す 10 の大学基準の項目①理念・目的、②内部質保証、③教育研究組織、④教育課程・学修成果、⑤学生の受け入れ、⑥教員・教員組織、⑦学生支援、⑧教育研究等環境、⑨社会連携・社会貢献、⑩大学運営・財務に沿って各部局で点検・評価活動を実施している。その一環として全卒業生を対象とした卒業時アンケートを全学で実施しており、「立学の精神、ディプロマ・ポリシーの浸透度」「教育内容、卒業後の進路の満足度」「在学中の学びを通じた知識・能力の修得状況」「ディプロマ・ポリシーの修得度」を調査している。アンケート結果は、教育の改善や質向上の推進、及び、学修成果の測定のための参考資料として活用しており、経年比較により本学の長所やさらなる向上が必要だと考えられる項目を明らかにしている。

(2) 実施体制

学長を委員長とする自己評価委員会を置き、自己点検・評価の基本方針、実施組織及び体制、自己点検・評価報告書の作成、自己点検・評価結果に基づく改善・改革の取り組みに関する事項、自己点検・評価結果の公表に関する事項などについて審議している。また、各学部自己点検・評価を実施するために「学部自己評価委員会」を置き、各自己評価委員会は、毎年度末に、活動状況等を取りまとめて自己評価委員会に報告することとしている。本学科設置後は、学部長を委員長とする「文学部自己評価委員会」において組織的な自己点検・評価を行っている。

(3) 結果の公表

各学部自己評価委員会での点検・評価結果や卒業時アンケート結果及び認証評価において指摘のあった事項については、自己評価委員会において検討がなされ、各部局に改善・改革の取り組みに役立てられる。なお、これまでの点検・評価報告書、認証評価機関からの評価結果、評価における助言等に対する改善・改革の取り組み、改善報告書をはじめ、本学独自で実施した「卒業生アンケート」「卒業時アンケート」や「在学生満足度アンケート」についての調査結果や改善方策については、ホームページで公開し、積極的に情報公表を行っている。

【資料 11：武庫川女子大学自己評価委員会規則】

【資料 12：武庫川女子大学学部自己評価委員会規程】

15. 情報の公表

本学は、学校法人としての公共性に鑑み、社会に対する社会的説明責任を果たすために、主としてインターネットホームページを通して広く社会に教育研究活動等の情報を公表している。本学ホームページ内の「大学情報の公表」を中心に、学校教育法施行規則に定めら

れる9項目をはじめ各種情報を積極的に公表している。

「大学情報の公表」 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>
(武庫川女子大学 ホームページトップ>総合案内>大学情報の公表)

ア 大学の教育研究上の目的及び3つのポリシーに関すること

教育理念 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/idea/rinen.html>

教育目的 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html

3つのポリシー <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/idea/threepolicy.html>

アセスメントポリシー <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/idea/assessmentpolicy.html>

イ 教育研究上の基本組織に関すること

教学組織図 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/kyogakusoshiki.pdf>

事務組織図 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/jimusoshiki.pdf>

学部学科一覧 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/list-dai.pdf>

研究科専攻一覧 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/list-in.pdf>

研究所一覧 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/kenkyuu/kenlist.html>

ウ 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

教員一覧【教員業績】 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/gyoseki/gyoseki.html>

教員数 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/number/faculty_m.pdf

資格別・男女別教員数 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/kyouin_04.pdf

実数および設置基準数 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/kyouin_02.pdf

年齢構成 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/kyouin_01.pdf

エ 入学者に関する受入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

アドミッション・ポリシー <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/index.html>

入学者数 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/pdf/nyugakusya.pdf>

収容定員 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/teiin.html>

学生数 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/number.html>

卒業生数 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/zyuyo.pdf>

修了者数 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/in_01.pdf

卒業後の進路 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~syusyoku/achievement/industry.html>

オ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

シラバス https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2023/syl_2023.htm

カ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

ディプロマ・ポリシー <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/index.html>

履修便覧 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/syllabus/binran/binran-frame.htm>

成績評価 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/kouhyou/seiseki01.pdf>

キ 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

校地・校舎等の面積 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kohoj/files/pdf/site_building/site_building.pdf

校舎耐震化率 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/pdf/sisetu/taishinkaritu.pdf>

キャンパスマップ <https://www.mukogawa-u.ac.jp/campus/index.html>

交通アクセス <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/campus/access.html>

ク 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること

学費(大学・短大) <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/testguide/tuition.html>

学費(大学院) https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/g_school/pdf/g_school_nyugaku.pdf#page=2

ケ 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

学生支援部署 https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/student_support.html

進路支援 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/career/carrier.html>

健康支援 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~hoken_c/index.html

コ その他

学則 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/gakusoku.html>

設置認可申請書，設置届出書，設置計画履行状況等報告書 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kohoj/application.html>

自己点検・評価結果 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/saiten.html>

自己点検・評価報告書及び認証評価結果 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/hyouka.html>

そのほか、法人情報として寄附行為、中期計画「MUKOJO Principles 2019→2039」、ガバナンスコード、役員名簿、役員報酬規程、計算書類、監査報告書、事業報告書なども学校法人武庫川学院の Web サイトに掲載している。

16. 教育内容等の改善を図るための組織的な研修等

(1) 授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修の計画

大学におけるファカルティ・ディベロップメント（FD）の全学的な活動を推進する組織として「武庫川女子大学FD推進委員会」（以下、FD推進委員会という。）を設置している。FD推進委員会は、平成20年1月よりすべての学部・学科から選出された委員、教務部長及び学長が委嘱する委員による教員の資質向上や、主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善・向上を目的とした組織である。委員会の審議事項は、①授業改善のための基本方針の策定に関する事項、②教員の研修会及び講習会の開催に関する事項、③教員の教授法及び教授活動の相互研鑽に関する事項、④FD活動に関する情報の収集と提供に関する事項、⑤各学科の教員へのFD活動の啓発に関する事項、⑥教員の教授活動の支援に関する事項、⑦その他、学長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項と「FD推進委員会規程」に明記されており、各教員の日常的な実践や大学全体の教育改善に繋がるよう、委員会として

の取り組みや情報提供を行っている。また、事務組織に「学長企画室 教育企画・IR推進課」を設けており、FDを担当する部署として、FD推進委員会の庶務や学外で開催されるFD関係研修会、高等教育に関連する研究会などについて、学内システムを利用して教員に案内し、教員の資質向上につながる取り組みを業務として行っている。

FDの具体的な取り組みは以下のとおり。

・週末FD授業サロン

本学が総合大学であることを活かし、学部・学科を越えた教員同士で、授業の考え方や課題・工夫点等についての情報・意見交換を通じて、日々の授業改善のヒントに繋げること、また学部・学科を越えて、気軽に情報・意見交換ができる教員同士のネットワークを構築することを目的としている。日時と場所を固定し2か月に1回実施し、令和4年度の主なテーマは、学生支援・学生相談、オンデマンド型授業での双方向的なコミュニケーションの取り方、学生の能動的学修態度を引き出す仕掛け作り、円滑なグループワークを行うための事前準備、日々の授業を行う上で気を付ける著作権等のポイント、実践学習（PBL）の始め方・企業とのマッチング方法と気を付けること等である。

・教育改革講演会

全教員を対象にFDに関する講演会を行い、全学的な情報共有及び意思疎通を行うことで、大学全体として更なる教育の質向上を図ることを目的とし、年に1回開催している。

・授業改善のためのFD研究会

平成28年度より、学科の枠を超えた有志で集まり、授業内容や方法、評価をはじめとするFDの様々なテーマで研究活動を行い、その成果を学内に還元することで効果的なFD活動を大学全体として展開することを目的とし実施している。FD研究会開設は原則として以下の3項目を満たしているものとし、①授業改善に結びつく活動方針・活動内容が明確に示されていること②既存のFD研究会と研究領域が重ならないこと③2名以上の学内教職員が参加していることを条件としている。研究会の活動支援期間は、開設申請時から1年半とし、学長より承認されれば活動支援を更に1年間単位で継続することができる。研究会活動について、支援期間終了までに以下の通り予算規模に応じた成果報告を必要とし、①予算規模が5万円未満の研究会はFD研究会活動報告書の作成及びホームページ上での情報公開②予算規模が5万円以上の研究会はFD研究会活動報告書の作成及び成果発表会を行うこととしている。

・授業改善奨励制度

大学としての教育の質向上を図る観点から、「より良い授業のための工夫と実践」に対する奨励制度を設けている。この制度は、日々の教育活動の中で授業改善につながる、より良い授業方法の工夫と実践を行っている教員の見えない教育活動の部分に関する可視化を図り、その貢献度を把握、奨励することを目的とし前期・後期1回ずつ表彰している。

・FDニュースの編集・発行

平成 21 年度より、教職員に向けて直接 FD 委員会の活動状況を報告するため、当該年度における取り組み事例を紹介し、年度末に発行している。

・新任教員研修プログラム

平成 29 年度より、専門性や経歴、年齢などが異なる新任教員が本学の教育理念を就任 1 年目に理解することで、大学の目指す教育の方向性を共通認識するとともに、大学教育の最新動向の理解、カリキュラム、授業の設計・方法・評価等について系統的に学び、互いの知恵を共有して大学全体の教育の質向上を図ることを目的とした研修を実施している。4～7 月の毎週水曜日の 2 時限目を「新任教員研修プログラム」の時間とし、本学に関する知識の定着、授業設計、教育方法、教育評価、授業運営、提案資料作成等のテーマについて、合計 15 回の集合研修を実施している。

・授業アンケート

学生を対象に授業アンケート結果を実施し、結果を授業改善に役立てている。学生に対しても改善点等を含んだフィードバックを行っている。一方、個々の授業に対するアンケートについては、平成 3 年度後期から学期ごとに実施してきた。学修成果について 5 段階で評価できる設問が 7 項目、自由記述が 2 項目ある。前期は 6 月を、後期は 11 月を授業アンケート月間と定めて、期間中にアンケートに回答するよう学生に求めている。授業アンケート月間終了後、教員には、自由記述に書かれた意見に対し Web 上でコメントするよう求めている。さらにアンケート結果全般を踏まえ、教員から学生に対して授業中に直接フィードバックを行っている。また Web 上や授業でフィードバックした内容について、所属学科長に報告することになっている。アンケート結果については、ホームページで公開し、積極的に情報公表を行っている。授業アンケートの内容については、FD 推進委員会で検討・改善を繰り返している

・各種研修

国内外の大学・研究所、その他これに準ずる教育又は学術研究機関で専攻する学問分野に関する研究や視察・調査等への従事、国際学会等への出席に対して、「武庫川学院在外研修規程」を定めたうえで在外研修制度を設け、教員の資質向上に向けた支援を行っている。毎年 6 月に学内公募を行い、応募者に関して、学部・学科で偏ることのないよう申請書類は学部長・共通教育部長・研究所長がとりまとめ提出することとしている。その後、在外研修員を選考することを目的として設置している「在外研修選考委員会」にて全学的観点から在外研修員を選考している。「在外研修選考委員会」は、学院長、学長、副学長、学部長、教学局長及び事務局長をもって組織している。教員が就業規則に定める通常の勤務に就きながら、大学院において研修・修学又は博士の学位を取得することができるよう「在職研修制度」を平成 15 年度から設けている。各学科から推薦された候補者は、「在職研修選考委員会」において選考し、学院長が決定する。

その他、各学科や部局等で行われている企画等について、全学の FD 活動推進にも繋げていけるよう、FD 推進委員会の共催・後援企画として連携を取りながら実施している。

【資料 13：武庫川女子大学 F D 推進委員会規程】

【資料 14：新任教員研修プログラム】

(2) 大学職員に必要な知識・技能の習得及び向上の取組み

本学では、「S D 推進委員会」を設置し、大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させることを目指している。S D の対象となる「職員」には事務職員のほか、教員等も含まれることから、F D 推進委員会と S D 推進委員会が連携した活動を行い、教育職員・事務職員がともに必要な知識・技能の習得及び向上の取組み、「教職協働」を実現している。具体的には、全教職員に共通する今日的テーマ（ハラスメント、大学の授業運営における著作権の考え方）や本学のブランディング化推進への取組みに関する調査結果等についての研修を行っている。

【資料 15：武庫川学院研修体系図】

事務職員に対しては教職協働を実現させる職員育成のため、体系的な研修体系を構築しており、具体的には、キャリアに応じて新任職員、中堅職員、監督職、管理職を対象に「階層別研修」を実施し、その内容はビジネスマナーやパソコン知識、データリテラシー、ロジカルシンキングといった汎用的なものから大学職員として必要な知識である教育関係の法令や諸規則といった専門的スキルの修得まで多岐に及ぶ。なお、通信教育、在職研修等の修了者、学位取得者に対しては受講料の一部を補助する等のインセンティブを制度として設け受講を喚起している。

令和元年度からは、新任職員向けの 3 年間の体系的な研修プログラム「新任職員育成制度 Rising3」を実施しており、大学職員としての基礎知識習得はもちろんのこと、教職協働で授業運営に参画したり幅広い視野・専門性を高めたりする機会を設けている。具体的には 1 年目の職員に対して事務組織の各部署の管理職が講師を担当し、事務組織がどのように教育研究活動と繋がっているかを講義している。また 2 年目の職員を対象として新任教員研修への参加や、半年間の授業進行を補助する機会を設けている。さらに 3 年目の職員を対象としては、事務職員としての幅広い視野と専門性を高めることを目的として、学院の現状を踏まえて自ら課題設定し、方向性や解決策を検討、発表させることを計画している。

その他、教育職員、事務職員が日本私立大学協会など外部団体主催の就職支援や厚生補導等の分野別の研修会へ参加するなどして、大学運営に必要な基礎力、応用力及びマネジメント力の向上を目指している。

【資料 16：S D 推進委員会規程】

17. 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

ア 教育課程内の取組

共通教育科目においては、キャリアデザイン科目群を設け「女性のためのライフプランニング」「自己アピールトレーニング」「キャリアビジョンと人物評価」といった科目を開講し、自らの生涯にわたるライフデザインに資するキャリア形成能力を育成している。また言語・情報リテラシー科目群の言語リテラシー科目（50 科目）や情報リテラシー科目（10 科目）によって、外国語運用能力や情報処理能力向上を期している。

イ 教育課程外の取組

その他、全学部共通の取組みとして、キャリアセンターが以下のキャリア支援・就職支援の取組みを行っている。

< 1・2 年次 >

“自分探し、未来探し”の期間とし、キャリアサポートオリエンテーション、キャリアガイドブック・キャリアサポートハンドブックの配付、適性検査の実施とその結果に基づくキャリアガイダンス、スキルアップセミナー、キャリアワークショップ、企業見学ツアー、インターンシップなどの「キャリア支援プログラム」を提供。

< 3 年次 >

“進路選択”の期間とし、企業見学ツアーやインターンシップなどの「キャリア支援プログラム」に加え、JOB GUIDE BOOK の配付、就職ガイダンス、就職対策講座、人気・優良企業対策実力養成講座、就活特訓講座、学内企業説明会、模擬面接、個別就職相談、Uターン就職相談、公務員就職相談、公務員試験ガイダンス、S P I 対策講座などの「就職支援プログラム」を提供。

< 4 年次 >

“自分磨き”の期間とし、本学独自の教育支援情報システム（MUSE S）で、最新の企業・求人・セミナー情報の参照、各種相談の予約、適性検査結果の参照、履歴書の自動作成支援機能、先輩の自己紹介書の参照機能などの情報が収集でき、キャリア形成を支援している。

ウ 適切な体制の整備

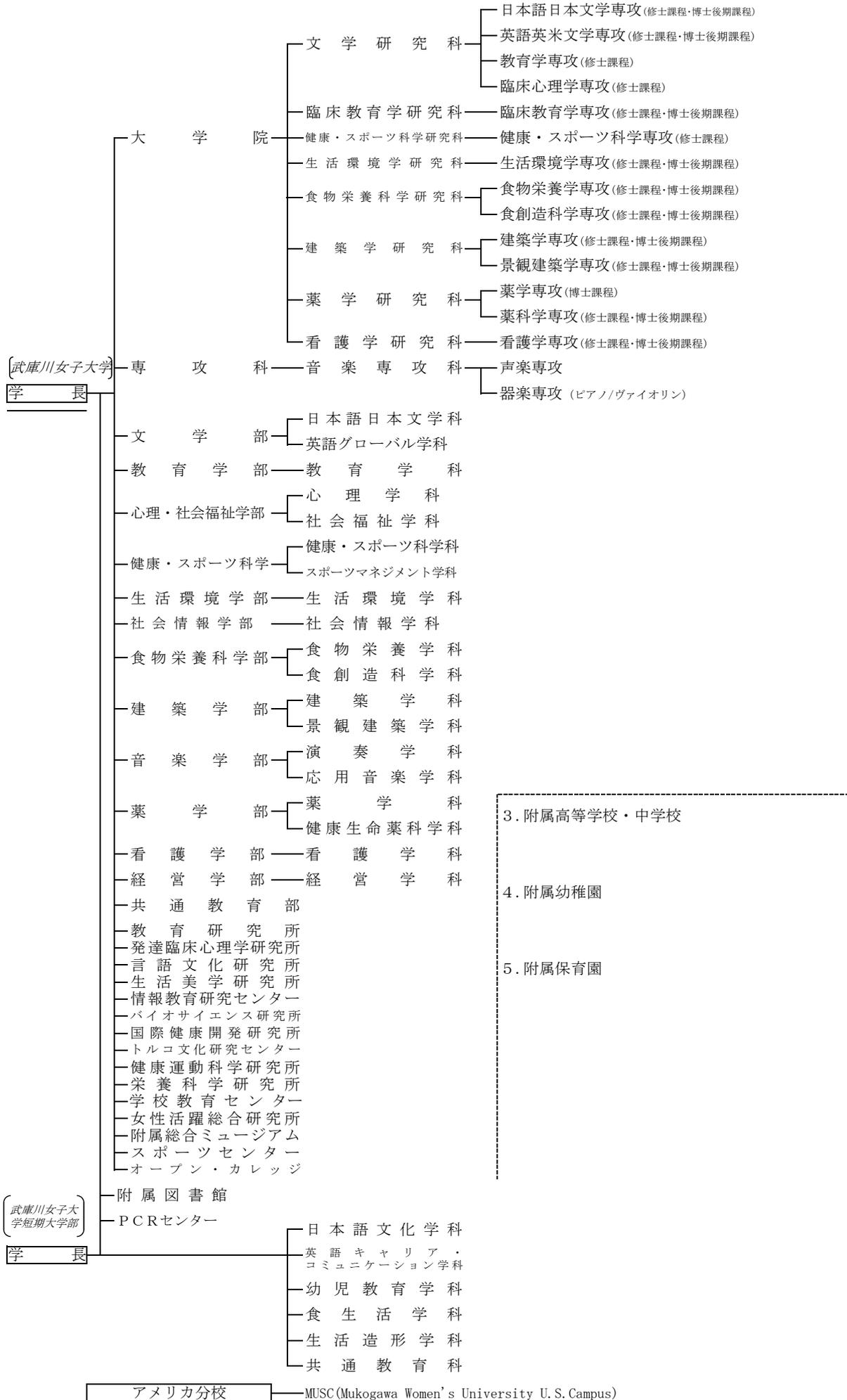
学生のキャリア支援の部署として「キャリアセンター」（中央キャンパス、日下記念マルチメディア館 2 階）を置き、入学直後から継続的に進路選択に関し、専門のキャリアカウンセラーを配置し、進路・就職全般への就職、インターンシップを担当）をサポートしている。全学部・学科には 1 人ずつ「キャリア対策委員」の教員を置き、学生のキャリア支援を行う体制が整備されている。全学部・学科のキャリア対策委員による「キャリア対策委員会」を組織し、全学横断的に学生のキャリア支援を行っている。上甲子園キャンパスをメインキャンパスとする建築学部の学生に対しても、求人情報の掲出、キャリアカウンセラーの派遣を

行うなど、教職員が連携してサポートする体制を整備している。

その他、J R 東京駅前に「武庫川女子大学東京センター」を開設して専門スタッフを常駐させ、企業の本社機能が集中する首都圏における学生の就職先企業の開拓や、就職活動のために上京した学生のサポートを行う体制を整備している。

設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

- 資料 1 : 武庫川女子大学教学組織図
- 資料 2 : カリキュラムツリー
- 資料 3 : カリキュラムマップ
- 資料 4 : 履修モデル
- 資料 5 : 教育実習受入承諾書
- 資料 6 : 教育実習ハンドブック (中学校・高等学校実習用)
- 資料 7 : 教育実習成績通知票
- 資料 8 : 定年に関する規定
- 資料 9 : 時間割
- 資料 10 : 学校法人武庫川学院事務組織図
- 資料 11 : 武庫川女子大学自己評価委員会規則
- 資料 12 : 武庫川女子大学学部自己評価委員会規程
- 資料 13 : 武庫川女子大学 F D 推進委員会規程
- 資料 14 : 新任教員研修プログラム
- 資料 15 : 武庫川学院研修体系図
- 資料 16 : SD 推進委員会規程



- 3. 附属高等学校・中学校
- 4. 附属幼稚園
- 5. 附属保育園

歴史文化学科		1年		2年		3年		4年		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
DP1: 知識・理解	1-1	日本史概説 人文地理学 文化と民族 考古学概説 日本美術史 民俗資料を読む 日本の祭り 春夏秋冬 食の文化誌 地域社会論 法律学	日本思想史 文化人類学概説 縄文・弥生の考古学 江戸の風俗と絵画 日本の生活文化	中世の文化史 刀剣・道具 地理学概説 縄文・弥生の考古学 日本芸能文化史 日本の生活文化	古墳・中近世の考古学 文化財の活用と保存 出版・メディアの文化史 装いの日本文化 すまいの日本文化	古代史研究の方法と課題 近世史研究の方法と課題 近現代史研究の方法と課題 伝統工芸の保存と継承 信仰の民俗学	古代中世の都市と交通 中世史研究の方法と課題 多文化共生論 文化遺産論 画像文化論		文化遺産論 画像文化論	
	1-2	観光文化論 中国語入門	韓国語入門			西洋史 I 東洋史 I	近代の世界史	観光と行政		
	1-3	歴史文化フィールド 民俗資料を読む 地域文化研究 地域社会論	歴史文化フィールド 地域文化研究	歴史文化フィールドワーク I 歴史文化フィールドワーク III	歴史文化フィールドワーク II 歴史文化フィールドワーク IV	歴史文化フィールドワーク II 地域文化フィールドワーク II	地域文化フィールドワーク II	地域文化フィールドワーク II 地域の伝承	地域政策論 災害と歴史	災害と歴史
	1-4	女性史概説 日本の祭り 春夏秋冬 日本美術史 文化と民族	歴史のなかの女性 日本の生活文化 日本芸能文化史 文化人類学概説	歴史のなかの女性 日本の生活文化 日本芸能文化史	装いの日本文化 すまいの日本文化	信仰の民俗学 社会学	多文化共生論			
DP2: 技能・表現	2-1	初級演習 I Oral Communication	文化・歴史研究と情報 初級演習 II (歴史文化研究)	憲法・デザインの基礎 英語で読む日本	出版・メディアの文化史 観光英語	映像メディア理論と実践 演習 I	歴史文化とプレゼンテーション 演習 II	卒業論文 (卒業制作) 演習 II		
	2-2	日本史料概説	歴史文化資料論 古文書入門 言語と文字の史的変遷	日本古代史料を読む I 日本中世史料を読む I 日本近世史料を読む I 日本近現代史料を読む I	日本古代史料を読む II 日本中世史料を読む II 日本近世史料を読む II 日本近現代史料を読む II	くらしと言語景観				
	2-3	情報リテラシー (歴史文化)	文化・歴史研究と情報 文章表現法	憲法・デザインの基礎	出版・メディアの文化史	映像メディア理論と実践 キャリアとコミュニケーション	歴史文化とプレゼンテーション			
DP3: 思考・判断	3-1			日本古代史料を読む I 日本中世史料を読む I 日本近世史料を読む I 日本近現代史料を読む I	日本古代史料を読む II 日本中世史料を読む II 日本近世史料を読む II 日本近現代史料を読む II	古代史研究の方法と課題 中世史研究の方法と課題 近世史研究の方法と課題 近現代史研究の方法と課題	卒業論文 (卒業制作)			
	3-2	初級演習 I	初級演習 II (歴史文化研究)			演習 I	卒業論文 (卒業制作) 演習 II			
DP4: 態度・志向性	4-1	食の文化誌	日本の祭り 春夏秋冬 日本の生活文化	装いの日本文化 すまいの日本文化 出版・メディアの文化史	くらしと言語景観					
	4-2	初級演習 I	初級演習 II (歴史文化研究)			演習 I	卒業論文 (卒業制作) 演習 II			

基礎教育科目 歴史文化研究の応用と展開 青字の太字 → 必修科目
 歴史文化研究の基礎 研究と実践 青字 → 選択必修科目
 歴史文化の諸相 言語とキャリア

令和6年度入学生用カリキュラムマップ

【歴史文化学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目									
					○ディプロマポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志	1. 1	1. 2	1. 3	1. 4		
	初期演習Ⅰ	1	本学で修得すべきことは何かを理解し、自主的に学び新たな発見を導きだせる力を身につけることを目的とする。本学の「立学の精神」「教育目標」を知り、本学学生としての誇りと自覚を持つ。さらに、主体性・論理性・実行力を培い、女性として有為な社会人となるために、それぞれの学部学科の専門性に基づく知識と社会人基礎力の修得の必要性を理解し、各自のキャリアパスを自ら構築する。	本学の修学の基礎となる単位制を正しく理解し、適切な履修計画に沿って修学する主体性、考える力を身につけ、所属学科の3つのポリシーに基づく専門教育の概要を理解し、自らのキャリアデザインを構築する力を身につける。							○	○	○	○
	初期演習Ⅱ（歴史文化研究）	1	大学教育の導入として、高校までの教育と大学教育との違いを理解し、自主的に学び新たな発見を導き出す力を涵養することを目的とする。本学院の教育理念に基づき、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培う。具体的には、歴史文化学科における4年間にわたる専門的学習に必要な基礎的知識・スキルおよび研究態度を身につけ、あわせて社会人基礎力を養成することを目指す。	歴史文化学科の教育目標を理解し、専門的な学習を進めるにあたっての必須の基礎知識・技能を身につけ、また研究に向き合う態度を養う。自ら課題を設定し、その解決のために必要な情報を的確に収集して、論理的な思考を経て解決に導く技能・姿勢を身につける。学生相互および教員との豊かで円滑なコミュニケーション能力を身につける。							○	○	○	○
	歴史文化資料論	1	歴史文化研究の基礎となる史料を正しく読み解き、理解し、批判する能力を養成する。日本の歴史・文化を学ぶにあたり必要な、多様な資料にアプローチする方法を学び、それぞれの資料が作成された背景などを踏まえ、歴史・文化について総合的に理解する力を体得させることを目的とする。	歴史資料の種類・目的また様式について基礎的な知識を身につけ、その読解のための基礎力を修得している。資料の読解を通じて、それぞれの時代の歴史・文化事象を正確に把握する判断力を身につける。							○			
	文化と民族	1	文化人類学における基礎理論の生成過程を振り返り、「文化とは何か、民族とは何か」の問いに対して現代的な意味での考察を施すことを目的とする。文化人類学の広範な研究領域を構成する各分野の概要と、総合的な人間学としての基礎理論の理解を旨とし、同時に世界各地の先住民族の多様な文化のあり方について考える。	文化人類学の基本的な考え方を把握し、この学問が文化と民族をどのように解明してきたかを理解している。世界各地の様々な民族がどのように暮らし、どのような世界観と文化とを育んできたかについて描き出すことができる。							○			
	文化・歴史研究と情報	1	日本文化や歴史に関連する情報の蓄積と、公開などの活用のあり方についてデータベースやウェブサイトを中心に国内外の動向を概観する。近年急速にデジタル・アーカイブ化が進みつつある文化・歴史関連資料を利用する際の基本的なルールを学修することを目的とする。	現代の歴史文化研究において不可欠な、公開情報の利活用の方法とその注意事項を正しく理解する。情報の性質を精査し、使用条件等に留意して適正にそれを利用することができる。									○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目												
					○ディプロマポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志	1. 1	1. 2	1. 3	1. 4	2. 1	2. 2	2. 3	3. 1	3. 2
	歴史文化フィールドワーク基礎	1	歴史や文化に関わる問題関心に沿って自らフィールドワークを行うための基礎的な知識、方法を身につけることを目的とする。	自らが設定した課題に沿って計画的に歴史・地理学的調査を実施し、その成果をまとめ、適切に報告することができる。		○										○	
	文章表現法（歴史文化）	1	大学での学修や社会人としての活動に必要な日本語の知識を強化し、コミュニケーションやプレゼンテーションの技法を学んで、情報機器を適正に活用しながら、実践的な文章表現能力を習得する。レポートや報告書の作成に必要な、情報収集能力や読解力、また情報整理能力を身につけて、観察・分析したことがらを、簡潔かつ的確に伝達できる記述力、表現力を養う。	場面や対象に応じた的確な文章を作成する能力を体得している。適切に情報を収集し、論理的に思考して、客観性と説得力のある文章を作成することができる。プレゼンテーションについて基本的な技法を身につけている。												○	
	情報リテラシー（歴史文化）	1	大学での学修や社会人としての活動に必要な情報機器の利用スキル、安全で適切な情報活用のスキルなど、基礎的な情報リテラシーを身につけることを目的とする。MS-Officeソフトを確実に使いこなせるよう練習を重ね、そこで習得した技術と知識を適正に利用・駆使して効果的に表現する技能を身につける。	情報機器を適切に使用して効果的なプレゼンテーションを行うことができる。レポート・論文作成に関する基礎的な技法と表現力を身につけている。												○	
	Oral Communication	1	英語でコミュニケーションを図る際のフォーマットを確認し、実際に「使う」ことを経験しながら、コミュニケーション能力を養う。	基礎的な英語語彙や文法の知識を活用し、インタラクティブな活動を通して、様々な状況での基本的な実用会話ができる。		○											
	日本史概説	1	日本の歴史において一般的に通説と見なされている諸見解を批判的に再検証し、その問題点を理解する。現在における歴史学研究の水準を把握し、あわせてそこに内在する問題点について認識する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	科学的論理的思考方法を身につけている。歴史学における通説がどのような背景と事情により成立してきたかを正しく認識している。歴史事象および歴史史料についての正確な知識を身につけている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。												○	
	日本史料概説	1	歴史学の素材である史料について、文献史料およびその他の史料を概観する。そのうえで日本史学が対象とする文献史料の種類、史料の収集・検索方法を学び、文字情報を文献史料として扱う方法を身につける。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	史料に基づき、客観的に歴史的事象を究明する技法と態度を身につけている。文献資料の適切な検索方法、収集方法を理解している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。												○	

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目											
					○ディプロマポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志	1. 1	1. 2	1. 3	1. 4	2. 1	2. 2	2. 3	3. 1
	考古学概説	1	考古学、および考古学資料についての基礎知識を学んで研究水準を把握することで、現代の考古学上の課題を概括することを目的とする。	考古学についての基本的知識を学び、考古学資料、遺跡、考古学上の課題を把握している。	○											
	人文地理学	1	人と空間、環境との関わりについて理解するために、人文地理学の基本である地図を対象に考察することを目的とする。 また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	人文地理学の基本資料である地図について理解し、人と空間、環境について知識と技能を備える。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○											
	日本美術史	1	各時代の美術作品を概観し、作品の特徴を知るとともにそれらが生み出された社会的背景を理解する。美術・芸術に対する興味・関心を喚起する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	日本の美術作品の価値・意義を理解している。美術の範疇や作品に対する価値観の変遷について理解している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○											
	女性史概説	1	ジェンダーの視点から歴史学を捉え直し、男性中心に記述されてきた歴史を読み替えることを目的とする。ジェンダーの視点を確保する以前と以後とで女性史研究がどのように変容したかを学習する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	ジェンダー分析の視点と方法を知り、歴史・文化・社会における性差の意味を理解している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。			○									
	古文書入門	2	古文書を解読するうえで必要不可欠し字読解の技術を習得するとともに、古文書の用語、様式や伝来など古文書にまつわる基礎知識を学び、その内容を的確に解釈できる力を身につける。	初歩的なくずし字を読み解くことができる。古文書に特有の用語や様式を把握している。						○						
	自然地理学	1	日本および世界各地の自然を学び、自然環境の諸要素や相互のつながり、また人々の生活との関係を理解する。現代の人間が直面する課題に対し、自然環境と人間との相互作用の関係を考察・説明する能力を獲得することを目指す。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを目的とする。	自然地理学の考え方を理解し、地形や気象について一定の知識を備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○											
	民俗資料を読む	1	日記・記録などの文字資料に加え、住居・衣服・食事・年中行事などの民俗資料を対象に、日本の風俗、主観、その生活文化について学ぶことを目的とする。	日常生活のなかに見出される様々な文化現象に関心を払い、それらを科学的に分析し、評価することができる。			○									○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号						
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目						
					○ディプロマポリシー達成のために重要な科目						
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志			
1・1	1・2	1・3	1・4	2・1	2・2	2・3	3・1	3・2	4・1	4・2	
	文化人類学概説	1	文化人類学の研究領域を総体的に学び、文化人類学の学術的基盤と可能性について把握することを目的とする。世界各地の民族が持つ文化の多様性を理解する。	文化人類学の思考・研究方法を知り、それを応用して、ますます多様化する文化現象を分析することができる。社会の複雑化の過程を理解し、言語の構造や宗教と儀礼の関係など文化人類学が扱う主要なテーマについて理解している。	○						
	日本思想史	1	古代から現代に至るまでの日本における思想的展開を概括的に理解したうえで、各時代の政治・社会・宗教思想の特質を把握することを目的とする。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	代表的な思想家の論説についてその概要と特質を理解し、文学・芸術作品の思想的背景を把握している。それぞれの思想が日本の国家・社会・文化の形成に果たした役割を認識している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○						
	地理学概説	2	地理学の学問的特質、内容について学ぶことを目的とする。地域、環境、景観などをキーワードに、人々が暮らす地域、生活について考察する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	地理学についての基本的な見方、考え方を学んだうえで、その現代的課題について自ら考察し、探求することができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○						
	日本古代史史料を読むⅠ	2	日本古代の文献史料を正確に読み解く能力と技法を養成する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○			
	日本古代史史料を読むⅡ	2	Ⅰの学修を踏まえて、古代文献史料をさらに深く探求し、実践的に考察することを目的とする。	史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。				○			
	日本中世史史料を読むⅠ	2	日本中世の文献史料を正確に読み解く能力と技法を養成する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○			
	日本中世史史料を読むⅡ	2	Ⅰの学修を踏まえて、中世文献史料をさらに深く探求し、実践的に考察することを目的とする。	史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。				○			
	日本近世史史料を読むⅠ	2	日本近世の文献史料を正確に読み解く能力と技法を養成する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○			

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志			
					1・1	1・2	1・3	1・4	2・1	2・2	2・3	3・1	3・2	4・1
	日本近世史史料を読むⅡ	2	Ⅰの学修を踏まえて、近世文献史料をさらに深く探求し、実践的に考察することを目的とする。	史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。						○				
	日本近現代史史料を読むⅠ	2	日本近現代の文献史料を正確に読み解く能力と技法を養成する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。						○				
	日本近現代史史料を読むⅡ	2	Ⅰの学修を踏まえて、近現代文献史料をさらに深く探求し、実践的に考察することを目的とする。	史料の原文を正しく読み解き、内容を理解する能力を備えている。						○				
	古記録と古文書	2	古記録や古文書に親しみ、それぞれの特色を知り、読解に必要となる文字・表記、語彙、語法の特徴を学ぶことを目的とする。	文書・記録類の様式や機能的特徴を把握し、 古記録・古文書を解読する知識と技能を備えている。						○				
	地誌学	2	地域のありようを様々な視点から総体的に捉えることを目的とする。あわせて、地理学と歴史学との接点についても考える。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	自然環境とそこに暮らす人々の生活様式について比較検討しながら評価することができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○									
	文化遺産論	4	文化遺産の定義とその意義、文化遺産をめぐる現状と課題、およびその評価と活用について学ぶことを目的とする。	文化遺産の重要性、意義と現状、課題について理解し、今後の活用に向けて考察し、行動することができる。	○									
	食の文化誌	1	日本の固有の食文化を歴史的にあとづけるとともに、アジアの食文化のなかでの位置づけについて考察する。	日本の食文化がどのように形成され展開してきたか理解している。現代日本の食文化が世界のなかでどのような位置にあるかを理解し、文化の多様性を認識することができる。	○									
	言語と文字の史的変遷	1	文献史料に伝存する日本語および文字表記の実態と特徴を学び、その史的変遷をたどることを目的とする。	日本語の文字表記、語彙、語法に関する各時代の特徴を的確に把握している。						○				
	江戸の風俗と絵画	1	風俗画・浮世絵の種々相を、 制作と享受の両面から学び、それを通して江戸時代の生活や文化を考察することを目的とする。	風俗画・浮世絵を鑑賞・分析するための基礎知識を身につけている。近世期におけるメディアの展開について理解している。	○									
	縄文・弥生の考古学	2	日本の縄文時代から弥生時代までの遺跡・遺物の特色を学び、当時の人々の衣食住や信仰、 社会のあり方 などについて理解することを目的とする。遺跡と遺物の年代測定の観点・方法を学び、 遺跡・遺物研究が当該時代の社会の理解に与える特質について学ぶ。	縄文・弥生期における文化・生活の特色を把握している。縄文・弥生文化と現代文化との共通点・相違点を正しく認識している。	○									

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志			
					1・1	1・2	1・3	1・4	2・1	2・2	2・3	3・1	3・2	4・1
	信仰の民俗学	3	過去から現代に至る、人々の信仰の実態およびその精神性について学ぶことを目的とする。 自然災害や伝染病などの災禍に遭遇したときに人々がどのように認識し対処してきたか、を学習する。 また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	信仰が日常生活のなかで、また非常時において、どのように働いていたかを理解している。 祭礼・儀礼と信仰との関係について知識を身につけている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○									
	古代中世の都市と交通	3	日本古代中世の都城と地方都市、およびそれらを繋ぐ道路網に着目し、文献史料や発掘調査成果などに基づきながら その歴史的・社会的意味や機能を考察 することを目的とする。	古代中世における日本の都市の構造と特色を理解している。古代中世における道路・交通の実態について理解し、現代のそれと 比較検討したうえで、機能や役割について本質的差異を認識 している。	○									
	画像文化論	4	画像として描かれた様々な資料の制作目的や意図、内容を検討し、そこから導き出される歴史史料としての役割と機能について考察する。	画像の歴史資料としての意義を理解している。描かれた画像が社会や生活に果たした役割・機能を理解している。	○									
	地域社会論	1	日本史における地域社会とは何かについて 考察する。その存在形態・展開過程・特質についての分析を通して、地域社会を立体的に把握 することを目的とする。	地域社会の政治・経済・社会、および文化的構造を理解し、時代を超えた普遍性と時代ごとの固有性をともに理解している。	○									
	観光文化論	1	私たちの生活における観光と、観光地における意味と課題を対象に、現代における観光の文化的あり方を考察 することを目的とする。	観光行動や観光地についての文化的背景、影響、経済的効果など、観光文化の多様な側面について歴史的側面から評価 することができる。	○									
	意匠・デザインの基礎	2	衣食住に関する生活用品や工芸品などに伝存する様々な意匠について、文化史的な視点から基礎的な知識を学ぶ。	意匠・デザインの継承・発展を知り、その表現効果やデザインとしての価値を客観的に分析することができる。			○		○					
	日本芸能文化史	2	日本の多様な芸能を文化史の観点から取り扱い、 上演芸術を中心に、それらが文化としてどう根づき、どのように伝えられてきたかを概観 する。	日本の伝統芸能について一定水準の知識を備えている。芸能文化に対する興味・関心を保有している。	○									
	文化財の活用と保存	2	近代以降の文化財保護の歴史を概観し、文化財の概念の変遷を学んで、文化財に関する基礎知識を習得する。 文化財に関する基礎的知識を理解したうえで、文化財が保護されてきた歴史を概観し、文化財の保存と活用についての具体的内容について修得 する。	文化財保護ならびに活用に関する今日的課題を理解している。身近な地域の文化財の保護について実践的に考え、 行動 することができる。	○									
	伝統工芸の保存と継承	3	日本における工芸について 概観し、その成り立ちや変遷について理解 したうえで、保存と継承の観点から考察することを目的とする。	伝統工芸の保存と継承について現代的課題を把握し、その解決方法について主体的に考え、 行動 することができる。	○									

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目														
					○ディプロマポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志	1. 1	1. 2	1. 3	1. 4							
2. 1	2. 2	2. 3	3. 1	3. 2	4. 1	4. 2													
	地域の伝承	3	日本の各地方に伝わる民話・伝説について、 話型の分類や伝承のあり方、相互関係 などを調査し、考察する方法を学ぶ。	地域ごとの伝承の特色を理解している。自身の居住地の伝承に興味を持ち、採集・分析することができる。	○														
	古代史研究の方法と課題	3	日本古代史に関する研究史を把握し、 研究動向と課題、そして今後の方向性 について考察する。	日本古代史分野における新たな研究領域を開拓し、論理的で有効な論文を構想することができる。	○														
	中世史研究の方法と課題	3	日本中世史に関する研究史を把握し、 研究動向と課題、そして今後の方向性 について考察する。	日本中世史分野における新たな研究を開拓し、論理的で有効な論文を構想することができる。	○														
	近世史研究の方法と課題	3	日本近世史に関する研究史を把握し、 研究動向と課題、そして今後の方向性 について考察する。	日本近世史分野における新たな研究を開拓し、論理的で有効な論文を構想することができる。	○														
	近現代史研究の方法と課題	3	日本近現代史に関する研究史を把握し、 研究動向と課題、そして今後の方向性 について考察する。	日本近現代史分野における新たな研究を開拓し、論理的で有効な論文を構想することができる。	○														
	地域政策論	4	地方公共団体における行政の機能、仕組みや政策立案の具体的な過程、議会の役割など、 地域社会の発展に向けた 地域政策を理解するうえで必要な知識を修得する。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	地域づくりの実態に学び、地域政策における現状と課題を把握している。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○														
	災害と歴史	4	日本における様々な災害の歴史を概観し、人々が災害とどのように向き合い対応してきたか、について事例に則しながら考察することを目的とする。	過去における 災害への向き合い方を理解し、災害に対する現代的な取り組みと対応について把握し、行動 することができる。	○														
	地域文化研究	1	本学が立地する西宮市域・阪神地域・兵庫県域を対象地域として、地域における歴史・文化のあり方を観察する。地域の歴史・文化を素材とする研究方法、およびそれらを活用した行政や民間などの取り組みについて理解を深める。	兵庫県下の地域文化の特色を理解し 、地域文化を研究するための基本的な方法と態度を身につけている。						○								○	
	地域文化フィールドワークⅠ	2	西宮市域および阪神地域に残る 歴史 の痕跡を調査し、それらを活用したまちづくりや地域の魅力発信の方法について実践的に考察する。	地域文化研究について一定の成果を得ることができる。調査結果を適切に整理しまとめることができる。							○								○
	地域文化フィールドワークⅡ	3	兵庫県各地域（旧摂津・播磨・但馬・丹波・淡路）に残る 歴史 の痕跡を調査し、それらを活用したまちづくりや地域の魅力発信の方法について実践的に考察する。	地域文化研究について一定の成果を得ることができる。調査結果を適切に整理しまとめることができる。							○								○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目													
					○ディプロマポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志	1. 1	1. 2	1. 3	1. 4	2. 1	2. 2	2. 3	3. 1	3. 2	4. 1
	歴史文化フィールドワークⅠ	2	歴史に関わる問題関心に沿って自らフィールドワークを行うための基礎的な知識・方法を身につける。	各自が課題を設定し、計画的に調査を実施することができる。調査成果をまとめ、要領よく報告することができる。												○		
	歴史文化フィールドワークⅡ	3	歴史に関わる問題関心に沿って自らフィールドワークを行うための基礎的 かつ具体的 な知識・方法を身につける。	各自が課題を設定し、計画的に調査を実施することができる。調査成果をまとめ、要領よく報告することができる。												○		
	歴史文化フィールドワークⅢ	2	歴史に関わる問題関心に沿って自らフィールドワークを行うための実践的な知識・方法を身につける。	各自が課題を設定し、計画的に調査を実施することができる。調査成果をまとめ、要領よく報告することができる。												○		
	歴史文化フィールドワークⅣ	3	歴史に関わる問題関心に沿って自らフィールドワークを行うための実践的 かつ発展的 な知識・方法を身につける。	各自が課題を設定し、計画的に調査を実施することができる。調査成果をまとめ、要領よく報告することができる。												○		
	映像メディア・理論と実践	3	写真撮影と映像撮影の技術の習得を目指し、映像記録機器の操作とデータの管理について総合的に学習することを目的とする。	フィールドワークに際して、適切に写真・映像を撮影・記録することができる。映像記録機器を円滑に使用することができる。						○			○					
	歴史文化とプレゼンテーション	3	歴史文化をテーマとしてプレゼンテーション を作成・実践 する際の 効果的な 技法について講義・演習を行う。	主体的にテーマを設定し、計画的に調査を進め、わかりやすい資料を作成して、プレゼンテーションを行うことができる。調査・研究テーマを正確に把握し、かつ的確に伝えるための読解力・構想力・表現力を修得している。								○		○				
	演習Ⅰ	3	演習担当者の指導のもと、各自の研究を深めるための方法を学ぶとともに、学生同士が発表・討論等を行い、互いの研究の質を高めあう。	卒業論文作成を目標として、研究に必要な基本的な知識と技能を身につけている。											○	○	○	○
	演習Ⅱ	4	Ⅰに引き続き演習担当者の指導のもと、各自の研究を深めるための方法を学ぶとともに、学生同士が発表・討論等を行い、互いの研究の質を高めあう。	卒業論文作成に向け、研究に必要な発展的な知識と技能を身につけている。											○	○	○	○
	卒業論文	4	これまでの学修により得られた知識や方法を駆使して、その研究成果を論文にまとめる。	独自性のある卒業論文を作成することができる。												○		○
	中国語入門	1	中国語会話の初歩を学ぶ。	簡体字やピンインと声調の仕組みを理解し、発音、語彙、文法などの基礎的な特徴を知り、簡単な挨拶、自己紹介や簡易な日常会話ができる。												○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志							
					1・1	1・2	1・3	1・4	2・1	2・2	2・3	3・1	3・2	4・1	4・2			
	韓国語入門	1	韓国語会話の初歩を学ぶ。	ハンゲルの書き方や発音、語彙、文法などの基礎的な特徴を学び、簡単な挨拶、自己紹介や簡易な日常会話ができる。	○													
	英語で読む日本	2	日本文化・社会に関して書かれた英文の記事・エッセイを読み、英語の語彙力・文法理解力・読解力などの運用能力を高め、日本文化・社会についての理解を深めることを目的とする。	日本文化・社会について説明するための英語のキーワードを把握し、他者に対して英語と日本語とで日本文化を紹介することができる。	○													
	観光英語	2	旅行業・航空業・ホテル業などの観光サービス業界で必要とされる英語運用能力の向上を図る。	京都・奈良など日本の代表的な観光地について、その歴史・地理的特色を英語で紹介できる能力を身に付けている。国際交流に積極的に関わる意識を備えている。	○													
	キャリアとコミュニケーション	3	社会生活を送るうえで必要になるコミュニケーション能力の必須条件を理解し、自己表現、対話能力、プレゼンテーション能力の向上を目指す。	日本語表現に関する一般常識的教養を身につけている。場面・状況に応じた確かな口頭表現ができる。	○													
	くらしと言語景観	3	身近なくらしのなかにある言語や文字表現を具体的に調査、収集し、それが織りなす空間・環境を客観的に観察することによって、言語生活を立体的に把握する。	くらしのなかにある言語の機能と表現効果を理解し、くらしのなかの表現者として豊かな表現力を発揮することができる。					○									
	東洋史	3	東洋の歴史における思想、社会のあり方について理解し、歴史を捉える視点を身につけることを目的とする。 また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	世界的観点から、東洋の歴史的事象、思想や観念について把握することができる。 教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○													
	西洋史	3	ヨーロッパの歴史を中心に、古代、中世、近世、近代、現代といった時代の特徴を概観するとともに、宗教改革、啓蒙思想、国民国家などのいくつかのテーマを取り上げながら、それぞれに関する具体的な事象を考察する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	過去と現在の変化や諸地域における多様性を検討し、現代世界の成り立ちを知るとともに、歴史を通じて現代社会の諸問題に対する多角的なまなざしを備えている。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○													
	近代の世界史	3	近代ヨーロッパにおいて国民国家が形成される過程と、民族意識や国家の構成員たる国民としてのアイデンティティをどのように育成したかについて、歴史学の観点から考察する。また、本科目は、中学教科社会および高校教科地歴を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	近代の世界史について幅広い知識を身につけている。歴史的な視点を備え、身の回りの現象から歴史的な要素を見出し、説明することができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中高教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○													

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマポリシーの項目番号											
					凡例：◎ディプロマポリシー達成のために特に重要な科目											
					○ディプロマポリシー達成のために重要な科目											
					1. 知識・理解	2. 技能・表現	3. 思考・判断	4. 態度・志	1. 1	1. 2	1. 3	1. 4	2. 1	2. 2	2. 3	3. 1
	多文化共生論	4	多文化共生社会の諸相について、公共空間で展開されている取り組みを学ぶとともに、歴史知識を文化の受容や文化交流史的な観点から読み取ることを目的とする。	多文化共生の観点到ち、私たちの身近なくらしを客観的かつ具体的に観察することができる。	○											
	観光と行政	4	観光と行政の関わりについての歴史的展開と現代的課題について、具体的な事例をもとに理解することを目的とする。	観光と行政の歴史的展開に基づく現代的課題を理解したうえで、今後の展開について提案することができる。	○											
	法律学	1	日常生活を送るうえで身につけておきたい法の諸側面を教授し、ひとりひとりの法意識の向上に努める。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	身近なところに存在する「法」に気づき、法がどのようにして私たちの生活を規制し、あるいは保護しているのかを 理解している 。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○											
	経済学	1	経済学全般について、マクロとミクロの双方の観点到し、初歩的な概念・知識および考え方を学ぶ。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	日本経済の歴史と現状ならびに国際経済の動向を 把握している 。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○											
	社会学	3	社会学の立場と方法により現代社会を 分析・検証し、それが直面する 諸問題を考察する。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	現代社会に内在する諸問題について、それを改善・解決に導くよう主体的に考えることができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○											
	倫理学	3	倫理学における 西洋・東洋の過去の代表的な諸理論について成り立ちや概要を学び、その現代的意義について考察する。また、本科目は、中学教科社会を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一つの目的とする。	哲学・倫理学的思想の初歩を修得している。社会に存在する倫理的規範について自ら問い直すことができる。教職課程履修者は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○											

①教職課程を履修して中高教員を目指す学生

合計125単位（うち共通17単位）+教職44単位

1年前期（23単位、うち共通4単位）+教職5

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・言語〉英語コミュニケーション I	初期演習 I	日本史料概説	Oral Communication		
2限	〈共通・健康〉スポーツと栄養			情報リテラシー（歴史文化）	人文地理学	法律学
3限	〈教職〉日本国憲法	日本史概説	考古学概説			
4限	〈教職〉教職入門	文化と民族		女性史概説		
5限						

1年生後期（22単位、うち共通3単位）+教職6単位

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・情報〉データサイエンス・AIの基礎	初期演習 II（歴史文化研究）			文化人類学概説	
2限	〈共通・健康実技〉スポーツ実技（テニス）	歴史文化フィールドワーク基礎		文章表現法（歴史文化）	自然地理学	日本思想史
3限	〈教職〉教育原理	歴史文化資料論		文化・歴史研究と情報	言語と文字の史的変遷	
4限	〈教職〉教育行政学			古文書入門		
5限	〈教職〉教育心理学					

2 年生前期（22単位、うち共通4単位）+教職8単位

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・言語〉ハングル I		意匠・デザインの基礎		中世の文化史 刀剣・武具	〈教職〉社会・地歴科指導法 I
2限	〈共通・ジェンダーと社会〉ジェンダーと社会			日本近現代史史料を読む I		
3限	〈教職〉教育課程総論		地理学概説	日本近世史史料を読む I		
4限	〈教職〉教育方法の理論と実践		日本の生活文化	歴史のなかの女性	縄文・弥生の考古学	
5限	〈教職〉発達心理学					

2 年生後期（20単位、うち共通4単位）+教職6単位

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・国際〉世界の日本人		文化財の活用と保存			〈教職〉社会・地歴科指導法 II
2限	〈共通・言語〉ハングル II			日本近現代史史料を読む II	出版・メディアの文化史	
3限	〈教職〉生徒指導・進路指導	古記録と古文書		日本近世史史料を読む II	地誌学	
4限	〈教職〉道徳教育指導論				古墳・中近世の考古学	
5限						

集中講義	地域文化フィールドワーク I					
	歴史文化フィールドワーク III					

3年前期 (15単位、うち共通2単位) +教職6単位

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・自然〉色彩情報		近世史研究の方法と課題			〈教職〉社会・地歴科指導法Ⅲ
2限			地理と情報	社会学		東洋史
3限	〈教職〉特別支援教育論	古代史研究の方法と課題				
4限	〈教職〉教育相談の理論と方法				演習Ⅰ	
5限						

3年生後期 (11単位) +教職5単位

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈教職〉総合的な学習の時間と特別活動		近現代史研究の方法と課題			〈教職〉社会・地歴科指導法Ⅳ
2限	〈教職〉教育実習事前指導(中高)				倫理学	近代の世界史
3限						
4限			地域の伝承		演習Ⅰ	
5限						

集中	歴史文化フィールドワークⅡ	
講義	歴史文化フィールドワークⅣ	

4年前期 (7単位) +教職6単位

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈教職〉教育史					〈教職〉教育実習Ⅰ(中高)
2限			多文化共生論		地域政策論	〈教職〉教育実習Ⅱ(中高)
3限		演習Ⅱ				
4限						
5限						

4年生後期 (5単位) +教職3単位

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限						〈教職〉教職実践演習(中高)
2限					災害と歴史	
3限		演習Ⅱ				
4限						
5限						

通年	卒業論文	
	〈教職〉教育実習事前事後指導(中高)	

②大学院進学をも視野に入れながら歴史・地理分野の高度な研究を志す学生

合計124単位（うち共通16単位）

1年前期（23単位、うち共通4単位）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・社会〉消費者生活論	初期演習Ⅰ	日本史料概説	Oral Communication		
2限	〈共通・ジェン）メディアに見るジェン		食の文化誌	情報リテラシー（歴史文化）	人文地理学	
3限		日本史概説	考古学概説			
4限		文化と民族		女性史概説		
5限						

1年生後期（23単位、うち共通4単位）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・情報〉データリテラシー・AIの基礎	初期演習Ⅱ（歴史文化研究）			文化人類学概説	
2限	〈共通・言語〉英語ライティングⅠ	歴史文化フィールドワーク基礎		文章表現法（歴史文化）	自然地理学	
3限		歴史文化資料論	民俗資料を読む	文化・歴史研究と情報	言語と文字の史的変遷	
4限				古文書入門		
5限						

2年前期（22単位、うち共通4単位）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・国際〉韓国文化の理解				中世の文化史 刀剣・武具	
2限	〈共通・キャリア〉自己アピールトレーニング	日本中世史史料を読むⅠ	日本古代史史料を読むⅠ			
3限	中国語入門	古記録と古文書	地理学概説			
4限			日本の生活文化		縄文・弥生の考古学	
5限						

2年生後期（20単位、うち共通4単位）

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・現代〉モラルジレンマから考え		文化財の活用と保存			
2限	〈共通・言語〉ドイツ語Ⅰ	日本中世史史料を読むⅡ	日本古代史史料を読むⅡ		出版・メディアの文化史	
3限					地誌学	
4限			すまいの日本文化		古墳・中近世の考古学	
5限						

集中講義	地域文化フィールドワークⅠ					
	歴史文化フィールドワークⅠ					

3年前期 (11単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限			近世史研究の方法 と課題			
2限		映像メディア・理 論と実践	地理と情報			
3限		古代史研究の方法 と課題				
4限					演習 I	
5限						

3年生後期 (13単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限			近現代史研究の方 法と課題		中世史研究の方法 と課題	
2限		信仰の民俗学				
3限		古代中世の都市と 交通		歴史文化とプレゼ ンテーション		
4限					演習 I	
5限						

集中	地域文化フィールドワーク II	
講義	歴史文化フィールドワーク IV	

4年前期 (5単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限						
2限		観光と行政				
3限		演習 II				
4限						
5限						

4年生後期 (7単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限						
2限			文化遺産論		災害と歴史	
3限		演習 II				
4限						
5限						

通年	卒業論文	
----	------	--

③一般企業への就職を希望する学生

合計124単位（うち共通16単位）

1年前期 (25単位、うち共通4単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・自然〉科学から考える衣服と生活	初期演習 I	日本史料概説	地域社会論		
2限	〈共通・ジェンダーとアイデンティティ〉			情報リテラシー (歴史文化)	人文地理学	
3限		日本史概説	考古学概説	日本美術史	観光文化論	
4限		文化と民族		女性史概説		
5限						

1年生後期 (23単位、うち共通4単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・情報〉データリテラシー・AIの基礎	初期演習 II (歴史文化研究)		地域文化研究	文化人類学概説	
2限	〈共通・言語〉英語ライティング I	歴史文化フィールドワーク基礎	江戸の風俗と絵画	文章表現法 (歴史文化)		
3限		歴史文化資料論		文化・歴史研究と情報	言語と文字の史的変遷	
4限		日本の祭礼 春夏秋冬				
5限						

2年生前期 (24単位、うち共通4単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・国際〉音楽から見る人と世界		意匠・デザインの基礎		中世の文化史 刀剣・武具	
2限	〈共通・言語〉フランス語 I	日本中世史史料を読む I			日本芸能文化史	
3限			地理学概説	日本近世史史料を読む I		
4限			日本の生活文化	英語で読む日本	縄文・弥生の考古学	
5限						

2年生後期 (18単位、うち共通4単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限	〈共通・現代〉スポーツリズムと地域創生		文化財の活用と保存			
2限	〈共通・女性〉女性のためのライフプランニング	日本中世史史料を読む II			出版・メディアの文化史	
3限	観光英語			日本近世史史料を読む II		
4限				装いの日本文化		
5限						

集中講義	歴史文化フィールドワーク I	
	歴史文化フィールドワーク III	

3年前期 (13単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限			近世史研究の方法 と課題			
2限		映像メディア・理 論と実践	地理と情報			
3限					くらしと言語景観	
4限			キャリアとコミュ ニケーション		演習 I	
5限						

3年生後期 (9単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限			近現代史研究の方 法と課題			
2限				伝統工芸の保存と 継承		
3限				歴史文化とプレゼ ンテーション		
4限					演習 I	
5限						

集中	地域文化フィールドワーク II	
講義	歴史文化フィールドワーク II	

4年前期 (7単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限						
2限		観光と行政	多文化共生論			
3限		演習 II				
4限						
5限						

4年生後期 (5単位)

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1限						
2限						
3限		演習 II				
4限				画像文化論		
5限						

通年	卒業論文	
----	------	--

実習受入承諾書

令和 5年 1月 23日

武庫川女子大学

学長 瀬口 和義 様

武庫川女子大学附属中学校・高等学校

校長 世良田 重人

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、本校において教育実習を受け入れることは差し支えありません。

実習受入承諾書

令和 5 年 1 月 16 日

武庫川女子大学

学長 瀬口 和義 様

西宮市教育委員会

教育長 重松 司郎

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程認定の上は、当市の中学校および高等学校において教育実習を受け入れることは差し支えありません。

教 育 実 習

ハ ン ド ブ ッ ク

(中 学 校 実 習 用)
(高 等 学 校)

武 庫 川 女 子 大 学
武庫川女子大学短期大学部

目 次

〔はじめに〕	1
I 教育実習の意義と目的	2
1 教職の理念	2
2 教育実習の意義	2
3 教育実習の目的	3
4 教育実習の内容	3
II 教育実習生の心得	5
1 実習生の心構えと態度	5
2 実習上の留意点	5
3 実習生の勤務	7
III 教育実習の方法	8
1 実習のはじまり	8
2 学習指導の実際	8
3 生徒指導の実際	12
4 実習のおわりに	15
IV 教育実習の記録	15
1 実習記録作成上の留意点	15
2 教育実習記録の書き方	16
3 実習記録の提出と成績評価	19
4 「教職課程履修カルテ」の入力について	20
〔おわりに〕	21

[は じ め に]

----- 本学における教員養成の理念 (学校教育センターHP「教員養成の状況について」より抜粋) -----

- (1) 学院立学の精神に立脚した教職実践力を体し、グローバル化する社会の新しい要請に応えるとともに日本国憲法・教育基本法・学校教育法等に規定されている教育理念とそのシステムを実践的に支え、次代を担う子ども達にその自立へ向けて“自他ともに学びあい・生かしあう力”を育むことのできる「教員 (保育士・保育教諭・栄養教諭を含む)」の養成を社会的使命として遂行し、人・家庭・社会に貢献できる人材を育成する。
- (2) 学院立学の精神に立脚した教職実践力とは、“高い知性”と“善美な情操”と“高雅な徳性”とを兼ね備え、これらの資質・能力を幼児・児童・生徒等に対して、それぞれの学校教育段階において創造的に育むことのできる教員としての実践力である。
- (3) 上記(1)(2)に示す本学教員養成の理念の具現化へ向けて、学院立学の精神はじめ教育綱領・教育目標・教育推進宣言について理解を深めるとともに、自立した教員を送り出すべく、女子総合学院の特質を生かし、“未来を担う子ども達の主体性・論理性・実行力を培う”教員の養成を「一貫して」推進する。その実質的具現化のため、これらの養成に携わる全教職員は、一致団結して改革・改善に取り組む。

- 1 このハンドブックは、教育実習のための手引きであり、教育実習の全般にわたって、最小限度、実習生が心得ていなければならないと思われる事項について解説するものである。
- 2 教育実習は、教員免許状を取得するための必修の教職科目であり、大学の教職課程の一環として位置づけられるものである。教育実習を受けてくださる実習校教員のご指導のもと、実習校の生徒らの協力によって、はじめて実施可能となる。実習生は、この貴重な機会に最大限の努力を傾注しなければならない。
- 3 教育実習は各実習校 (教育委員会) に対して大学が依頼し、その承諾によって成り立つ。実習生は、必ず指定された実習校・実習期日で実習を行い、実習においては各実習校の指導方針に従わなければならない。実習に不熱心であったり、実習生としてふさわしくない行為があったときには、実習期間中であっても実習当該校長からその実習許可の取り消しを命ぜられることがある。
- 4 実習生は各自、本学所定の「教育実習の記録」(別冊)を使用し、実習校で実習した内容等の全般にわたって記録を作成し、実習校に提出して点検・評価を受けた後、定められた日に学校教育センターに提出して本学教員の点検を受けなければならない。
- 5 教育実習では、終始、武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部の学生であるという自覚をもって、責任ある言動をとらなければならない。一人一人の行動や言動が、すべて本学教育の反映として評価されることを忘れてはならない。

実習中は、謙虚さをもって誠心誠意努力することが重要である。そのような学びの姿勢が、実習校の校長先生、教頭先生、諸先生方はもちろん、生徒からも多くのことを学ぶことにつながる。

教育実習を通して生涯のすばらしい糧を得ることを心から期待している。

I 教育実習の意義と目的

短い期間の実習であっても**実習生が行う指導の適・不適は、直接、生徒の人格形成に甚大な影響を及ぼす**ことになる。したがって、実習生は教育実習に当たって、まずその意義と目的をしっかりと心に銘記しておかなければならない。

1 教職の理念

教育とは本来、知識や経験の伝達を媒介として、被教育者の内から発展するものを助け育てつつ、それを生活と学習の両面において、より望ましい方向に教え導く作用を意味している。学校教育において、この重要な役割を担っているのは教員である。教員の仕事は、多様な個性をもつ生徒に直接働きかけて、全人格的発達を図るとともに、激変する社会に適応し新しい生き方を創っていく実践的能力を育成するという、きわめて責任の重い仕事である。教員の良し悪しが教育の成果を左右することを思えば、その仕事の遂行に必須の資質を豊かに備えていることが求められる。教員に要請される必須の資質として、次の3点を概略するので実習生と読み替えて参考にしてほしい。

まず第1に、教員は教育者としての使命感、深い教育愛と人間愛に支えられていなければならない。教員が豊かな人間味と人間に対する純粋な愛をもって教育に当たることによって、はじめて生徒を正しく指導できる。生徒を愛し、信頼して、生徒に打ち込む情熱と、意欲と、広やかな人間性の持ち主であってこそすぐれた教員と言い得るのではなかろうか。

第2は、教育者としてしっかりした教育観をもち、教える内容に関する専門的な学識と指導技術をもつことである。教員に求められるのは、これらの専門的学識や技術を、生徒のそれぞれの発達段階の学習にいかにか適合させ、人格的統合をはかっていくか、ということである。そのために、生徒の成長発達や思考・行動の特質、興味や能力の違い、現実の生活経験や地域社会の要求等について、深い理解をもつことが必要である。教員の指導技術の力量は、教員が生徒をどのようにとらえ、教育をどのように考えているかという教育観に支えられているものである。生徒を見つめ、その一人一人について理解しようとする熱意と、生徒に向かって開かれた寛大な心がなければならない。教員には、深い洞察力、的確な判断力および豊かな創意工夫の能力を磨くことが求められる。ILO・ユネスコの「教員の地位に関する勧告」は、「厳しい継続的な研究を経て獲得され、維持される専門的知識と及び特別な技術」*を要求し、教育公務員特例法も、「その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない」(第21条)と規定している。

第3に、教員は公共性の高い職務に携わる公務員であり、全体の奉仕者であるという自覚をもっていなければならない。子どもは教育を受けることによって、はじめて人間らしく生き発展するための諸権利を得ていくことができる。したがって、子どもの教育を受ける権利を中心におき、これを保護者、教員、国、社会が守り育てていくことが教育の根幹であるといえよう。教員はその中心的存在であり、国民全体に対し直接責任を負って、その職責の遂行に努めなければならない。

*文部科学省HP「教育に関する主な国際条約・宣言・勧告等」ユネスコ「教員の地位に関する勧告(1965)(抄)」

2 教育実習の意義

教育実習は、将来、教員になろうとするものが、一定の期間、実習校において、教員として必要な多くの事柄を、実地に学びとろうとするものである。すなわち、高度の学識技能を修得するに留まらず、生徒を指導しその資質能力を開発するための技術の修習が必要である。また、生徒を愛し、生徒のために奉仕しようとする教育愛をもつことも欠くことはできない。資質能力が異なり、生活経験や環境を異にする生徒を指導することは、学問研究の上に生徒に直接触れる経験を積み重ねなければで

きることではない。ここに、教員養成における教育実習の重要性がある。

教育実習を履修するに当たり、実習生はあらかじめ次の諸点について十分に認識しておくことが必要である。

- (1) 実習生は少くとも次の5つの要件を備えて実習に臨むようにしなければならない。
 - ア 将来教職に就くという強い意志を持っていること。
 - イ 原則として、教員採用選考試験を受験すること。
 - ウ 常に人格を磨き、誠意と情熱をもち、実習に取り組むこと。
 - エ 大学は「教育実習Ⅰ（中高）・Ⅱ（中高）」、短大は「教育実習Ⅰ（中）・Ⅱ（中）」の履修要件を満たすこと。
 - オ 「教育実習事前ガイダンス」に出席すること。
- (2) 実習生は、本ハンドブックで述べられている事項を基礎として実習校の方針に従い、綿密な計画と十分な準備の下に実習を行わなければならない。教材研究の不足や、実習意欲の不十分さのために、指導内容を誤ったり、不適切な言動をとることなどがないように十分注意しなければならない。
- (3) 実習指導教員は、多忙な中、実習生の教材研究や学習指導案の点検・指導をはじめ、指導授業、指導講話、実習授業後の研究会等きわめてご苦労が多い。また、実習授業等における過誤や不手際を補足修正することも必要となる。実習生はそのことを十分認識し、感謝の念をもち、格段の努力を払うことが必要である。

3 教育実習の目的

教育実習の目的は、「実習校において生徒との接触を通じ、教員たるに必要な基盤－知識・技術・意欲・態度を修得する」ことにある。

次に教育実習の具体的目標をあげる。

- (1) 教育と教員の教育活動の本質や重要性を正しく理解すること。
- (2) 教員の仕事の領域全体にわたって実際の体験を通して学びとること。
- (3) 生徒の要求、興味、関心、生活、人権等に対する鋭敏な感受性を養い、豊かな人間尊重の精神を培うこと。
- (4) 専門領域の学識、教育学的素養を広め、深めること。
- (5) 学校教育活動の仕組み、および教育の社会における役割について理解を深めること。
- (6) 生徒に学ぶ心を育てること。

4 教育実習の内容

教育実習において学ばなければならない事項は、学習指導の技術だけではない。教員としてのあり方を学ぶのであって、その内容は以下にあげるように学校教育活動の幅広い分野にわたっている。実習生はこれらの分野にわたって、できるだけ多くのことを観察したり参加したりして、実地に知ることが大切である。

領 域	実 習 内 容
1 学 校 経 営	学校教育目標と経営方針、校務分掌、施設、設備、学校行事の運営、地域社会との関連、学校事務等
2 教員としての 資質向上	教員としての心構え、態度、理想的な教員などの研究と研修等
3 教 材 研 究	各教科の内容と教育課程についての研究

4 学 習 指 導	学習指導の原理および指導の計画、学習指導案、学習指導の過程・方法・技術、評価のあり方等
5 道徳教育および特別活動	道徳教育、特別活動の意義、目標と内容、指導原理と方針、学級指導、生徒会活動、学級会活動、部活動、学校行事等
6 生 徒 指 導	生徒指導の意義と目標、指導計画と方針、ホームルームの活動・学級経営、事例・場面指導等
7 学校保健と学校安全	健康管理に伴う事務、学校保健の意義・目標・内容、学校保健の計画、保健教育、学校安全の目的と安全管理、安全教育の指導の実際等
8 学校図書と視聴覚教育	学校図書教育の目標と内容、学校図書館の利用指導（各教科および総合的な学習の時間等での活用方法を含む）、視聴覚教育の意義と目標、教育機器の種類とその活用、パソコンの活用等
9 人 権 教 育	<p>教育の原点としての人権教育のあり方を学び、将来これに取り組む心構えを養う。その際の主な課題は、以下のとおりである。</p> <p>(1) 人権感覚を身につけ人権問題を解決する実践的行動力を養うということが、学校経営や全教科・全領域における指導方針の中にどのように位置づけられているか。</p> <p>(2) 支えあう学級集団の基礎学力保障と進路保障にどのように取り組まれているか。</p> <p>(3) 集団生活を大切にし、人権感覚の育成がどのように行われているか。</p> <p>(4) 生徒を現象面だけでとらえないで、その内面をとらえなおしてみる態度がつかぬか。</p> <p>(5) 人権についての正しい理解と認識を得るための系統的・科学的学習の指導がどのように行われているか。</p>
10 特別支援教育	<p>学校がノーマライゼーション、インクルージョン、バリアフリーなどの教育理念を踏まえて、障がい者と健常者がともに生きる教育の場であるとの認識のもとに、以下の事項について学ぶ。</p> <p>(1) 生徒一人一人の生命の尊厳と身体的・精神的能力や個性に応じた教育を大切にすることを養う。</p> <p>(2) 障がいのある生徒が障害に伴う困難を克服し、人間として成長していくために、これを支援する教員の心構えを養う。</p> <p>(3) 学習指導や生徒指導など教育活動の個々の領域においてなされている障がいのある生徒に対する教育の内容・方法上の配慮について理解を深める。</p> <p>(4) 障がいの種類と個々の実態および指導の実際について、基礎的知識を習得し理解を深める。</p> <p>(5) 障がいのある個々の生徒についての実態を十分に理解し、障がいの事実即して適切な支援の工夫をする。</p> <p>(6) 特別支援学級の指導に参加できる場合にはこれを通して、教育の原点として特別支援教育の重要性とあり方を学ぶ。</p>
11 ICT の 活 用	<p>GIGAスクール構想（文部科学省）を踏まえ、学校教育活動のあらゆる場面でICTが導入されようとしている現在において、教員にはさらなるICT活用指導力が求められていることを踏まえ、以下の事項について学ぶ。</p> <p>(1) 教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する</p> <p>(2) 授業にICTを活用して指導する</p> <p>(3) 生徒のICT活用を指導する</p> <p>(4) 情報活用の基礎となる知識や態度について指導する</p>

Ⅱ 教育実習生の心得

1 実習生の心構えと態度

(1) 教員になろうとする意欲をもつこと

教育実習の単位を修得することは、教員免許状取得のためのひとつの条件である。しかし、免許状を取得するためだけであるといった安易な気持ちでは、本人の実習が不成功に終わるだけでなく、実習校の指導教員の期待も裏切り、生徒にも迷惑を及ぼすことになる。**教員になろうとする強い意欲をもって、教育実習に専念すること。**

実習生が自分のもっている能力を精一杯発揮して、誠意をもって努力すれば生徒たちも必ずこれに反応してくれる。新鮮な張りつめた実習生の心を、純真な生徒たちはすばやく感じとってくれるものである。

(2) 服装・容儀を整えること

実習生は、実習期間中には下記事項に留意して、実習生としてふさわしい清潔な服装・容儀を整えること。

- 制服、白ブラウスを着用し、学章と名札をつける。実習校において、別に指示された服装がある場合には、それを優先する。
- 髪型は流行を追った極端な異型・異色のものは慎む。長い髪は束ねて、活動に支障のないようにする。爪も清潔に短く整えておく。
- 所持品などについても学生としての品位を保つものであること。勤務中(休み時間も勤務中)は、携帯電話の電源は切り、しまっておくこと。
- 実習校では、それぞれの場に合った運動靴や上靴、下靴にはきかえる。

(3) 教員としての品位を保つこと

実習生は社会的には「学生」であるが、生徒にとっては「先生」である。教員は生徒の模範になるようにとの社会的な要請がある。礼儀作法、言葉づかい、服装・容儀においては、ふさわしい品位を保たなければならない。

なお、出勤の途中で実習校の教職員・生徒に会えば、会釈とあいさつを行うこと。

実習前に、実習生としてふさわしくないSNS上のデータは削除しておくこと。実習中の出来事はSNS上にはアップしないこと(実習中はもちろん実習終了後も)。

(4) 体調管理をすること

麻疹やインフルエンザ等の感染症を予防するため、日ごろから体調管理に注意すること。実習期間中はもとより、実習前後も「体調管理記録」表を利用し、毎日検温して体調を管理する。

とりわけ、実習前はむやみに人ごみの中には行かず、やむを得ない外出の際は必ずマスクを着用し、帰宅後の手洗い・うがいを励行すること。実習中は、慣れない環境への対応や緊張から、疲れが出やすいので、体調を維持するため、睡眠不足や偏食を避けること。体調に異変を感じたら、直ちに病院で診察してもらうこと。随時、大学の担当教員と連絡をとれるようにしておき、何かあればすぐに大学の担当教員に連絡すること。

2 実習上の留意点

(1) 素直に指導教員の指導を受ける

指導教員との密接な連絡なしには実習は不可能である。実習生のひとりよがりだけでは実習はできない。実習の全期間を通じて教材研究のこと、指導案のことなどあらゆることにわたって指導教員の教えを受けなければならない。実習生として学生として、常に尊敬の気持ちを忘れず、

礼節をわきまえ、言葉づかいなどにも注意して指導教員に接するようにすること。

(2) 丁寧に細かくメモをとる

実習期間中には多くの新しいことを見たり聞いたりする。実習期間中にはいつも丁寧に細かくメモをとるよう心がけること。校長先生からお話を伺うとき、実習指導教員から批評を聞くとき、実地指導について討議するときなどには、メモを忘れないようにする。メモの整理段階で、新しい発想も浮びあがってくる。メモは記録の材料を提供するとともに、創造の芽にもなる。

(3) 積極的に生徒に接する

充実した学習指導が行われるためには、実習生と生徒との間で信頼関係が保たれていなければならない。実習期間中に積極的に生徒に接すること。生徒たちに話かけ、話し合うことで生徒たちの気持ちを理解していくことも教育実習の大切な課題である。

とくに担当の学級の生徒の顔と名前をなるべく早く覚えることが大切である。しかし、「えこひいき」の感を生徒に与えてはならない。すべての生徒に公平な態度で接しなければならない。

(4) 安全管理に細心の注意を払う

生徒の生命と安全を確保することは、あらゆる教育活動の前提条件である。安全管理についての配慮がなされると同時に、生徒に対する事故防止のための指導が行われなければならない。

安全管理の領域には、①学校環境の安全管理、②学校生活の安全管理、③学校における事故防止などがあるが、とくに不審者対策は今日的課題でもある。実習生は、まず、実習校での安全教育の目標と指導計画、安全管理の実際などについて十分認識を深めておかななければならない。

理科の実験・薬品の取り扱い、家庭科の授業、保健体育科の授業、廊下や階段の通行、運動場での遊び、遠足や登下校時など生徒の身近なところで、危険はいつでもどこでも起こり得る。実習生は常に、生徒に事故が起こらないよう安全のために細心の注意を払う責任がある。もし、実習期間中に実習生にかかわる事故が発生した場合は、直ちに適切な処置をとり、すみやかに指導教員を通じて校長に報告し、同時に大学の担当教員・学校教育センターにも報告することを忘れてはならない。

(5) 実習生としての重責を自覚する

教育者には、生徒をそれぞれの保護者からあずかって教育するという、きわめて重い責任がかかっている。実習生も一方では教育者として、この重責を負担しなければならないことを自覚する。

ア 校外指導の禁止

実習生の中には、生徒と親しくなって、実習期間中にあるいは期間後において校外に連れていきたくなくなることがあるかもしれないが、このような行動は厳に慎まねばならない。また、自宅において実習校の生徒をとくに個人的に指導することも避けなければならない。

イ 個人的な助言は控え目に

生徒から個人的な相談をもちかけられることもあるかもしれない。しかし、実習生としては、できるだけ聞くことに努め、指示や助言はできるだけ控え目にしなければならない。自他ともに過信が思いがけない重大な結果を引き起こすことになる。なお、このような場合には、指導教員に連絡・相談をすることが必要である。

ウ さらに実習生は、次の事項について自分勝手に行動することは許されない

- 生徒の家庭へ、連絡や依頼などを出すこと。
- 生徒を随伴、残留、撮影すること。
- 生徒の賞罰を行うこと。
- 生徒に感想文、記念品などを求めること。
- 生徒や保護者とメールやSNSで交流すること（連絡先の交換、SNSやメールのIDやアド

レスの交換もしてはいけない)。

(6) 守秘義務

「職務上知り得た秘密を漏らしてはならない」(地方公務員法第34条)に基づき、個人情報の適正な取り扱いに留意し、実習中に知り得た個人情報について第三者に漏らしたり、不当な目的に利用したりするようなことがあってはならない。

3 実習生の勤務

(1) 実習校の規則を守ること

実習校には、「生徒心得」(校則)がある。例えば、通学路が示されているような場合には、教職員と同じように実習生も生徒の模範となるように、率先してこれを守らねばならない。

(2) 通勤

通勤は、公共交通機関を利用すること。自動車・バイクは禁止とする。実習校の許可があれば、自転車は利用してもよい。

(3) 勤務時間

実習校での勤務時間の詳細については、事前打ち合わせ時に指示されるが、通常は実習校の教職員と同じである。始業時間に遅れないように、常に早い目に出勤しておくことが必要である。

毎日の勤務終了時刻は、指導教員の指示によること。翌日の学習指導等の準備のため、遅くなるような場合には必ず指導教員の許可を受ける。また、単独で遅くまで残留しないように注意すること。指導教員も残留してくださる場合は、職員室で指導を受けるようにする。

(4) 出勤簿

登校すれば、直ちに所定の場所に置かれている実習生の出勤簿に押印し、出勤を明らかにしておかなければならない。

(5) 欠勤・遅刻・早退

欠勤・遅刻・早退はしないことが原則である。明確な理由がないのに、欠勤・遅刻・早退をすることは許されない。やむを得ず欠勤・遅刻・早退をする場合は、すみやかに実習校に連絡するとともに、大学の担当教員にも連絡しなければならない。無断で欠勤・遅刻・早退したり、理由にならないような理由で欠勤・遅刻・早退したりすることは絶対にあってはならない(教育実習においては、肉親の不幸の場合以外は公欠は認められない)。

なお、実質の実習日が15日間に満たない場合には、大学の担当教員・学校教育センターに連絡すること。欠勤・休校等によって、実習の期間に変更が生じた際は、「実習期間変更届」に必要事項を記入して実習校の証明印をいただき、実習終了後1週間以内に学校教育センターに提出すること。

(6) 昼食

昼食については、実習校の指示に従うこと。実習中は、学校給食の場合もある(給食費は実習生が負担)が、校外において昼食をとらなくてよいように弁当を持参する。

(7) 控室の管理

実習校では、実習生用の控室が設けられることがある。複数の実習生がいる場合は、当番を決めて毎日その控室を清掃整理しておかなければならない。なお、不要な貴重品を持参しないこと。控室での紛失は、実習校にも他の実習生にも迷惑をかけることになる。

(8) 突発的な休校

警報発令等の理由で実習校が臨時休校になった場合は、実習校の指示に従うこと。教職員の方々の休校への対応を学ばせていただくことも、教育実習の一環である。

Ⅲ 教育実習の方法

すでに「教育実習の意義と目的」でも述べたように、教育実習はきわめて広い領域にわたって教員としてのすべてを学びとろうとする機会であり、本来、観察・参加・授業実習・評価反省の全過程を通じて行われるべきものである。

したがって、教育実習では、授業の実習だけではなく各種の観察や参加などあらゆる機会を通じて、一人一人の生徒がおかれている生活実態をみつめ、それに学びながら教育を考えることが重要である。そのような学びの姿勢こそが教員への道の出発点であることを、よく認識すること。

1 実習のはじまり

教育実習を円滑に、かつ効果的に実施するためには、十分に準備を整える必要がある。その概要を述べる。

(1) 大学における事前ガイダンス

ア 実習生は教育実習事前事後指導の科目受講はもとより、実習の前に大学の引率指導・連絡担当教員のところにお伺いし、実習に関する指導を受ける（この際、実習中の連絡のための連絡先を確認すること）。

イ 実習前の「教育実習事前ガイダンス」には、必ず出席しなければならない。このときに実習に行くための注意事項などをあらためて確認し、実習への準備をしっかりと整える。もし「欠席許可理由」で欠席する場合には、学校教育センターまで事前に必ず所定の届をすることが必要である。

(2) 実習校における事前指導

実習校のご都合を伺い、必ず指定された日時に訪問する。校長、教頭または実習担当教員にお目にかかってあいさつし、日程、配属学年や組、指導教員、教科書の準備、登下校の時刻や通学路など、実習全般についての指示を受ける。また、実習生は『実習の記録』の中から「教育実習生プロフィール」「出勤簿」「教育実習成績通知票」に必要な事項を記入して、実習校に提出しなければならない。

(3) 実習第一日

ア 指示された出勤時刻よりも20分以上は早く登校し、指示のあった場所に集合する。

イ 職員朝礼や生徒朝礼で、実習生の紹介をしていただく際の実習生あいさつは簡単に、しかし実習をさせていただきに対する謝意を込めたものでなければならない。

ウ 朝礼のあとは、予定された計画に従って校長以下各教員の指導講話やオリエンテーションが行われ実習が始まる。

2 学習指導の実際

(1) 周到な準備と学習指導案の作成

教科については、中学校・高校では高度で広範囲な内容を含むため深い教材研究を必要とする。大学教職課程で学んでいる各専門分野の深い知識（中高「教育の基礎的理解に関する科目等」「教科に関する専門的事項」および中高各「教科指導法」を中心として）が役立つことになる。教材を考える場合、どのような角度からこれらを取り扱ったらよいか、既習教材との関連性をも考慮し、教材の中でどの部分が生徒に重要であるかについても検討する。生徒に質問を受けたときの答を想定できる程度にまで、教材を深く研究しておく必要がある。

実習生にはそれぞれに指導教員が決められ、担当する学習指導の授業担当時間割などが作成さ

れる。『中学校学習指導要領』または『高等学校学習指導要領』に指導上の一般的方針や指導計画の作成と内容の取り扱いが述べられているので、作成のとき参考にとよいが、指導教員から十分な指導内容の教示を受け、それによって学習指導案を作成しなければならない。学習指導案は指導の先生の校閲を受けたのち、学習指導（授業実習）に当たる。

また教科のみならず、指導教員の受け持たれる学級の指導（中学校実習では道徳も）についても指導助言をいただくことになる。

指導案の形式は各校ごとに担当する教科によって決められる場合があるので、指導の先生方のご教示を受けて作成しなければならない。次に参考までに、ひとつの形式を例示して指導案作成の要領、また、必要な項目について簡単に解説しておく。

ア 単元（主題・題目・題材）設定の理由

なぜこの単元が取り扱われるかの理由を述べるのであるが、教材観、指導観（方法観）、生徒観に分けて述べる場合もある。

教材観ではその教材が取り扱われている意味づけ（設定された理由）、その教材の重要性の軽重を述べるものであり、他の教材、学年との関連性についても述べることもある。学習指導要領、指導書等が参考となる。

生徒観では、生徒の発達段階、学級の現状、指導者の認識、既習事項等を述べるのであるが、個々の生徒の能力については指導教員に助言を受けるのもよい。

指導観（方法観）では、上の実態に即してどのような指導法を考えればどんな効果が期待されるか、どんな困難があるかを考えてみる。

イ 指導目標

指導者が何を目標として授業を進めていくかを述べるのであって、学習指導要領に示されている目標と関連させて明確にする。さらに本時の目標では、主題の中心的な目標を記入する。

ウ 学習指導計画

主題をどのように区分し、どういう順序で、どれだけの時間をかけて指導するのかの概要を記す。本時についての位置も書き添える。学習指導要領の「学習指導計画の作成と内容の取り扱い」を参照することも必要である。

エ 学習指導の過程

導入：生徒全員の学習への興味を起こさせ、生徒一人一人が、何を学習するかをしっかりと把握するように導く段階である。学習に対する興味の喚起→学習目的の確認→問題意識の自覚→問題の共通化・焦点化へと進めていく。

展開：本時の指導目標を区分された指導内容に沿って、計画的にすすめていく段階である。教科によって、いろいろな教材、教具、指導方法や形態を工夫し、生徒の活発な学習活動を育てながら、全員を問題解決と理解に導いていく。

まとめ（整理）：本時の学習の成果をまとめ、生徒一人一人に理解を確かめ自分のものにさせる重要な段階である。学習事項の整理、報告、発表、話し合い、質疑、ドリルなど多様な方法が考えられる。また、次時の予告なども行う。

生徒の学習活動は、学習内容の指導を進めていく過程で、生徒の主体的意識がどのような活動をするによって高まり、深まり、認識にまで形成されていくかという観点に立って、生徒の反応をも予想して展開を考えておくのが望ましい。そして具体的に学習活動の欄には、主題に基づいて分節されたいくつかの指導項目に対応する生徒の学習活動として、読む・聞く・書く・考える・調べる・話し合う・発表するなどを予定して記入する。

指導内容・留意点の欄には、この生徒の学習活動ごとに、教員が実際に指導するための手だて、すなわち、説明する・発問する・指名する・板書する・実験する・機器を使用する・考え

させる・調べさせる・助言する・実物や資料を提示する、などについて、できるだけ具体化して記入する。またそれぞれの活動に予定される所要時間（分）も配当しておく。

準備物等の欄には、本時の指導に当たって使用する必要な資料など準備すべきものを記入する。教科書、参考書、視聴覚教材、教育機器、見学すべき場所や事物、観察や実験・実習に必要な準備すべき備品、教具等を周到に予定しておく。

いうまでもなく、学習指導過程は教科によって同一ではない。同じ教科でも扱う教材によって変わる。教材の特性が学習指導過程を決定する一つの要因となっているので留意しなければならない。

オ 実習授業の評価と反省および助言

実地指導後に反省会がもたれるので、指導の実際の状況について記録し、また実際の指導が果たして効果的であったか、改善すべき問題点はなかったかなどを反省し、具体的に感想を書きとめておく。学習指導案と実際の授業との適合度を検討し、次の授業をさらに効果的にできるようフィードバックしていく。指導教員から受けた総評と指導助言の欄は、指導者の立場からみて、目標は達成されたか、時間配分は適切であったか、教具や資料の準備は適切であったか、能力差の配慮は適切であったか等について、また生徒の立場からみて、学習意欲・興味・関心はどうであったか、知識・技能・態度は身についたか等について指導教員から受けた批評・助言などを記入する。

カ 研究授業について

研究授業は実習生が行う公開の授業である。実習校の教員方、他の実習生の参観のもとに実施され、授業の後、研究会（反省・批評会）が催される。研究会では授業批評が主であり、非難の人間批評や感情的印象批評にならないよう心がける。

これによって、自分の教育方法を高める資料のひとつとなるので、実習生はメモをとり、自分の指導と比較対照して考えることが大切である。

(2) 実地指導

指導案がいくらよくできていても実際に授業をするには、特別な指導技法が必要である。

機会があれば積極的に、指導教員以外の教員の授業も参観させていただき、具体的な指導を受けることによって、はじめて指導技術の一端が得られるものである、ここでは、実地指導の一般的な要点を指摘しておく。

ア 姿勢

「森をみて木をみる。木をみて森をみる」ということばがある。教卓上の書物や黑板の方ばかりに視線がとまっていると、生徒の集中力がだんだんと拡散してしまう。生徒の中に入りこんでいこうとする気持ちが必要である。とくに、一人一人を最大限に生かし、落ちこぼしの生徒をつくらないという基本態度をつらぬくこと。

イ 発声

教室のすみずみまで声が達することが必要である。このためには、意識して普通よりも少し大きい声を出す方がよい。原則として方言を使わず共通語でわかりやすくゆっくり、ときには繰り返して話すこと。声の調子はやわらかく話しかけるようにする。早口や語尾が消えてしまうのはいけない。「…しなさい」「…してください」ではなく、「…しましょう」の表現法が好ましい。こうした声の出し方、話し方ひとつでも、生徒の学習意欲をかきたてたり、そこねたりするのであるから、各自十分に研究してもらいたい。

ウ 発問

学習指導というものは、生徒に教え、生徒自身に考えさせていくのであるから、いつ何を教え、どういう状態で何を考えさせるかという見通しをまずつける。そして、発問のタイミング

を考え、どのような内容の発問をどのような形で、また、どのような順序で誰にするかという計画を立てておく。生徒がどのような答えをするかも予想して、あらかじめ発問の仕方などを工夫しておくことも必要である。

- (ア) すぐれた発問の条件：(a)質問の意味が明瞭で、理解が容易なものであること。(b)精選された発問、つまり指導目標を達成するために不可欠で、しかも有効な発問をすること。(c)思考のステップを踏んだ発問であること。(d)発問と指名との間（ま）を適切にとること。
- (イ) 発問の種類：(a)すでに学習した内容について、記憶していることを確かめるための発問、(b)学習意欲を高めるための発問、(c)新しい教材に対する生徒たちの興味や関心、あるいは理解の程度をさくための発問、(d)新しい問題に取り組む意欲を起こさせるための発問、(e)問題点を分析する手がかりを与えるための発問、(f)各人の違った考えをまとめるための発問、などが考えられる。

なお、問題解決のための発問のときは、生徒たちの考えぬく過程を重視し、指導者は性急に答を言わせたり、正解を与えたりしない方がよい。また、ひとつの発問だけでは、ただちに解決できないことも多いので、あらかじめ、助言的な二段三段の発問を用意しておくことも必要である。

- (ウ) 発問時の配慮：指導者は、生徒の答えのうちでもとくに「つまずき」の答えを重視し、**正しさへの思考の発展に生かす**ことが大切である。生徒の発言を大事にして、それに依拠する授業の発展を考えることが、一人一人を生かす指導の要点である。「まちがった答」を言ってみんなに笑われるような教室の中では、学習の原動力である「やる気」は育たない。

とくに全員参加の学習を実現し、どの生徒にも学ぶことによる喜びをもたせ「生きがい」を感じさせるためには、一人一人の生徒をみつめて、「この生徒には」また「あの生徒には」どう質問するかという、きめ細かな配慮と用意が重要である。生徒のつぶやきやささやきの中にすばらしい発見をすることがある。

エ 板書

学習指導のために黒板に字を書くこと（板書）は、重要な問題点を順次浮かびあがらせ、それらの間に関係を与えていく。生徒の注意をひきつけるとともに、平板な授業にアクセントをつけ、さらに、主題についての分析的な思考をうながすのに役立つものである。板書は発問と連係して行われることが多い。発問の場合と同じように、いつ、どこに、何を書くかということ、あらかじめ計画（板書メモの作成）しておくことが必要である（**板書メモを作っておくのがよい**）。

※ 板書についての注意事項：

- 適当な量で急所をおさえた板書の工夫が大切である。
- 文字は、少し大きすぎると感じる程度の大きさで書くよう十分に気を配る。
- 文字は正確に記すること。濃い目に書くよう心がける。実習期間中には小さな辞書などを携帯しておくことが望ましい。筆順にも注意すること。
- 板書の完成時を予想して、書き始める位置に注意する。
- 色チョークを適当に使って、内容の区分を明確にするなどの工夫をする。
- 必要な表や図、フラッシュカードなどを作成し、黒板や展示板に掲げるなど工夫を凝らす。
- 大事な事項を最後まで残し、確認を強める。

オ 教具

教具を自分で工夫して作ることも大切である。教具として、地図、模型のようなものから、いろいろの器具や器械に至るまで使用することがある。これらの教具を使うときには、あらか

じめ指導教員の指示を受けて、許可を得ておかなければならない。

教具を使うときには、それぞれの内容をよく知っておいて、指導計画の中に、どのように組み入れるかを検討しておく。それとともに、取り扱い方をよく調べて、熟練しておくことが必要である。あらかじめ借用しておいて、教室で前もって練習しておくのがよい。借用した教具は、使用後は必ず整備して、すみやかに所定の場所に返却しておかなければならない。

カ ICTの活用

GIGAスクール構想を踏まえて、今ではほぼすべての小・中学校にタブレットやパソコンなどが1人1台端末環境として実現している。これからの授業は、このようなICT環境で、Society5.0時代を生きる子どもたちにふさわしい、すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びを実現することが求められている。

実習校ではそれを活用した授業を教科ごとにどのように展開しているかについて学ぶとともに、ICTを活用した授業を実践することが望ましい。その際、StuDX Style（スタディーエックスタイル）などの活用も考えられる。

キ 授業参観

授業の実地指導をするには、指導教員の授業や他の実習生の授業を努めて参観しておかなければならない。発問の仕方、指名の仕方、板書の仕方など、ときには指導者の立場に立ち、ときには生徒の立場に立ち、自分であればどうするかと自問してみよう。また、指導者と生徒の間でどのように相互の反応が進行していくか、そして、それによって教室内の空気がどのように活気をおびてくるか、様々な状況の変化に対応して指導者はどのように調和していくかなどを注視し観察の眼を休ませるはならない。

さらに、生徒同士が支え、助け、教え、励まし合う学級こそ学級活動の基盤であり、人間尊重の生き方を育てる場であることを観察していこう。

ク 授業の反省と相互討議

実地指導および授業参観を行ったのちには、必ず、指導教員の批評や指導助言を受けねばならない。そして、それらを詳細に記録しておき、教育実習記録の中に記入し、今後の教育実践に生かすことを忘れてはならない。

また、教員の指導のもとに、実習事項に関して実習生相互の間で討議することも大切である。討議を通じて創造的な意見が形成されてくるように、積極的に考えを出しあっていこう。

会心の授業は多年の経験を積んだ教員でもなかなかできないものであり、教育は限りなき道である。したがって、できないことに悩むのではなく、誠実に生徒に接し、授業に生きることに教育の真実があることを学んでほしい。

ケ 他の教育活動への参加

教員の教育活動は、各教科の指導だけではない。道徳教育や特別活動などいろいろな教育活動がある。これらは、それぞれ独自の意義と価値をもつものであり、生徒の全面的な発達と深く結びついている。実習生もこれらに参加することによって、教育活動の全領域を経験するとともに、教員のきわめて幅広い職務を学んでおかなければならない。

3 生徒指導の実際

生徒指導は、学校全体として取り組む重要な教育活動のひとつであり、明確な指導目標を定めて計画的・組織的に進めていくことが必要となっている。生徒指導はそれぞれの学校とこれを取りまく社会および生活環境の実態に即し、さらに、生徒一人一人の個性や特性ならびに発達の要求に即して行うべき極めて具体的で実際的な指導と援助の過程である。

教育実習においては実習生はそれぞれの実習校での生徒指導の目標や具体的な取り組みの実際につ

いて、校長や生徒指導担当教員から指導講話を受けるなどによって、基本的に理解し認識を深めよう。また、学級担任あるいはホームルーム担任からも直接に生徒指導の具体的なお話を伺い、指導上の留意点、工夫、方法・技術、関連事務などについて積極的に教えを受けよう。

以下では、生徒指導の意義、目的、内容、方法等について基本的な要点のみを述べておく。

(1) 生徒指導の意義と目的

生徒指導の本質は、「人間の尊厳という考え方に基づき、それぞれの内在的価値をもった個人の自己実現を助ける過程であり、人間性の最上の発達を目的とする」。

生徒指導が、学習指導と並んで学校本来の教育目標を達成するための重要な機能であることはいうまでもない。教員が個々の生徒の人間としての主体的な生き方に直接働きかけ、彼らの個性ある人格の形成を援助するのが生徒指導である。

現代社会の急激な発展・変動が進む過程で、様々に深刻な反社会的問題状況や教育病理現象が生まれ、青年期にある生徒の中に不安や悩み、あるいは不適応をもつ者も多い。それゆえ今日の学校は、このような状況に積極的に対応し、生徒の個人的・社会的生活適応を指導し、人間性豊かな心身ともに健全な発達を助成するための継続的な指導計画を進めていくことがますます重要となっている。

したがって、学校における生徒指導の意義は、不適応や暴力行為・いじめなど問題行動をとる生徒に対する対策といった消極的な面にあるのではなく、生徒の理解に基づき積極的にすべての生徒のそれぞれの人格のより良い発達を目指すとともに、生徒一人一人にとって学校生活全般にわたって有意義で充実したものとなるように、生徒が主体的に日常生活の場で最も適切な行動がとれ自ら判断して行動できるような自己理解、自己指導の能力や態度を育てることである。

(2) 生徒指導の内容

生徒指導は、教育課程の特定領域を指すものでなく、全教職員が学校教育のすべての分野において計画的・組織的に展開する教育機能である。したがって、以下のように生徒の登校から下校に至る学校生活全般に関連する諸活動に及んでいる。

- | | | |
|-------------|-----------------|--------------|
| ◦ 学習指導 | ◦ 個人的適応と問題行動の指導 | ◦ 食に関する指導 |
| ◦ 学級集団指導 | ◦ 進路指導（キャリア教育） | ◦ レクリエーション指導 |
| ◦ 道徳性・社会性指導 | ◦ 保健指導 | ◦ 校外生活の指導 |
| ◦ 人権教育 | ◦ 安全指導 | |

これらの指導に関しては、それぞれの指導の場で適切に行うべきものであることはいうまでもない。

ア 教科と生徒指導

教科指導は、各教科の知識や技術の内容を目標に沿って計画的・組織的に提供し、生徒の知的能力や、技術の習熟態度の育成を図るものである。この領域での生徒指導は、学習上の不適応に対する指導と、意欲的な楽しい学習指導をすすめる条件をつくり出すことを目的とする。

- (ア) 各教科の学習を直接に援助する指導：基本的な学習態度や学習習慣を形成する。学習の難易度を考慮し、生徒の個性や能力に応じた個別指導を工夫する。学習意欲や興味を高める。
- (イ) 学習集団をつくり、学級の生活条件を改善する指導：学習集団内の人間関係の改善をして楽しい学級の雰囲気をつくり、グループ編成によって助け合い学習ができるようにしたり、あるいは座席配置の工夫をすることによって学習意欲を促進する。
- (ウ) 学習活動の条件を整えることに関する指導：生徒の学習のための計画の立て方、図書館、資料室、器具や用具の利用法、学習教材の選び方と使い方などの指導。

イ 道徳と生徒指導

学校における道徳教育は、自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする教育活動であり、社会の変化に対応しその形成者として生きていくことができる人間を育成する上で重要な役割をもっている。また、それぞれ能力・適性、興味・関心、性格等の特性等は異なっていることにも意を用い、生徒の発達の段階を踏まえて行われなければならない。

生徒指導にあたっては、例えば、自他の個性や立場を尊重しようとする態度、義務を果たそうとする態度、よりよい人間関係を深めようとする態度、自分たちで約束をつくって守ろうとする態度、自己のよさや可能性を大切にして集団活動を行おうとする態度などの指導が展開されることが望ましい。

ウ 特別活動と生徒の指導

『学習指導要領』によると、「集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す」ことを目標としている。このような目的は、生徒指導の理念や意義と基本的に通じるものであり、特別活動が生徒の集団活動を土台にしていることからもとくに集団指導の場として、重要な役割をもつものである。

特別活動は、中学校では、学級活動、生徒会活動、学校行事から成り、高等学校ではホームルーム活動、生徒会活動、学校行事から成る。

したがって、部活動も含め、指導教員の指導のもとに積極的に活動に参加することが望まれる。

(3) 生徒指導の方法

生徒指導の具体的な方法としては、一般に個別指導と集団指導とがある。集団指導の場と方法は、特別活動や学級経営とも深く関連している。ここでは、主として学級経営との関係で、生徒指導の方法について述べておく。

ア 生徒の理解

生徒指導は個人が自己の成長発達の過程で主体的に問題を選択し、取り組み、解決するのを援助する過程である。したがってまず、生徒の個人的特性や生活環境条件の実態を正しく理解することが指導の基本的要件である。その場合、一人一人の生徒を、かけがえのない人間として尊重し、その個性的存在をあるがままに理解していく構えがなくてはならない。

また、できるだけ客観的で豊富な資料を整備しておく必要がある。それによって指導に際し、適切な情報を提供できるし、問題を早期に発見して予防処置もとることができる。一般的に必要な資料としては、次のものがある。

- (ア) 学力、出席状況、学習態度、学校生活への適応状況
- (イ) 性格、適性、行動、趣味、特技、将来の希望や進路
- (ウ) 健康状態
- (エ) 家族構成、教育的関心、地域環境
- (オ) 友人関係
- (カ) 生育歴

これらの資料を得る方法としては、(a)観察による方法、(b)検査や調査による方法、(c)作品物などによる方法、(d)面接による方法などがあるが、実習生としては日常的な生徒の観察が大切である。

観察による方法は生徒の言動を、偏見を加えずありのままに見極め考察する実証的方法であって、あらゆる生徒理解の基本となる方法である。観察して得た事柄を、学習指導、生徒指導、学

級経営の資料として活用する。観察は、生徒の心や行動の変化を継続的にとらえられるよう、計画的に進めていくことが大切であり、実習生は時間の許す限り、生徒の中に入ってコミュニケーションをとることに心がけるべきである。

イ 教育相談

教育相談は、生徒のもつ悩みや困難を共有し、考え、生活に適應させることなどを通じて、人格形成の援助を図ることを目的とする。教育相談の実際についての知識や方法を身につけることが生徒指導上大切であるが、実習生としては、まず、生徒の声、心を「聴く」という姿勢が大切である。

- ◎ いずれにしても、実習上で知り得た生徒に関する事柄は指導教員などに伝える以外は、「**守秘義務**」があることを自覚しておこう。

4 実習のおわりに

実習最終日には、最初と同様、実習生は全員職員室における職員朝礼に加わる。そこで校長はじめ全教職員に対し無事教育実習が終了したことに深く感謝し、十分誠意を尽くしてお礼のあいさつをする。次に全校朝礼に出席して、生徒たちにお礼とお別れのあいさつをする。これらのあいさつも、やはり、その場になってまごつかないようにあらかじめ用意しておく必要がある。事務室、管理員室の方々にもお礼のごあいさつを忘れないようにしよう。

教育実習終了後1週間以内に、大学の担当教員に実習終了の報告とお礼のごあいさつをする。そのときに「教育実習終了報告書」を提出し、事後のご指導・検印をいただく。この報告書は、担当教員の検印を受けた後、「実習記録」に綴じ込んで大学が指定する提出期日に学校教育センターに提出すること。

IV 教育実習の記録

教育実習生は教育実習記録を作成し、実習校に提出しなければならない。それぞれのねらいを、どの程度達成できたかを常に反省し評価できるように、具体的にできるだけ詳しく記録する必要がある。

本学所定の「**教育実習の記録**」(別冊)を実習生に配布する。教育実習記録のとり方、まとめ方を、記録用紙の種類に応じて説明する。

1 実習記録作成上の留意点

実習記録の内容を今後にも有用な具体的なものにするためには、まずノートなどを使用し、あとで整理しやすいよう日付や時間ごとに観察参加や実習した内容を詳細にメモにとっておき、このメモを活用するようにする。

次に、内容に応じてそれぞれ実習記録用紙に要領よくまとめる。その場合、記録の主題となるものを明確に設定し、具体的内容の要点をおさえてまとめ、そこからどんなことを理解し習得したかについても記録する。記録はすべてペンまたはボールペンを使用することを原則とするが、鉛筆の使用なども含め実際には実習校の指示に従うこと。

これらの記録は、学習や行動の記録であるとともに研究の記録である。努めて具体的に書くようにし、また、教育研究的な態度のうかがえる客観的・論理的な所感を書くよう心がける。実習記録の最後には、この実習をふり返り実習全般についてまとめとなる所感を書く。

なお、実習校から配布される印刷物などで記録と関係の深い資料や、他の実習生の指導案などもこの記録に貼付しておくことが望ましい。

実習記録は提出後に指導教員に読んでいただくことになる。実習生の実習に対する意欲や研究成果などを読みとっていただくものである。したがって、そのつもりで実習記録を作成するよう心がけたい。

2 教育実習記録の書き方

別冊の「教育実習の記録」に含まれている記録用紙に基づき、書き方について説明する。

- (1) 「表紙」：実習校名、所在地、実習期間、実習生氏名を所定の欄に正確に記入する。実習校名は、例えば、〇〇市立〇〇中学校のように書く。学校所在地については、郵便番号、電話番号を忘れないこと。
- (2) 「教育実習生プロフィール」：所定の欄に実習生各自の該当事項をもれなく正確に記入する。なお、所定の顔写真（制服を原則とする）を貼付する。
- (3) 「実習生出勤簿」：実習校名・期間・所属・氏名等を記入する。
- (4) 「教育実習成績通知票」：実習校名、実習生欄（学籍番号・所属・氏名・教科、わかっている配当学年学級）を記入する。
※(2)(3)(4)は、事前打合わせ時または実習初日に実習校に提出すること。
- (5) 「体調管理記録」：自身の体調管理を徹底するため、実習開始の1～2週間前から実習終了まで、毎日検温し、体調を記録すること。実習先からの指示に従い、この記録をもとに報告すること。
- (6) 「実習期間変更届」：実習開始後、実習期間が変更になった場合にのみ、必要事項を記入して実習校の証明印を受け、実習後1週間以内に学校教育センターに提出すること。
- (7) 「中・高教育実習事前報告書」：必要事項を記入し、実習に行くまでに大学の担当教員にあいさつに伺う際に提出すること。
- (8) 「中・高教育実習終了報告書」：必要事項を記入し、**実習終了後1週間以内に大学の担当教員に提出し、押印いただいた後**、実習記録に綴じ込んで大学が指定する提出期日に学校教育センターに提出すること。
- (9) 「実習校の現況」：実習の第1日には、校長・教頭・実習担当教員から学校経営の概要について講話を受けることが多い。『学校要覧』『教育指導の計画』などの印刷物の配布を受け、それに基づいて説明をされることもある。

実習生は、これらの講話や実習校のHPなどで、各教員のお名前や学校の規模、教育環境、教育目標と努力（指導）目標、経営方針、勤務時間等一日の流れその他について、まとめておくことが大切である。記入に当たって、自分の印象や感想を加えておくことが望ましい。

- (10) 「教育実習の予定・実施内容」：実習校で配布された実習実施日程表や行事予定表を参考にして実習期間中の実習校における行事予定と教育実習指導計画の日程などを記入し、実習生が各自の具体的な学習計画を自主的にすすめていくようにする。

「実習・行事予定」は、観察、参加、授業実習の予定を記入し、行事は学校行事および学級や学年の行事を記入する。（次ページ〈例〉(10)を参照）

- (11) 「実習配属学級の現況」：学年・学級名、生徒数、学級担任氏名を記入するほか、その学級の目標や、経営方針、学級の特色や生徒の様子、特徴などを記入する。これらについては、学級担任から指導講話を受けるとともに、自分の眼でよく学級ならびに生徒を観察し、理解した内容をまとめて記録する。とくに自分の感じ取った印象や、感想、気づいたことなどを加えておくことが望ましい。なお、クラスの生徒名や一人一人の特徴、座席表、教室経営の

(13) 「指導講話、授業・行事等の参加記録」

ア 実習生として、校長はじめ各教員の指導講話や学校経営・学級経営・研究資料なども大切な記録である。

講話については、主題・要旨・要点、自分の感想・意見も添えて記録を整理すること。

イ 指導教員の模範（指導）授業、学校の研修計画による研究授業に参加する場合は、観点をもって注意深く観察し、その記録をとること。

時間の流れにそって、①生徒の学習活動 ②教員の指導活動がどのように展開されているか ③指導上の留意点は何か ④どのような教材・教具・資料が準備され、工夫されているか ⑤発問・板書・指名の方法や工夫などの記録を整理すること。

また、自分が気づいた点をメモしておくことも大切である。これをもとに、授業の反省・批評会で自分の意見を積極的に述べるように努めること。

ウ 教育実習においては授業だけでなく、すべての学校教育の場にも積極的に参加し体験を通して観察することが重要である。

授業以外の教育諸活動および生徒の記録の場面として、具体的には次のようなものがある。

- (ア) 登下校時・朝の会や終わりの会・休憩時・給食時・清掃時・放課後など。
- (イ) 遠足・社会見学・集団宿泊、野外活動など、学校を離れて行われる教育活動。
- (ウ) 担任および各教員の指導による教材研究・指導案作成・生徒（生活）指導に関する助言など。
- (エ) 授業準備や教材製作・生徒成績物の点検評価など。
- (オ) 保健的行事・教材や教育機器の取り扱いなど。
- (カ) 運動会（体育会）・音楽会や作品展・文化祭・写生会・参観日など。
- (キ) 教室廊下等の掲示物やその活用状態、施設（教育環境）配置状況など。
- (ク) 生徒の行動事例にかかわる教員の場面指導。

各々の場面における生徒や教員の表情・動き・言葉づかいなどを注意深く観察し、記憶し、メモをとっておくことが実習の一つであり、今後の参考となる。

なお、この記録は教育上（教員は職務上）知り得た秘密に属することも含まれる場合が考えられるので、取り扱いには万全の配慮をする必要がある。生徒のみならず教員や保護者や学校経営上のことで知り得た秘密に属すると考えられることは、他に洩らさない（守秘義務）。

(14) 「学習指導案」：実習記録に収録している指導案の様式はひとつのひな形（サンプルなので、そのままコピーして使わない）であり、これにこだわることはない。学校では各々の様式があるので指導教員に確認して、とくに指示のない場合は独自の形式によればよい。修正作成のことも考えて、パソコン等で作成するのが有効である。なお、指導案は終了後に「授業の記録」に

〈例〉

(13)

指導講話、授業・行事等の参加記録										No.	天候	晴			
日時	平成	〇	年	△	月	□	日	〇	第	△	課	所	〇	〇	〇
・講話の主題 ・授業科目名 ・行事・諸活動名	〈国語〉・テスト解説 ・小論文読解力											指導者名	〇〇〇 先生		
記録内容	・講話内容 ・授業内容 ・生徒の学習活動等の状況											気づいたこと 留意点			
14:20～	出席の点検											・先生が指導が1分より 短いので、おまじりな 行動をとるおまじりな 分が少なかった。 (準備物あり)			
14:25	忘れ物チェック 机の上(赤ペンとテスト問題のみ) テスト配付 (準備物あり)														
	〈テスト解説〉 テストの仕組み 「これは極端に 大人にだけの特権、これは全くない。だから、 国語の勉強は、これは3人しかできない。 外からの評価、指導は新しい。自分の中で準備する。 自分の眼で見る。自分自身で決める。決めるから、 ・指導を徹底的に使う。語り聞か (節。言葉は1つだけ。説明は1つだけ。言葉は多く) ・書きの型(対人表現) ・キーワード											・このようにテストを 受ける。評価される ようにして、この課 は大人が影響を及ぼ す。テストは 受ける。先生が 受ける。先生が より意味のあること だと思つた。			
～15:00	「いろいろの教員 小論文」 ①どうして読むのかから読むか ・場面転換 ・心情(読者の人物) ②どうして読むのかから読むか (～20分) 行動											・先生がいろいろの 場面転換をやる!! ・今までのように 出しなから説明			
[行事や諸活動参加で指導助言を受けた事項]															
授業参観・勉強会等参加の意向を話し、おまじりなことをおまじりな															

貼付しておくこと。

- (15) **「授業の記録」**：実習生が実地授業や研究授業を行うに当たって、事前に十分検討し、まとめた教材研究と学習指導の展開計画を学習指導案として作成する。実習生は学習指導案を作成後、指導教員の校閲を受けて必要な修正を行う。

実地授業をした後は必ず反省、評価し、次の指導を改善できるように、自己の反省、生徒の感想、意見、指導教諭からの批評などを記録しておく。記録内容は、自分が行った実地授業について、これを「教材研究と学習指導案」および「指導の実際」の2点に分け、それぞれについて、指導教員や参観し出席された各教員からいただいたご講評やご指導ご助言ならびに自分自身の反省を整理し、具体的項目をあげて記入するようにする。余白のページは授業の形態・教材教具の位置など図解する場合に活用したり、資料等の貼付に活用する。

- (16) **「教育実習のまとめ」**：この記録は、教育実習のしめくくりとして、実習校での勤務、学習指導、生徒指導、生徒とのふれあい、その他、実習全般を通して習得したこと、反省や感想、その他について、項目をあげて記入する。とくに、これから教員を目指す者として教職の重要性や責任の重さについて、どのようなことを学び取ったか、どのような自覚が得られたか、今後この実習で得たものをどのように生かしていくか、課題は何かなどについても所見を述べておくことが望ましい。

最後に、実習でいろいろご指導いただいた校長をはじめ担当していただいた各教員に対する感謝のことばを忘れてはならない。

- (17) **「実習生への指導助言」**：実習の終わりに、ご指導くださった先生にメッセージをいただく。署名・捺印（個人印）は校長・指導教員とも願います。

3 実習記録の提出と成績評価

(1) 実習記録の提出

① 実習校への提出

実習記録はよく点検整理してまとめ、実習後の指定された期日までに各実習校の指導教員に提出しなければならない。実習終了後に実習記録を書き始めたのでは間に合わない。毎日、きわめて多忙であるにせよ、その日の記録はその日のうちに書き上げて指導教員に提出して検印をいただいておき、実習最終日には、最終日分と「教育実習のまとめ」を記入してすぐ提出できるのが理想。

② 学校教育センターへの提出

実習校へ提出した後、指定のあった日に受け取りに伺うこと。実習校が遠方などの理由で、受け取りに伺えない場合は、事情をお話ししてレターパックライト（郵便局で370円）にあて名（実習生の住所・氏名）を記入し、実習最終日に実習校の担当の先生に渡しておくこと。学校教育センターへの提出は、大学が指定した期日に遅れないよう注意すること。

(2) 教育実習の成績評価

実習記録は、実習校において校閲・指導を受けることになる。実習校では、実習記録の内容だけでなく、校長はじめ実習を指導された教員全員によって、出勤状況、勤務態度、実習態度、指導能力、人物その他について、実習生一人一人の総合的評価が行われる（50点）。

しかし、教育実習の単位の評価は、最終的には、大学が責任をもって履修単位を認定することになる。本学では、実習校から送付された「教育実習生成績通知票」を十分に尊重し、教育実習記録と併せて、総合的、客観的に評価を行う（50点）。なお、実習記録は、学校教育センターにおいて受理し、それぞれの学科の担当教員の点検を受けた後に、実習生に返却する。

なお、実習記録を実習校に提出すること、および受け取りに行くことに関して、公欠とはなら

ないので、留意すること。

4 「教職課程履修カルテ」の入力について

教職課程を履修する場合、卒業学年次に「教職実践演習」（2単位）が必修とされている。併せて、その履修履歴を確認し、教員としての資質・能力の修得状況を検証するため、「教職課程履修カルテ」を作成し活用することが、義務付けられている。

- (1) 「教職課程履修カルテ」のうち、学生本人が入力する「課題事項Ⅱ・Ⅲ」については、Ⅱは実習前に「教育実習に臨む決意や課題等」を、Ⅲは実習後に「教育実習の反省点や今後の抱負や課題等」を400字以内で速やかに入力すること。
- (2) 「教職課程履修カルテ」については、卒業学年次後期開講の「教職実習演習」初回授業日に、授業担当者に提出しなければならないので、カルテ作成に努めること。提出されたカルテについては、教職実践演習の成績評価に10点分配点されている。

【注】「教職課程履修カルテ」の詳細な作成方法については、すでに配布している『教職課程履修カルテ説明資料』を参照のこと。

おわりに

実習生の皆さんは、短い実習期間の間にも「先生」と呼ばれ、不安と期待と喜びが入り交じり、一日一日を夢中で実習校へ通ったことでしょう。はじめて体験することによって学ぶことの意義をしみじみと感じたことと思います。教育実習を通して教員の責任の重大さ、教えることの難しさや楽しさを学び取ったことでしょう。

板書を間違えたり、途中で言うことを忘れてたりして生徒たちの前で立ち往生し、二度とない一日を、失敗の連続で終わるようなこともあったかもしれません。また一方では、教員の仕事のやりがいや喜びも味わったことでしょう。生徒たちへの愛情も一段と深まり、生徒一人一人の顔が浮かんでくることでしょう。

しかし、短い実習期間を通して、教育について、果たしてどれだけの理解が得られたでしょうか。それに引き替え、この期間中、ご指導していただいた先生方は、教育の現場に身をおいて長い年月を苦勞されてきた方々ばかりです。豊かな識見、積み重ねて来られた多くの経験に対して、心からの敬意を忘れないでください。そしていつもと変わらない多忙な仕事の上に、さらに、実習指導という特別なご苦勞をおかけした先生方に対して、いつまでも感謝の気持ちを忘れてはなりません。先生方は実習生の皆さんが、立派な教員となり、いつの日にか同じ道を歩むようになることを強く願って、期待して指導されているのです。実習生はこの期待に応えるべく、先生方に続く一人の中学校・高等学校教員としての自覚と抱負をもって一層努力し、この教育実習で得た成果を実りのあるものにしてください。

実習が終わったらすぐに、懇切丁寧な指導をしてくださった担当の先生はもとより、校長先生、教頭先生、他の先生や職員の方々、励まし協力してくれた学級の生徒たちに礼状を書きましょう。

教員採用選考試験に挑戦し、その結果については、必ず教育学習でお世話になった先生方にお知らせしましょう。そして卒業後に、どの都道府県のどの地区であろうと実際に教壇に立ったとき、まず実習校の校長先生はじめ先生方に、その喜びをお伝えすることを忘れないでください。

令和4年4月1日 改訂

武庫川女子大学・武庫川女子大学短期大学部
学校教育センター

〒663-8558 西宮市池開町6-46
Tel 0798-31-0243

教育実習 前後にやるべきこと チェック表

実習前

	やるべきこと	✓
1	実習校と事前打合わせ【日時： 】 連絡がない場合は自分から電話	
	事前打ち合わせで確認する事項	
	実習期間、就業時間の確認（自転車通勤の許可が出るか、その場合駐輪場の場所なども）	
	実習中の服装・持ち物、教科書等の準備、配当学年クラス、担当の単元などの確認	
2	事前打合せ日に授業がある場合→科目担当教員に授業欠席連絡	
3	「教育実習生プロフィール」「実習生出勤簿」「教育実習成績通知票」準備 (必要事項は記入して実習校へ提出)	
4	実習校HPなどで、校則・決まり事、担当クラスの現状・生徒の状況等調べておく(事前打合せでも確認)	
5	通学定期（1か月以上前）の準備（学生部へ）	
6	大学「教育実習Ⅰ（中高）」「教育実習Ⅱ（中高）」(他学科聴講・高校のみ履修者は「教育実習Ⅱ（中高）」)、 短大「教育実習Ⅰ（中）」「教育実習Ⅱ（中）」が履修登録されているか確認	
7	「教職課程履修カルテ」の課題事項Ⅱ「教育実習を前にして」入力	
8	大学の担当教員へあいさつ（「中・高教育実習 事前報告書」を記入の上、持参）	

実習後

	やるべきこと	✓
1	実習校からの借用物（名札・教科書・ロッカーの鍵など）があれば返却	
2	実習校に実習記録提出（「中・高教育実習 終了報告書」は抜いておく）【日時： 】	
3	実習開始後に実習期間に変更があった場合→「実習期間変更届」の準備→学校教育センターへ	
4	大学の担当教員へあいさつ（「中・高教育実習 終了報告書」を記入の上、持参して検印を受ける）	
5	実習校へ実習記録受け取り【日時： 】	
7	実習校（校長・指導教員・生徒など）にお礼状送付	
8	「教職課程履修カルテ」の課題事項Ⅲ「教育実習を終えて」入力	
9	大学へ実習記録提出（「中・高教育実習 終了報告書」を綴じ込む）【日時： 】	
10	実習記録採点者より実習記録受け取り（他学科聴講・学部聴講・科目等履修は学校教育センターより）	
11	大学「教育実習Ⅰ（中高）」「教育実習Ⅱ（中高）」(他学科聴講・高校のみ履修者は「教育実習Ⅱ（中高）」)、 短大「教育実習Ⅰ（中）」「教育実習Ⅱ（中）」の成績確認	





教育実習成績通知票

中学・高校用

(武庫川女子大学)
(武庫川女子大学短期大学部)

実習校名		学校長氏名		⑩	指導教諭氏名		⑩					
実習生 学籍番号		実習生 所属		実習生氏名		実習教科	学年学級	段階合計点				
		学科 年 組 番										
評価項目	評価の着眼点						段階評点					
学 習 指 導	教材研究	○教科書や教材を十分に検討して、指導内容を正確に把握しているか。 ○教材と指導目標との関連、及び生徒の生活現実や発達段階との関連がよく研究されているか。						1	2	3	4	5
	学習指導の計画と準備	○学習指導案は綿密で、よく整理して立案されているか。 ○指導のねらいは明確で、しっかり把握されているか。 ○必要な教材・教具・資料を準備し、活用しようとしているか。						1	2	3	4	5
	学習指導の展開	○導入や展開のすすめ方は、活気があり、効果的であるか。 ○指導の方法や形態、板書に工夫がみられるか。 ○言語・音声・指導態度は好ましく、適切であるか。						1	2	3	4	5
	生徒の理解と配慮	○生徒を個人的にも、集団的にもしっかりとらえ、よく理解して指導しようとしているか。 ○また、生徒の心理状態や反応に即して、学習をすすめようとしているか。						1	2	3	4	5
学級経営	教科外活動の指導	○学級（ホームルーム）の諸行事・諸活動に積極的に参加しているか。 ○生徒をよく理解・把握し、適切に指導しているか。						1	2	3	4	5
	教室環境の整備	○教室内の整理や美化によく気を配っているか。 ○衛生面や安全面によく配慮しているか。 ○帳簿や記録物の保管・事務処理の能力があるか。						1	2	3	4	5
実習態度	勤務態度	○教育に対する熱意と課題意識をもち、常に工夫、改善しようとする研究的な姿勢がみられるか。						1	2	3	4	5
	実習意欲	○学校の規則や指導教諭の指示をよく守っているか。 ○自らすすんで、指導教諭の指導を求め、礼儀正しく協調的であるか。 ○教職に対する自覚を深め、積極的意欲的に責任感をもって、誠実に実行しているか。						1	2	3	4	5
	教育への意欲	○ものごとを謙虚に受けとめ、勤務態度は誠実、実直であるか。						1	2	3	4	5
	実習の記録と反省	○きちょうめんに実習記録をとり、よくまとめているか。 ○課題意識をもち、研究的姿勢がみられるか。 ○指導の評価・反省は適正で、常に謙虚に見つめているか。						1	2	3	4	5
出席状況	出席すべき日数	欠席日数		遅刻	人物所見（性格・態度についての特記事項）							
	日	病欠	日	回								
	出席した日数	その他		早退								
	日	計	日	回								

- 記載上の注意
- 1 評価の着眼点を参考にして各段階の該当点に○印をつけてください。
 - 2 各評価項目の段階評点の合計を出し、段階合計点欄にご記入ください。

定 年 に 関 す る 規 定

○ 武庫川学院職員就業規則（抜粋）

（定義）

第2条 この規則における職員とは、第2章に定める手続により学院に採用された専任の教育職員、事務職員及び技能労務職員をいう。

2 前項職員の資格は別表1に定めるとおりとし、任用、判定基準その他については別に定める。

（任命権者）

第4条 職員の任命その他人事に関する権限は、任命権者がこれを行う。

2 前項の任命権者は、理事長とする。

（定年）

第17条 職員は、次の年齢に達した年度の3月末日をもって定年退職となる。

(1) 教育職員(本条第2号の職員を除く)、事務職員及び技能労務職員 満66歳

(2) 附属幼稚園の教育職員 満60歳

2 附属幼稚園の教育職員については定年到達者が引き続き勤務を希望した場合、臨時職員、嘱託職員等の身分にて、原則として65歳に達した年度の3月末日まで継続雇用する。なお、当該雇用期間の身分については、職員個別に定める。

3 前項の定めにかかわらず、次のいずれかに該当した場合は継続雇用しない。

(1) 心身の故障のため業務に堪えられないと認められた場合

(2) 勤務状況が著しく不良で、引き続き職責を果たし得ないと認められた場合

(3) その他、就業規則に定める解雇事由又は退職事由(年齢に係るものを除く)に該当する場合

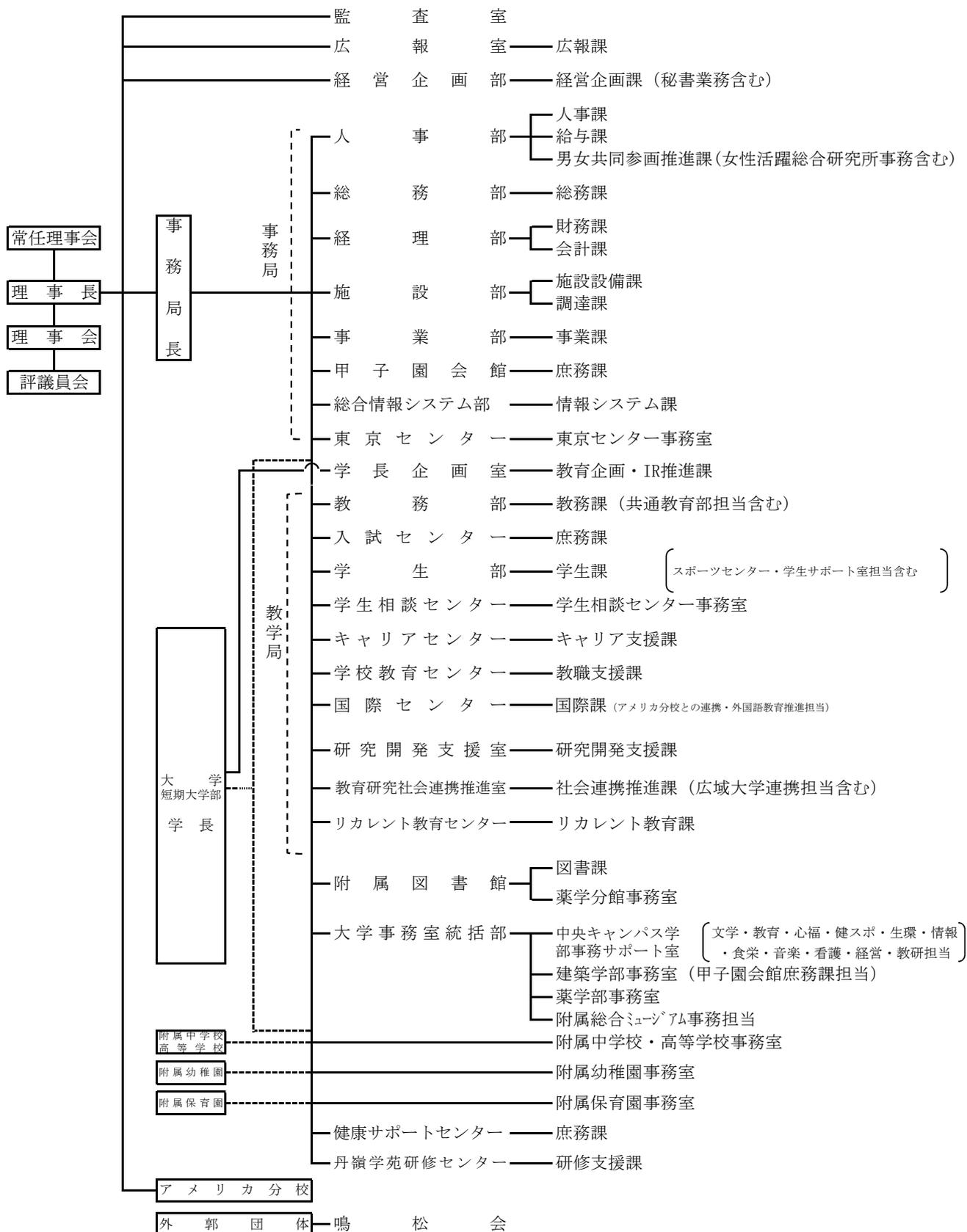
4 業務の都合により、特に任命権者が必要があると認めた者については、第1項の規定にかかわらず定年を延長することがある。

歴史文化学科 基礎・専門教育時間割

	月 曜 日	火 曜 日	水 曜 日	木 曜 日	金 曜 日	土 曜 日	
1 限	共通科目	初期演習Ⅰ 1前 加茂 L1-701	共通科目	地域社会論 1前 本井 L1-701	文化人類学概説 1後 武藤 L1-701	社会・地歴科指導法Ⅰ 3前 大山 L1-803	
		初期演習Ⅰ 1前 竹内 L1-702		Oral Communication 1前 C-803	中世の文化史 刀剣・武器 2前 古野 C-801	社会・地歴科指導法Ⅱ 3後 大山 L1-803	
		初期演習Ⅱ(歴史文化研究) 1後 加茂 L1-701		日本史資料概説 1前 竹内 L1-701	地域文化研究 1後 竹内 L1-805	中世史研究の方法と課題 3後 古野 C-705	教職実践演習 4後 本井 C-705
		初期演習Ⅱ(歴史文化研究) 1後 竹内 L1-702		意匠・デザインの基礎 2前 井上・加茂 C-604			
2 限	共通科目	情報リテラシー(歴史文化) 1前 井上 MM-301	共通科目	情報リテラシー(歴史文化) 1前 井上 MM-304	人文地理学 1前 松山 C-704	法律学 1前 大野 L1-701	
		歴史文化フィールドワーク基礎 1後 松山 C-805		文章表現法(歴史文化) 1後 井上 L1-801	自然地理学 1後 浅田 L1-701	経済学 1後 藤井 C-801	
		日本中世史料を読むⅠ 2前 古野 L1-804		食の文化誌 1前 武藤 L1-804	文章表現法(歴史文化) 1後 藪 L1-805	日本芸能文化史 2前 井上勝 C-804	日本思想史 1後 本井 L1-802
		日本中世史料を読むⅡ 2後 古野 C-705		江戸の風俗と絵画 1後 加茂 L1-801	日本近現代史料を読むⅠ 2前 本井 C-701	出版・メディアの文化史 2後 井上 L1-805	東洋史 3前 畑野 L1-705
3 限	共通科目 資格関連科目	映像メディア理論と実践 3前 武藤 MM-401	日本古代史料を読むⅠ 2前 竹内 C-801	日本近現代史料を読むⅡ 2後 本井 C-704	倫理学 3後 寺井 C-705	社会・地歴科指導法Ⅲ 4前 大山 C-803	
		信仰の民俗学 3後 武藤 C-704	日本古代史料を読むⅡ 2後 竹内 C-804	社会学 3前 西尾 C-801	地域政策論 4前 河野 C-801	社会・地歴科指導法Ⅳ 4後 大山 C-803	
		観光と行政 4前 松山 L1-802	地理と情報 3前 松山 MM-301	伝統工芸の保存と継承 3後 加茂 C-804	災害と歴史 4後 河野 L1-702		
			多文化共生論 4前 井上 C-705				
3 限	共通科目 資格関連科目	日本史概説 1前 古野 C-801	共通科目	日本美術史 1前 加茂 L1-802	観光文化論 1前 松山 L1-804	西洋史 3前 加来 C-801	
		歴史文化資料論 1後 古野 L1-805		文化・歴史研究と情報 1後 加茂 MM-406	言語と文字の史的変遷 1後 井上 C-801	近代の世界史 3後 武重 C-804	
		古記録と古文書 2後 井上 C-705		考古学概説 1前 藤本 L1-802	日本近世史料を読むⅠ 2前 河野 L1-705	地誌学 2後 松山 C-701	
		古代史研究の方法と課題 3前 竹内 L1-704		民俗資料を読む 1後 藤原 C-804	日本近世史料を読むⅡ 2後 河野 C-804	くらしと言語景観 3前 井上 L1-705	
4 限	共通科目 資格関連科目	古代中世の都市と交通 3後 竹内 C-804	地理学概説 2前 松山 L1-704	歴史文化とプレゼンテーション 3後 本井 C-604	演習Ⅰ 3通 武藤 C-901		
		演習Ⅱ 4通 武藤 C-909			演習Ⅰ 3通 河野 C-902		
		演習Ⅱ 4通 河野 C-901			演習Ⅰ 3通 竹内 C-908		
		演習Ⅱ 4通 加茂 C-910			演習Ⅰ 3通 本井 C-909		
4 限	共通科目 資格関連科目	文化と民族 1前 武藤 L1-702	共通科目	女性史概説 1前 河野 C-805	縄文・弥生の考古学 2前 武藤 L1-802		
		日本の祭礼 春夏秋冬 1後 武藤 C-804		古文書入門 1後 河野 C-701	古墳・中世の考古学 2後 武藤 L1-704		
		演習Ⅰ 3通 井上 C-903		日本の生活文化 2前 赤井 C-804	英語で読む日本 2前 樺沢 L1-804	演習Ⅱ 4通 本井 C-907	
		演習Ⅰ 3通 加茂 C-907		すまいの日本文化 2後 赤井 L1-705	歴史のなかの女性 2前 木村 C-801	演習Ⅱ 4通 松山 C-909	
5 限	資格関連科目	演習Ⅰ 3通 松山 C-902	キャリアとコミュニケーション 3前 柏木 C-802	装いの日本文化 2後 加茂 C-704	演習Ⅱ 4通 竹内 C-902		
		演習Ⅰ 3通 古野 C-909	地域の伝承 3後 藤原 L1-801	画像文化論 4後 木村 L1-702	演習Ⅱ 4通 井上 C-901		
					演習Ⅱ 4通 古野 C-910		

集中講義 地域文化フィールドワークⅠ 2年集中 竹内 地域文化フィールドワークⅡ 3年集中 竹内
 歴史文化フィールドワークⅠ 2年集中 古野・河野 歴史文化フィールドワークⅡ 3年集中 古野・河野
 歴史文化フィールドワークⅢ 2年集中 本井 歴史文化フィールドワークⅣ 3年集中 本井
 (卒業研究) 卒業論文 4年通年 武藤 古野 竹内 松山 河野 井上 加茂 本井

令和 5 年度 学校法人武庫川学院 事務組織図



○武庫川女子大学自己評価委員会規則

平成 3 年 11 月 1 日

規則第 1 号

改正 平成 6 年 10 月 1 日

平成 7 年 4 月 1 日

平成 19 年 4 月 1 日

平成 26 年 4 月 1 日

平成 29 年 4 月 1 日

令和 2 年 5 月 1 日

令和 3 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 武庫川女子大学学則第 4 条の規定に基づき、武庫川女子大学に自己評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(目的)

第 2 条 委員会は、教育研究水準の向上に資するため、武庫川女子大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備の状況について、全学的な自己点検及び自己評価（以下「自己点検・評価」という。）を行い、その結果を公表することを目的とする。

(委員会の組織)

第 3 条 委員会は、次にかかげる委員をもって組織し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 各学部長
- (4) 共通教育部長
- (5) 理事のうちから選任されたもの
- (6) 事務局長
- (7) 教学局長
- (8) 教学局次長
- (9) 教務部長
- (10) 入試センター長
- (11) 学生部長
- (12) キャリアセンター長

- (13) 教育研究所長
- (14) 大学事務室統括部長
- (15) その他学長が必要と認めたもの
(会議)

第4条 委員会に委員長を置き、学長をもって充てる。

- 2 委員会は、委員長が招集し、議長は副学長のうちから学長が指名する。
- 3 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
- 4 委員長が委員会に出席できない事情があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 自己点検・評価の基本方針の策定に関する事項
- (2) 自己点検・評価の実施、組織及び体制に関する事項
- (3) 自己点検・評価報告書の作成に関する事項
- (4) 自己点検・評価結果に基づく改善・改革の取り組みに関する事項
- (5) 自己点検・評価結果の公表に関する事項
- (6) 認証評価及びその他の第三者評価に関する事項
- (7) その他委員長が必要と認めた事項

(学部自己評価委員会)

第6条 各学部自己点検・評価を実施するために学部自己評価委員会を委員会の下に置く。

- 2 学部自己評価委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(共通教育部自己評価委員会)

第7条 共通教育部自己点検・評価を実施するために共通教育部自己評価委員会を委員会の下に置く。

- 2 共通教育部自己評価委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(自己点検・評価の実施方法)

第8条 第6条及び第7条に規定する各自己評価委員会は、毎年度末に、活動状況等を取りまとめて委員会に報告するものとする。

(委員の任期)

第9条 各委員会の委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

- 2 委員に欠員が生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となっ

た者の任期は、前任者の残任期間とする。

(規則の改廃)

第10条 この規則の改廃は、委員会の議を経て、学長がこれを行う。

(その他)

第11条 この規則に定めるもののほか、委員会について必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成3年11月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成6年10月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和2年5月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和3年4月1日から施行する。

○武庫川女子大学学部自己評価委員会規程

平成29年4月1日

規程第3号

(目的)

第1条 この規程は、武庫川女子大学自己評価委員会規則第6条の規定に基づき、各学部の自己点検及び自己評価（以下「自己点検・評価」という。）を実施する学部自己評価委員会（以下「委員会」という。）の運営に関し、必要な事項を定める。

(構成)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織し、学長が委嘱する。

- (1) 学部長
- (2) 学科長
- (3) 幹事教授
- (4) 事務長
- (5) その他委員長が必要と認めたもの

(会議)

第3条 委員会に委員長を置き、学部長をもって充てる。

- 2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- 3 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。
- 4 委員長が委員会に出席できない事情があるときは、委員長があらかじめ指名した委員が、その職務を代行する。

(自己点検・評価項目)

第4条 委員会は、次に掲げる項目について自己点検・評価を実施する。

- (1) 理念・目的に関する事項
- (2) 教育課程・学習成果に関する事項
- (3) 学生の受け入れに関する事項
- (4) 教員・教員組織に関する事項
- (5) その他自己点検・評価に必要な事項

(学科自己評価委員会)

第5条 複数の学科を有する学部の委員会に、学科単位の自己評価委員会を置くことができる。

- 2 学科自己評価委員会は、学部長の委嘱する委員若干名をもって組織し、会議は学科長が

招集して、その議長となる。

(任期)

第6条 委員会の委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(報告)

第7条 委員会は、毎年度末に、活動状況等を取りまとめて武庫川女子大学自己評価委員会に報告する。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、学部事務室がこれを担当する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、武庫川女子大学自己評価委員会の議を経て、学長が行う。

(その他)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

○武庫川女子大学FD推進委員会規程

平成20年1月1日

規程第1号

改正 平成23年4月1日

平成24年4月1日

平成26年4月1日

平成27年4月1日

平成29年4月1日

平成31年4月1日

令和2年4月1日

(目的)

第1条 武庫川女子大学の教育理念及び学部等の教育目標の実現を目指し、社会に役立つ有為な人材を育成するために、教員の資質向上や、主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善に資することを主たる目的とし、大学全体で組織的に教育水準の質的向上を推進するため、学長の下に、武庫川女子大学FD推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 文学部各学科から推薦された委員 各1名 計3名
- (2) 教育学部から推薦された委員 1名
- (3) 健康・スポーツ科学部から推薦された委員 1名
- (4) 生活環境学部各学科から推薦された委員 各1名 計2名
- (5) 食物栄養科学部から推薦された委員 1名
- (6) 建築学部から推薦された委員 1名
- (7) 音楽学部から推薦された委員 1名
- (8) 薬学部から推薦された委員 1名
- (9) 看護学部から推薦された委員 1名
- (10) 経営学部から推薦された委員 1名
- (11) 共通教育部から推薦された委員 1名
- (12) 教務部長
- (13) 学長が委嘱する委員 若干名

- 2 委員長及び副委員長をおく。委員長及び副委員長は、学長が指名する。
 - 3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。欠員を生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (審議事項)

第3条 委員会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 授業改善のための基本方針の策定に関する事項
- (2) 教員の研修会及び講習会の開催に関する事項
- (3) 教員の教授法及び教授活動の相互研鑽に関する事項
- (4) FD活動に関する情報の収集と提供に関する事項
- (5) 各学科の教員へのFD活動の啓発に関する事項
- (6) 教員の教授活動の支援に関する事項
- (7) その他、学長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項

(会議)

第4条 委員会は、原則として毎月1回会議を開く。

- 2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。
- 4 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、教育開発推進室教育開発・IR推進課が担当する。

(改廃)

第6条 この規程の改廃は、FD推進委員会の意見を聴いて、学長が決定する。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

- 1 この規程は、平成20年1月1日から施行する。
- 2 第2条第3項の規定にかかわらず、委員会設置当初の任期は平成20年1月1日から平成21年3月31日までとする。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

2023年度 新任教員研修プログラム / 武庫川学院 新任職員育成制度 Rising 3(2年目)

※ 新型コロナウイルス感染症等の状況によっては、プログラム内容が変わる可能性があります。

研修目的	<p>本学では、創立100年を迎える2039年に向けて「一生を描ききる女性力を。」をメインテーマとする「MUKOJO Vision 2019 →2039」と、行動指針として「MUKOJO Principles」を策定しました。教育面においては、学院創立時に定められた「立学の精神」を進化させ、自らの意志と行動力で可能性を拡げ、生涯を切り拓いていく人を社会へ送り出すための「新たな武庫女教育」の実現に向けた改革を進めています。</p> <p>また、18歳人口の急速な減少やグローバル化などを見据え、各大学においては「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」や「教学マネジメント指針」に代表される国の高等教育政策を正しく理解したうえで、学修者本位の教育の実現が求められています。</p> <p>本研修では、新規採用された教職員に対して、本学の教育理念及び大学教育を展開するための様々な知識・技能を共有すると共に、お互いの経験や大学教育に対する想いなどを繋ぎ合わせることで、個々の教職員の考えにより教育をより良いものにするを目的としています。さらに、未来の武庫川女子大学女子大学の姿を皆で考え、それぞれの専門領域や職務を超えた新しい教育の創発を目指しています。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 本学において取り組まれてきた教育改革・改善等を理解し、自身の教育活動や職務等に活用することができる。 2 授業の創意工夫を行うための基礎となる考え方や評価方法、集団におけるコミュニケーション能力を修得し、学生の能力を引き出すことができる。 3 教育の質向上のために教職員同士が切磋琢磨できる関係を築きあげ、大学全体の教育力の向上に繋げることができる。 4 研修で学んだ本学の取り組みに関する知識や授業運営に関する知識を活用して、自身の授業運営や業務の改善に役立てることができる。

15回のプログラムで構成されています。対象者を1班5名程度のグループに編成し、研修を展開します。

チーフコーディネータ：学長企画室長 北口 勝也

教室：文学部2号館5階 L2-51教室

実施日 (水曜2時間) 10:55～12:15		授業方法	ユニット	テーマ	内容	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	GW	研修担当者	備考	
1回 オリエンテーション	4月12日	対面	本学に関する 知識の定着	本学で共に働くにあたって 新たな時代の大学に求められる ものと本学の実情を知る (1)	学長・事務局長メッセージと本学の状況	○				○	学長 瀬口 和義 事務局長 瀧居 豊	新任職員研修 Rising 3 (2年目) 受講生 全15回分参加を予定	
2回目	4月19日	対面			本研修の目的とゴール、アイスブレイク				◎				○
3回目	4月26日	対面		国的高等教育政策の流れ、本学の教学の各種取り組み	◎						○		学長企画室長 北口 勝也 教学局長 橋本 光能
4回目	5月10日	ライブZoom	本学で共に働くにあたって 新たな時代の大学に求められる ものと本学の実情を知る (2)	大学教職員としての倫理観(教育、研究面)、キャンパスハラスメント	○		◎				副学長(教育担当) 山崎 彰 副学長(研究担当) 河合 優年		
5回目	5月17日	オンデマンド		多様な学生とのコミュニケーション	◎	○							学生サポート室専門員(教育学科) 准教授 宇野 里砂
6回目	5月24日	対面	資源のアーカイブ1 授業設計	3つのポリシーと教育課程(1)	体系的教育の理解(3つのポリシー・カリキュラムツリー・ナンバリング等)	○	◎				近畿大学1R・教育支援センター 准教授 竹中 喜一		
7回目	5月31日	オンデマンド		3つのポリシーと教育課程(2)	所属する組織の教育目標の理解とグループ内での問題意識の共有	○		◎		○	学長企画室長 北口 勝也		
8回目	6月7日	オンデマンド	資源のアーカイブ2 教育方法	授業デザイン	授業デザインとシラバス作成方法	○	◎				近畿大学1R・教育支援センター 准教授 竹中 喜一		
9回目	6月14日	対面		さまざまな授業方法	アクティブラーニングの技法① (アクティブラーニングの考え方と方法)		◎						京都橋大学経営学部経営学科 講師 西野 毅朗
10回目	6月21日	オンデマンド	資源のアーカイブ3 教育評価	授業における評価	アクティブラーニングの技法② (本学の対面や遠隔での実際の授業実践事例の紹介/参加者間の事例共有)	○	◎	○		○*	共通教育部 准教授 寺井 朋子		
11回目	6月28日	ライブZoom			さまざまな評価方法① (形成的評価・量的評価・質的評価・ポートフォリオ・ルーブリック)	○	◎						
12回目	7月5日	対面	資源のアーカイブ1～3 まとめ	授業設計、教育方法、教育評価 のまとめ	シラバスのブラッシュアップ (カリキュラムツリーとの整合性、目標の書き方、目標と評価のつながり、 授業の展開過程、その他事項の確認と修正)	○	○	◎	◎	○	学長企画室長 北口 勝也		
13回目	7月12日	対面	アーカイブの活用	これからの本学の教育について —研修での学びをもとに—	教学マネジメントにおける「新しい武庫女教育」の役割①	◎	○	◎	◎	○	学長企画室長 北口 勝也		
14回目	7月19日	対面			教学マネジメントにおける「新しい武庫女教育」の役割②	◎	○	◎	◎	○			学長企画室長 北口 勝也
15回目	7月26日	対面	研修のまとめ	研修内容の振り返り	意見交換、修了証授与	○	◎	◎		○	学長 瀬口 和義 副学長(教育担当) 山崎 彰 副学長(研究担当) 河合 優年 事務局長 瀧居 豊 学長企画室長 北口 勝也		

GW：グループワーク

○*の回はグループ構成を変更して実施

SD推進委員会規程

(目的)

第1条 学校法人武庫川学院の立学の精神のもと、社会に役立つ有為な人材を育成するために、事務職員（以下「職員」という。）の教育・研究に対する提案力と支援業務の対応能力の向上、および、法人・組織の管理運営に対する企画力と管理運営業務の対応能力の向上を推進するため、事務局長の下に、武庫川学院SD推進委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(構成)

第2条 委員会は、事務局長、教学局長、人事部長から推薦された委員10名程度で構成する。

2 委員長及び副委員長をおく。委員長及び副委員長は、事務局長が指名する。

3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。欠員を生じた場合は、これを補充しなければならない。補充によって委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。

(協議事項)

第3条 委員会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 本規程に掲げる目的達成に必要な人事諸施策の改革・改善に関する事項
- (2) 職員の研修会及び講習会の開催に関する事項
- (3) 職員の業務対応能力の相互研鑽に関する事項
- (4) SD活動に関する情報の収集と提供に関する事項
- (5) 事務局各部署の職員へのSD活動の啓発に関する事項
- (6) FD活動との連携・調整に関する事項
- (7) その他、事務局長の諮問する事項及び委員会が必要と認めた事項

(会議)

第4条 委員会は、原則として毎月1回以上会議を開く。

2 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、副委員長がその職務を行う。

4 委員長は、必要と認めた場合、委員以外の者を出席させることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、人事部が担当する。

(その他)

第6条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に関する必要な事項は、委員会の議を経て委員長が定める。

附 則

1 この規程は、平成27年7月1日から施行する。

2 第2条第3項の規定にかかわらず、委員会設置当初の任期は平成27年7月1日から平成29年3月31日までとする。

武庫川女子大学 文学部歴史文化学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

目 次

(1). 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
ア. 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析	……P.2
イ. 地域・社会的動向等の現状把握・分析	……P.3
ウ. 新設学科等の趣旨目的, 教育内容, 定員設定等	
①趣旨目的	……P.4
②教育内容	……P.4
③定員設定の理由	……P.4
④新設学科等の入学金, 授業料等の学生納付金の額と設定根拠	……P.5
エ. 学生確保の見通し	
A. 学生確保の見通しの調査結果	……P.5
B. 新設学部等の分野の動向	……P.7
C. 中長期的な 18 歳人口の全国的, 地域的動向等	……P.8
D. 競合校の状況	……P.9
E. 既設学部等の学生確保の状況	
①既設学部等の学生確保の状況	……P.10
②収容定員充足率が 0.7 倍未満の学科について	……P.11
オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	
①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	……P.11
②収容定員充足率が 0.7 倍未満の学科の学生確保について	……P.13
(2). 人材需要の動向等社会の要請	
①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)	……P.14
②上記①が社会的, 地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの 客観的な根拠	
ア. 社会的な人材需要	……P.15
イ. 既存学部・学科への求人状況と就職実績	……P.16
ウ. 他大学同系統学科の就職率	……P.17

(1). 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア. 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

文学部歴史文化学科を設置する武庫川女子大学（以下、本学と言う。）の現状把握・分析について説明する。

本学は、文学部、教育学部、心理・社会福祉学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、社会情報学部、食物栄養科学部、建築学部、音楽学部、薬学部、看護学部及び経営学部の12学部19学科を有している。令和5年度からは入学定員は2,380人、収容定員は10,200人と、我が国の国公私立女子大学の中で唯一、収容定員10,000人を超える総合大学へと発展を遂げている。過去5年間の大学全体の入学者数、定員充足率等は次のとおりである。

【武庫川女子大学の過去5年間の入学定員、入学者数、定員充足率等】

年度	入学定員 (人)	志願者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 超過率	収容定員 充足率
平成30年度	1,785	19,708	1,618	0.90	1.04
平成31年度	1,865	20,260	1,917	1.02	1.02
令和2年度	2,190	24,677	2,204	1.00	1.00
令和3年度	2,190	20,647	1,907	0.87	0.96
令和4年度	2,190	19,805	2,198	1.00	0.98

新学部・学科の設置に伴い、平成30年度からの5年間で大学全体の入学定員は400人以上増加したが、直近（令和4年度）の入学定員超過率は1.00倍、収容定員充足率は0.98倍と安定した学生数を確保し、定員管理を適切に行っている。また、延べ志願者数も毎年度2万人前後で安定している。

続いて、本学の全国的なポジションについて、旺文社教育情報センターが令和4年9月にとりまとめた「2022年 一般選抜 志願者数上位100校」に基づき分析する。同社が集計した全国548大学のうち、本学の志願者数は女子大全国2位、関西18位、総合76位と上位に位置している。

（旺文社 教育情報センター 入試情報（2022年9月30日）

URL:https://eic.obunsha.co.jp/pdf/exam_info/2022/0930_1.pdf より）

以上のように、本学は我が国の大学、特に女子大学において一定のポジションにあると自負しているが、後述するように18歳人口は減少の一途であり、令和15年頃には18歳人口は現在の110万人から約10万人減少し、100万人前後になることが予測されている。また、女子の共学志向が高まっており、本学の併願先となることが多い近畿圏の共学の大手総合大学においても女子学生数や女子学生比率は高く、本学の学生数を上回る1万人以上の女子学生が在籍している大学も5校存在している。

【令和4年度 関西主要大学の学生数、女子学生数】

大学名	学部学生数(人)	女子学生数(人)	女子学生の割合(%)
関西大学	27,852	11,593	41.6
関西学院大学	23,879	12,053	50.5
同志社大学	25,870	11,126	43.0
立命館大学	33,094	12,436	37.6
京都産業大学	15,124	5,209	34.4
近畿大学	34,159	11,035	32.2
甲南大学	8,667	3,631	41.9
龍谷大学	19,959	7,391	37.0
神戸学院大学	11,233	4,421	39.4

注) 令和4年5月1日現在の人数。各大学ホームページの情報公開ページで調査

以上のように女子大学にとっては“アゲンスト”な風が強く吹く状況にあり、兵庫県内においても共学化へと舵をきる女子大学が出てきている中、本学では学校法人武庫川学院が創立100周年を迎える令和21年に向けた将来構想「MUKOJO Vision2019→2039」を策定し、世の中に新しい価値を生み出すハブとなる大学へと進化すべく大学改革に取り組んでいる。

この度の文学部歴史文化学科の設置はその改革の一環である。予測困難な「VUCA時代」を生きる我々にとって先人の営みを知ることが自らの行為の帰着点(結果)を予測するヒントになるはずであり、歴史的知見・知識を学び、将来を豊かに生きるための知恵へと変換するのがこの学科の教育目的である。

イ. 地域・社会的動向等の現状把握・分析

本学では、既に存在するマーケットを奪いに行くだけでなく、女性活躍のニーズが見込まれる分野を開拓しながら学部・学科の新增設を進めてきた。この度、歴史文化学科の設置構想を検討するにあたり、地域的な動向から現状分析・把握を行った。

令和4年度に本学に在籍する学生の出身高校の所在地を確認したところ、兵庫県及び大阪府の割合が約80%にのぼった。次いで奈良県、京都府の高校出身者が多く、これら2府2県の占める割合が在籍者の85%以上を占めており、本学が学生確保の基盤としているのは、兵庫県、大阪府、奈良県、京都府であることが確認できた。文部科学省「令和3年度全国大学一覧」によると兵庫県、大阪府、奈良県、京都府の近畿2府2県には私立大学が113校ある。そのうち、歴史文化学科、歴史学科、日本史学科や史学科など歴史文化学科と同系統の学科を有する私立大学は兵庫県3校(関西学院大学、甲南大学、神戸女子大学)、大阪府2校(近畿大学、大阪大谷大学)、奈良県2校(天理大学、奈良大学)、京都府6校(大谷大学、京都先端科学大学、京都橘大学、佛教大学、京都女子大学、花園大学)のわずか13

校しか存在しない。これまで本学文学部には歴史系の学科が存在せず、大学で歴史について学びたい女子受験生にとって本学は志願の対象外であったと推察される。本学の歴史文化学科において他大学の歴史系学科と異なる独自性を訴求することで、学生の確保は可能であると分析している。

ウ. 新設学科等の趣旨目的, 教育内容, 定員設定等

①趣旨目的

文学部の教育内容は言語、思想、行動、心理、芸術、風俗習慣などの領域が一般的にそれに該当する。それらの事象を公正かつ多面的に把握するためには、共時的観点から比較・究明すると同時に通時的観点からの観察の蓄積が不可欠であり、すなわちそれは「歴史学的方法」である。本学文学部に設置する日本語日本文学科および英語グローバル学科のいずれにもそのふたつの観点は設定されているが、その場合の通時的観点は言語および言語芸術の史の変遷にほぼ限定されており、歴史事象の総体に考察を及ぼすことはなかった。そこで学的領域の不足を補い、文学部の整備拡充を図るべく、歴史系学科の設置を企画することにした。

②教育内容

文学部歴史文化学科の教育・研究の特色は次の4点にまとめられる。

- 1) 本学が立地する兵庫・阪神地区に研究・教育の基盤を置き、その特性を正確に把握するとともに、そこを起点として文化の普遍性を理解する。
- 2) 暮らしの視点と女性の立場に立って日本の歴史文化を観察する。
- 3) 歴史史料の精緻な読解を通して、偏りのないものの見方を確立する。
- 4) 「もの」「ひと」「ところ」に直に触れ、歴史・文化を実感する。

これを達成するため、教育課程は基礎的学習（座学）と実践的学習（フィールドワーク）をバランスよく組み合わせて展開する。特に本学が所在する兵庫県西宮市は、古代から近現代に至る歴史の重層する地域であり、大学周辺（尼崎市、宝塚市、神戸市、大阪市）にすでに教材としての史跡が豊富に点在するほか、阪神電鉄なんば線の開通により奈良北部とのアクセスが容易になったため、京都・姫路などを含む歴史遺産に身近に接することのできる環境にある。歴史文化学科を育む土壌は明確に整っており、本学科の教育・研究を通じて、地域に眠る新たな歴史文化遺産を発見し、それを地域の活性化に利用することも企図している。

③定員設定の理由

文学部歴史文化学科の定員は、既存学部・学科の入学志願状況、人口動態、大学進学率、分野別志願動向、近隣競合校の状況、受験対象者への進学需要調査、社会的人材需要などを総合的に踏まえ、定員充足が可能な人員として設定した。また、本学科の教育の特色である基礎的学習（座学）と実践的学習（フィールドワーク）をバランスよく組み合わせた教育課程の効果を最大限に発揮することが可能な人員として入学定員 80 人、収容定員 320 人に設

定した。

④新設学科等の入学金、授業料等の学生納付金の額と設定根拠

学部・学科等を新設する際、本学では大学の経営に係る財務的な視点と学生への還元等、受益者に対する説明責任の観点を重視しつつ、大学の将来の発展を目的とする施設・設備の充実を考慮するとともに、競合先となる近隣他大学の類似学部学科の状況を勘案したうえで、学生納付金を設定している。文学部歴史文化学科の初年度納入金（予定）は、以下のとおりである。

【文学部歴史文化学科の学納金（予定）】 (単位：円)

入学金	授業料	教育充実費等	諸会費等	初年度納入金
200,000	895,000	200,000	14,700	1,309,700

所在地や教育課程、既存学科の併願状況等データから競合校として想定している関西学院大学文学部文化歴史学科、神戸女子大学文学部史学科、京都女子大学文学部史学科、近畿大学文芸学部文化・歴史学科と比較した場合においても本学の納付金額は平均的な額であり、学生の経済的な負担の軽減を最優先に考慮して設定している。学生募集においても競争力をもった納付金額設定であると考えられる。

【想定競合校の学納金】 (単位：円)

大学・学部名	入学金	授業料	教育充実費等	諸会費等	初年度納入金
関西学院大学文学部 文化歴史学科	200,000	773,000	182,000	25,000	1,180,000
神戸女子大学文学部 史学科	250,000	850,000	200,000	35,000	1,335,000
京都女子大学文学部 史学科	250,000	780,000	250,000	10,000	1,290,000
近畿大学文芸学部 文化・歴史学科	250,000	1,085,000	20,000	6,500	1,361,500

注1) 本学以外の各大学の情報は、令和5年度入学生対象。

注2) 河合塾の大学入試情報サイト

Kei-Net (URL:<https://search.keinet.ne.jp/search/option/>)にて調査。

エ. 学生確保の見通し

A. 学生確保の見通しの調査結果

文学部歴史文化学科開設以降継続的な入学ニーズを把握するため、武庫川女子大学附属高等学校(女子校、兵庫県西宮市)及び本学と連携協定を締結している就実高等学校(共学校、岡山県岡山市)、育英西高等学校(女子校、奈良県奈良市)の1・2年生を対象に進学意向等に関するアンケート調査を実施した。この調査は令和4年6月から10月の間

に実施し、高校1年生674人、高校2年生574人から回答があった。調査にあたっては、歴史文化学科の目的、特色、養成する人材像、想定される進路、入学定員、初年度納付金等を明示した上で進学意向を確認した。

【進学意向アンケート調査の概要】

調査目的	武庫川女子大学文学部の学生確保の見通しを測定することを目的とする。
調査時期	令和4年6月～10月
調査対象	高校2年生及び高校1年生
調査方法	各高等学校に調査票を郵送により配付・回収
実施高校	武庫川女子大学附属高等学校（女子校、兵庫県）、 就実高等学校(共学校、岡山県)、育英西高等学校（女子校、奈良県）
実施人数	回答数1,248人（高校2年生574人、1年生674人。すべて女子）

【高校2年生（令和6年度大学入学予定）の結果】

文学部歴史文化学科開設予定の令和6年度に大学に入学する令和4年度高校2年生574人（内訳：武庫川女子大学附属高等学校2年生220人、就実高等学校2年生288人、育英西高等学校66人。すべて女子生徒。）のうち、95.1%にあたる546人が「進学を希望している」と回答した。さらに、「進学を希望している」546人のうち18人が本学歴史文化学科を「受験したい」、そのうち6人が合格した場合に「入学したい」という結果であった。

（令和6年度入学生）

学年	回答者数 (人)	進学を希望して いる(人)	歴史文化学科を 受験したい(人)	合格した場合 入学したい(人)
附属高校2年	220	215	4	4
就実高校2年	288	276	6	0
育英西高校2年	66	55	8	2
合計	574	546	18	6

【高校1年生（令和7年度大学入学予定）の結果】

開設2年目以降の入学ニーズを把握するため、高等学校1年生に対しても進学意向等に関するアンケート調査を実施した。令和7年度に大学入学する高校1年生674人（内訳：武庫川女子大学附属高等学校1年生234人、就実高等学校1年生367人、育英西高等学校73人。すべて女子生徒）のうち、94.2%にあたる635人が「進学を希望している」と回答した。さらに、「進学を希望している」635人のうち38人が本学歴史文化学科を「受験したい」、そのうち21人が合格した場合に「入学したい」という結果であった。

(令和7年度入学生)

学年	回答者数 (人)	進学を希望して いる(人)	歴史文化学科を 受験したい(人)	合格した場合 入学したい(人)
附属高校1年	234	224	16	16
就実高校1年	367	340	14	3
育英西高校1年	73	71	8	2
合計	674	635	38	21

歴史文化学科の基礎となる文学部日本語日本文化学科には毎年度、入学定員150人に対して全国約200高校(令和3年度226校、令和4年度212校、令和5年度191校)から志願者があることから、歴史文化学科についても相応の志願者数が見込まれ、80人の定員充足は十分に可能であると考えます。

【資料1：武庫川女子大学文学部歴史文化学科リーフレット】

【資料2：附属高校生アンケート調査用紙】

【資料3：連携高校向けアンケート調査用紙】

【資料4：高校2年生対象アンケート調査集計結果】

【資料5：高校1年生対象アンケート調査集計結果】

B. 新設学部等の分野の動向

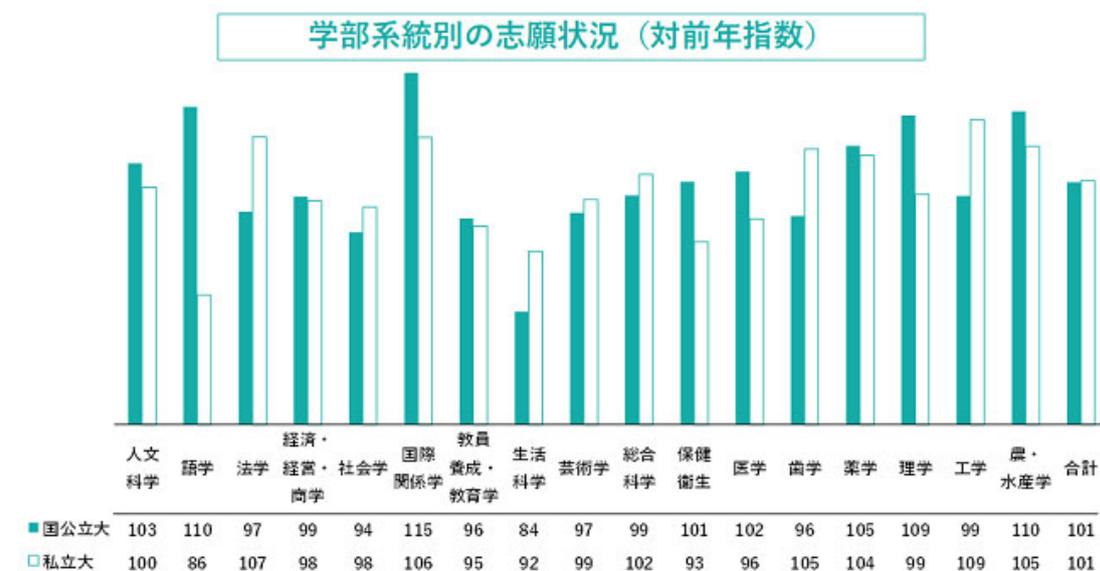
日本私立学校振興・共済事業団がとりまとめた『私立大学・短期大学等入学志願動向』の令和4年度版によると私立大学の「文学部」の志願者数等は以下のとおりである。

年度	文学部				
	学部数	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率(%)
平成30年度	85	33,925	337,616	35,632	105.03
平成31年度	84	33,146	340,040	34,561	104.27
令和2年度	83	32,703	318,865	33,471	102.35
令和3年度	83	32,768	271,768	32,676	99.72
令和4年度	84	32,856	270,070	33,262	101.24
平均	84	33,080	307,672	33,920	102.52

令和4年度時点で、私立大学には「文学部」は84学部あり、入学定員総合計32,856人となっている。32,856人の入学定員に対し、志願者数は270,070人と8.21倍の高い志願倍率を有している。入学定員充足率についても5か年平均で文学部は102.52%と、当該分野では安定した志願者数の確保と定員充足を達成していることが分かる。

また、株式会社進研アドの調査によると人文科学系統学部の令和4年度の志願状況の

対前年指数は国公立大学で 103、私立大学で 100 であった。コロナ禍で「文低理高」の傾向が強まり、経済・経営・商学や社会学、教育など他の文系学部が多くが前年度を下回っている中、安定した志願者を集めている。これらの状況から、文学部の根強い人気傾向が、全国的にうかがえる結果となった。



http://between.shinken-ad.co.jp/hu/assets_c/2022/07/2a44669ed820bdf43cb82522b2f56afa6fc50195-3956.html

C. 中長期的な 18 歳人口の全国的、地域的動向等

(全国的な動向)

文部科学省が「学校基本調査」や国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」を元に作成した資料「18 歳人口と高等教育機関への進学率等の推移」によると、平成 21～令和 2 年頃までほぼ横ばいで推移してきた 18 歳人口は、令和 3 年から再び減少局面に突入している。令和 15 年には約 100 万人、令和 22 年には約 88 万人まで減少することが予測されており、令和 5 年（約 110 万人）を基準とすると今後 10 年で約 10 万人が減少することとなる。

(地域的な動向)

株式会社リクルートの調査研究機関でありリクルート進学総研が、「学校基本調査」のデータを基に分析したレポート「18 歳人口推移、大学・短大・専門学校進学率、地元残留率の動向」によると、令和 3 年の近畿エリア 2 府 4 県の 18 歳人口は 190,286 人で、その中でも本学の設置圏域である大阪府は 79,549 人、兵庫県は 51,482 人と近畿全体の 7 割近くを占めている。今後の 18 歳人口の推移をみると、令和 6 年から 4 年間は、近畿エリア全体で 175,609 人⇒179,326 人⇒179,180 人⇒178,016 人とほぼ横ばいもしくは微増

となると予測されている。

また、令和3年の近畿エリア全体の女子18歳人口は92,527人であるが、令和6年から4年間は近畿エリア全体で85,428人⇒87,912人⇒87,577人⇒87,253人とほぼ横ばいもしくは微増傾向で推移し、その後、令和10年には85,510人、令和15年には80,110人へと減少することが予測されている。

以上のことから、長期的には18歳人口は減少するが、本学が立地する近畿エリアにおいては中期的な傾向として大学受験対象者数は横ばいであり、長期的にも全国的な18歳人口の減少よりも緩やかな割合で減少するためことが分かる。

(大学進学率、地元残留率)

令和4年度「学校基本調査」によると、大学学部の女子学生は、120万1千人で、前年度より4千5百人増加し、過去最多を記録した。また、学部学生に占める女子学生の割合も45.6%と過去最高を維持している。

近畿エリアの女子の大学進学率は平成24年で49.7%であったが、令和3年には57.2%と、7.5ポイントも上昇している。先の「リクルート進学総研」の調査によると、進学者数も平成24年の41,832人から令和3年には47,903人へと6,000人以上増加し、女子については大学進学者数が増加傾向にある。特に、本学の所在する兵庫県は60.2%（大学進学率全国3位）、大阪府は59.4%（同5位）と全国的にも大学進学者の多い地域であり、大学に進学した女子の地元残留率も平成3年現在で兵庫県54.4%、大阪府で54.5%と全国平均の47.4%を上回っている。

(リクルート進学総研マーケットレポート

https://souken.shingakunet.com/research/pdf/202205_souken_report.pdf)

以上のことから、18歳人口は全国的に漸減傾向にあるものの、大学入学対象者が激減することはないと予想される。特に女子の大学進学意欲は旺盛であり、本学の立地する兵庫県、隣接する大阪府は大学進学率、地元残留率ともに高い地域であることから中長期的に安定した志願者・入学者の確保を目指せるものと見込んでいる。

D. 競合校の状況

文学部歴史文化学科と同分野で、類似の教育内容を有する競合校として想定している関西学院大学文学部文化歴史学科、神戸女子大学文学部史学科、京都女子大学文学部史学科及び近畿大学文芸学部文化・歴史学科について、4大学がホームページで公表している入試方式の集計値による志願者状況を調査した。

【関西学院大学文学部 文化歴史学科】

年度	入学定員 (人)	志願者数 (人)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 超過率
令和4年度	275	1,872	不明	839	299	1.09

※一般入試、共通テスト入試、附属推進入試、指定校推薦入試、スポーツ課外活動入試、その他推薦入試、総合型入試、帰国生徒入試、社会人入試、外国人入試の合計

【京都女子大学文学部史学科】

年度	入学定員 (人)	志願者数 (人)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 超過率
令和4年度	130	633	619	424	151	1.16

※総合型選抜、公募型学校推薦選抜、一般選抜前期、大学入学共通テスト利用型選抜前期一般選抜後期、大学入学共通テスト利用型選抜後期

【神戸女子大学文学部史学科】

年度	入学定員 (人)	志願者数 (人)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 超過率
令和4年度	60	336	294	110	42	0.70

※教科・科目入試 A・B、英語外部検定試験利用入試総合型、自己アピール入試、公募制推薦入試、英語外部検定試験利用入試学校推薦型、一般入試前期 A、一般入試前期 B、英語外部検定試験利用入試前期、一般入試中期、英語外部検定試験利用入試中期、一般入試後期、英語外部検定試験利用入試後期、大学入学共通テスト利用入試前期・後期 A/B の合計

【近畿大学文芸学部文化・歴史学科】

年度	入学定員 (人)	志願者数 (人)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 超過率
令和4年度	140	3915	3592	832	145	1.03

※推薦入学試験一般公募、一般入学試験結果・前期A日程、一般入学試験結果・前期B日程、一般入学試験結果・後期、共通テスト利用方式・前期日程、共通テスト利用方式・中期日程、共通テスト利用方式・後期日程、共通テスト併用方式・A日程、共通テスト併用方式・B日程の合計

4大学の入学定員605人に対して延志願者数は6,756人、多くの志願者を集めている。また入学定員超過率の低い大学であっても、入学定員に対して5倍以上の志願者数を集めているため、受験生の同系統学部・学科に対する関心度は十分高いものと考えられる。

E. 既設学部等の学生確保の状況

①既設学部等の学生確保の状況

歴史文化学科を設置する文学部の志願者数は直近3年間の平均で約4,800人を維持している。また、歴史文化学科の設置の基礎となる日本語日本文学科の過去5年間の志願者数等は以下のとおり。毎年度平均して約1,500人の志願者を集め、入学定員超過率の平均は0.98、収容定員充足率は1.03と極めて安定した定員管理を実現している。歴史文化学科の教育内容は、設置の基礎となる日本語日本文学科の分野に近接していることから、志願倍率も同レベルを確保できると考えられ、十分に80人の入学定員を充足できると考えられる。

年度	文学部日本語日本文学科						
	入学定員 (人)	志願者数 (人)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 超過率	収容定員 充足率
平成 30 年度	150	1,504	1,335	310	131	0.87	1.07
平成 31 年度	150	1,352	1,163	487	164	1.09	1.06
令和 2 年度	150	1,820	1,576	510	160	1.06	1.04
令和 3 年度	150	1,357	1,169	460	134	0.89	0.98
令和 4 年度	150	1,217	987	506	147	0.98	1.02
平均	150	1,450	1,246	455	147	0.98	1.03

②収容定員充足率が 0.7 倍未満の学科について

令和 4 年度現在、音楽学部演奏学科の収容定員充足率が 0.7 倍未満となっている。演奏学科の過去 5 年の入学志願状況は次のとおり。

年度	音楽学部演奏学科						
	入学定員 (人)	志願者数 (人)	受験者数 (人)	合格者数 (人)	入学者数 (人)	入学定員 超過率	収容定員 充足率
平成 30 年度	30	109	83	59	19	0.63	0.80
平成 31 年度	30	73	58	48	20	0.66	0.75
令和 2 年度	30	60	48	44	24	0.80	0.76
令和 3 年度	30	71	52	44	13	0.43	0.63
令和 4 年度	30	67	49	44	16	0.53	0.60
平均	30	76	58	47	18	0.61	0.70

定員未充足の原因は、伝統的なクラシック音楽を学ぶ音楽大学・音楽学部への進学率の低下及び新型コロナウイルス感染拡大による影響と分析している。また、全国的にミュージカルやデジタル機器を駆使したオリジナル音楽を志向する傾向にあり、中学および高校のクラブ活動で音楽を続けた生徒はクラシック音楽を専門とする進学には直接的には結びつかず、進学者減少に拍車をかけている。コロナ禍の中、経済状況に好転の兆しがなく学校教育とは別の場での音楽教育が衰退し、演奏家を取り巻く環境改善の見通しが困難な中では、就職が難航すると予想される音楽学部を敬遠する傾向にあるものと分析している。

オ. 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

学生確保に向けた具体的な取り組みは、従来大学全体として行っている様々な取り組みに加え、学部学科独自の取り組みを通して、受験生をはじめ社会一般への認知度向上を図り、学生の確保につなげていく。当然ながら、設置届出前の段階での本学部の PR 活動及び学生

募集についてはルールを遵守し、入学希望者や社会一般に対して誤解や損害を与えることのないようにする。

(ア) 広報戦略

本学では、法人創立 80 周年を迎えた令和元年、創立 100 周年に向けた活性化プロジェクト「MUKOJO ACTION 2019→2039」をスタートさせた。「日本の女子大を、更新しよう。」をスローガンとし、「未来像」となるビジョンを策定、公表している。特設 Web サイトやポスター、大学案内等の各種広報媒体のビジュアルイメージを統一して大規模な広報戦略を展開し、女子総合大学としての本学の知名度向上に努めている。

(イ) 大学案内（キャンパスガイド）や学科紹介パンフレット等の印刷物の配布

大学案内（キャンパスガイド）は約 8 万部を作成、また学科紹介パンフレット、入試案内、募集要項を作成し、高校訪問、オープンキャンパス、高校教員向け説明会、保護者向け説明会、大学見学会、各地域での進学・入試相談会等において幅広く配布している。

(ウ) 高校訪問

本学の設置圏域である兵庫県、大阪府の高等学校を中心に、全国の高等学校（本学に志願実績のある高等学校等）を教職員が訪問し、高校生や進路担当教諭に対して直接本学の特色のある教育等について説明を行っている。訪問校の延べ数は、令和 2 年度は 26 府県 735 校、令和 3 年度は 30 都府県 839 校、令和 4 年度は 26 府県 848 校にのぼる。

(エ) 多様な入学選考（選抜）試験の実施

本学では、アドミッション・ポリシーに沿って、次のように多様な入試を実施している（令和 5 年度入試実績）。

- ・公募制推薦入試（前期）・公募制推薦入試（後期）・一般選抜 A ・一般選抜 B
- ・一般選抜 C ・一般選抜 D（大学入試共通テスト利用型）・演奏奨学生入試
- ・グローバル（英語重視型）入試 ・スポーツ推薦入試
- ・指定校推薦入試 ・附属高校推薦入試 ・社会人特別選抜 ・外国人留学生入試

また、遠隔地の受験生に対して利便性を図り、広く志願者を確保するため、公募制推薦入試及び一般選抜 A ・ B では全国 12 会場（東京、石川、愛知、京都、和歌山、鳥取、岡山、広島、香川、愛媛、福岡、沖縄）に学外試験場を設置している。

(オ) オープンキャンパス、各種説明会等

オープンキャンパスは夏期を中心に開催している。高校生、保護者、教員等を対象に入試概要の説明や、学科企画プログラム（学科説明・施設見学・体験授業）、予備校講師による入試対策講座、学科別の Q & A コーナーにて入試・就職・資格・奨学金・寮・下宿など学生生活全般にわたる個別相談等を実施している。令和 4 年度のオープンキャンパスは 6 月 18 日、7 月 9 日・10 日、8 月 11 日・12 日、9 月 25 日の 6 日間にわたって開催し、のべ 5,750 組 10,788 人の参加があった。また、3 月 25 日には、歴史文化学科の設置構想を高校生や父母等に周知するためのミニオープンキャンパスも開催した。令和 5 年

度についても同様の時期に開催を予定している。

受験生の大学見学については、常時受け付けられるようにしている。数人のグループや個人単位の訪問に対して、平日及び土曜日の午前中は入試センター職員が応対、また、入試センターが閉室となる土曜の午後や日祝日は、中央キャンパス内に設ける「受験生の部屋 Muko ナビルーム」にて、学生スタッフが大学の授業や学生生活の紹介、キャンパス見学の案内、入試に関する相談・質疑応答を行っている。

また、高校単位での受け入れ対応も行っている。その他、高校教員向けの説明会や保護者向け説明会、附属高校向け説明会を開催している。

(カ) ソーシャルメディア等による情報の提供

Facebook、Twitter、LINE 及び Instagram に本学の公式アカウントを開設し、ソーシャルメディアを利用した情報発信を積極的に実施している。学内施設や授業風景、学生の日常を動画配信等の情報発信を定期的に行い、本学で学ぶ具体的なイメージを掴めるように努めている。また、YouTube チャンネルを開設し、設置する全学科の紹介映像を作成、公開している。

(キ) 新聞・雑誌、駅・車内広告等

新聞や雑誌等のマスメディアでの広告やインターネット広告、駅・電車内の交通広告を出稿し、受験生はもちろんのこと広く社会で知名度が向上するよう努めている。また、出版社、新聞社、予備校等が発行する受験情報誌等の媒体に積極的に情報掲載を行い、具体的な学修内容や大学生活の様子、受験情報等を提供している。

②収容定員充足率が 0.7 倍未満の学科の学生確保について

音楽学部演奏学科は令和 2 年度から、専門に学ぶ管楽器の楽器種を 5 種類増やし、吹奏楽に打ち込んでいる高校生の関心を引くよう試みた結果、令和 2 年度の管弦楽器入学者は 3 人、令和 3 年度 4 人、令和 4 年度 5 人とわずかではあるが着実に増加傾向にある。

志願者を増やす対策として、令和 4 年度各入試制度において大幅な見直しを行い、受験科目・内容の工夫と演奏奨学生入試における専願制を廃止した。令和 5 年度入試からは秋に加え、国公立大学入試直前の 2 月にも演奏奨学生入試を行った。

情報発信の点からは令和 3 年度はホームページにおいて授業紹介動画や主催コンサートの動画を多数公開するとともに Instagram も開設した。今後も高校生に本学部の良さが伝わるよう情報提供を続けていく。募集活動に欠かせない学部パンフレットはリニューアルし、学生や卒業生の様子を多数掲載する。また、教員が積極的に高校訪問を行い、今後も音楽担当教諭への面談を続け、希望があれば音楽学部教員による特別レッスンやクラブ指導を行うなど良好な関係構築を進めていく。

(2). 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

歴史文化学科の養成する人材像及び教育研究上の目的は以下の通りである。

<養成する人材像>

現代日本の社会が歴史的に形成されてきたことを理解した上で、多元的な歴史認識に立って未来社会を創造する有為な女性を育成する。

<教育研究上の目的>

科学的エビデンスに立脚し、事象を批判的に検証する過程で、的確な課題発見力と高度な論理的・客観的表現力を養うことを目的とする。

<ディプロマ・ポリシー>

1 知識・理解

1-1：日本史および隣接領域（日本地理学、民俗学、人類学、考古学、文化史等）に関する基礎的・専門的知識を修得している。

1-2：日本の歴史および日本の文化を体系的に理解し、他国の歴史・文化との関連性を正しく認識している。

1-3：本学が所在する阪神間とその周辺地域に根付いた歴史・文化を深く理解している。

1-4：女性の歴史的・文化的な役割や機能を理解し、女性として未来を作り上げる基盤となる歴史的意識・態度を体得している。

2 技能・表現

2-1：日本史および隣接領域の特性を深く理解し、自らの思考を他者に適切に発信する能力を備えている。

2-2：史・資料を正確に読解し、それを分析的かつ客観的に評価するための能力を備えている。

2-3：情報機器等の扱いの取り扱いを通じてその重要性を理解し、それを活用するための技能と豊かな表現力を身につけている。

3 思考・判断

3-1：日本史および隣接領域に関して身につけた専門的知識をもとに、批判的に考察する能力を備えている。

3-2：論理的思考力を身につけ、自ら課題を発見して、解決に導く能力を備えている。

4 態度・志向性

4-1：日常生活のなかで大学における学修の価値を認識し、常に学問的な態度を保っている。

4-2：広範で体系的な知識と、豊かな感性、および知的好奇心を備えながら、高い倫理観に基づいて自らの専門領域を探究しようとする強い意欲と意思を持っている。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠
ア. 社会的な人材需要

日本の大手企業を中心に構成された経済団体「一般社団法人日本経済団体連合会」（経団連）が平成 30 年 12 月に発表した「今後の採用と大学教育に関する提案」では、大学に期待する教育改革として、「文系・理系の枠を越えた基礎的リテラシー教育」の重要性が提言されている。 https://www.keidanren.or.jp/policy/2018/113_honbun.html

その中で【多様な価値観が融合する Society 5.0 時代の人材には、リベラルアーツといわれ、倫理・哲学や文学、歴史などの幅広い教養や、文系・理系を問わず、文章や情報を正確に読み解く力、外部に対し自らの考えや意思を的確に表現し、論理的に説明する力が求められる。】とされており、歴史文化学科の教育課程はこれに合致したものと言える。

具体的には、日本史および隣接領域（日本地理学、民俗学、人類学、考古学、文化史等）についての「幅広い教養」を身に付けるとともに、史・資料を正確に読解し ICT 機器等を利用してそれを表現する「表現力」、論理的思考力を身につけ、自ら課題を発見して、解決に導く能力をディプロマ・ポリシーに掲げる歴史文化学科の学びは産業界からの要請に沿ったものであると言える。

平成 28 年 12 月 21 日の中央教育審議会において、学習指導要領について答申が出され、地理歴史科の科目構成を見直し、共通必修科目として「歴史総合」、「地理総合」が設置され、選択履修科目として「日本史探究」、「世界史探求」及び「地理探求」が設置された。この新学習指導要領は令和 4 年度より実施されている。新学習指導要領においては「歴史総合」の目標について、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とするとしている。近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と其中的の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにすると明記されている。「歴史総合」では、多面的・多角的な考察を通じて、世界と其中における日本を広く相互的な視点から捉えることが求められており、①自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、②持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度、この 2 点を「歴史総合」で育てたい力としている。

これらを踏まえて歴史文化学科を設置することは、社会的な要請に合致したものである。

イ. 既存学部・学科への求人状況と就職実績

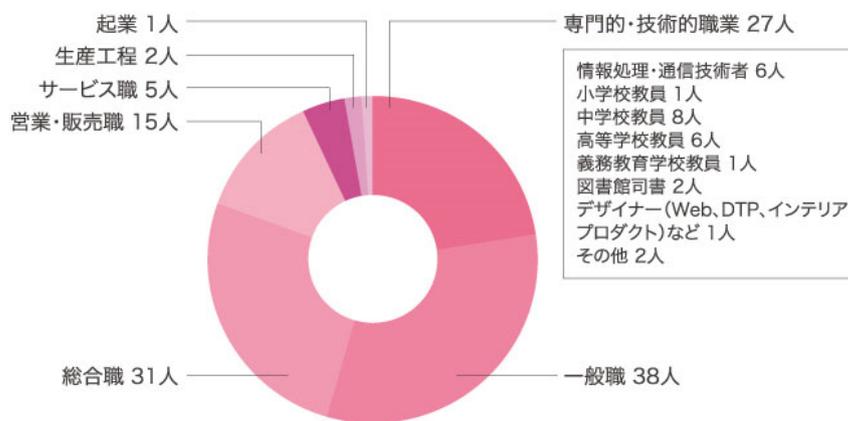
文学部歴史文化学科の届出の基礎となる既設の文学部日本語日本文学科の最近5年間の就職実績は下表の通り 96.0%~99.4%と、100%近い値が継続している。

年度	卒業者数 (人)	就職 希望者数(人)	就職者数 (人)	就職率(%)
平成 29 年度	187	177	175	98.9
平成 30 年度	195	185	183	98.9
平成 31 年度	184	167	166	99.4
令和 2 年度	197	174	169	97.1
令和 3 年度	146	124	119	96.0

注) 令和4年度卒業生分については集計中。令和5年6月頃集計完了予定。

また、文学部日本語日本文学科の令和3年度卒業生の主な就職先は以下のとおりで、卸・小売行やサービス業、情報通信業、学校教員など幅広い分野へ就職していることから、社会的な人材ニーズに対応できていると考えられる。

<主職種別就職状況>



就職率 96.0% = $\frac{119 \text{人(就職者数)}}{124 \text{人(就職希望者数)}}$

<主な就職先>

尼崎信用金庫、イオンリテール、大阪シティ信用金庫、香川銀行、キデイランド、共栄火災海上保険、クツワ、コスモス薬品、サンワテクノス、システナ、生活協同組合コープこうべ、総合警備保障、タペストリー・ジャパン、タリーズコーヒージャパン、ツクイ、鶴屋吉信、南都銀行、ニチイ学館、ネクステージ、ヒューマンホールディングス、富士ソフト、ブ

ルボン、丸二倉庫、明治安田生命保険、やまや、ルートイングループ、レイス、公立学校教員（京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県、島根県、横浜市、神戸市、北九州市、福岡市）、公務員（大阪市、岸和田市、豊中市、八尾市、加古川市、宍粟市） など

ウ. 他大学同系統学科の就職率

文学部歴史文化学科の社会的需要を確認するため、想定競合校の令和 3 年度卒業生の就職率等について各大学ホームページ及び大学案内を用いて調査した。

【想定競合校の令和 3 年度卒業生の就職率等】

大学・学部名	卒業者数 (人)	就職希望者 (人)	就職決定者 (人)	就職率 (%) ※1	就職先業種 (%) ※2
関西学院大学文学部 文化歴史学科	260	199	197	99.0	教育・公益・その他のサービス業 (23.8)、 製造業 (13.0)、 金融業・保険業 (13.0)
神戸女子大学文学部 史学科	77	64	59	92.2	卸売・小売 (28.8)、 サービス業 (25.4)、 運輸・通信 (15.3)
京都女子大学文学部 史学科	121	96	92	95.8	卸・小売 (15.2)、 サービス業 (14.1)、 教育・学習支援業 (12.0)
近畿大学文芸学部 文化・歴史学科	131	—	106	84.8	卸・小売 (21.8)、 サービス業 (18.8)、 医療・教育 (9.2)

※1 就職率は就職決定者／就職希望者。なお、近畿大学については、就職希望者数が確認できないため就職率は就職者数/卒業者数で算出。

※2 関西学院大学及び近畿大学は、学部全体での割合。

各大学とも高い就職率を有しており、また、幅広い分野へ就職していることから、社会的な人材ニーズは高いと考えられる。

資料目次

資料1：武庫川女子大学文学部歴史文化学科リーフレット

資料2：附属高校生アンケート調査用紙

資料3：連携高校向けアンケート調査用紙

資料4：高校2年生対象アンケート調査集計結果

資料5：高校1年生対象アンケート調査集計結果

文学部 歴史文化学科〈仮称〉設置概要

学科名	歴史文化学科〈仮称〉	開設場所	中央キャンパス(兵庫県西宮市)
理念	歴史文化学科は、日本史学およびその隣接領域を深く学ぶことで日本の文化の本質を理解し、そこで得た高度な知識と豊かな感性を駆使しながら、新たな文化的価値を創造して地域社会・未来社会に貢献できる人材を育成します。	初年度納付金	1,295,000円
		類似学部・学科	関西学院大学文学部 文化歴史学科 甲南大学文学部 歴史文化学科 神戸女子大学文学部 史学科 京都女子大学文学部 史学科 近畿大学文芸学部 文化・歴史学科
入学定員	80名	初年度納付金(参考)	1,110,000円～1,355,000円
修業年限	4年	◎出典:2022年3月各大学WEBサイトより 詳しくは各大学にお問い合わせください。	
開設時期	2024年4月予定		
学位	学士(歴史文化学)		

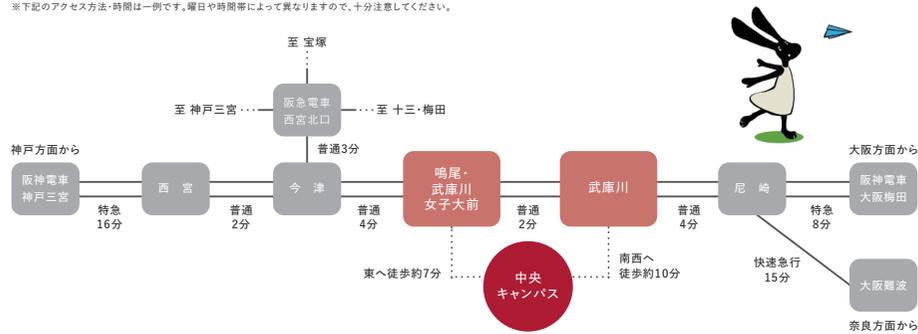
※初年度納付金には、入学金、授業料、教育充実費を含みます。(2024年度入学者対象) ※2022年3月時点での学費を参考にした金額であり、変更になる可能性があります。

ACCESS

武庫川女子大学中央キャンパスへは、阪神電車のご利用が便利です。

阪急電車ご利用の場合は、阪急西宮北口にて今津線にお乗り換えのうえ今津駅より阪神電車をご利用ください。

※下記のアクセス方法・時間は一例です。曜日や時間帯によって異なりますので、十分注意してください。



武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

中央キャンパス	文学部、心理・社会福祉学部、教育学部、健康・スポーツ科学部、生活環境学部、社会情報学部、食物栄養科学部、音楽学部、看護学部、経営学部、短期大学部、大学院、専攻科
浜甲子園キャンパス	薬学部、大学院
上甲子園キャンパス	建築学部、大学院

※2023年開設予定

●お問い合わせ

入試センター

〒663-8558 兵庫県西宮市池開町6-46 TEL.0798-45-3500 FAX.0798-45-3563
 テレフォンサービス(24時間) 入試情報 TEL.0798-45-8888 <https://www.mukogawa-u.ac.jp/>

表紙出典
 上:「異物侵入証文」(本学教員所蔵)
 左:平城京本跡 奈良文化財研究所蔵 ColBase(<https://colbase.nich.go.jp/>)より
 右下:火焔型土器 東京国立博物館蔵 ColBaseより
 右上:馬形埴輪 九州国立博物館蔵 ColBaseより

MUKOGAWA WOMEN'S UNIVERSITY

文学部
歴史文化学科
〈仮称〉誕生

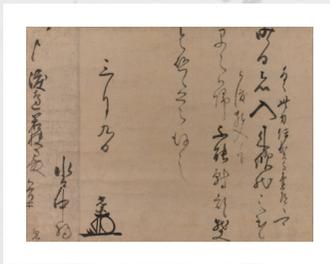
2024年
(令和六年)
設置構想中

UNIVERSITY

武庫川女子大学
Mukogawa Women's University

歴史を学ぶ意義・おもしろさ

歴史学は、人間の営みによって生み出された精神的・物質的な産物の総体である文化を、時の流れに位置づけて総合的かつ有機的に探求・理解し、未来に繋がる価値観を創造する学問です。政治や社会、経済、人物に限らず、風俗や習慣、日常生活に至るまでの人間のあらゆる活動が研究対象となるため、その対象は無限といえます。この無限の研究対象に向かって、従来の枠組みや常識的見解にとらわれることなく、あらゆることに興味や関心を持つことで、自分自身、および社会の将来を描き出します。ひとは過去から学ぶことでしか、現在を作り出し、未来を構築することができないからです。歴史の「研究」は、人間の活動の痕跡である「史料(資料)」を丹念に読み解きつつ、これまで蓄積された膨大な知見を批判的に検討することで、新たな見解を論理的に追求・展開する営みです。そこには「学問」の厳しさとともに、新たな「発見」にたどりつく喜びも期待できます。



書状 徳川光圀筆 東京国立博物館蔵、ColBaseより

未来を描き、新たな価値を創造するための知識やスキルを身につけ、**社会の本質を見抜く力**を体得する。
歴史を学ぶ意義や目的、おもしろさはここにあります。

〈歴史文化学科の学び〉

史実と向き合い
調査研究により
ゼミの学びから
〈歴史〉を知る

〈身に付くチカラ〉

- 柔軟で偏りのないものの見方を育む
- 情報の取捨選択に対する感度を磨く
- とことん追求する姿勢を身につける
- 時代を読んで新たな価値を創出する

〈発揮する領域〉

- 管理 運営
- 開発 企画
- 広報 渉外

取得できる資格・免許(予定)

- 中学校教諭一種免許状(社会)
- 高等学校教諭一種免許状(地歴)
- 博物館学芸員
- 図書館司書
- 学校図書館司書教諭

想定される進路

- 中学・高等学校教員 ●公務員(一般職)
- 博物館学芸員 ●図書館司書
- 一般企業
(教育、広告、サービス、観光、情報など)
- 大学院進学

身近な歴史と文化、知る、学ぶ、活かす!



記載の内容は構想中のものであり、変更される場合があります。

PICK UP
こんな授業があるよ!

歴史文化フィールドワーク
阪神間の歴史と文化をみんなで探る。身近な土地にこんな歴史があるよ!

食の文化史
「和食」には長い歴史があります。醤油の起源は? 米はどうやって食べた?

出版・メディアの文化史
紙を発明した人はすごい! 出版業の起源と発達をたどってみよう。

古文書入門
墨で書かれた難解な文字を解説してゆくと、そこには驚くべき事実!

装いの日本文化
ファッションに関心を抱くのは今も昔も同じ。平安時代の服装ってどんなの?

江戸の風俗と絵画
浮世絵は江戸時代庶民の風俗をみごとに描き出しています。

縄文・弥生の考古学
古代人はどんな生活をしていただろう? 遺跡や出土遺物から探ってみよう。

文化財の活用と保存
正倉院は1300年前の文化財を今に伝えています。そこにどんな苦労が?

中世の文化史 刀剣・武器
戦国武将が合戦で使った刀や甲冑について、くわしく解説しましょう。

武庫川女子大学 文学部
 歴史文化学科（仮称・設置構想中）
 英語グローバル学科（入学定員増）
 （英語文化専攻／グローバル・コミュニケーション専攻の設置）

附属高校生アンケート調査

（対象：2022年度現在、附属高等学校の生徒の皆さん）

武庫川女子大学（兵庫県西宮市池開町 6-46）は 2024（令和 6）年度、文学部に「歴史文化学科（仮称）」を設置構想中です。また、「英語グローバル学科」（現「英語文化学科」。2023 年度から名称変更）の入学定員増を行うとともに「英語文化専攻（仮称）」「グローバル・コミュニケーション専攻（仮称）」を設ける予定です。本学ではこのアンケート調査を通して、武庫川女子大学附属中学校・高等学校に在学する皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたくと考えています。回答いただいた皆さんから得られた情報は武庫川女子大学文学部の入学定員増および学科設置の構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。

アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。



- ・上の記入例を参考に、黒鉛筆またはシャープペンでご回答ください。
- ・誤って記入した回答は消しゴムでしっかりと消してください。

問 1 あなたの学年をお答えください。（あてはまるものに1つにマーク）

- 高校 1 年生 高校 2 年生

問 2 あなたがお住まいの府県をお答えください。（あてはまるものに1つにマーク）

- 兵庫県 大阪府 奈良県 京都府 和歌山県 滋賀県 その他

問 3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。（あてはまるものに1つにマーク）

- 進学 就職 現時点では未定

問 4 問 3 で「進学」と回答した方におたずねします。あなたが大学等を受験する際、検討している受験方式を選択ください。（現時点であてはまるものすべてにマーク）

- 内部進学 その他

問 5 あなたが現在在籍されるクラスまたは在籍を予定されるクラスとしてあてはまるものをお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- CG（人文社会科学系） CG（自然科学系） CG（GEC系） CS その他

問6以降は別紙の武庫川女子大学 文学部「歴史文化学科（仮称）」「英語グローバル学科」各概要をご覧ください、お答えください。

問6 あなたは武庫川女子大学が令和6年度に設置する文学部「歴史文化学科（仮称）」または入学定員増を行い2専攻を設置する文学部「英語グローバル学科」に進学したいと思いますか。（あてはまるもの1つにマーク）

- 「歴史文化学科（仮称）」に進学したい
- 「英語グローバル学科」の「英語文化専攻（仮称）」に進学したい
- 「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻（仮称）」に進学したい
- 進学したいと思わない ⇒ 以下の問7にお答えください。

問6で「進学したいと思わない」と回答した方は、以下の問7にお答えください。

問7 あなたが武庫川女子大学の文学部「歴史文化学科（仮称）」または文学部「英語グローバル学科」のいずれかの専攻に「進学したいと思わない」とした理由をお答えください。（あてはまるもの3つまでマーク）

- 武庫川女子大学文学部「歴史文化学科（仮称）」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 同「英語グローバル学科」の「英語文化専攻（仮称）」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 同「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻（仮称）」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
- 興味・関心のある学部ではないから
- 国公立大学への進学を希望しているから
- 他の私立大学への進学を希望しているから
- 短期大学・専門学校への進学を希望しているから
- 女子大学に進学したくないから
- 就職を希望しているから
- 進路は未定だから
- 通学に時間がかかりそうだから
- 学費が高いから
- その他

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

武庫川女子大学 文学部
 歴史文化学科（仮称・設置構想中）
 英語グローバル学科（入学定員増）
 （英語文化専攻／グローバル・コミュニケーション専攻の設置）

構想についての高校生アンケート調査

武庫川女子大学（兵庫県西宮市池開町6-46）は2024(令和6)年度、文学部に「歴史文化学科(仮称)」を設置構想中です。また、「英語グローバル学科」の入学定員増を行うとともに「英語文化専攻(仮称)」「グローバル・コミュニケーション専攻(仮称)」を設ける予定です。本学ではこのアンケート調査を通して、2024年度に大学進学時期を迎える現・高校2年生の皆さんからさまざまなご意見をお聞きし、さらなる計画の充実を図っていきたくと考えています。回答いただいた皆さんから得られた情報は武庫川女子大学文学部の入学定員増および学科設置の構想に係る統計資料としてのみ活用いたします。アンケート調査へのご協力を、よろしくお願いいたします。

【記入例】



- ・上の記入例を参考に、黒鉛筆またはシャープペンでご回答ください。
- ・誤って記入した回答は消しゴムでしっかりと消してください。

問1 あなたの学年をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 中学1年生 中学2年生 中学3年生 高校1年生 高校2年生

問2 あなたがお住まいの府県をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 兵庫県 大阪府 奈良県 京都府 和歌山県 滋賀県 その他

問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 進学 就職 現時点では未定

問4 問3で「進学」と回答した方におたずねします。あなたが大学等を受験する際、検討している受験方式を選択ください。（現時点であてはまるものすべてにマーク）

- 一般選抜 学校推薦型選抜 総合型選抜 探求学習評価型選抜 その他

問5 あなたが現在在籍されるクラスまたは在籍を予定されるクラスとしてあてはまるものをお答えください。（あてはまるもの1つにマーク）

- 文系 理系 その他

問6以降は別紙の武庫川女子大学 文学部「歴史文化学科(仮称)」「英語グローバル学科」各概要をご覧ください、お答えください。

- 問6 あなたは武庫川女子大学が令和6年度に設置する文学部「歴史文化学科(仮称)」または入学定員増を行い2専攻を設置する文学部「英語グローバル学科」を受験したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)
- 「歴史文化学科(仮称)」を受験したい ⇒ 以下の問7にお答えください。
 - 「英語グローバル学科」の「英語文化専攻(仮称)」を受験したい ⇒ 以下の問7にお答えください。
 - 「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻(仮称)」を受験したい ⇒ 以下の問7にお答えください。
 - 受験したいと思わない ⇒ 以下の問8にお答えください。

問6で「受験したい」と回答した方は、以下の問7にお答えください。

- 問7 あなたは問6で「受験したい」とした武庫川女子大学の学科・専攻に合格した場合、入学したいと思いますか。(あてはまるもの1つにマーク)
- 合格した場合、入学したい
 - 合格した場合、併願校の合否により入学を検討する

問6で「受験したいと思わない」と回答した方は、以下の問8にお答えください。

- 問8 あなたが武庫川女子大学の文学部「歴史文化学科(仮称)」または文学部「英語グローバル学科」のいずれかの専攻を「受験したいと思わない」とした理由をお答えください。(あてはまるもの3つまでマーク)
- 武庫川女子大学文学部「歴史文化学科(仮称)」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
 - 同「英語グローバル学科」の「英語文化専攻(仮称)」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
 - 同「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻(仮称)」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから
 - 興味・関心のある学部ではないから
 - 国公立大学への進学を希望しているから
 - 他の私立大学への進学を希望しているから
 - 短期大学・専門学校への進学を希望しているから
 - 女子大学に進学したくないから
 - 就職を希望しているから
 - 進路は未定だから
 - 通学に時間がかかりそうだから
 - 学費が高いから
 - その他

質問は以上となります。ご協力をいただき、ありがとうございました。

歴史文化学科・英語グローバル学科 構想についてアンケート調査
 武庫川女子大学附属高等学校2年

問1 あなたの学年をお答えください。		
高校1年生		名
高校2年生		220名
問2 あなたのお住いの府県をお答えください。		
兵庫県		187名
大阪府		31名
奈良県		名
京都府		名
和歌山県		名
滋賀県		名
その他		1名
未回答		1名
問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。		
進学		215名
就職		名
現時点では未定		4名
未回答		1名
問4 問3で「進学」と回答した方におたずねします。あなたが大学等を受験する際、検討している受験方式を選択してください。		
内部進学		188名
その他		44名
問5 あなたが現在在籍されるクラスまたは在籍を予定されるクラスとしてあてはまるものをお答えください。		
CG (人文社会科学系)		113名
CG (自然科学系)		53名
CG (GEC系)		27名
CS		26名
その他 ()		名
未回答		1名
問6 あなたは武庫川女子大学が令和6年度に設置する文学部「歴史文化学科(仮称)」または入学定員増を行い2専攻を設置する文学部「英語グローバル学科」に進学したいと思いますか。		
「歴史文化学科(仮称)」に進学したい		4名
「英語グローバル学科」の「英語文化専攻(仮称)」に進学したい		2名
「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻(仮称)」に進学したい		6名
進学したいと思わない		201名
未回答		7名
問7 あなたが武庫川女子大学の文学部「歴史文化学科(仮称)」または文学部「英語グローバル学科」のいずれかの専攻に「進学したいと思わない」とした理由を教えてください。		
武庫川女子大学文学部「歴史文化学科(仮称)」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		8名
同「英語グローバル学科」の「英語文化専攻(仮称)」には関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		7名
同「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション(仮称)」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		4名
興味・関心のある学部ではないから		150名
国公立大学への進学を希望しているから		10名
他の私立大学への進学を希望しているから		9名
短期大学・専門学校への進学を希望しているから		2名
女子大学に進学したくないから		4名
就職を希望しているから		0名
進路は未定だから		16名
通学に時間がかかりそうだから		0名
学費が高いから		7名
その他		7名

歴史文化学科・英語グローバル学科 構想についてアンケート調査
 就実高等学校2年

問1 あなたの学年をお答えください。		
中学1年生		名
中学2年生		名
中学3年生		名
高校1年生		名
高校2年生		288名
問2 あなたのお住いの府県をお答えください。		
兵庫県		名
大阪府		名
奈良県		名
京都府		名
和歌山県		名
滋賀県		名
その他		288名
問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。		
進学		276名
就職		1名
現時点では未定		11名
問4 問3で「進学」と回答した方におたずねします。あなたが大学等を受験する際、検討している受験方式を選択してください。		
一般選抜		145名
学校推薦型選抜		118名
総合型選抜		58名
探求学習評価型選抜		0名
その他		36名
未回答		2名
問5 あなたが現在在籍されるクラスまたは在籍を予定されるクラスとしてあてはまるものをお答えください。		
文系		188名
理系		72名
その他（人文 1名、情報 11名、情報デザイン 1名、普通 1名）		26名
未回答		2名
問6 あなたは武庫川女子大学が令和6年度に設置する文学部「歴史文化学科（仮称）」または入学定員増を行い2専攻を設置する文学部「英語グローバル学科」を受験したいと思いませんか。		
「歴史文化学科（仮称）」を受験したい		6名
「英語グローバル学科」の「英語文化専攻（仮称）」を受験したい		5名
「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻（仮称）」を受験したい		11名
受験したいと思わない		154名
未回答		12名
問7 あなたは問6で「受験したい」とした武庫川女子大学の学科・専攻に合格した場合、入学したいと思いませんか。		
合格した場合、入学したい		2名
合格した場合、併願校の可否により入学を検討する		(グローバル・コミュニケーション専攻：2名) 18名
問8 あなたが武庫川女子大学の文学部「歴史文化学科（仮称）」または文学部「英語グローバル学科」のいずれかの専攻を「受験したいと思わない」とした理由を教えてください。		
武庫川女子大学文学部「歴史文化学科（仮称）」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		7名
同「英語グローバル学科」の「英語文化専攻（仮称）」には関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		1名
同「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション（仮称）」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		5名
興味・関心のある学部ではないから		117名
国公立大学への進学を希望しているから		40名
他の私立大学への進学を希望しているから		57名
短期大学・専門学校への進学を希望しているから		22名
女子大学に進学したくないから		37名
就職を希望しているから		1名
進路は未定だから		40名
進学に時間がかかりそうだから		24名
学費が高いから		13名
その他		26名
未回答		3名

歴史文化学科・英語グローバル学科 構想についてアンケート調査
育英西高等学校 2年

問1 あなたの学年をお答えください。		
中学1年生		名
中学2年生		名
中学3年生		名
高校1年生		名
高校2年生		66名
問2 あなたのお住いの府県をお答えください。		
兵庫県		名
大阪府		6名
奈良県		56名
京都府		4名
和歌山県		名
滋賀県		名
その他		名
問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。		
進学		55名
就職		0名
現時点では未定		1名
問4 問3で「進学」と回答した方におたずねします。あなたが大学等を受験する際、検討している受験方式を選択してください。		
一般選抜		14名
学校推薦型選抜		35名
総合型選抜		13名
探求学習評価型選抜		0名
その他		2名
未回答		0名
問5 あなたが現在在籍されるクラスまたは在籍を予定されるクラスとしてあてはまるものをお答えください。		
文系		53名
理系		12名
その他（教育系 7名、人文系 6名、情報系 12名）		0名
未回答		1名
問6 あなたは武庫川女子大学が令和6年度に設置する文学部「歴史文化学科（仮称）」または入学定員増を行い2専攻を設置する文学部「英語グローバル学科」を受験したいと思いますか。		
「歴史文化学科（仮称）」を受験したい		8名
「英語グローバル学科」の「英語文化専攻（仮称）」を受験したい		0名
「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻（仮称）」を受験したい		2名
受験したいと思わない		47名
未回答		9名
問7 あなたは問6で「受験したい」とした武庫川女子大学の学科・専攻に合格した場合、入学したいと思いますか。		
合格した場合、入学したい		3名
合格した場合、併願校の可否により入学を検討する	(歴史文化学科：2名 グローバル・コミュニケーション専攻：1名)	7名
問8 あなたが武庫川女子大学の文学部「歴史文化学科（仮称）」または文学部「英語グローバル学科」のいずれかの専攻を「受験したいと思わない」とした理由を教えてください。		
武庫川女子大学文学部「歴史文化学科（仮称）」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		5名
同「英語グローバル学科」の「英語文化専攻（仮称）」には関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		1名
同「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション（仮称）」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		1名
興味・関心のある学部ではないから		19名
国立大学への進学を希望しているから		1名
他の私立大学への進学を希望しているから		13名
短期大学・専門学校への進学を希望しているから		3名
女子大学に進学したくないから		8名
就職を希望しているから		0名
進路は未定だから		3名
通学に時間がかかりそうだから		4名
学費が高いから		1名
その他		4名
未回答		0名

歴史文化学科・英語グローバル学科 構想についてアンケート調査
武庫川女子大学附属高等学校1年

問1 あなたの学年をお答えください。		
高校1年生		234名
高校2年生		名
問2 あなたのお住いの府県をお答えください。		
兵庫県		195名
大阪府		38名
奈良県		1名
京都府		0名
和歌山県		0名
滋賀県		0名
その他		0名
問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。		
進学		224名
就職		0名
現時点では未定		9名
未回答		1名
問4 問3で「進学」と回答した方におたずねします。あなたが大学等を受験する際、検討している受験方式を選択してください。		
内部進学		190名
その他		52名
未回答		1名
問5 あなたが現在在籍されるクラスまたは在籍を予定されるクラスとしてあてはまるものをお答えください。		
CG (人文社会科学系)		129名
CG (自然科学系)		45名
CG (GEC系)		14名
CS		37名
その他 ()		9名
問6 あなたは武庫川女子大学が令和6年度に設置する文学部「歴史文化学科(仮称)」または入学定員増を行い2専攻を設置する文学部「英語グローバル学科」に進学したいと思いませんか。		
「歴史文化学科(仮称)」に進学したい		16名
「英語グローバル学科」の「英語文化専攻(仮称)」に進学したい		6名
「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻(仮称)」に進学したい		8名
進学したいと思わない		198名
未回答		6名
問7 あなたが武庫川女子大学の文学部「歴史文化学科(仮称)」または文学部「英語グローバル学科」のいずれかの専攻に「進学したいと思わない」とした理由を教えてください。		
武庫川女子大学文学部「歴史文化学科(仮称)」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		18名
同「英語グローバル学科」の「英語文化専攻(仮称)」には関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		6名
同「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション(仮称)」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		7名
興味・関心のある学部ではないから		142名
国公立大学への進学を希望しているから		15名
他の私立大学への進学を希望しているから		17名
短期大学・専門学校への進学を希望しているから		6名
女子大学に進学したくないから		4名
就職を希望しているから		0名
進路は未定だから		15名
通学に時間がかかりそうだから		1名
学費が高いから		10名
その他		3名

歴史文化学科・英語グローバル学科 構想についてアンケート調査
 就実高等学校 1年

問1 あなたの学年をお答えください。		
中学1年生		名
中学2年生		名
中学3年生		名
高校1年生		367名
高校2年生		名
問2 あなたのお住いの府県をお答えください。		
兵庫県		3名
大阪府		名
奈良県		名
京都府		名
和歌山県		名
滋賀県		1名
その他		363名
問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。		
進学		340名
就職		1名
現時点では未定		26名
問4 問3で「進学」と回答した方におたずねします。あなたが大学等を受験する際、検討している受験方式を選択してください。		
一般選抜		223名
学校推薦型選抜		152名
総合型選抜		60名
探求学習評価型選抜		6名
その他		21名
未回答		2名
問5 あなたが現在在籍されるクラスまたは在籍を予定されるクラスとしてあてはまるものをお答えください。		
文系		199名
理系		116名
その他(高校1年:教育 8名、人文 4名、普通 2名、 チャレンジ 1名、 総合進学 3名)		51名
未回答		1名
問6 あなたは武庫川女子大学が令和6年度に設置する文学部「歴史文化学科(仮称)」または入学定員増を行い2専攻を設置する文学部「英語グローバル学科」を受験したいと思いますか。		
「歴史文化学科(仮称)」を受験したい		14名
「英語グローバル学科」の「英語文化専攻(仮称)」を受験したい		6名
「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻(仮称)」を受験したい		12名
受験したいと思わない		314名
未回答		21名
問7 あなたは問6で「受験したい」とした武庫川女子大学の学科・専攻に合格した場合、入学したいと思いますか。		
合格した場合、入学したい		5名
合格した場合、併願校の可否により入学を検討する		(歴史文化学科:3名 英語文化専攻:2名)
		27名
問8 あなたが武庫川女子大学の文学部「歴史文化学科(仮称)」または文学部「英語グローバル学科」のいずれかの専攻を「受験したいと思わない」とした理由を教えてください。		
武庫川女子大学文学部「歴史文化学科(仮称)」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		16名
同「英語グローバル学科」の「英語文化専攻(仮称)」には関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		6名
同「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻(仮称)」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから		7名
興味・関心のある学部ではないから		153名
国立大学への進学を希望しているから		93名
他の私立大学への進学を希望しているから		53名
短期大学・専門学校への進学を希望しているから		32名
女子大学に進学したくないから		47名
就職を希望しているから		1名
進路は未定だから		65名
進学に時間がかかりそうだから		44名
学費が高いから		40名
その他		17名
未回答		2名

歴史文化学科・英語グローバル学科 構想についてアンケート調査
育英西高等学校1年

問1 あなたの学年をお答えください。

中学1年生	名
中学2年生	名
中学3年生	名
高校1年生	73名
高校2年生	名

問2 あなたのお住いの府県をお答えください。

兵庫県	名
大阪府	5名
奈良県	67名
京都府	1名
和歌山県	名
滋賀県	名
その他	名

問3 あなたの高校卒業後の希望進路をお答えください。

進学	71名
就職	2名
現時点では未定	0名

問4 問3で「進学」と回答した方におたずねします。あなたが大学等を受験する際、検討している受験方式を選択してください。

一般選抜	12名
学校推薦型選抜	70名
総合型選抜	7名
探求学習評価型選抜	0名
その他	0名
未回答	0名

問5 あなたが現在在籍されるクラスまたは在籍を予定されるクラスとしてあてはまるものをお答えください。

文系	58名
理系	10名
その他 ()	5名
未回答	名

問6 あなたは武庫川女子大学が令和6年度に設置する文学部「歴史文化学科（仮称）」または入学定員増を行い2専攻を設置する文学部「英語グローバル学科」を受験したいと思いますか。

「歴史文化学科（仮称）」を受験したい	8名
「英語グローバル学科」の「英語文化専攻（仮称）」を受験したい	3名
「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション専攻（仮称）」を受験したい	5名
受験したいと思わない	54名
未回答	3名

問7 あなたは問6で「受験したい」とした武庫川女子大学の学科・専攻に合格した場合、入学したいと思いますか。

合格した場合、入学したい	7名
合格した場合、併願校の合否により入学を検討する	9名

(歴史文化学科：2名
英語文化専攻：2名
グローバル・
コミュニケーション専攻：3名)

問8 あなたが武庫川女子大学の文学部「歴史文化学科（仮称）」または文学部「英語グローバル学科」のいずれかの専攻を「受験したいと思わない」とした理由を教えてください。

武庫川女子大学文学部「歴史文化学科（仮称）」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	0名
同「英語グローバル学科」の「英語文化専攻（仮称）」には関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	1名
同「英語グローバル学科」の「グローバル・コミュニケーション（仮称）」に関心はあるが、詳細を知った上で検討したいから	2名
興味・関心のある学部ではないから	29名
国公立大学への進学を希望しているから	1名
他の私立大学への進学を希望しているから	15名
短期大学・専門学校への進学を希望しているから	0名
女子大学に進学したくないから	22名
就職を希望しているから	2名
進路は未定だから	8名
通学に時間がかかりそうだから	7名
学費が高いから	5名
その他	1名
未回答	1名

教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
一	学 長	セガチ カズヨシ 瀬口 和義 <令和5年4月>		理学博士		武庫川女子大学学長 (令5.4~令9.3)

教 員 の 氏 名 等													
(文学部 歴史文化学科)													
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏 名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位 数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数	
1	専	教授 (学科長)	フリガナ 武藤 康弘 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		文化と民族 文化人類学概説 縄文・弥生の考古学 古墳・中近世の考古学 日本の祭礼 春夏秋冬 信仰の民俗学 食の文化誌 映像メディア・理論と実践 演習 I 演習 II 卒業論文	1前 1後 2前 2後 1後 3後 1前 3前 3通 4通 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	奈良女子大学 文学部 教授 (平11.1)	5日	
2	専	教授	フリガナ 古野 貢 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		歴史文化資料論 日本史概説 日本中世史料を読む I 日本中世史料を読む II 中世の文化史 刀剣・武器 中世史研究の方法と課題 歴史文化フィールドワーク I 歴史文化フィールドワーク II 演習 I 演習 II 卒業論文	1後 1前 2前 2後 2前 3後 2前 3前 3通 4通 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 短期大学部 共通教育科 教授 (平28.4)	5日	
3	専	教授	フリガナ 松山 薫 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		歴史文化フィールドワーク基礎 人文地理学 地理学概説 地誌学 文化遺産論 地理と情報 観光文化論 観光と行政 演習 I 演習 II 卒業論文	1後 1前 2前 2後 4後 3前 1前 4前 3通 4通 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	東北公益文科大学 公益学部 准教授 (平13.4)	5日	
4	専	教授	フリガナ 竹内 亮 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		初期演習 I 初期演習 II (歴史文化研究) 日本史料概説 日本古代史料を読む I 日本古代史料を読む II 古代中世の都市と交通 古代史研究の方法と課題 地域文化研究 地域文化フィールドワーク I 地域文化フィールドワーク II 演習 I 演習 II 卒業論文	1前 1後 1前 2前 2後 3後 3前 1後 2前 3前 3通 4通 4通	1 1 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	奈良県立万葉文化館 主任研究員 (令2.4)	5日	
5	専	准教授	フリガナ 河野 (四方) 未央 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		日本近世史料を読む I 日本近世史料を読む II 古文書入門 女性史概説 近世史研究の方法と課題 災害と歴史 地域政策論 文化財の活用と保存 歴史文化フィールドワーク I 歴史文化フィールドワーク II 演習 I 演習 II 卒業論文	2前 2後 1後 1前 3前 4後 4前 2後 2前 3前 3通 4通 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	尼崎市立歴史博物館 史料担当係長 (令2.4)	5日	
6	専	准教授	フリガナ 井上 幸 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		文章表現法 (歴史文化) 情報リテラシー (歴史文化) 古記録と古文書 言語と文字の史的変遷 出版・メディアの文化史 意匠・デザインの基礎 ※ 多文化共生論 くらしと言語景観 演習 I 演習 II 卒業論文	1後 1前 2後 1後 2後 2前 4前 3前 3通 4通 4通	2 4 2 2 2 1.1 2 2 2 2 4	1 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1	流通科学大学 商学部 特任准教授 (令3.4)	5日	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位 数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る職 務に從事する 週当たり 平均日数
7	専	講師	カモ ヤマサキ ミズホ 加茂 (山崎) 瑞穂 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		初期演習Ⅰ 初期演習Ⅱ (歴史文化研究) 文化・歴史研究と情報 日本美術史 装いの日本文化 江戸の風俗と絵画 意匠・デザインの基礎 ※ 伝統工芸の保存と継承 演習Ⅰ 演習Ⅱ 卒業論文	1前 1後 1後 1前 2後 1後 2前 3後 3通 4通 4通	1 1 1 2 1 1 0.9 2 1 2 1 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	武庫川女子大学 文学部 助教 (令5.4)	5日
8	専	講師	モイ ユウタロウ 本井 優太郎 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		日本近現代史料を読むⅠ 日本近現代史料を読むⅡ 日本思想史 近現代史研究の方法と課題 地域社会論 歴史文化フィールドワークⅢ 歴史文化フィールドワークⅣ 歴史文化とプレゼンテーション 演習Ⅰ 演習Ⅱ 卒業論文	2前 2後 1後 3後 1前 2前 3前 3後 3通 4通 4通	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	明石市市民生活局文 化・スポーツ室 歴史 文化財係職員 (平26.9)	5日
9	兼任	教授	ニシオ アキコ 西尾 亜希子 ＜令和6年4月＞		Ph. D. (英国)		社会学 女性と教育 ジェンダーとアイデンティティ ジェンダーと社会	3前 1前・後 1前・後 1前・後	2 8 6 8	1 4 3 4	武庫川女子大学 共通教育部 教授 (平21.4)	
10	兼任	教授	ヨシタ シツヨ 吉富 志津代 ＜令和6年4月＞		博士 (人間・ 環境学)		Oral Communication	1前	2	1	武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 教授 (令4.4)	
11	兼任	教授	フジムラ マサト 藤村 匡人 ＜令和6年4月＞		芸術学修士		ヨーロッパの名歌歌唱法 ※	1前・後	0.9	2	武庫川女子大学 音楽学部 教授 (平26.4)	
12	兼任	教授	フジイ タツヤ 藤井 達矢 ＜令和6年4月＞		博士 (芸術)		先端芸術表現	1前・後	2	2	武庫川女子大学 教育学部 教授 (平8.4)	
13	兼任	教授	フタバ マサシ 渡邊 昌史 ＜令和6年9月＞		博士 (人間科 学)		遊びの人類学	1後	2	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (平26.4)	
14	兼任	教授	ヒダカ トシオ 日高 俊夫 ＜令和6年4月＞		博士 (言語科 学)		日本語と英語の比較	1前・後	4	2	武庫川女子大学 教育学部 教授 (令2.4)	
15	兼任	教授	スズキ トシキ 鈴木 利友 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		建築と社会	1前	2	1	武庫川女子大学 建築学部 教授 (平16.4)	
16	兼任	教授	ホノ ケンジ 細野 健二 ＜令和6年4月＞		Ph. D. (英国)		英語で学ぶやさしい経済学 英語で学ぶお金の知識	1前 1後	2 2	1 1	武庫川女子大学 文学部 教授 (令3.4)	
17	兼任	教授	ハマ コウジ 濱 宏仁 ＜令和6年9月＞		博士 (薬学)		はたらく細胞とくすり	1後	2	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 (平28.4)	
18	兼任	教授	ムラタ シノブ 村田 成範 ＜令和6年4月＞		博士 (理学)		生命科学入門	1前	2	1	武庫川女子大学 薬学部 教授 (平19.4)	
19	兼任	教授	イチノ瀬 トモコ 一ノ瀬 智子 ＜令和6年9月＞		博士 (教育情報 学)		音楽から見る人と世界	1後	2	1	武庫川女子大学 音楽学部 教授 (平19.4)	
20	兼任	教授	クドウ ヤスヒロ 工藤 康宏 ＜令和6年9月＞		博士 (スポーツ健 康科学)		スポーツツーリズムと地域創生	1後	2	1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 教授 (令和4.4)	
21	兼任	教授	タカハシ ティエコ 高橋 千枝子 ＜令和6年4月＞		博士 (商学)		女性のためのマーケティング	1前・後	4	2	武庫川女子大学 経営学部 教授 (平30.4)	
22	兼任	教授	モリタ マサコ 森田 雅子 ＜令和6年4月＞		Ph. D. (西ドイ ツ)		イタリア語ⅠA	1前・後	2	2	武庫川女子大学 生活環境学部 教授 (平4.4)	
23	兼任	准教授	マツハラ ヨウコ 松原 陽子 ＜令和6年4月＞		博士 (言語文化 学)		英語圏の文学・文化	1前・後	4	2	武庫川女子大学 文学部 准教授 (平27.4)	
24	兼任	准教授	カワニ ケイ 川西 慧 ＜令和6年4月＞		博士 (人間・環 境学)		英語を学問する一理論と実践	1前・後	4	2	武庫川女子大学 文学部 准教授 (平28.4)	
25	兼任	准教授	ナガシマ アサキ 永島 茜 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		現代フランスの音楽事情 フランスの音楽と芸術文化	1前・後 1前・後	4 4	2 2	武庫川女子大学 音楽学部 准教授 (平20.4)	
26	兼任	准教授	タスヤマ ケン 楠山 研 ＜令和6年4月＞		博士 (教育学)		現代世界の教育	1前・後	4	2	武庫川女子大学 教育学部 准教授 (平31.4)	
27	兼任	准教授	ヒライ タツミ 平井 拓己 ＜令和6年4月＞		M. A. (米国)		我々のくらしと日本の産業	1前・後	4	2	武庫川女子大学 社会情報学部 准教授 (平30.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する 週当たり 平均日数
28	兼任	准教授	肥後 有紀子 ヒゴ ユキコ ＜令和6年4月＞		修士 (芸術文化)		メディア技術と文字デザイン	1前	2	1	武庫川女子大学 社会情報学部 准教授 (平21.4)	
29	兼任	准教授	和泉 志穂 イズミ シホ ＜令和6年9月＞		博士 (情報メディア学)		色彩情報	1後	4	2	武庫川女子大学 社会情報学部 准教授 (平22.4)	
30	兼任	准教授	竹本 由美子 タケモト ユミコ ＜令和6年4月＞		博士 (生活環境学)		科学から考える衣服と生活	1前	2	1	武庫川女子大学 生活環境学部 准教授 (平21.4)	
31	兼任	准教授	中尾 賀要子 ナカオ カヨコ ＜令和6年4月＞		PhD (米国)		セクシュアリティ入門Ⅰ セクシュアリティ入門Ⅱ	1前・後 1前・後	6 4	3 2	武庫川女子大学 教育研究所 准教授 (平22.4)	
32	兼任	准教授	アニータ リン エイデン Anita Lynn Aden ＜令和6年4月＞		Ed. D. (米国)		Current Events Leadership Development Speaking & Listening Ⅲ Presentation 英語コミュニケーションⅢ	4前 4後 3前 3後 1前・後	1 1 1 1 6	1 1 1 1 6	武庫川女子大学 共通教育部 准教授 (平21.4)	
33	兼任	准教授	アキハラ カズノリ 稚原 寿識 ＜令和6年4月＞		博士 (経営学)		スポーツと現代社会	1前・後	4	2	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 准教授 (平23.9)	
34	兼任	准教授	フクヤマ ナオコ 榎並 直子 ＜令和6年9月＞		博士 (工学)		データリテラシー・AIの基礎 ※	1後	0.7	1	武庫川女子大学 社会情報学部 准教授 (平30.4)	
35	兼任	准教授	ハセガワ ヒロキ 長谷川 裕紀 ＜令和6年4月＞		博士 (工学)		音楽の科学 データリテラシー・AIの基礎 ※ データサイエンスの基礎とExcel	1前・後 1後 1前・後	6 1.3 6	3 1 3	武庫川女子大学 共通教育部 准教授 (平20.11)	
36	兼任	講師	サガチ ユウコ 坂口 裕子 ＜令和6年4月＞		修士 (音楽)		ヨーロッパの名歌歌唱法 ※ ミュージカル歌唱法	1前・後 1前・後	1.1 2	2 2	武庫川女子大学 音楽学部 講師 (令4.4)	
37	兼任	講師	スギイ シュンスケ 杉井 俊介 ＜令和6年4月＞		博士 (法学)		教養としての法律 暮らしと法律	1前 1後	4 4	2 2	武庫川女子大学 経営学部 講師 (令2.4)	
38	兼任	講師	ジョージ クリントン George Clinton デニソン Denison ＜令和6年4月＞		M. S. in Education (米国)		Global Issues Ⅰ Global Issues Ⅱ Speaking & Listening Ⅰ Speaking & Listening Ⅱ Writing Ⅰ Writing Ⅱ 英語コミュニケーションⅣ 英語ライティングⅡ	4前 4後 2前 2後 3前 3後 1前・後 1前・後	1 1 1 1 1 1 2 2	1 1 1 1 1 1 2 2	武庫川女子大学 共通教育部 講師 (平30.4)	
39	兼任	講師	ウノ ヒロム 宇野 博武 ＜令和6年4月＞		修士 (体育学)		スポーツ実技(フットサル)	1前・後	4	4	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 講師 (令4.4)	
40	兼任	講師	タイシ タチノゾミ 太子 のぞみ ＜令和6年9月＞		博士 (人間科学)		生活の中の心理学	1後	2	1	武庫川女子大学 心理・社会福祉学部 講師 (令5.4)	
41	兼任	助教	フジ 善仁 藤井 善仁 ＜令和6年4月＞		修士 (経済学)		経済学 キャリアビジョンと人物評価	1後 1前・後	2 4	1 2	武庫川女子大学 経営学部 助教 (令2.4)	
42	兼任	助教	キンモト チアキ 岸本 千秋 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		SNSから日本語を見る	1前・後	4	2	武庫川女子大学 言語文化研究所 助教 (平31.4)	
43	兼任	講師	ヤブ コノエ 藪 葉子 ＜令和6年9月＞		博士 (文学)		文章表現法(歴史文化)	1後	2	1	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平13.4)	
44	兼任	講師	フジモト アキコ 藤本 史子 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		考古学概説	1前	2	1	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平14.4)	
45	兼任	講師	アサダ ハルヒサ 浅田 晴久 ＜令和6年9月＞		博士 (地域研究)		自然地理学	1後	2	1	奈良女子大学 文学部 准教授 (平25.4)	
46	兼任	講師	フジワラ キミコ 藤原 喜美子 ＜令和6年9月＞		修士 (日本史学)		民俗資料を読む 地域の伝承	1後 3後	2 2	1 1	流通科学大学 人間社会学部 准教授 (平22.4)	
47	兼任	講師	キムラ エイチ 木村 英一 ＜令和7年4月＞		博士 (文学)		歴史のなかの女性 画像文化論	2前 4後	2 2	1 1	龍谷大学 非常勤講師 (令3.4)	
48	兼任	講師	アカイ タカシ 赤井 孝史 ＜令和7年4月＞		修士 (文学)		日本の生活文化 すまいの日本文化	2前 2後	2 2	1 1	園田学園女子大学 短期大学部 生活文化学科 教授 (平25.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する週当たり 平均日数
49	兼任	講師	イノウエ カツシ 井上 勝志 ＜令和7年4月＞		博士 (日本文学)		日本芸能文化史	2前	2	1	神戸女子大学 文学部 教授 (平27.4)	
50	兼任	講師	カシワギ ヒロユキ 柏木 宏之 ＜令和8年4月＞		文学士		キャリアとコミュニケーション	3前	2	1	元 株式会社毎日放送 シニアスタッフ (令5.3まで)	
51	兼任	講師	キムラ マイコ 木村 麻衣子 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		観光英語 韓国語入門 Reading & Critical Thinking Career Workshop Basics for Presentation I Basics for Presentation II ドイツ語 I フランス語 I ハングル I フランス語 I A フランス語 I B TOEIC (初級) 英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II TOEIC 演習 I TOEIC 演習 II TOEIC 演習 III TOEFL 演習	2後 1後 4前 4後 2前 2後 1前・後 1前・後 1前・後 1前 1後 1前・後 1前・後 1前・後 1後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後 1前・後	2 2 1 1 1 1 4 4 4 1 1 4 4 2 2 2 2 2 2 2 2	1 1 1 1 1 1 2 2 2 1 1 2 2 2 2 2 2 2 2	武庫川女子大学 短期大学部 共通教育部 准教授 (平8.4)	
52	兼任	講師	カバサフ アヤ 樺沢 綾 ＜令和7年4月＞		博士 (文学)		英語で読む日本	2前	2	1	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平18.4)	
53	兼任	講師	カ ケリン 何 景琳 ＜令和6年4月＞		文学修士		中国語入門	1前	2	1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平3.4)	
54	兼任	講師	ハクノ シノブ 畑野 善則 ＜令和8年4月＞		博士 (文化交渉学)		東洋史	3前	2	1	立命館大学 衣笠総合研究機構 専門研究員 (令4.4)	
55	兼任	講師	カク ナナ 加来 奈奈 ＜令和8年4月＞		博士 (文学)		西洋史	3前	2	1	摂南大学 国際学部 准教授 (令3.4)	
56	兼任	講師	タケダ テロ 武重 千尋 ＜令和8年9月＞		博士 (文学)		近代の世界史	3後	2	1	大阪公立大学大学院 文学研究科 都市文化研究センター 研究員 (平31.4)	
57	兼任	講師	オノ ヒロマサ 大野 浩正 ＜令和6年4月＞		法務博士		法律学	1前	2	1	法テラス鳥取法律事務所 弁護士 (令4.1)	
58	兼任	講師	テライ トモコ 寺井 朋子 ＜令和6年4月＞		博士 (臨床教育学)		倫理学 心理学入門 人間関係の心理学 モラルジレンマから考える私	3後 1前・後 1前・後 1前	2 4 10 2	1 2 5 1	武庫川女子大学 短期大学部 共通教育部 准教授 (平28.4)	
59	兼任	講師	ステファニー デイライト Stephanie Delight バーチュ Bartsch ＜令和6年4月＞		M.Div (米国)		日本の文化 I 日本の文化 II Current Affairs in Japan I Current Affairs in Japan II	1前 1後 1前 1後	2 2 2 2	1 1 1 1	武庫川女子大学 健康・スポーツ科学部 非常勤講師 (平31.4)	
60	兼任	講師	オオツキ フクコ 大槻 福子 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		平安朝文学の世界 歌舞伎鑑賞入門	1前 1後	4 4	2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平4.4)	
61	兼任	講師	ヤスダ ユキコ 安田 由基子 ＜令和6年4月＞		文学士		日本舞踊に学ぶ着付けと作法	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平11.4)	
62	兼任	講師	スズキ タカヒロ 鈴木 貴博 ＜令和6年4月＞		修士 (芸術学)		自己発見アート 未来造形	1前・後 1前・後	2 2	2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平22.4)	
63	兼任	講師	シロサカ シンジ 城阪 真治 ＜令和6年4月＞		修士 (文学)		日常生活からの哲学入門	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平27.4)	
64	兼任	講師	チノ ヒロアキ 茅野 宏明 ＜令和6年4月＞		M.S. in Education (米国)		聴覚障害者の理解と手話言語	1前・後	4	2	武庫川女子大学 短期大学部 共通教育部 教授 (昭62.4)	
65	兼任	講師	ナカジマ ヒロミ 中島 弘美 ＜令和6年4月＞		社会学士		カウンセリングの実際 実践カウンセリング	1前 1後	6 6	3 3	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平12.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単位数	年間 開講数	現職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職務に 従事する 週当たり 平均日数
66	兼任	講師	ヤナギハラ リカヨ 柳原 利佳子 ＜令和6年4月＞		修士 (教育学)		子育てと家族関係 子育てと母性の気づき	1前 1前	2 2	1 1	神戸常盤大学 教育学部 講師 (平24.4)	
67	兼任	講師	ヤマサキ セイジ 山崎 清治 ＜令和6年9月＞		学士 (工学)		福祉クリエイションの実際	1後	2	1	NPO法人生涯学習 サポート兵庫 理事長 (平15.4)	
68	兼任	講師	イマタキ ノリオ 今滝 憲雄 ＜令和6年9月＞		博士 (学術)		差別と暴力のない世界をめざして	1後	2	1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平18.4)	
69	兼任	講師	カドノ リサコ 門野 里栄子 ＜令和6年4月＞		文学修士		「ふつう」を考える社会学	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平12.4)	
70	兼任	講師	イデ ナオ 井出 奈緒 ＜令和6年4月＞		短期大学士		消費者生活論	1前	4	2	公益社団法人 関西消費者協会職員 (平25.1)	
71	兼任	講師	ヨネダ ノリコ 米田 紀子 ＜令和6年4月＞		学士 (法学)		現代社会と憲法	1前・後	4	2	神戸グレース法律事務 所弁護士 (令2.7)	
72	兼任	講師	シンカイ ヒサキ 真貝 寿明 ＜令和6年9月＞		博士 (理学)		生活の中の物理学 最先端物理学が描く宇宙	1後 1後	2 2	1 1	大阪工業大学 情報科学部 教授 (平18.4)	
73	兼任	講師	キム ボヨン 金 宝英 ＜令和6年4月＞		学術博士		韓国文化の理解	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平18.4)	
74	兼任	講師	マツナミ トモコ 松並 知子 ＜令和6年4月＞		博士 (言語 文化学)		世界の中の日本人 女性の身体とセクシュアリティ メディアに見るジェンダー	1前 1前・後 1前・後	4 4 4	2 2 2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平24.4)	
75	兼任	講師	シロウ カイハ 蔣 海波 ＜令和6年4月＞		博士 (学術)		中国文化論	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平18.4)	
76	兼任	講師	タワ マキ 田和 真希 ＜令和6年4月＞		修士 (法学)		女性のためのライフプランニング	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平17.4)	
77	兼任	講師	アキタ ヒサコ 秋田 久子 ＜令和6年4月＞		文学士		自己アピールトレーニング	1前・後	8	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平17.4)	
78	兼任	講師	マツイ セイチロウ 松井 聖一郎 ＜令和6年4月＞		学術修士		ハングル検定演習 ハングルⅠ ハングルⅡ	1後 1前・後 1前	1 4 2	1 2 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平21.4)	
79	兼任	講師	ウエノ トモコ 植野 智子 ＜令和8年9月＞		Ph. D (アイルラン ド)		Reading & Discussion	3後	1	1	武庫川女子大学 教育学部 非常勤講師 (平25.4)	
80	兼任	講師	ハンキ イクコ 橋本 郁子 ＜令和6年4月＞		文学修士		ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	1前・後 1後	8 2	4 1	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平7.4)	
81	兼任	講師	イダカ コウイチ 井高 浩一 ＜令和6年4月＞		文学修士		フランス語Ⅰ フランス語Ⅱ	1前・後 1後	6 2	3 1	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平5.4)	
82	兼任	講師	ツボイ ユキエ 坪井 幸栄 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		スペイン語Ⅰ	1前・後	4	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平26.4)	
83	兼任	講師	チョン ソンヒ 田 星姫 ＜令和6年4月＞		博士 (文学)		ハングルⅠ	1前・後	8	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平28.4)	
84	兼任	講師	トリイ タカシ 鳥居 孝司 ＜令和6年4月＞		修士 (言語 科学)		英語ライティングⅠ	1前・後	2	2	武庫川女子大学 文学部 非常勤講師 (平25.4)	
85	兼任	講師	マンニーノ Mannino マッシミリアノ Massimiliano ＜令和6年4月＞		Laurea (イタリア)		イタリア語ⅠB	1前・後	2	2	アップルケイ・ラン ゲージタリ語講師 (平25.1)	
86	兼任	講師	カイ タカヒロ 甲斐 隆浩 ＜令和6年4月＞		専門学校卒		Webデザイン基礎 Webデザイン応用 グラフィックデザイン基礎 フォトタッチ基礎	1前・後 1前・後 1後 1前	4 4 2 2	2 2 1 1	Plus Project 代表 (平16.4)	
87	兼任	講師	ナリタ アツコ 成田 厚子 ＜令和6年4月＞		修士 (スポーツ科学)		スポーツと栄養	1前・後	8	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平25.4)	
88	兼任	講師	シカワ サユリ 吉川 小百合 ＜令和6年4月＞		学士 (健康・ スポーツ科学)		スポーツ実技(テニス)	1前・後	4	4	マーズプランニング テニスインストラク ター (平25.4)	
89	兼任	講師	マツムラ クミコ 松村 公美子 ＜令和6年4月＞		文学士		スポーツ実技(ゴルフ)	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平23.4)	

調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当年次	担当 単 位 数	年間 開講数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
90	兼任	講師	アダチ マフ 足立 学 ＜令和6年4月＞		修士 (学校教育学)		スポーツ実技 (バレーボール)	1前・後	4	4	園田学園女子大学 人間健康学部 准教授 (平20.4)	
91	兼任	講師	タカハシ ミカ 高橋 美佳 ＜令和6年4月＞		修士 (体育方法学)		スポーツ実技 (バドミントン)	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平26.4)	
92	兼任	講師	サカタ ジンコ 坂田 純子 ＜令和6年4月＞		専門学校卒		スポーツ実技 (エアロビクス)	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平19.4)	
93	兼任	講師	イワタ ユリヨ 岩下 由利子 ＜令和6年4月＞		体育学士		スポーツ実技 (軽スポーツ)	1前・後	4	4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平18.4)	
94	兼任	講師	オオヤ マサコ 雄谷 昌子 ＜令和6年4月＞		専門学校卒		スポーツ実技 (ヨガ) スポーツ実技 (エアリアルワーク)	1前・後 1前・後	4 4	4 4	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平20.4)	
95	兼任	講師	ヒガシデ マスヨ 東出 益代 ＜令和6年4月＞		修士 (臨床教育学)		からだど気づきと姿勢法 スポーツ実技 (ハンジ・エクササイズ)	1前・後 1前・後	3 3	3 3	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (平29.4)	
96	兼任	講師	ミウラ エイキ 三浦 栄紀 ＜令和6年4月＞		短期大学卒		スポーツ実技 (スリムエアロ) スポーツ実技 (ダンスエアロ)	1前・後 1前・後	2 2	2 2	有限会社エモーション 代表取締役社長 (平15.1)	
97	兼任	講師	アサガ ソノエ 浅賀 園恵 ＜令和6年4月＞		高等学校卒		スポーツ実技 (スタイルジャズ)	1前・後	2	2	武庫川女子大学 共通教育部 非常勤講師 (令3.4)	

別記様式第3号(その3)

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	3人	人	1人	人	4人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	人	2人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	2人	人	人	人	人	2人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2人	5人	人	1人	人	8人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期 学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	